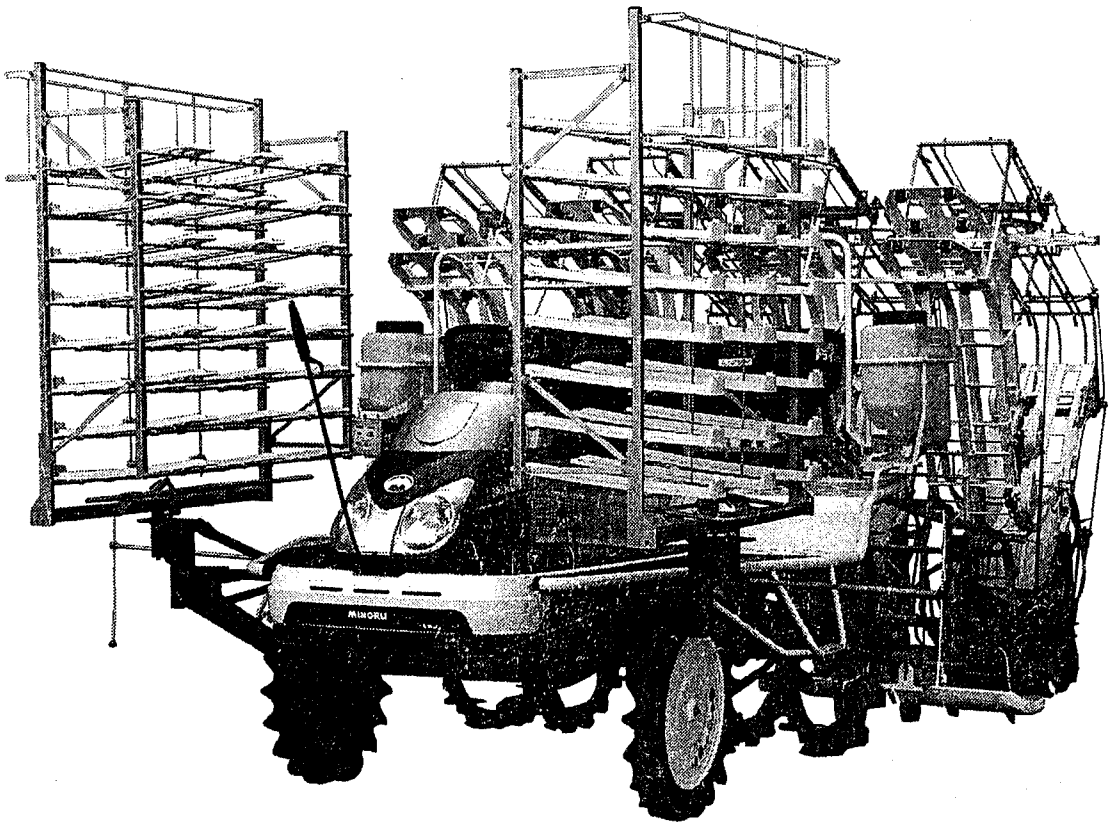
使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

みのるポット成苗田植機

RXG-8〔乗用型〕

取扱説明書



みのる産業株式会社

田植機重要安全ポイント

1. ほ場まで移動するときは、 トラック等にのせて 運搬します。

2. 燃料を補給するときは、 火気厳禁 とします。
エンジンを停止 し、 冷機状態で行ないます。

3. エンジンを始動するときは、 主変速レバー・副変速レバーと
植付クラッチレバーを 「N」 で行ないます。
周囲の安全を確認 してから行ないます。

4. 田植機を移動するときは、 運転者以外乗車せず、
転倒しないよう低速で 行ないます。

5. トラックに積み・降ろしするときは、
強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板 を使用します。
スピードを落しアユミ板に直角に上り・下がり します。

6. ほ場に出入りするときは、
スピードを落しあぜに直角 に移動します。

7. 田植機を点検整備するときは、 必ず安全な場所で
エンジンを止め、 植付部を油圧ロックレバーで固定します。

8. 補助者と共同作業を行なうときは、 合図をし、 安全を確認 します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付けて説明しております。

よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願いいたします。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。
シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解していただき、誤操作のないようご注意ください。

	ヘッドランプ
	エンジン油圧
	エンジン水温
	バッテリ充電異常
	燃料

	チョーク
	苗切れ
	植付クラッチ［切］
	マーカ［出し忘れ］
	あぜぎわクラッチ［切］
	肥料切れ
	肥料づまり

専門用語の説明

●パワーステアリングハンドル	油圧式の操向ハンドル
●主変速レバー (HST)	[前進]・[後進]・[停止]の切換えと走行速度及びエンジン回転をコントロールするレバー (油圧式の無段変速装置)
●副変速レバー	[圃場作業](低速位置)と[路上走行](高速位置)を切換えるレバー
●植付クラッチレバー	植付部の上昇⇔下降、植付部への動力伝達の[入]・[切]及び十字ポンパレバー操作を可能にするレバー
●十字ポンパレバー	植付部の上昇⇔下降、植付部への動力伝達の[入]・[切]及び筋付マーカの出し入れを行なうレバー
●ブレーキペダル	踏み込むとブレーキがかかるペダル
●バックアップ	主変速レバーを[後進]側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
●フィットセンサ	ほ場条件による植付部の油圧感度を設定するセンサ
●モンロー	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
●オートフロート	マイコンのはたらきで前・後方向の機体の傾きや凹凸のあるほ場で、植え付け深さを一定に修正する自動装置
●安全クラッチ	植付爪とガイド板などに石などが詰まったとき、植付部の破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
●コントローラ	運転席下部にある自動制御をコントロールするマイコン部
●スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ

はじめに

- この度は、本田植機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- この田植機は水稲の田植えをするためのものであって、 他の用途に使用しないでください。
- この取扱説明書は、田植機を使用する際にぜひ、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、 田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 田植機を初めてご使用になる時はもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも入念に読み、内容を充分理解された上で、安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに購入先にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上の観点から、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容及び、イラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますが、あらかじめご了承ください。
- もし、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく購入先にご相談ください。
- 取扱説明書の中の ⚠重要 表示は、 下記のように安全上、 取り扱い上の重要なことを示しております。 よくお読みいただき、 必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　　要　　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　次

安全のポイント ---------- 1
非特殊自動車としての取り扱い ---------- 1
安全な作業をするために ---------- 1
電装関係を取り扱う時は ---------- 8
安全表示ラベルについて ---------- 9

使用上のポイント ---------- 12

保証とサービスについて ---------- 16

走行装置の名称と取扱い ---------- 17
走行装置の名称 ---------- 17
エンジン操作関係 ---------- 19
メインスイッチ ---------- 19
チョークレバー ---------- 19
アクセルレバー ---------- 19
走行操作関係 ---------- 20
主変速レバー ---------- 20
副変速レバー ---------- 20
パワーステアリングハンドル ---------- 20
ブレーキペダル ---------- 21
駐車ブレーキレバー ---------- 21
運転席（シート） ---------- 21
メインパネル（走行関係） ---------- 22
ランプスイッチ ---------- 22

作業装置の名称と取扱い ---------- 23
作業装置の名称 ---------- 23
走行操作関係 ---------- 25
前輪デフロックペダル ---------- 25
植付関係 ---------- 25
植付クラッチレバー ---------- 25
十字ポンパレバー ---------- 26
フィットセンサダイヤル ---------- 26
植付深さ調節レバー ---------- 27
油圧感度調節レバー ---------- 27
あぜぎわクラッチレバー ---------- 27
株間調節レバー ---------- 27
油圧ロックレバー ---------- 28
マスコット ---------- 28
筋付マーカ ---------- 28
隣接マーカ ---------- 28
セットレバー ---------- 29
予備苗台 ---------- 29
施肥装置関係 ---------- 29
施肥ホッパ ---------- 29
ロールケース ---------- 30
ブロワ ---------- 30
施肥全条停止レバー ---------- 30
施肥量調量金具･調量ツマミ ---------- 31

メインパネル（電装関係） ---- 31
自動制御関係 ---- 33
コントローラ ---- 33
水洗装置関係 ---- 34

作業前点検 ---- 35

日常点検項目 ---- 35
給油･注油箇所の点検と補給 ---- 37
燃料（無鉛ガソリン）の給油 ---- 37
エンジンオイルの点検と補給 ---- 38
ラジエータ冷却水の点検と交換 ---- 39
注油箇所 ---- 41

運転のしかた ---- 43

エンジンの始動と停止のしかた ---- 43
エンジンの始動 ---- 43
ならし運転について ---- 44
エンジンの停止 ---- 44
発進･停止･駐車のしかた ---- 44
移動前の準備 ---- 44
発進のしかた ---- 45
旋回のしかた ---- 46
停車･駐車のしかた ---- 46
移動･運搬のしかた ---- 47
トラックへの積み･降ろし ---- 47
運搬中の固定のしかた ---- 48

作業のしかた ---- 49

ほ場と苗の準備 ---- 49
ほ場の準備 ---- 49
苗の準備 ---- 50
植付作業前の準備 ---- 52
筋付マーカのセット ---- 52
植付部スタンドの収納 ---- 52
植付株間の決めかた･切り替えかた ---- 53
植付深さの調節のしかた ---- 54
苗支持板の調節のしかた ---- 54
ほ場への出入りのしかた ---- 55
植付作業の手順 ---- 55
十字ポンパレバーの使いかた ---- 58
油圧感度調節のしかた ---- 58
ほ場での植えかた ---- 59
あぜぎわマーカの使いかた ---- 59
旋回のしかた ---- 60
苗の補給のしかた ---- 61
空箱の取り出しかた ---- 61
植えじまいのしかた ---- 62
モンロー調節ダイヤルについて ---- 63
残り苗の取り出しかた ---- 64
ガイドに残った空箱の取り出しかた ---- 65

作業にあわせた各部の調節･調整 ---------- 66
フィットセンサダイヤルの調節 ---------- 66
整地板の調節 ---------- 67
安全クラッチが作動したとき ---------- 67
施肥作業のしかた ---------- 68
ほ場について ---------- 68
肥料について ---------- 69
一発肥料使用時の注意 ---------- 70
作業前の準備 ---------- 71
施肥作業のしかた ---------- 73
ホッパ内の肥料の排出のしかた ---------- 74
施肥量の調節 ---------- 76
肥料の流れ ---------- 76
施肥量調節のしかた ---------- 76
水洗装置の使用方法 ---------- 82
メインパネルによる異常と処置 ---------- 84
コントローラ(自己診断)による異常と処置 ---------- 86

点検整備 ---------- 87
各部の開閉と脱着のしかた ---------- 87
ボンネットの開閉 ---------- 87
運転席下カバーの脱着 ---------- 87
ロール･ブラシの取付け･取外し ---------- 88
各部の掃除のしかた ---------- 90
掃除のしかた ---------- 90
植付部の水洗いのしかた ---------- 91
施肥部の掃除 ---------- 92
水洗装置の点検 ---------- 93
定期点検 ---------- 94
洗車時の注意 ---------- 95
使用者が行なってはいけない修理 ---------- 95
定期点検一覧表 ---------- 96
給油･注油(水)点検一覧表 ---------- 97
燃料･オイルの点検･補給･交換 ---------- 98
燃料の排出 ---------- 98
ミッションオイル ---------- 99
後車軸ケースオイル ---------- 99
植付ミッションオイル ---------- 100
植付中間ケースオイル ---------- 100
ラジエータフィンの掃除 ---------- 101
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 ---------- 101
燃料フィルタポットの点検･掃除 ---------- 102
エアクリーナエレメントの点検･掃除 ---------- 103
点火プラグの点検･掃除･調整 ---------- 103
パイプ･ホース類の点検･交換 ---------- 104
ミッション駆動ベルトの点検 ---------- 104
ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 ---------- 105
車輪の点検 ---------- 106
タイヤ空気圧の点検･調整 ---------- 106

施肥ブラシの点検･掃除･交換 ---------- 107
バッテリの点検･交換 ---------- 108
電装部の各配線コードの点検･交換 ---------- 110
ランプ(電球)の点検･交換 ---------- 111
植付作業後の手入れ ---------- 112
毎日の作業後 ---------- 112
長期格納時 ---------- 112

不調時の処置 ---------- 115

農作業を安全に行なうために ---------- 118

サービス資料 ---------- 121

主要諸元 ---------- 121
標準付属品 ---------- 122
主な消耗部品一覧表 ---------- 123
注文部品の紹介 ---------- 125

索引 ---------- 126

安全のポイント

本章では、 田植機を効率よく安全にお使いいただくために、 必ず守っていただきたい事項を説明しております。 充分に熟読されて、 安全な作業を行なってください。

非特殊自動車としての取り扱い

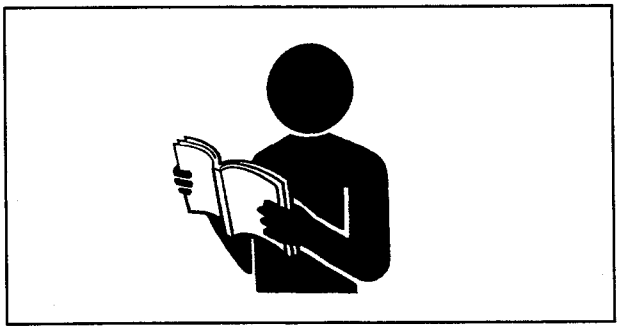
この田植機は、小型特殊自動車(農耕作業用自動車)として道路走行車両の型式認定を受けておりません。 従って、 一般道路を走行することは違法行為になります。
移動する場合は、 トラックなどにのせて運搬してください。
トラックの荷台から田植機体が、幅方向にはみ出した状態で運搬すると、違法行為となりますので注意してください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

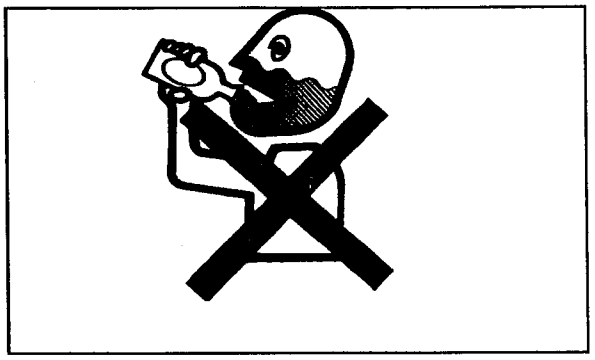
(1) はじめに

この 『取扱説明書』 をよく読むことから始めてください。 これが安全に快適に作業するための第一歩です。



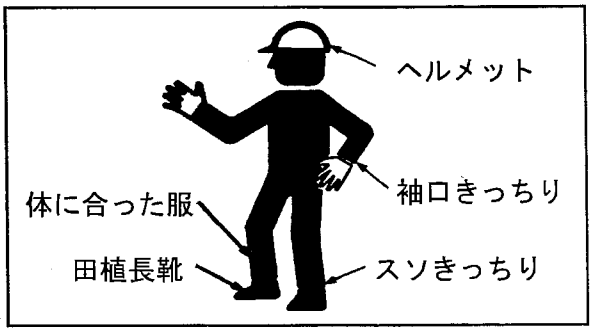
(2) 体調について

①飲酒時や過労ぎみの時は作業をしてはいけません。 このような時作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。 作業する時は、 必ず心身とも健康な状態で行なってください。
②妊娠している人、 18才未満の人は運転しないでください。
③初めて運転する人は、 操作に慣れるまで低速で運転してください。



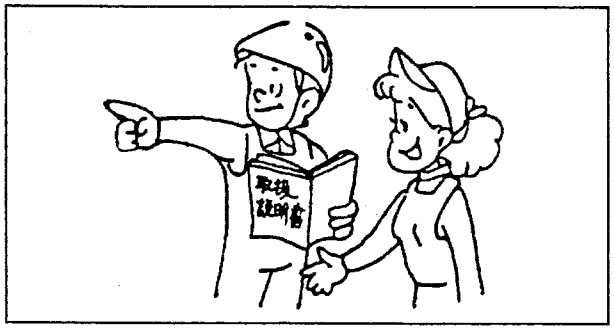
(3) 服装について

作業する時は作業に合せた服装をしてください。 服装が悪いと衣服が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。 また、 はだしでの作業は絶対にしないでください。 田植長靴かたびで作業してください。 怠ると足をケガする恐れがあり危険です。 ヘルメットや適正な保護具も着用してください。



■人に機械を貸す時は

田植機を人に貸す時は、 取り扱いの方法をよく説明し使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。 借りた人が田植機の運転に不慣れなため、 思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

(1) 無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。 無理な作業計画は、 あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

(2) 日常点検について

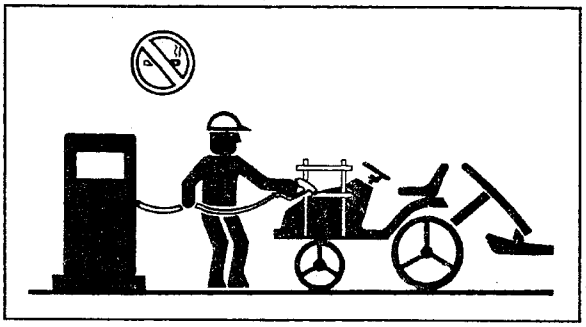
作業する前に、 この取扱説明書を参考に必要な点検・注油は必ず行なってください。 特にブレーキ関係は忘れないでください。 点検を怠ると、 ブレーキの効きが悪かったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(3) 安全カバー類の装着確認

田植機を運転する前に、 安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。 外れたままエンジンをかけたり、 作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。

(4) 燃料補給時は火気厳禁

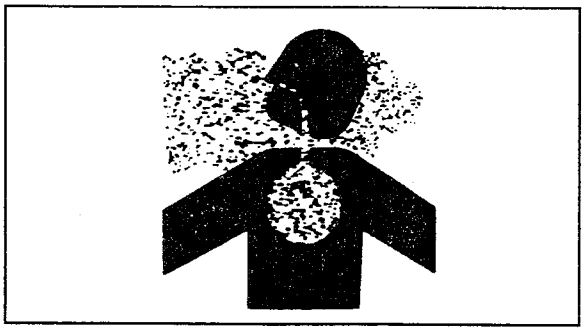
燃料を補給する時エンジンは必ず停止し、 くわえタバコなどは絶対にしないでください。 田植機の周囲に火の気を近付けず、 火気厳禁で行なってください。 守らなかった場合、 火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

(1) 室内では充分に換気を

室内でエンジンを運転する時は、 窓や戸を開けて換気を充分にしてください。 換気が悪いと、 排気ガス中毒を起こし大変危険です。



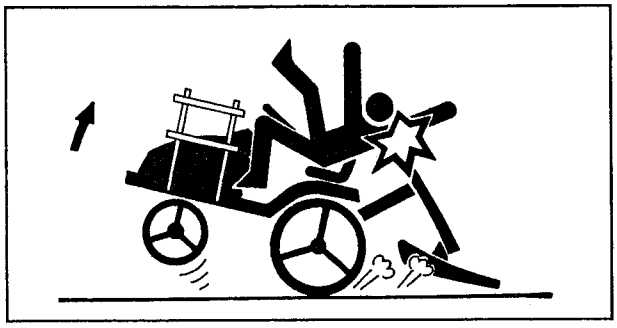
(2) エンジンの始動は周囲を確認してから

①エンジンを始動する時は必ず座席に座って、主変速レバー、副変速レバー、植付クラッチレバーを[N]にして、周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。

②エンジンを始動する時は、エンジンやマフラ等の上や周囲に燃えやすいものが無いことを充分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

(3) 急発進は、危険

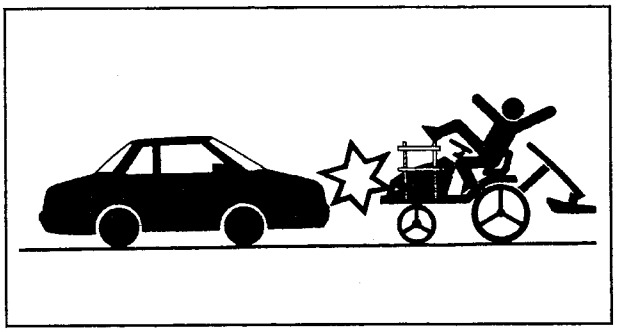
発進するときは周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■移動する時の注意

(1) 一般道路での自走禁止

この田植機は、自動車としての認定を受けておりません。従って一般道路を走行することは違法行為になります。ほ場への移動は、必ずトラック等にのせて運搬してください。



(2) 正しい運転姿勢で

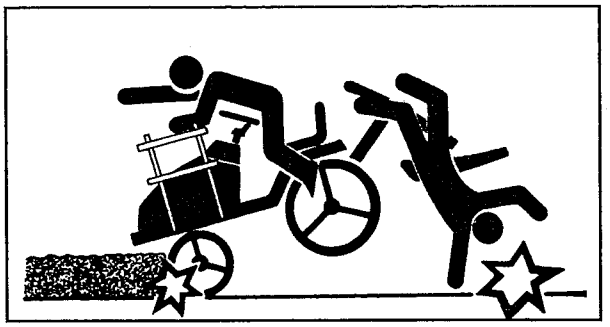
ハンドルやレバー、ペダルは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因となります。

(3) ほ場の外でのブレーキの使い方

ほ場の外でブレーキを使う場合、急停止は大変危険です。必ず主変速レバーを[N]位置に戻してからブレーキペダルを踏み込んでください。

(4) 同乗禁止

どのような場合でも絶対に運転者以外の人を乗せないでください。人が転落したりして大変危険です。

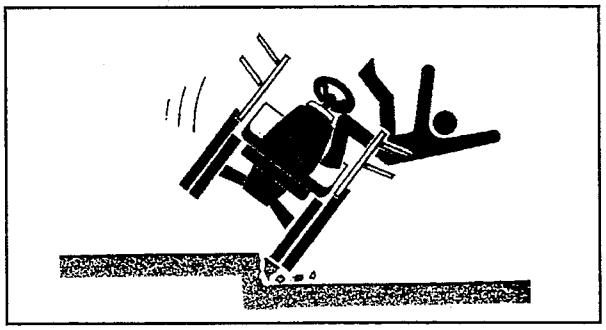


(5) ゆっくり移動

①発進前に必ず植付部が持ち上げられているか、油圧昇降ロックがされているか、確認してください。

②カーブ、曲り角では早めにスピードを落としてください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。

③凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた安全な速度で移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

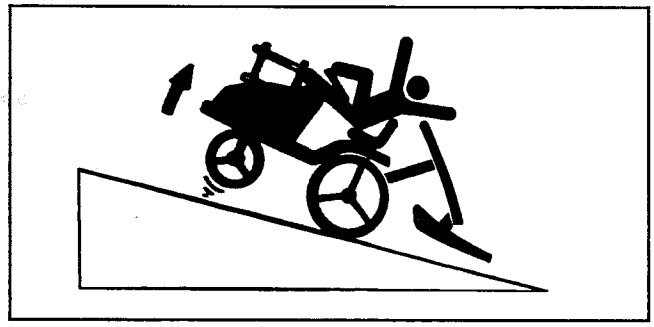


(6) 路肩に注意

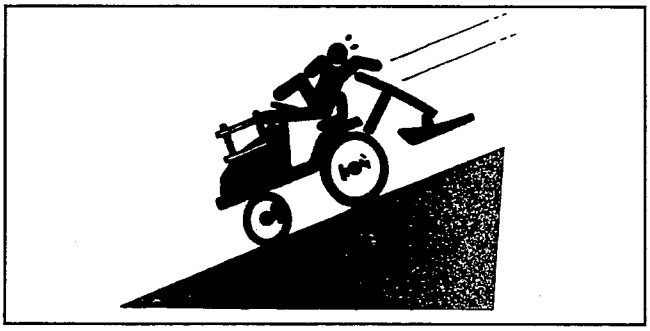
両側が傾斜している所を移動する時は、 速度を落として充分注意して移動してください。 路肩がくずれて転倒したりして大変危険です。

(7) 坂道に注意

①坂の手前で一旦停止して、 副変速レバーを[圃場作業]に切換えてから、 坂道の登り降りをしてください。 急発進は禁物です。
②停止するときはブレーキペダルは踏み込まないで、 必ず主変速レバーを操作してください。
③坂が急で前進で登ると前が浮上がる恐れがある場合は、 後進で登るようにしてください。

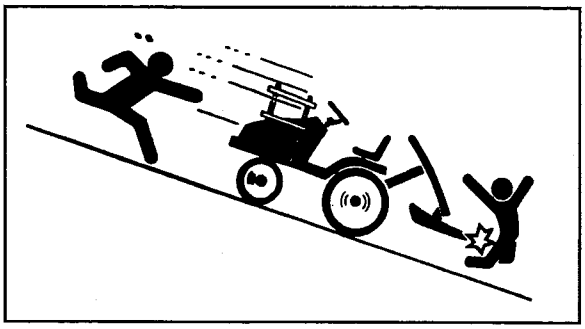


④坂の途中で副変速レバーを[N]にしないでください。 また、 ブレーキペダルは踏み込まないでください。
⑤坂の途中で危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたい時は、 ブレーキペダルをいっぱい踏み込んでください。 ブレーキペダルの踏み込みが足らない場合は暴走する恐れがあり、 大変危険です。



(8) 田植機から離れる時は

①田植機から離れる時はエンジンを停止しスイッチキーを抜き取り、 駐車ブレーキをかけて車輪止めをしてください。
②止める所は広く平たんな地面の硬い場所を選んでください。 田植機が自然に動きだしたりして大変危険です。
③下に草やワラがある場所や、 燃えやすい物の近くには田植機を置かないでください。 マフラー等の熱で発火する恐れがあり、 火災の原因になります。



■夜間作業の禁止

この田植機はライトを装備していますが、夜間作業は危険なので帰り時間等を配慮し、 作業は早めに切り上げてください。 暗くなるまで作業をしていると、 衝突･転倒･転落事故を引き起こす恐れがあります。

■移動･運搬時の注意

(1) トラックへの積み･降ろし

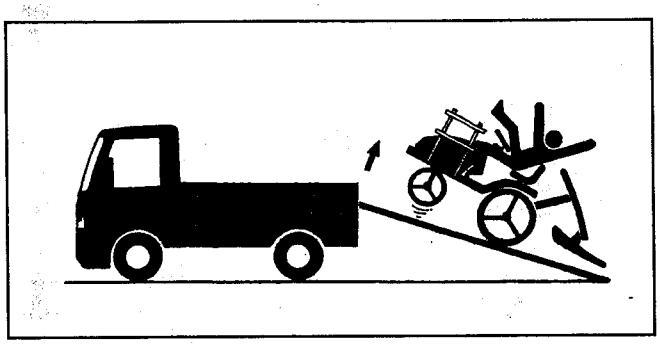
①積み ・ 降ろし作業を行なう時は、 トラックのエンジンを止めて、 駐車ブレーキをかけ、 車輪止めをして行なってください。 これを怠ると積み･降ろし時、 トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。
②積み･降ろし作業は、 誘導者を付けて周囲の安全を充分確認して行なってください。 また田植機の直前や直後には絶対に立たないでください。 障害事故の原因になり、 大変危険です。

③アユミ板は基準以上のものを使用し、 田植機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

〈アユミ板の基準〉
○長さ ：車の荷台の高さの4倍以上 ○幅 ：30cm以上 ○数量 ：2枚 ○強度 ：1枚の強度が1,000kg以上 ○すべり止めのあるもの

④アユミ板のフックは荷台に段差がないようにまた、 ずれないよう確実に掛けてください。

⑤前進でアユミ板を登ると大変危険です。 必ず後進で積み込み、 前進で降ろしてください。 これを怠ると転落事故の原因になり、大変危険です。



⑥アユミ板を登り･降りする前に前輪デフロックペダルを踏むことを忘れないでください。 副変速レバーを**[圃場作業]**にし、 主変速レバーをゆっくり操作してください。 途中で絶対に副変速レバーを [N] にしないでください。 これを怠ると転落事故の原因になり、 大変危険です。

⑦途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたい時は、 ブレーキペダルを素早くいっぱいに踏んでください。

⑧万一に備えて田植機の周囲には人を近付けないでください。

(2) 運搬する時

①トラック等で運搬する時は、 駐車ブレーキをかけ、 エンジンを停止し必ずロープで荷台に固定してください。 また運搬中は不必要な急発進･急ブレーキ･急ハンドルはしないでください。 田植機が移動して大変危険です。

②長距離を運搬する場合は、 安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。

③砂利道や凹凸の激しい道はゆっくり走行してください。

■作業中の注意

気象条件などに注意して、 作業実施の判断 ・ 作業方法や装備(服装)の選択に充分配慮してください。

(1) 作業中は、 周囲の人に注意 (特に子供が近付くのは危険)

作業中は、 作業者以外の人を田植機に近付けてはいけません。 田植機自体や作業による飛散物等で障害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業開始時は、 声をかけあって

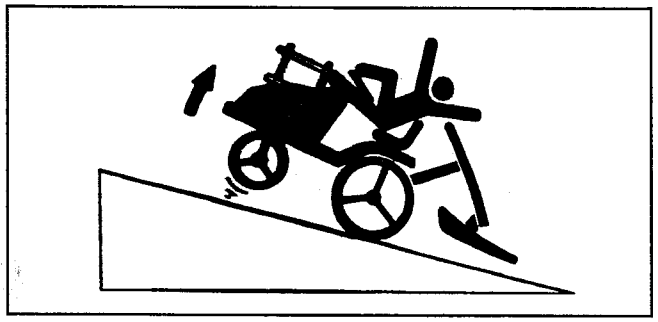
作業を開始する時は周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業する時は、 声をかけあって行なってください。 これを怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) あぜごえ時の注意

機械をあぜに直角に向けて止め、 副変速レバーを**[圃場作業]**にし、 植付クラッチレバーで植付部を下げ、 主変速レバーを低速で、 ゆっくり発進してください。 後輪があぜに上がると同時に植付部を上げてください。 斜めになるとスリップや横転の原因となり、 大変危険です。

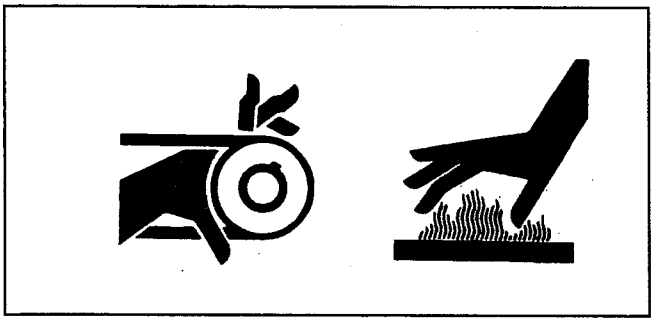
(4) アユミ板を使ってほ場の出入り

①あぜの高さが高い所でのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用して後進で登ってください。
②アユミ板を登り始める前に、前輪デフロックペダルを踏んでください。
③あぜに対して機械を直角にとめ、左右２枚のアユミ板が機械の両輪に合い、平行になっているかを確認してください。
④ハンドルをまっすぐにして、ゆっくり登ってください。



(5) 回転部･過熱部には手を触れない

作業中は、ロータリー爪、苗受等の回転部やエンジン･マフラー等の加熱部･バッテリ端子等の通電部などの危険な箇所には手を触れないでください。障害事故の原因となり大変危険です。



■点検・整備時の注意

(1) 定期点検について

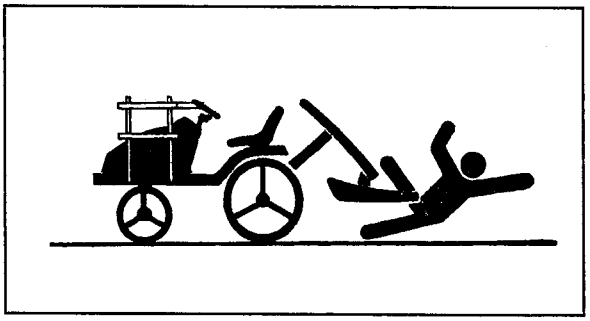
取扱説明書に従って定期点検をしてください。これは田植機を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行なえる第一歩です。

(2) 点検･整備は明るく広い場所で

点検･整備する時は、明るく平坦な広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 点検･整備はエンジンを止めて

点検･整備する時は必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行なってください。植付部を持上げて点検を行なう時は、油圧昇降ロックをするとともに、台などで支えて落下を防止してください。これを怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。

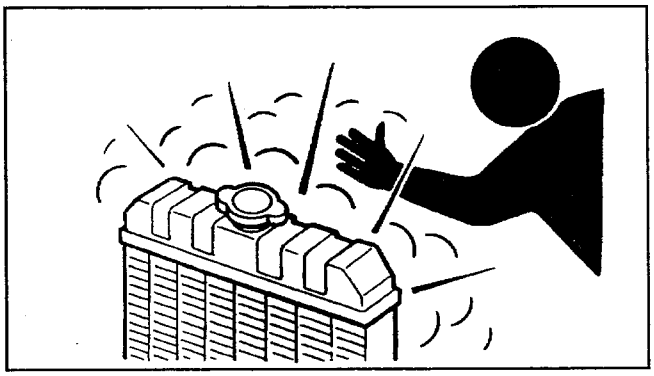


(4) 点検･整備は適正な工具で

点検･整備を行なう時は、適正な工具を正しく使用して行なってください。まにあわせの工具で行なうと、整備中の障害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし、大変危険です。

(5) 過熱部分は冷めてから

①運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジンを停止後30分以上経過してからエンジンルームをあけ、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。これを怠るとヤケドなどの原因になります。



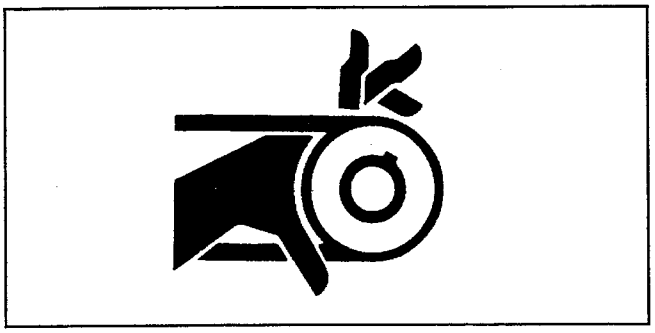
②点検・整備する時は、マフラー等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。これを怠ると作業中に発火したりして、火災を引き起こす恐れがあります。

(6) 田植機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対してはいけません。田植機の故障や事故の原因になり大変危険です。

(7) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむきだしになり、障害事故の原因になり大変危険です。



■保管時の注意

(1) 燃料の抜き取り

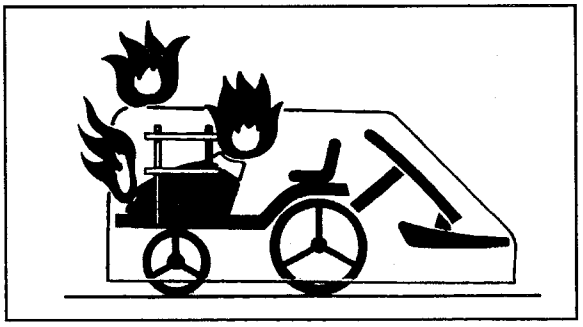
長期格納する場合は、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し、田植機の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因にもなり大変危険です。

(2) 植付部は下げて保管

格納する時は、平たんな場所で、植付部のスタンドを使用し、下げて保管してください。これを怠ると思わぬ事故の原因となり大変危険です。

(3) シートカバーは田植機が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を田植機にかける時は、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバーをかけると火災の原因になり大変危険です。



(4) バッテリケーブルを外す

長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がケーブルをかじってケーブルがショートし、火災の原因になり大変危険です。

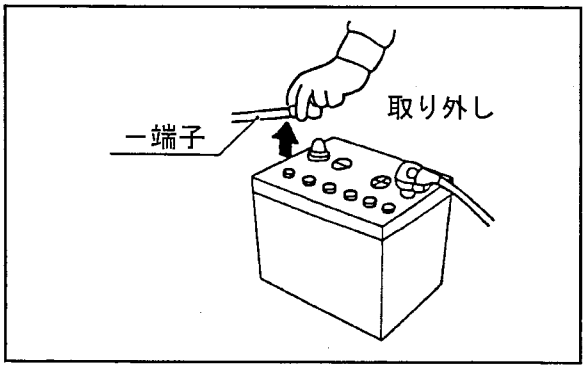
電装関係を取り扱う時は

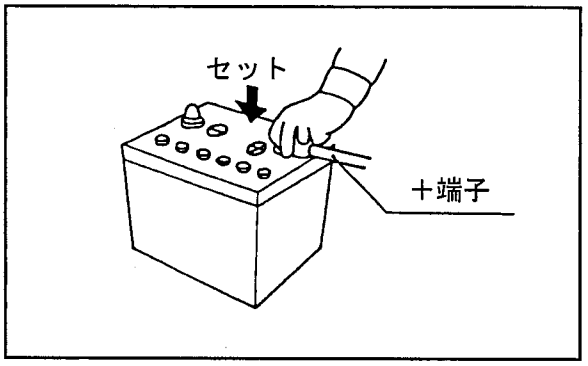
(1) 電気配線点検時の注意事項

①電気配線の点検は、 必ずエンジンを停止して行なってください。 エンジンをかけた状態での点検は、 手や衣服が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。

②接続部の点検は、 メインスイッチを[切]にし、 バッテリの－側端子を外して行なってください。 これを怠ると火花がとんだり、 感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

③配線の端子や接続部のゆるみ、 および配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、 ショート・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。 痛んだ配線は早めに交換・修理してください。





(2) バッテリ取り扱い時の注意事項

①ショートやスパークさせたり、 たばこ等の火気を近付けないでください。 また充電は風通しのよい所で行なってください。 これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

②バッテリ液 (電解液) は希硫酸で劇毒物です。 バッテリ液を体や衣服につけないようにしてください。 失明やヤケドをすることがあり大変危険です。 もし目・皮膚・服についた時は、 ただちに大量の水で洗ってください。 なお目に入った時は、 水洗い後、 医師の治療を受けてください。

③バッテリの着脱及び点検をする時はエンジンを停止し、 メインスイッチを[切]にしてください。 これを怠ると電気部品を損傷したり、 思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

④バッテリケーブルを外す時は－側端子を先に外します。 バッテリケーブルを取り付ける時は＋側端子を先に取り付けます。 これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。

(3) ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、 危険のないように取り扱ってください。

①バッテリの補水キャップを取り外してから接続してください。 補水キャップが取り外してあれば、 万一引火しても爆発力が低下しますので、 被害は少なくなります。

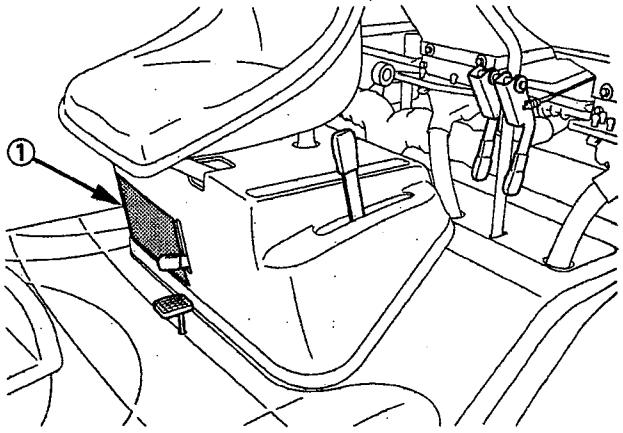
②ブースタケーブル接続前には、 エンジンを停止してください。 これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

③ブースタケーブルは、 できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。 通電容量が小さすぎると、 ブースタケーブルが熱をもったり焼損したりして危険です。

安全表示ラベルについて

●本田植機には、 安全に作業していただくため、 安全表示ラベルが貼付してあります。 必ずよく読んで、 これらの指示に従ってください。
●安全表示ラベルが破損したり、 なくなったり読めなくなった場合は、 新しいラベルに貼り替えてください。
●泥等がついた場合は、 きれいにふきとり、 いつでも読めるようにしてください。
●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、 同時に安全表示ラベルも購入先にご注文ください。

安全表示ラベル貼付位置



①ラベル（ケイコク）
KU-PL501-8986-2

⚠ 警 告

転倒や暴走の危険があるため、下記事項を守ること。



エンジン始動時
ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバーを「N(中立)」にしてからエンジンを始動すること。

走行全般
主変速レバーを「N(中立)」にしてから、ブレーキペダルを離すこと。
高速時に急ブレーキ、急ハンドル操作を行わないこと。

作業時
苗補給時は、主変速レバーを「N(中立)」にし、駐車ブレーキをかけること。

トラックなどへの積み降ろし・駐越え・急な坂道での走行時
1．登るときはバックで登り、副変速レバーを「圃場作業」にすること。
2．踏板の4倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。
3．斜面に対して直角に走行すること。
4．坂道を下る時は急ブレーキをかけないこと。



機械から離れるとき
1．エンジンを止め、駐車ブレーキをかけること。
2．坂道では車止めをすること。

⚠ 注 意

使用前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．屋内では排気ガスが溜まり易くガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。

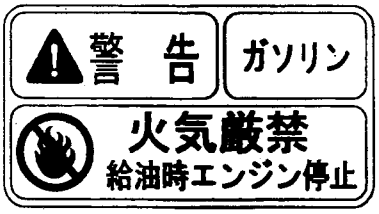
移動走行時
1．この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。
2．転倒などの危険があるため、傾斜地・路肩の軟弱な道・がけ際は走行しないこと。
3．転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。
4．植付部が不意に下降してはさまれる危険があるので、植付部を上げて移動するときは、油圧昇降を必ずロックすること。

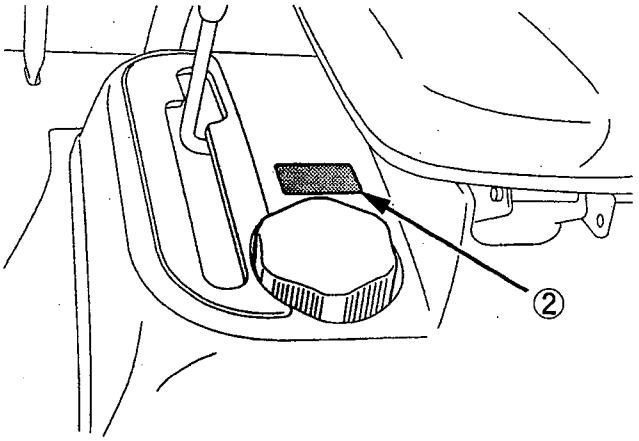
作業時
1．ケガをするおそれがあるので、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。
また、油圧昇降を必ずロックすること。
2．ケガをする危険があるので、夜間作業は絶対にしないこと。
3．植付作業中、安全クラッチが作動(ガッガッという大きな異音)したら、すぐに走行を停止し、エンジンを止めて植付爪先端の障害物を取り除くこと。

使用後
火災の危険があるので、シートカバーは機械が冷えてからすること。

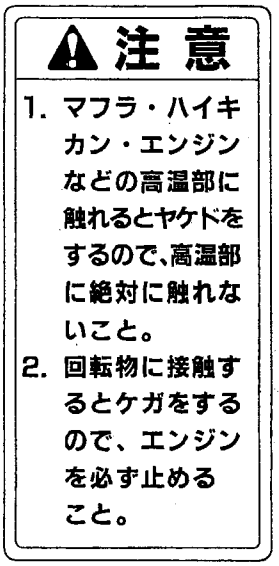
安全表示ラベル貼付位置

②ラベル（カキゲンキン）
KU-PP551-8926-1



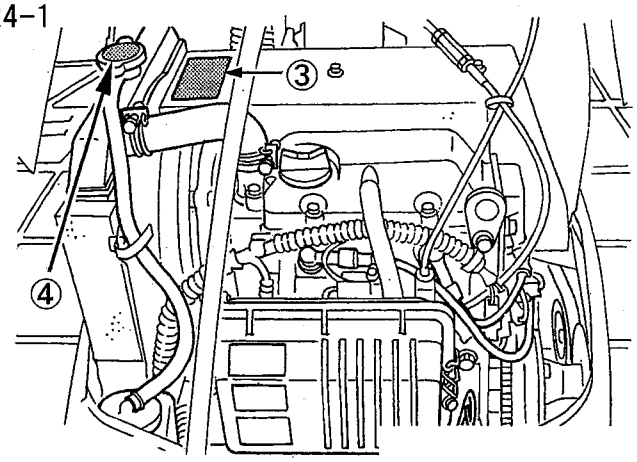


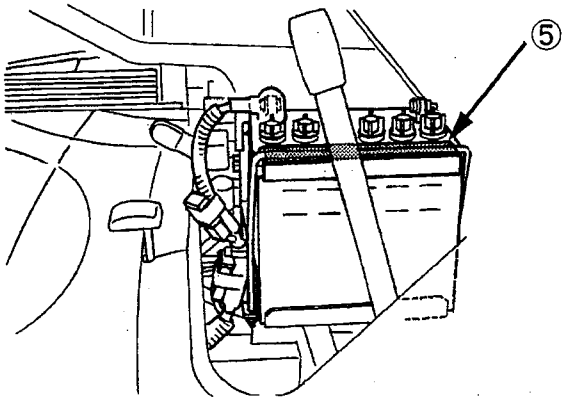
③ラベル（コウオンカイテン）
KU-PD703-8982-1



④ KU-16667-8724-1



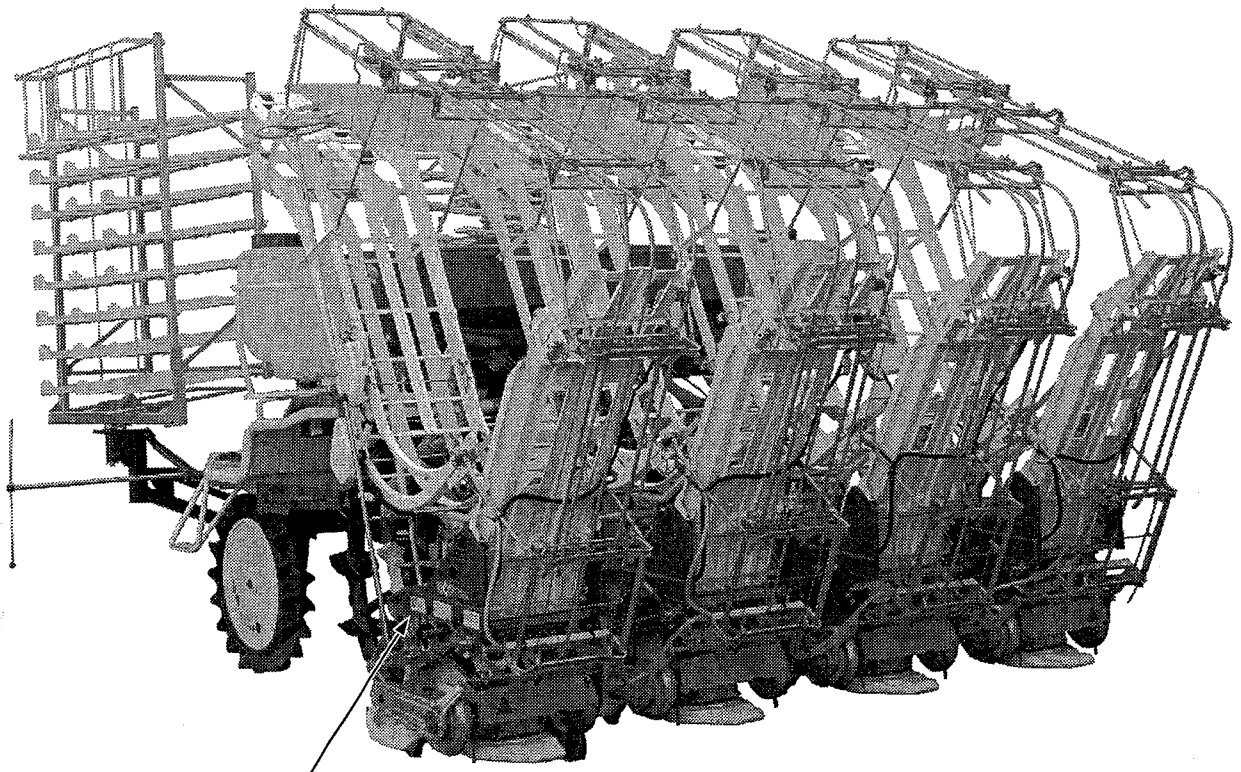




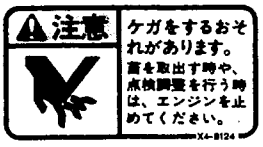
⑤ラベル（バッテリ）
KU-6A320-5559-1



安全表示ラベル貼付位置



（両側）



⑥植付部警告マーク
X4-8124

使用上のポイント

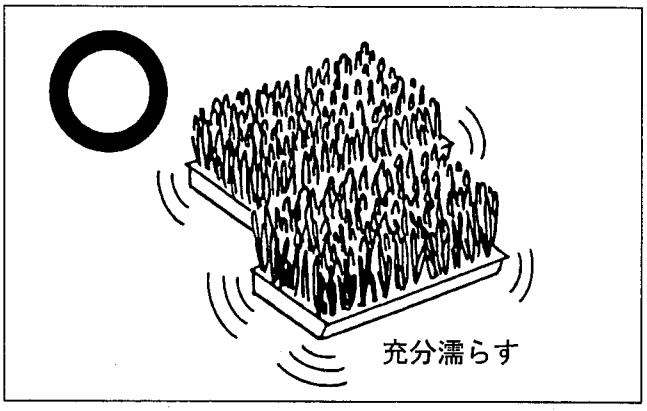
泥炭地、 基盤整備田等で本田植機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかったり、 田植機の早期破損の原因となります。 また、 本田植機の特性をよく知って、 それにできるだけ合わせた苗及びほ場の準備をしていただくことが大切です。

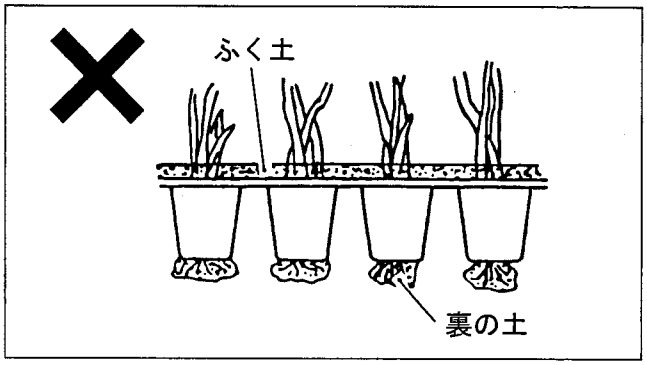
■苗について

(1)苗は使用する前に必ずあぜぎわなどの水のあるところにつけて、 ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けをします。特に根張りの良い苗は充分つけておきます。

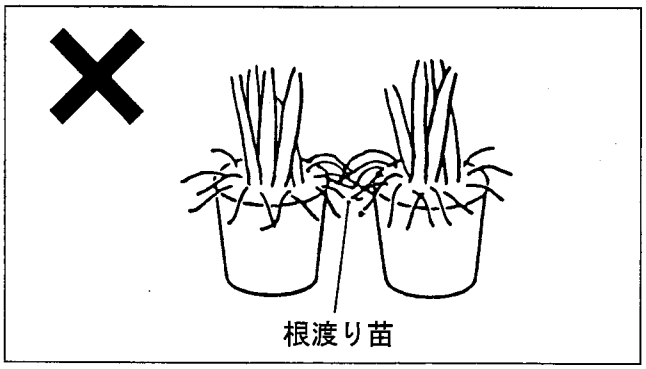
(2)濡らして使用する場合が絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、 ポットがくずれやすい土を使用している場合は、 濡らしかたに注意してください。

(3)苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、 必ず根切りネットを使用して育苗してください。 余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。 守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、 空箱ガイドで空箱がつまって、 苗箱が破損したり、 連続欠株となる場合があります。

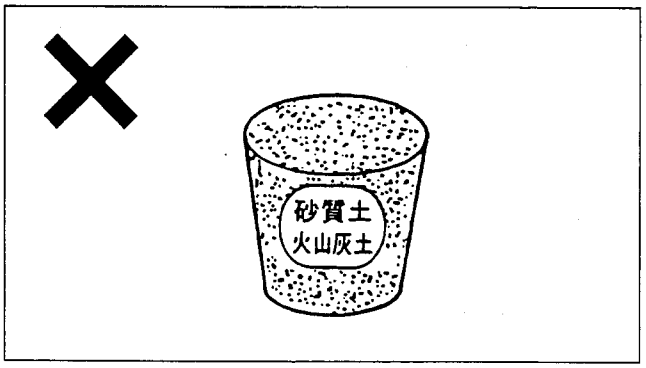




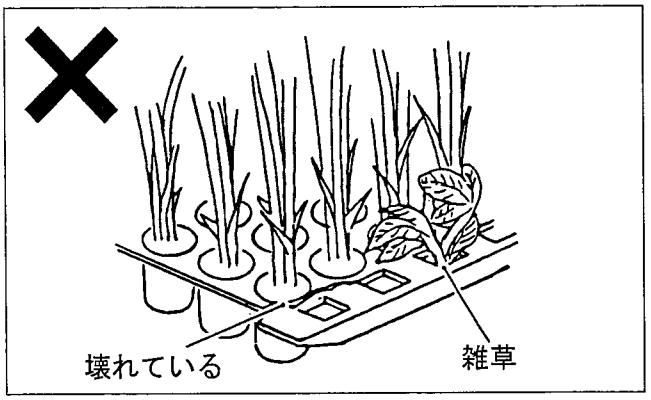
(4)根渡りさせないよう、 育苗の段階から注意してください。
（詳しくは 「育苗のてびき」 を参照）
根渡り苗は植え付けできないこともあります。



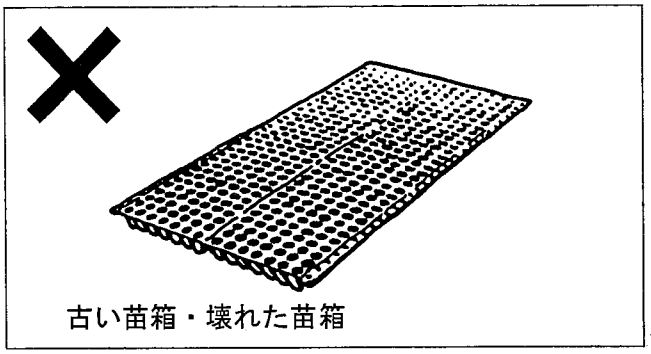
(5)砂質土 ・ 火山灰土を使用しますとポットがくずれやすく、 植付不調となります。 箱土に関しては、 購入先にご相談ください。



(6)箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。 また、 苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。 守らないと自動供給装置が誤作動したり、 苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、 苗箱が破損したり、 連続欠株となる場合があります。



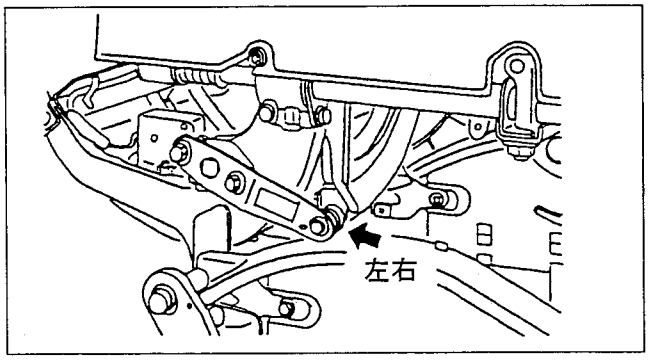
(7)10年以上経過した古い苗箱や、 新しくても保管状態の良くない苗箱は材質がもろくなっています。 苗供給時 ・ 苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。 古い苗箱は、 計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



■注油

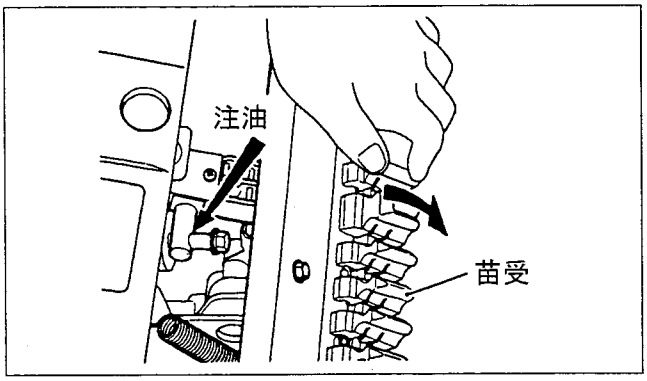
作動不良、 また消耗を防ぐため毎日使用前に注油してください。

①縦送り爪下 左 ・ 右



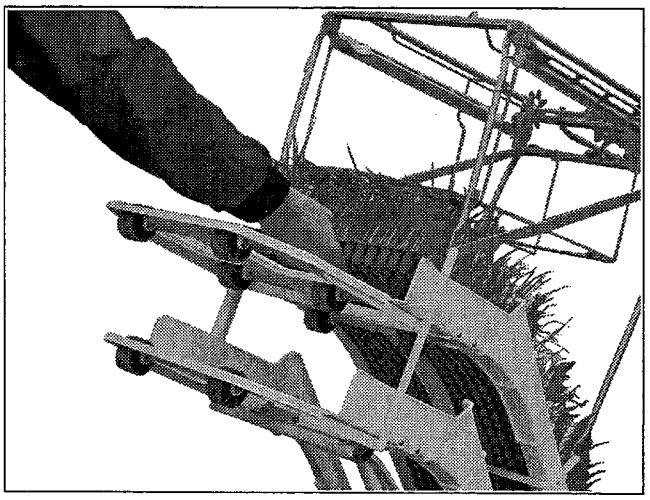
②上下送りバネ軸

苗受を上げた状態にして、 手で苗受を下方向に押えて注油してください。



■苗のセット

(1)苗のせ台の苗が残り少なくなり、 苗切れ警報(ランプ･マスコット･ブザー)が作動してから、 主変速レバーで機械を停止すると、 各自動供給装置へ6枚ずつ予備苗を供給することができます。
(2)苗の補給は、 葉先を傷めないよう、 上段から先に行なってください。
(3)苗箱を傷めないよう、 できるだけていねいにセットしてください。

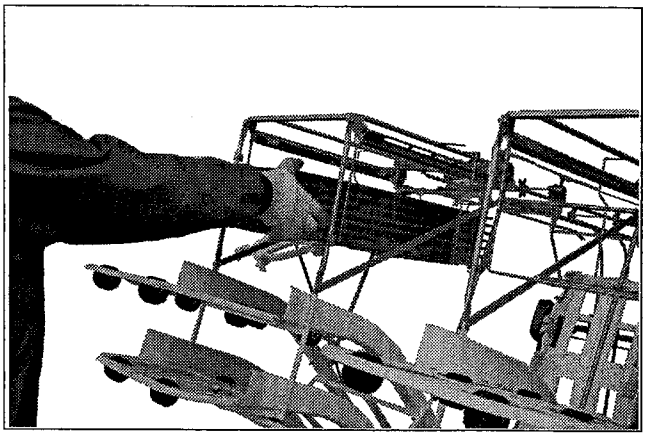


重要

- **苗補給時はできるだけ奥まで手を伸ばしてやさしく補給し衝撃のないようにしてください。**
- **特に古い苗箱は衝撃で破損しやすいので注意して補給してください。**
- **破損した苗箱は使用しないでください。**

■空箱の取り出し

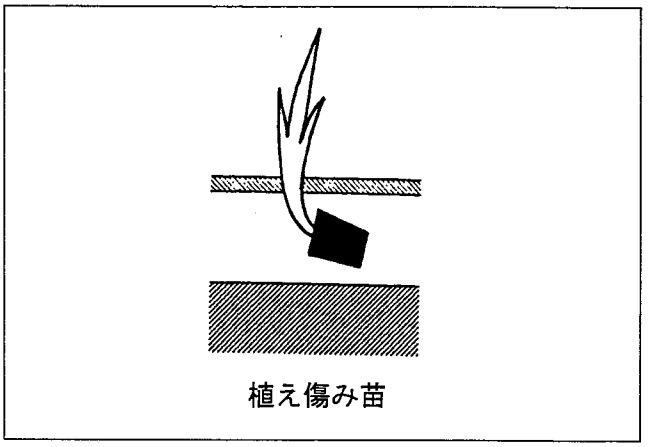
(1)空箱受には6枚以上空箱をためないでください。 箱がつまって植付不調、 苗箱の破損の原因になります。
(2)空箱受から取り出した空箱は予備苗台の一番上の段に収納してください。



■植え傷みの注意

(1)次のような条件の時、 植え傷み苗になることがあります。 このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。
- ●貧弱な苗。
- ●根張りが悪い苗。
- ●ガイド板が変形している。(広くなった時)
- ●苗支持板が変形 ・ 欠落している。

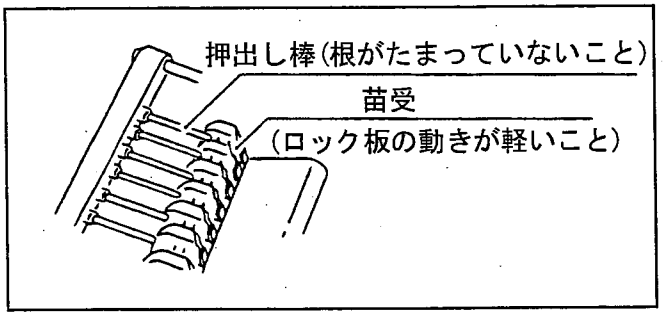
(2)植付状態を確認しながら作業をしてください。



植え傷み苗

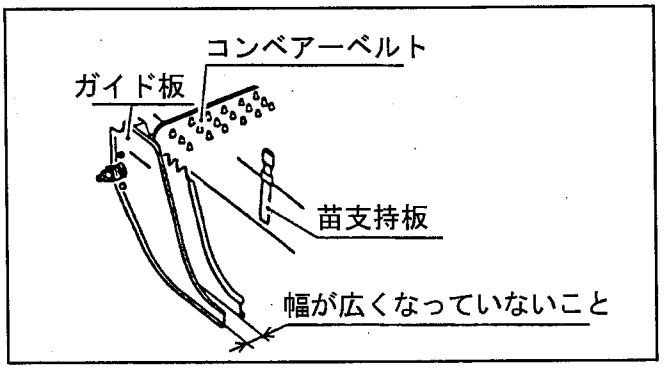
■植付部の水洗い

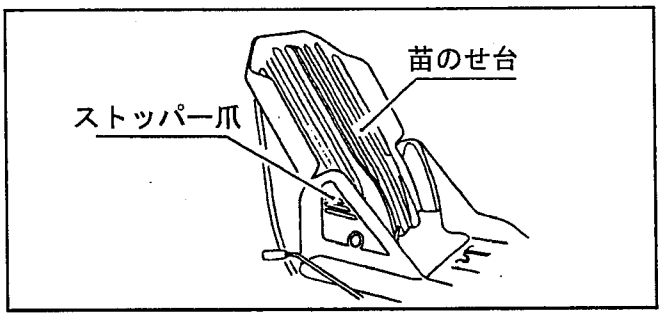
(1)苗受･押出し棒･コンベアーベルト･ガイド板･苗のせ台･縦送り爪･ストッパー爪･空箱ガイド等をよく水洗いしてください。
(2)休憩･食事のとき･ほ場をかえるときなどには必ず洗ってください。

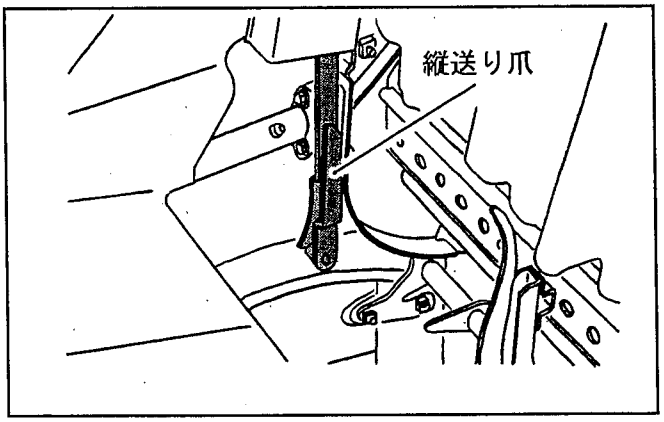


重要

- ガイド板に泥･異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、 きれいに洗ってください。(変形している場合は修正または交換してください。)
- 苗支持板を変形させないように注意してください。 植付不調になります。







保証とサービスについて

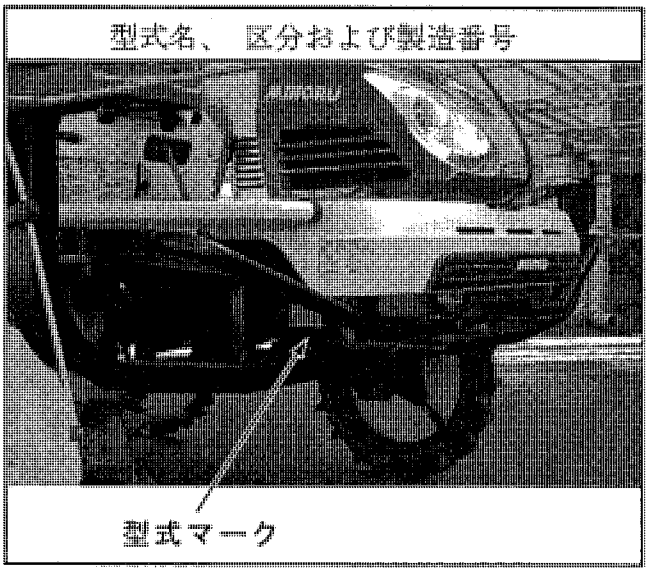
■商品の保証

この商品には、 保証書が添付されています。 詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、購入先にお気軽にご相談ください。

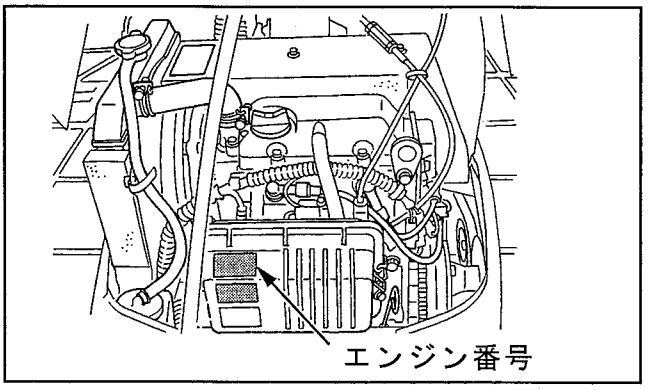
その際 (1) 型式名、区分および製造番号
(2) エンジンの番号
をあわせてご連絡ください。



(型式マーク)

農機具の種類	
型 式 名	
区 分	
製造番号	

区分	装置内容	
	植付株間 (cm)	苗とう載数
RXG8	16,18,21,24,28,30	60
RXGH8	12,13,14,15,16,17	72



警 告

機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

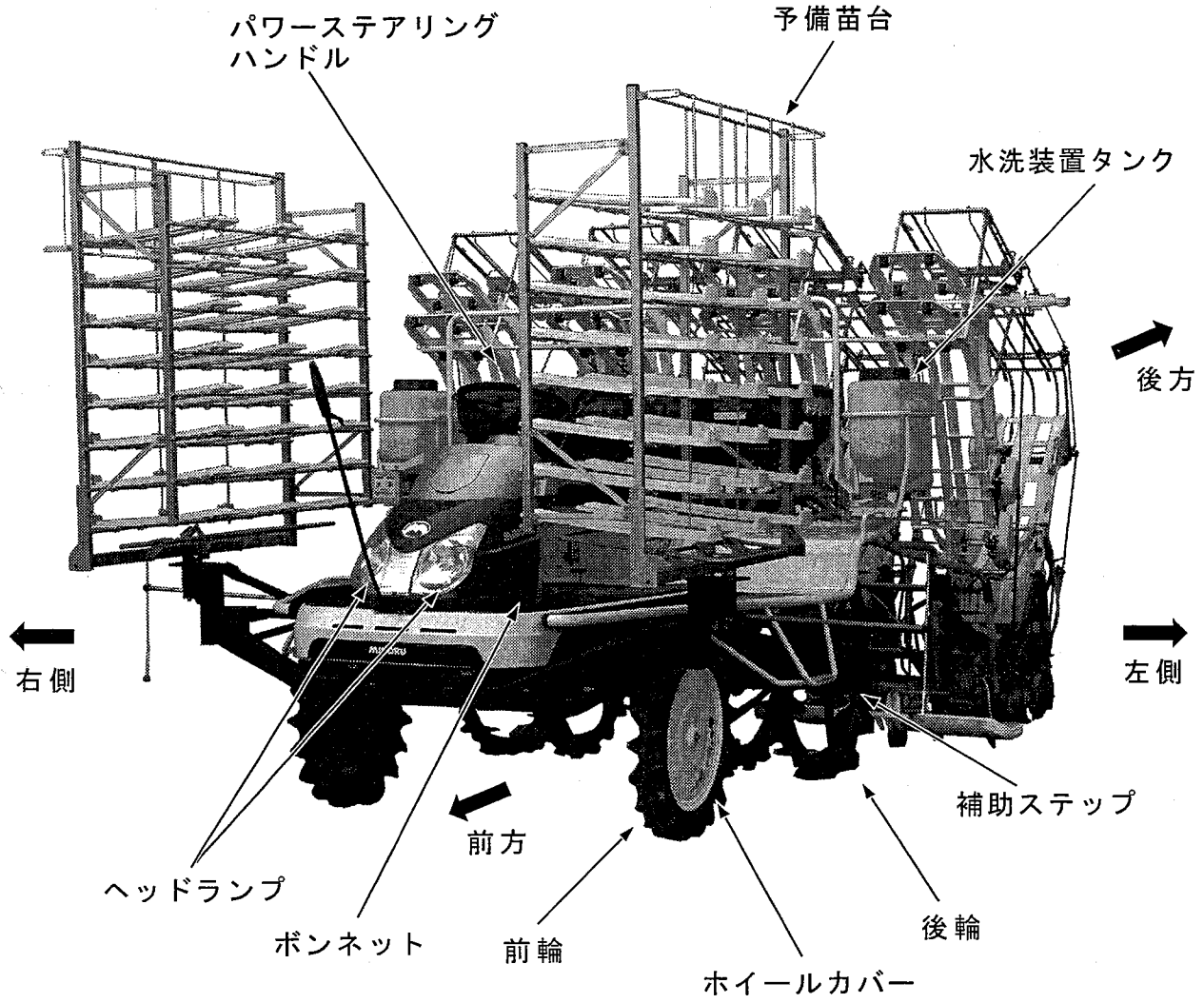
■補修用部品供給年限について

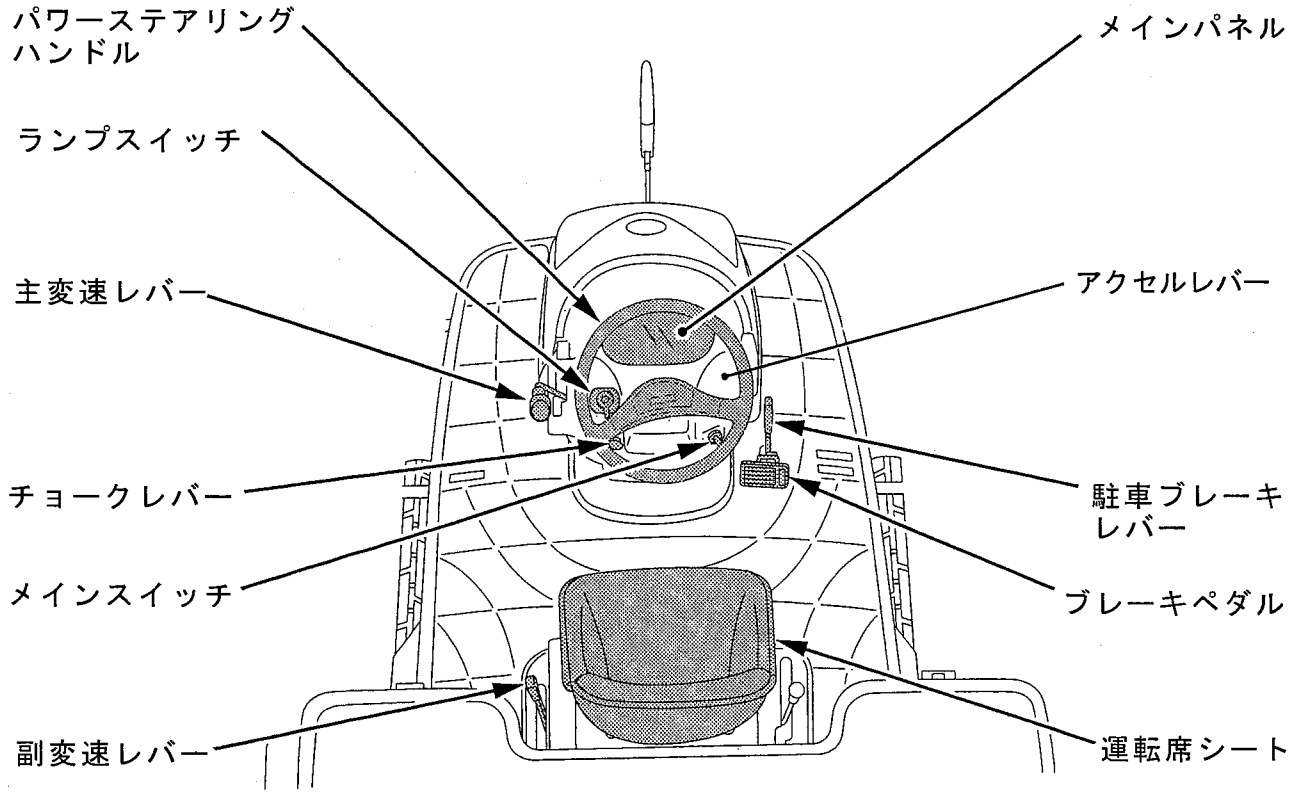
この商品の補修用部品の供給年限 (期間) は、 製造打ち切り後９年といたします。
ただし、 供給年限内であっても、 特殊部品につきましては、 納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、 原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、 供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、 納期および価格についてご相談させていただきます。

走行装置の名称と取り扱い

走行装置の名称

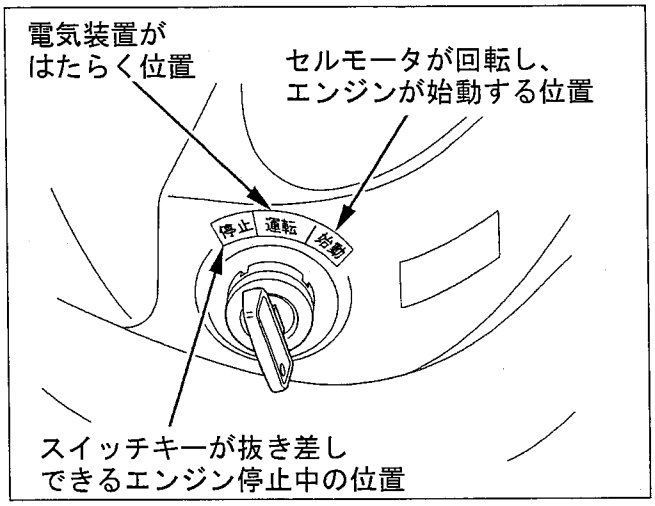



パワーステアリング
ハンドル
ランプスイッチ
主変速レバー
チョークレバー
メインスイッチ
副変速レバー
メインパネル
アクセルレバー
駐車ブレーキ
レバー
ブレーキペダル
運転席シート

エンジン操作関係

■メインスイッチ

田植機の電源の**入・切**、 及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

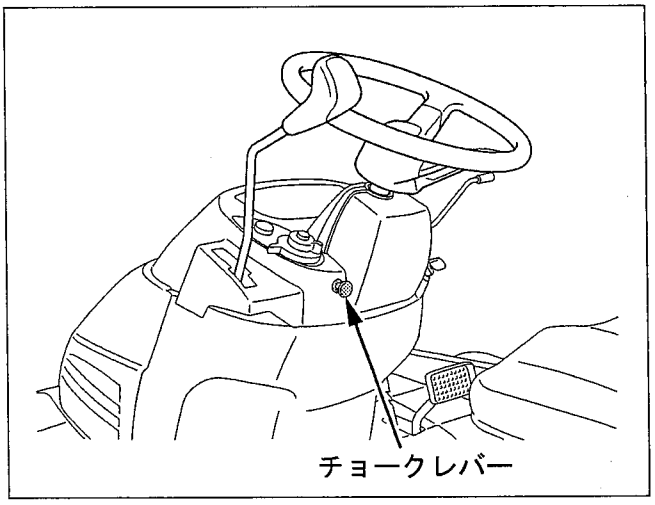


重要

- ●エンジン回転中はメインスイッチを[始動]位置に絶対に回さないでください。
- ●スタータの作動は1回5秒程度とし、 始動しないときは30秒程度休止してから再び操作をくり返してください。

■チョークレバー

エンジンの始動を容易にするレバーです。
レバーを引くと燃料の混合気が濃くなります。

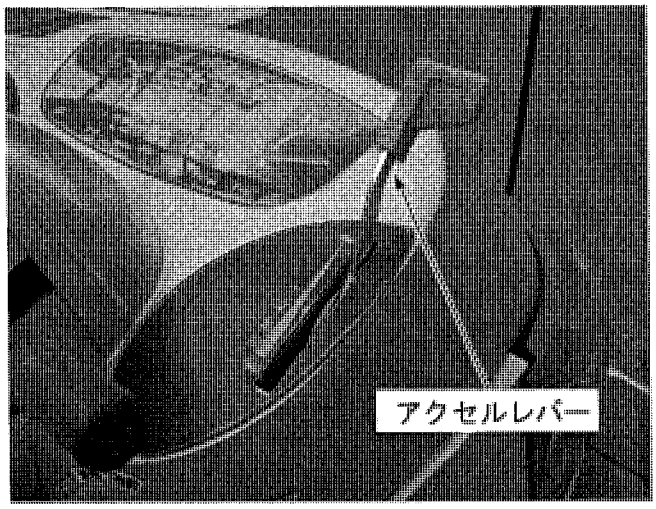


重要

- ●始動時以外は、 使用しないでください。

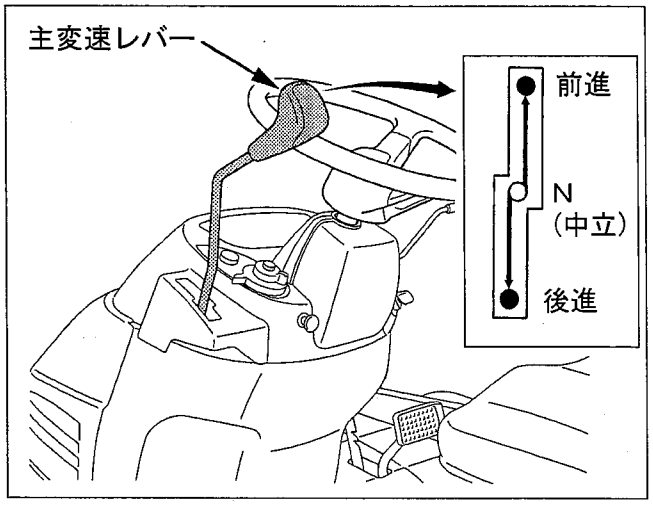
■アクセルレバー

(1)レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり前方に押すと下がります。
(2)エンジン回転は主変速レバーを 「前進」 側に操作すると位置に応じて上がりますが、「後進側」 では変わりません。
後進するとき、 ほ場条件によってエンジン回転を上げてゆっくり走行したいときに使用します。



走行操作関係

■主変速レバー



前進・後進・停止(中立)の操作及び走行速度の調節を行なうレバーです。

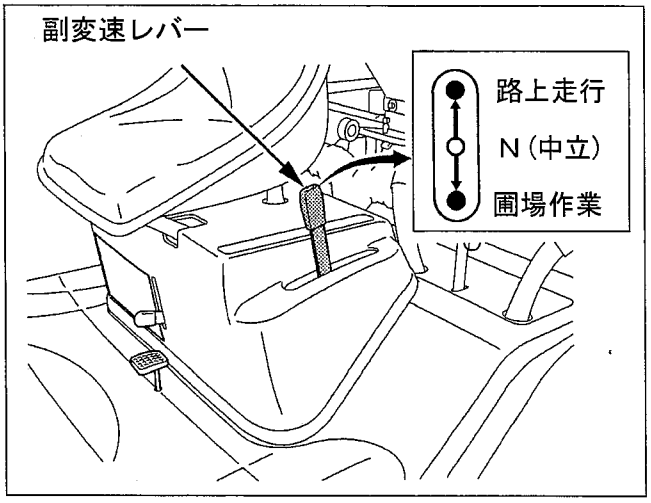
(1)走行速度及びエンジン回転数は、 主変速レバーを動かす量に応じて変わります。
ただし、[**後進**]側のエンジン回転数の調節は**アクセルレバー**で行います。

(2)主変速レバーを[N]位置より[**後進**]側に操作するとバックブザーが鳴ります。

(3)通常の走行を停止するときは、 主変速レバーの操作で行なってください。

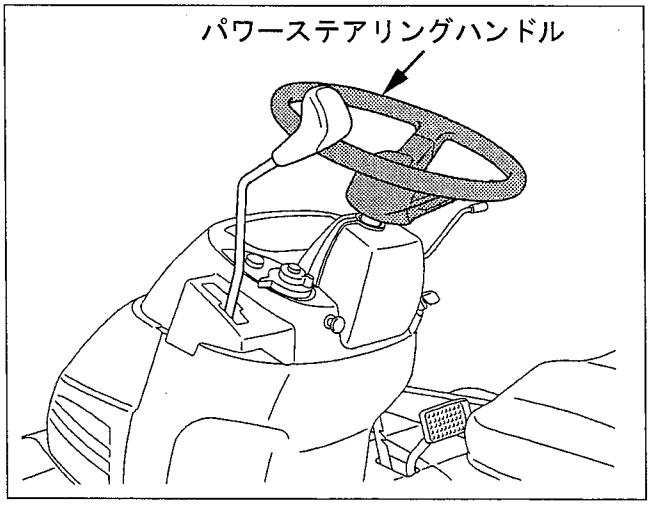
(4)植付クラッチレバーが[**自動**]位置で植付部が下降しているとき、 主変速レバーを[N]位置より[**後進**]側にするとバックアップ機能がはたらいて植付部が上昇します。

■副変速レバー



[**路上走行**]位置と[**圃場作業**]位置の切り替えを行なうレバーです。

■パワーステアリングハンドル



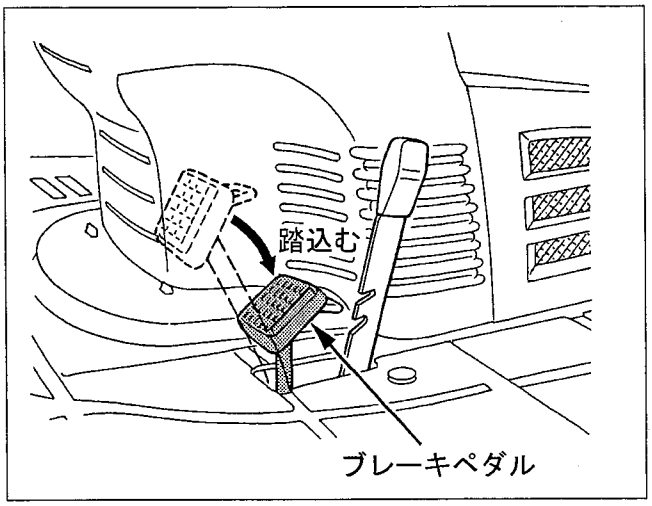
走行操作(旋回や進路変更)を行なう油圧式のハンドルです。

重要

- **ハンドル操作は、 エンジン始動中は軽くなりますが、 エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。 タイヤの磨耗が早くなったり、 リムの破損の原因になります。**

■ブレーキペダル

踏み込むとブレーキがかかります。 エンジンの始動時や緊急停止時に使用します。

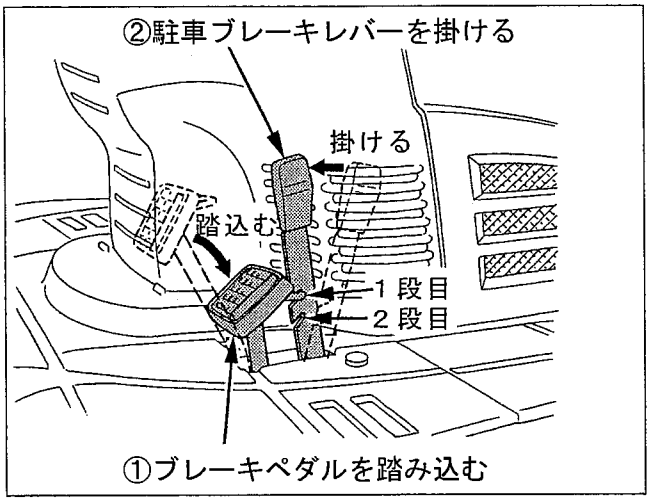


重要

- ●ブレーキペダルを踏み込んだ状態では主変速レバーを前進側、 後進側への操作はできません。 無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。
- ●前進・後進中にブレーキペダルを踏み込むと自動減速すると同時に主変速レバーが強制的に[N]位置に戻ります。

■駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを踏み込み、 駐車ブレーキレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキがかかります。 また、 ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。

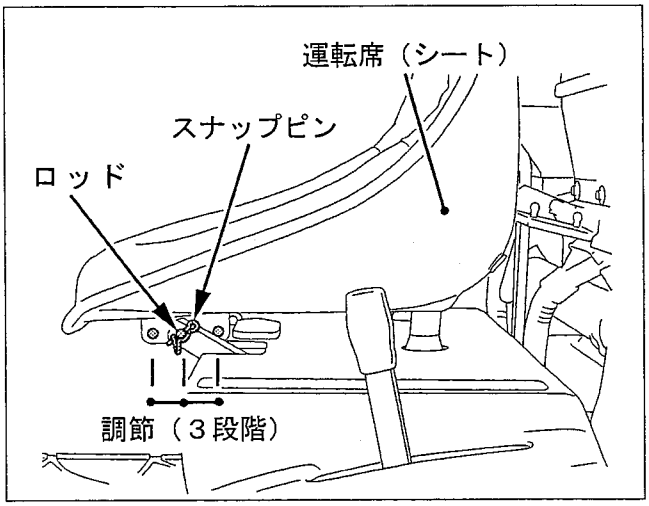


重要

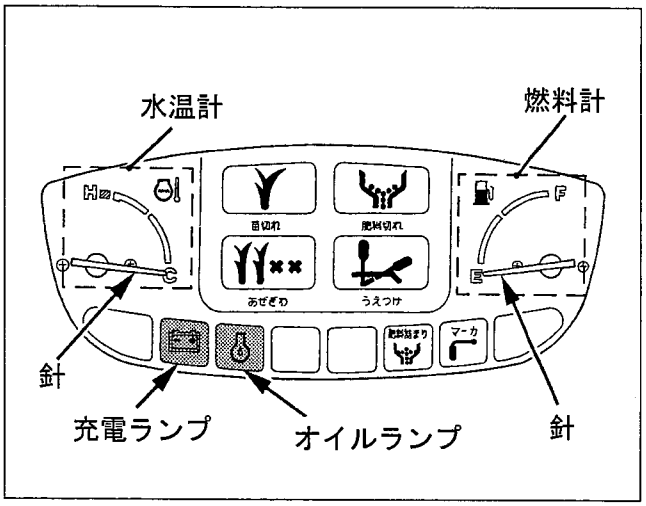
- ●急な坂道など傾斜の大きいところで駐車するときは、 2段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛けてください。

■運転席 （シート）

運転席は前後に調節することができます。 運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し、 穴を差し換えて前⇔後に調節してください。



■メインパネル （走行関係）

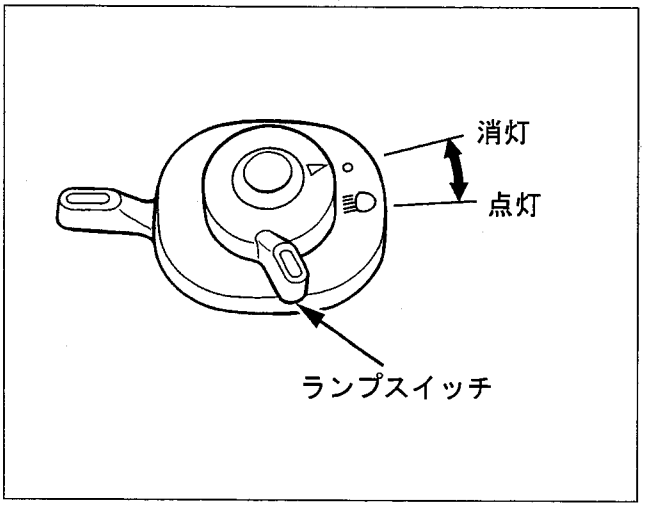


(1)燃料計
　燃料の残量を針で表示(「F」満タン⇔「E」空)します。
(2)水温計
　エンジン冷却水の温度を針で表示(「C」⇔「H」)します。
(3)充電ランプ （充電警報）
　電気系統の故障で、 充電できなくなったときに点灯します。
(4)オイルランプ （油圧警報）
　エンジンオイルの圧力が、 異常に低下したとき点灯します。

重要

- ●各メータ、 ランプはメインスイッチを「運転」位置にするとはたらきます。
- ●警報発生後の処置については、 84 ページを参照してください。 また、 ランプは異常の原因を取り除くと消灯します。
- ●エンジンが停止状態のとき、 メインスイッチを「運転」位置にすると、 各警報ランプがランプチェックのため約２秒間点灯したあと消灯します。 また、 オイルランプと充電ランプはエンジン始動後に消灯します。
- ●パネル表面の透明なカバー(アクリル樹脂)は、 アルコール類(メチルやエチルなど)やカーシャンプー原液を使って掃除はしないでください。 カバー表面が白くにごって、 見えにくくなります。

■ランプスイッチ



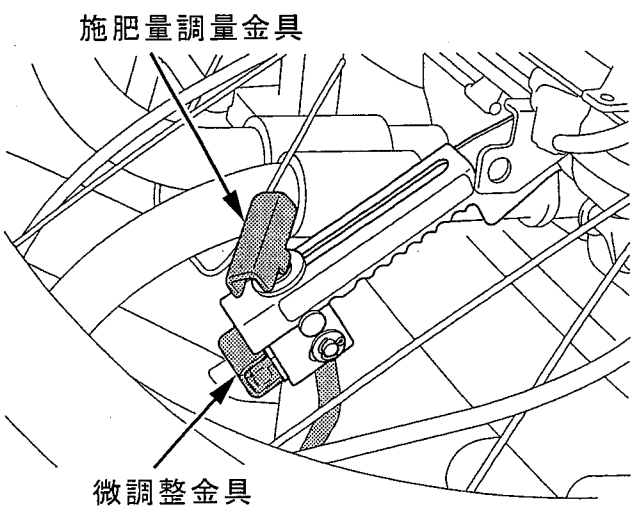
[○]　⇒ヘッドランプが消灯します。
[≡○]　⇒ヘッドランプが点灯します。

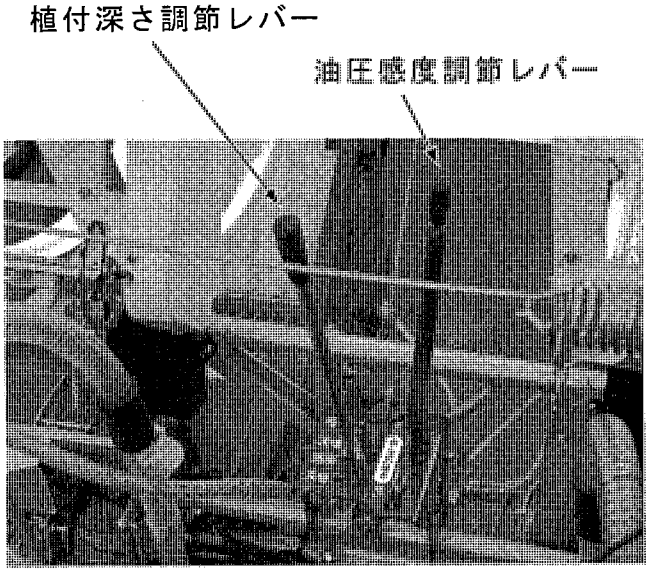
重要

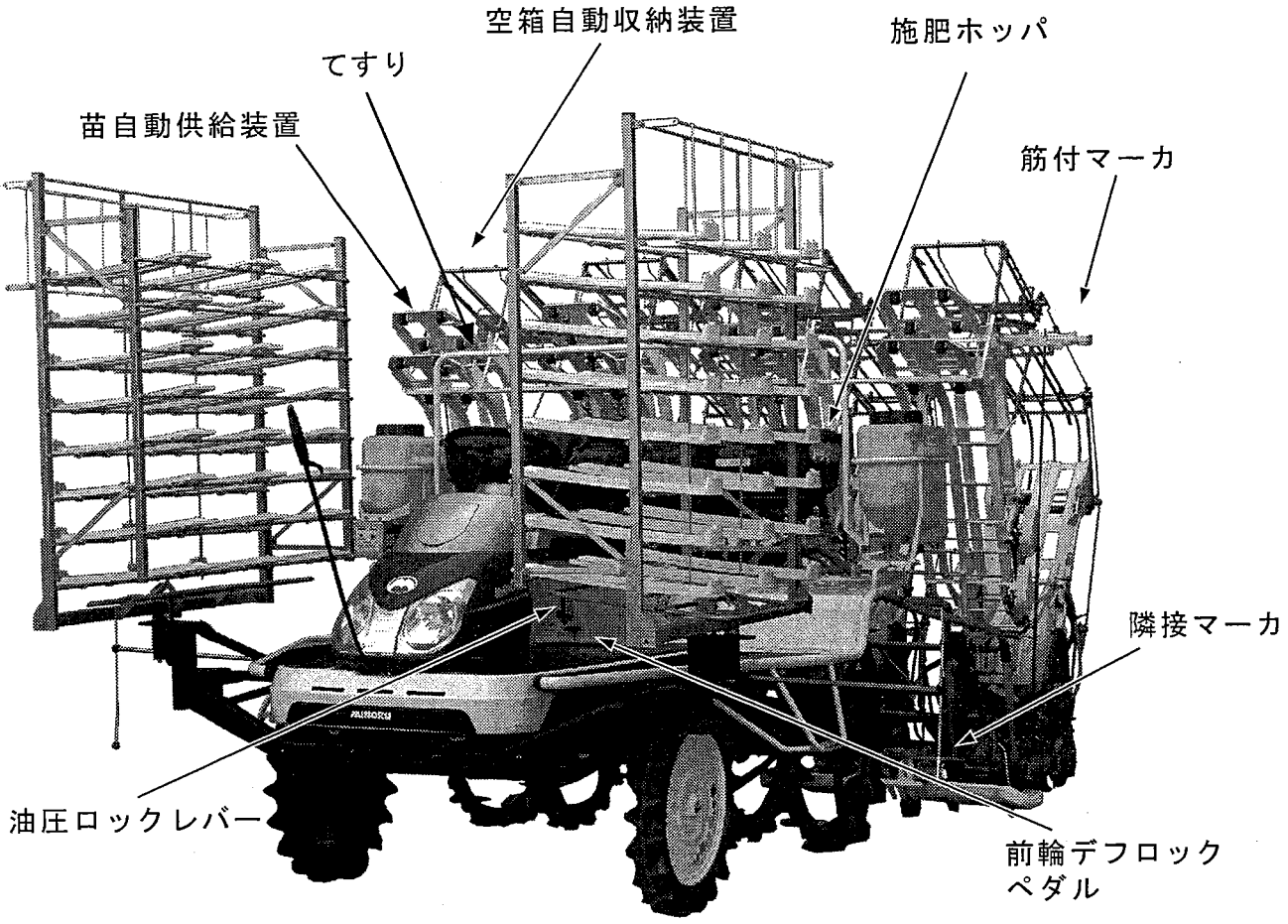
- ●ウインカスイッチは付いていますが、 ウインカの機能はありません。

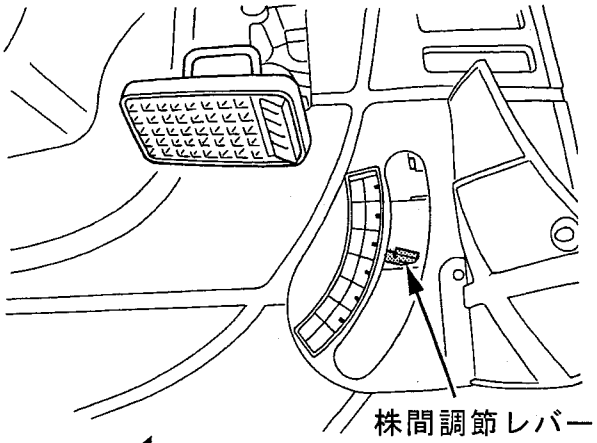
作業装置の名称と取り扱い

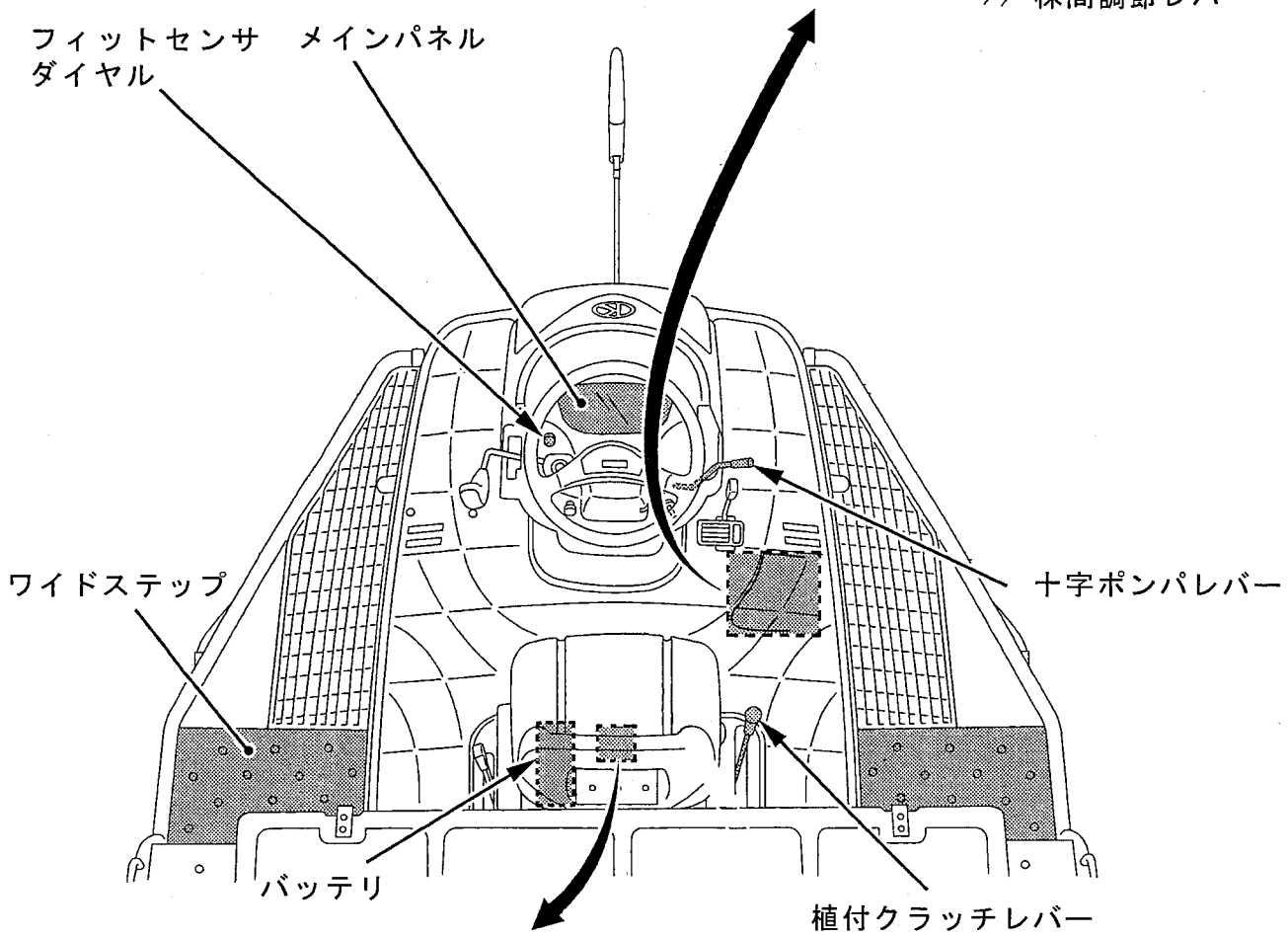
作業装置の名称

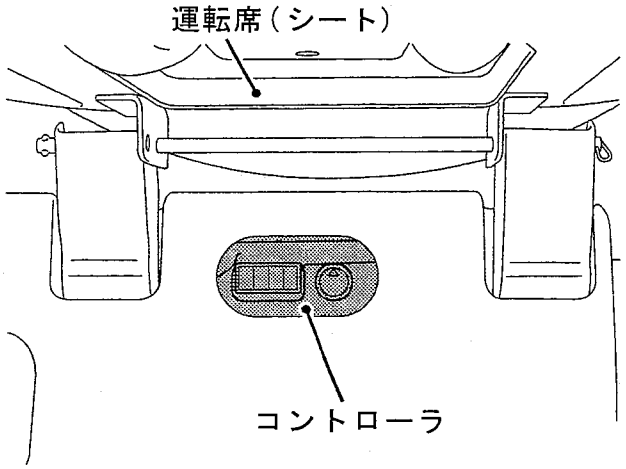







株間調節レバー

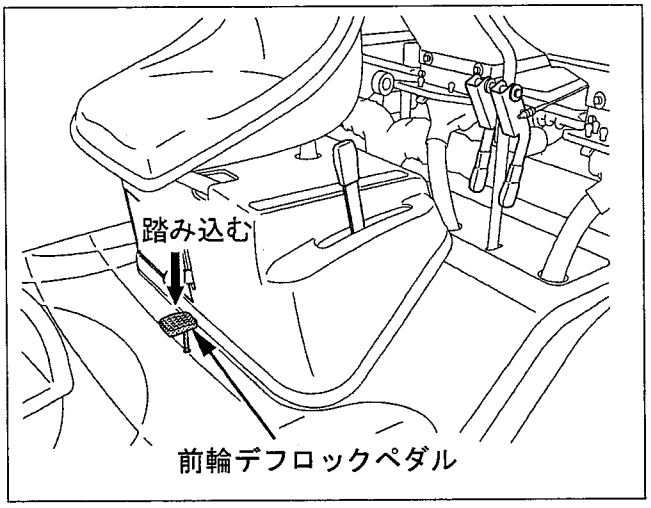

フィットセンサ
ダイヤル
メインパネル
ワイドステップ
十字ポンパレバー
バッテリ
植付クラッチレバー


運転席（シート）
コントローラ

走行操作関係

■前輪デフロックペダル

踏み込むと、 左と右の前輪が一体となって駆動します。 あぜごえ、 傾斜地(アユミ板や急な坂道)や前輪がスリップするときに使用します。

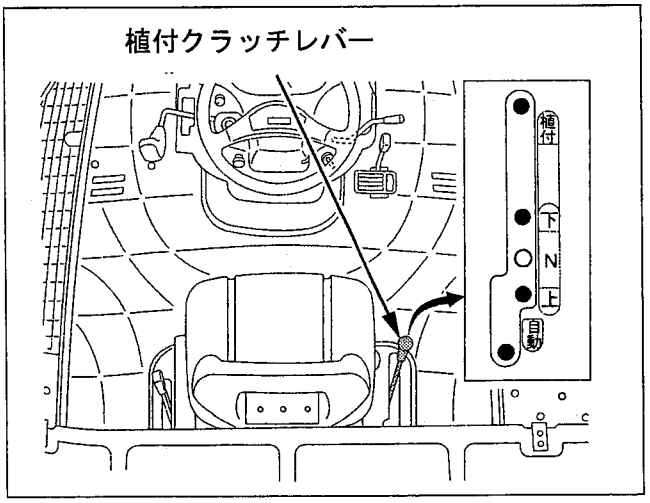


植付関係

■植付クラッチレバー

植付部の**上昇･下降**、 動力伝達の**入･切**、 十字ポンパレバーの操作が行なえる位置**[自動]**への切り替えを操作するレバーです。

[自動]
　十字ポンパレバーの操作が行なえます。
[上]
　植付部の駆動が停止し、 上昇します。
[N]
　中立位置です。
[下]
　植付部が下降します。
[植付]
　植付部が駆動します。(植付爪が回転し、自動供給装置、 水洗装置がはたらきます。)



■十字ポンパレバー

(1)エンジンが始動中に植付部の**上昇・下降**、動力伝達の**入・切**、筋付マーカの**セット**を操作するレバーです。操作するときは、上・下・前・後各方向に軽く押したあと、離してください。

上 **[上昇]**
植付部の駆動が停止し、上昇します。

下 **[下降・植付]**
植付部が下降します。そのあと再度操作すると植付部が駆動します。(植付爪が回転し、自動供給装置、水洗装置がはたらきます。)

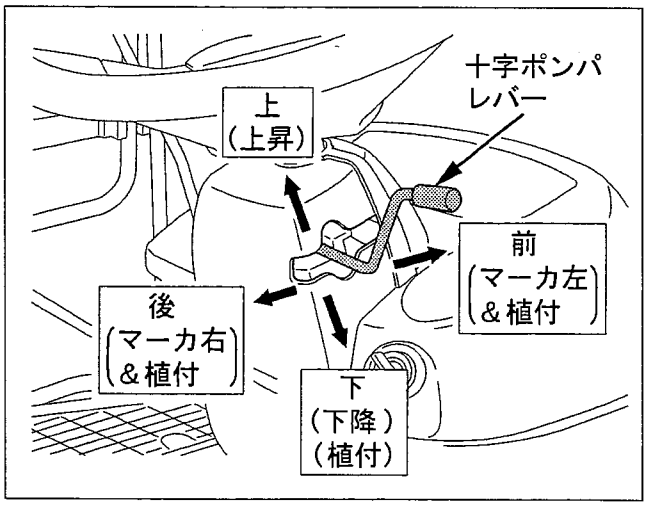
前 **[マーカ左&植付]**

後 **[マーカ右&植付]**
植付部が下降状態のとき操作すると筋付マーカが左(前方)又は右(後方)に倒れると同時に植付部が駆動します。(植付爪が回転し、自動供給装置、水洗装置がはたらきます。)

(2)植付部が接地している状態で、植付クラッチレバーが[自動]位置のとき、主変速レバーを[N]位置より[後進]側に操作すると、植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します。(バックアップ機能)

(3)植付部を上昇させると、筋付マーカは自動的に収納されます。

(4)レバーを操作すると、ピッという音が鳴ります。



重要

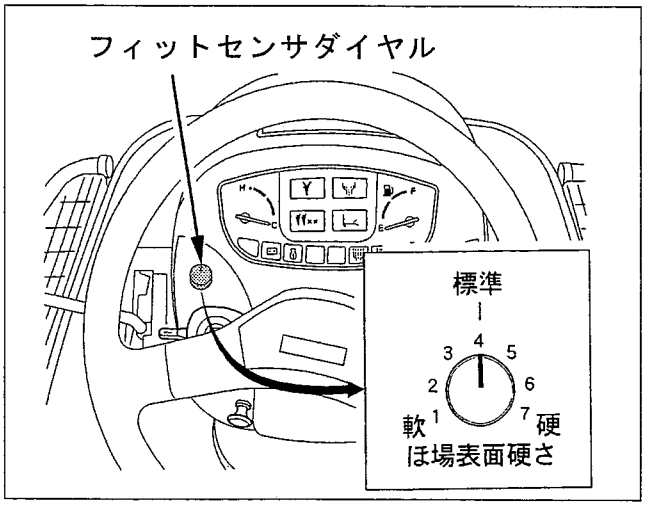
●レバーは軽く操作してください。強く操作するとレバーの破損やスイッチの故障によるトラブルの原因となります。

■フィットセンサダイヤル

(1)フィットセンサは、フロートによるほ場表面の整地を最良にするため、ほ場表面の状態に合わせて植付部の上下の動きの感度を調整する装置です。

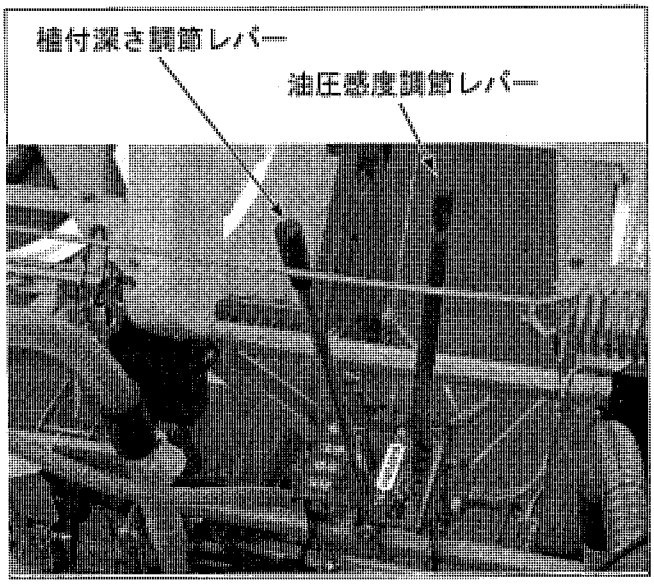
(2)フィットセンサダイヤルは感度を変更するダイヤルです。ほ場の状態に合わせて7段階[1～7]の調節が行なえます。

(3)出荷状態(標準位置)は[4]の位置です。



■植付深さ調節レバー

(1)ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。 苗の植付深さにあわせて約１～４㎝の間で７段階の調節が行なえます。
(2)レバーを後の溝にセットすると浅植えとなり、 前の溝にセットすると深植えとなります。

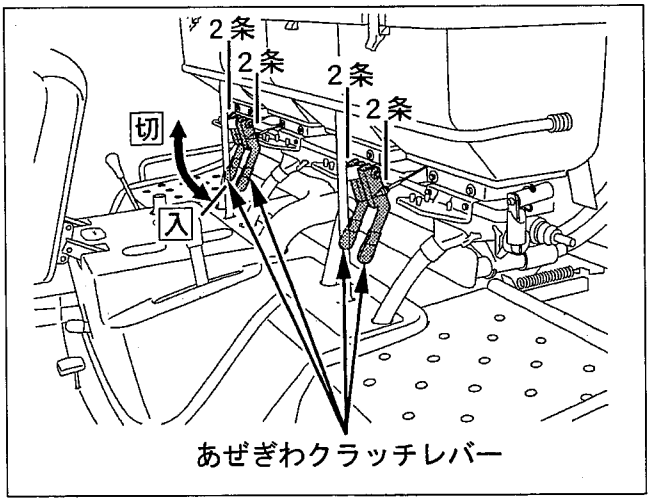


■油圧感度調節レバー

(1)フロートが泥押ししたり、 浮上がりのないように、 ほ場条件に合わせて７段階で調節します。
(2)レバーを後の溝にセットするとフロートが浮き上がりやすくなり、 前の溝にセットするとフロートがほ場表面を強く押しつけるようになります。

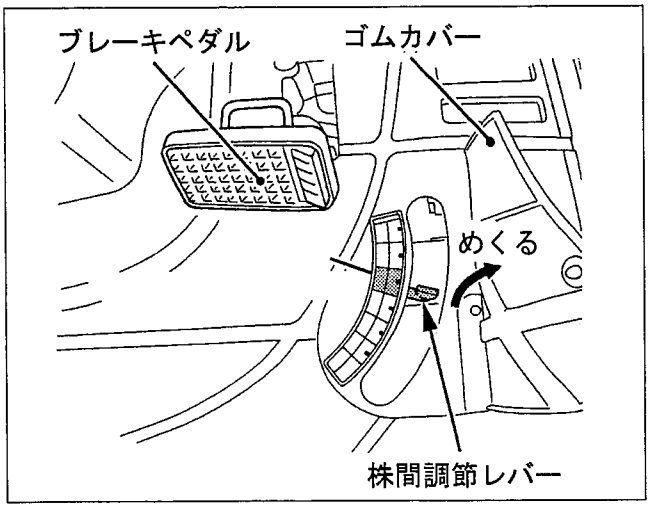
■あぜぎわクラッチレバー

(1)２条ごとの植え付けを停止させるレバーです。 ほ場の形状にあわせて、 必要なときに使用してください。
(2)クラッチレバーを[切]位置にして植付作業を行なうと、 メインパネル内のあぜぎわモニタのランプが点滅します。 全条植えを行なうときは必ずレバーを[入]位置にしてください。
(3)クラッチレバーを[切]位置にすると、 植え付けが停止すると同時に肥料の繰出しも停止します。



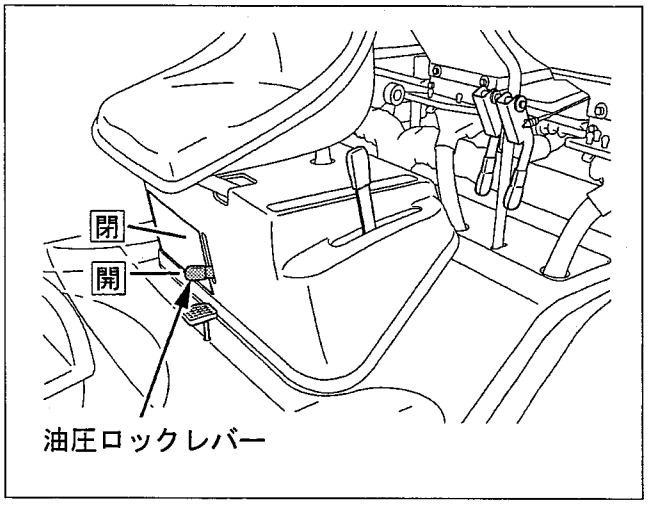
■株間調節レバー

植付株間の調節を行なうレバーです。 ６段階の株間に調節できます。



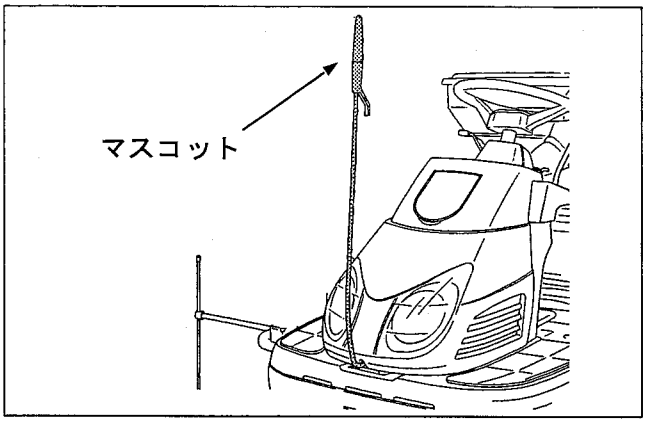
■油圧ロックレバー

(1)植付部の下降防止を行なう油圧のロックレバーです。 ロックレバーを上げる([閉] 位置)と、 エンジンが始動中に十字ポンパレバーを操作しても植付部は下降⇔上昇しません。 解除するときは、 ロックレバーを下げて([開] 位置)ください。
(2)レバーを操作するときは、 上または下方向いっぱいまで操作してください。



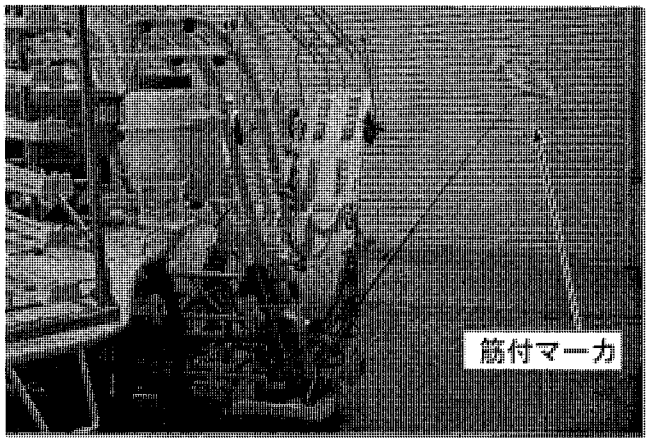
■マスコット

マスコットは筋付マーカで引かれた線上を直進していくための目印となるものです。 また、警報発生時点滅します。(苗切れ、 肥料切れ、肥料詰り、 植付クラッチ)



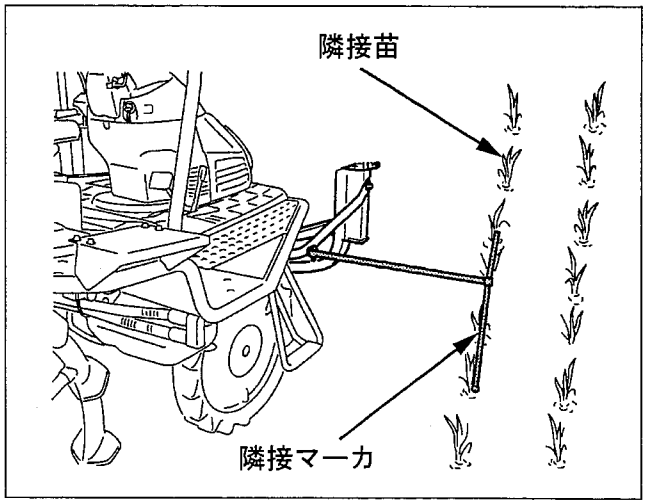
■筋付マーカ

(1)次工程を植え付けるとき、 適正な隣接条間を保つための目標となる線をほ場面にひきます。
(2)植付部を上昇させると筋付マーカは自動的に収納されます。



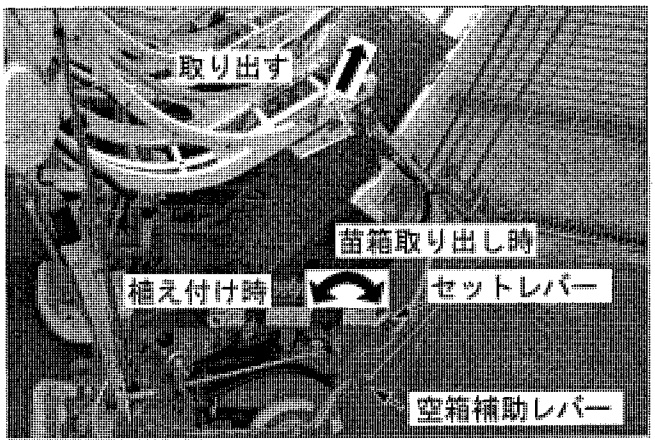
■隣接マーカ

あぜぎわの植え付けを行なう場合や筋付マーカで引かれた線が見えにくいときは、 次工程の植え始めに隣接条の苗の真上にマーカを合わせて植え付けると適正な隣接条間が保てます。



■セットレバー

(1)空箱補助レバーをずらし、 セットレバーを後方いっぱいに倒すと、 植付中の苗箱を上方向に取り出せます。
(2)また１回だけ前後に動かすと、 苗箱を１列ずつ送ることができます。

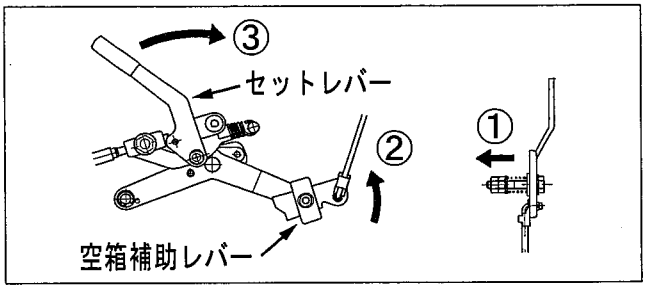


⚠注 意

苗箱の取り出しを行なうときは、必ずメインスイッチを[切]にして行なってください。これを怠ると自動供給装置が作動して大変危険です。

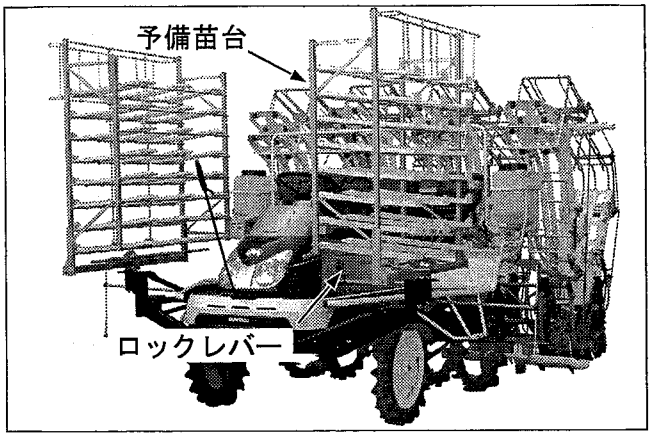
重要

- **作業後は各レバーを必ず元の位置に戻してください。**
- **セットレバーの操作は押出し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。**



■ 予備苗台

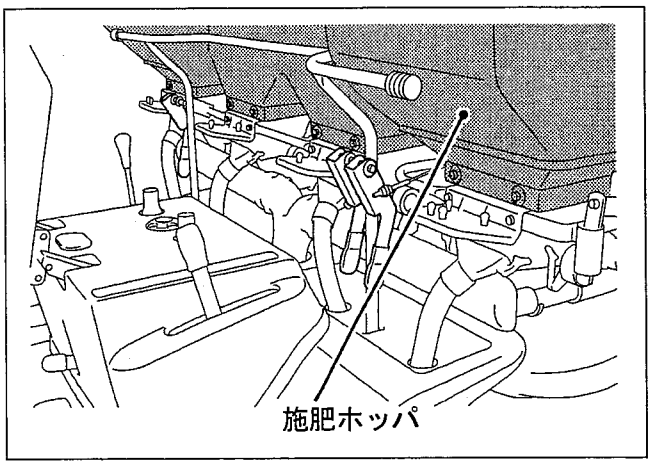
(1)予備苗をRXG8型は36枚、 RXGH8型は48枚のせることができます。
(2)ロックレバーを操作して、 ピンをロック板の穴から外すことにより、 360度回転させることができます。
(3)一番上の段に、 植え付け後の空箱を12枚ずつ重ねて収納することができます。



施肥装置関係

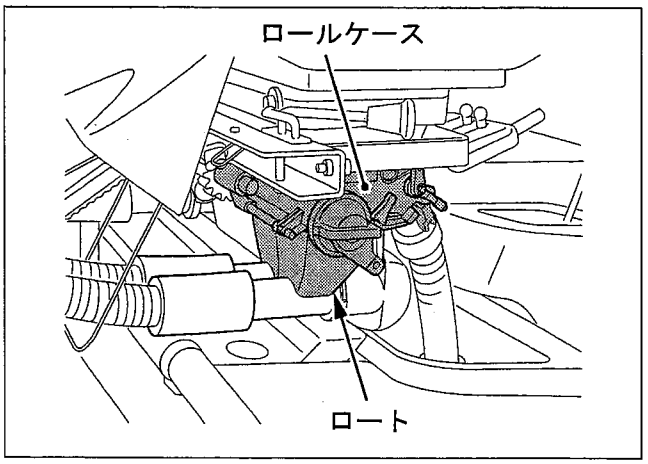
■施肥ホッパ

粒状の肥料を入れるところです。
ホッパー容量は全体で66L(約60㎏)です。



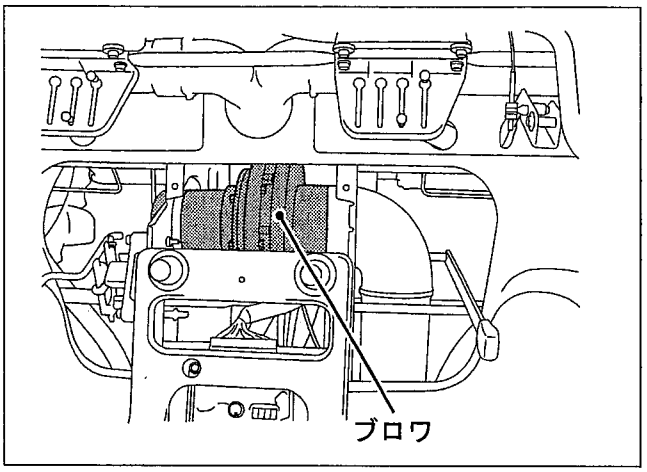
■ロールケース （繰出し部）

ホッパ内の肥料の繰出量を調節し、 設定された量を常に一定にして繰り出すところです。



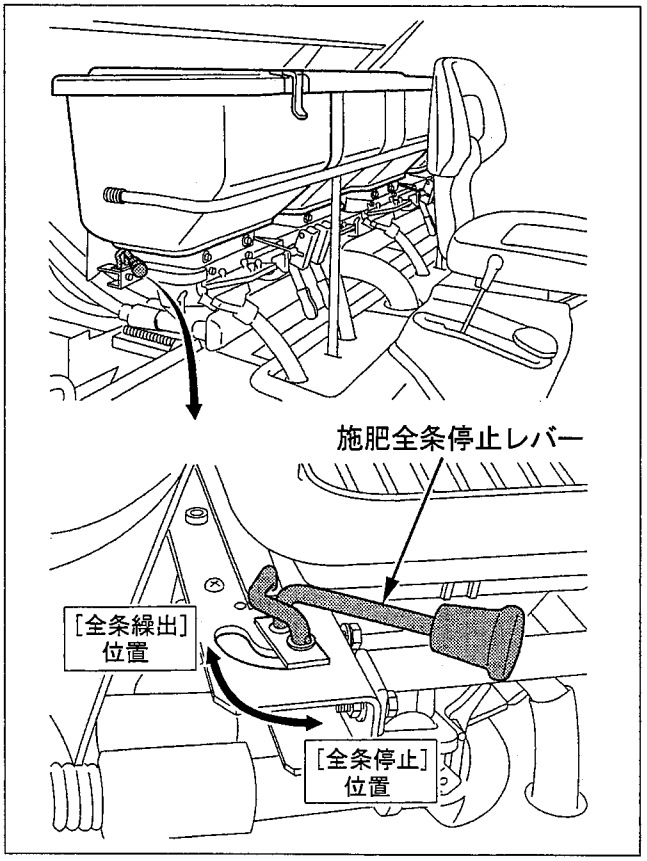
■ブロワ

(1)ロールケースから繰り出された肥料を作溝器へ強制搬送する送風機です。
(2)ブロワはエンジンを始動するとほぼ同時に回転し、 エンジン回転中は常時回転します。ただし、 植付部最上昇位置のときと施肥全条停止レバーが[**全条停止**]のときはブロワは回転しません。



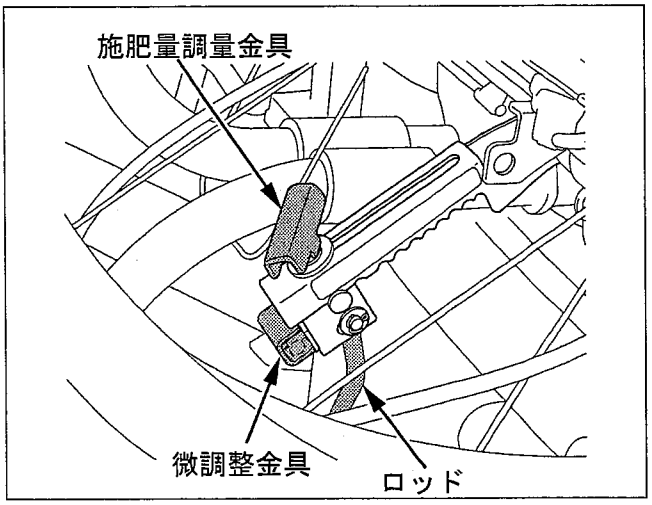
■施肥全条停止レバー

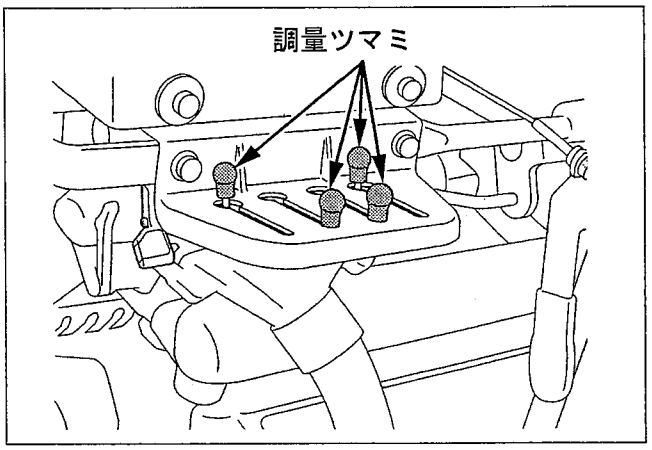
全条同時に肥料の繰り出しと停止を切り替えるレバーです。



■施肥量調量金具･調量ツマミ

(1)施肥量を調節する金具(ロッド)とツマミです。
(2)施肥量はロールケースにある調量ツマミ（シャッタ)と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更で10～80kg/10aの繰出しが行なえます。 また、 目標とする施肥量に調節するには、 調量ツマミの調節で２段階（範囲 ： 20～50kg/10a 〔標準〕 ・50～80kg/10a 〔多い〕)と調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組替え(範囲 ： 10～20kg/10a 〔少ない〕)で変更できます。
(3)調量ツマミの出荷位置は標準 （20～50kg/10a） 位置です。
(4)微調整金具で施肥量の微調整ができます。
（76 ページ参照）





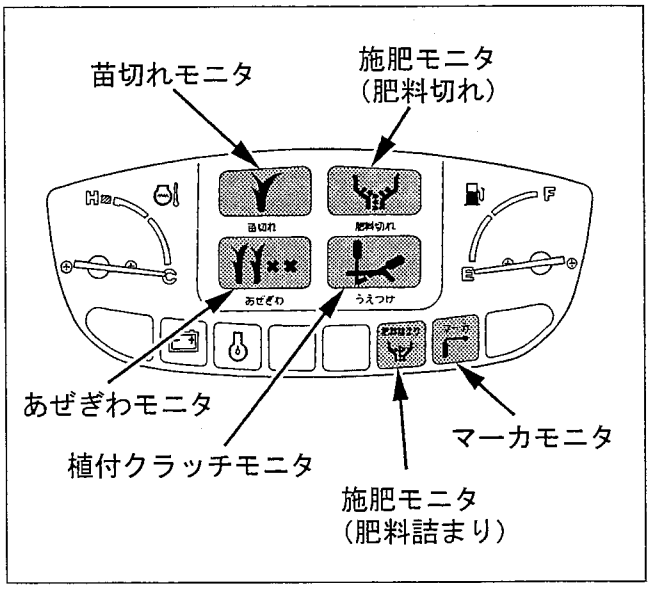
■メインパネル （電装関係）

(1)苗切れモニタ （苗切れ警報）
自動供給装置の苗がなくなり、 苗載台上の苗の残量が少なくなったとき、 メインパネル及びマスコットのランプが点滅しブザーが鳴ります。

(2)マーカモニタ （マーカ出し忘れ警報）
筋付マーカがセットされていないときに、メインパネルのランプが点滅します。
出し忘れに注意してください。

(3)植付クラッチモニタ
（植付クラッチ入忘れ警報）
植付クラッチが[切]位置でメインパネル及びマスコットのランプが点滅します。
入れ忘れに注意してください。

(4)あぜぎわモニタ
（あぜぎわクラッチ入忘れ警報）
あぜぎわクラッチを切ったときに、 メインパネルのランプが点滅します。 クラッチの入れ忘れに注意してください。



(5)施肥モニタ （肥料切れ警報）

①施肥作業中に肥料が残り少なくなったときに、 メインパネル及びマスコットのランプが点灯し、 ブザーが鳴ります。

②全条停止レバーが[全条切り]の状態のときは作動しません。

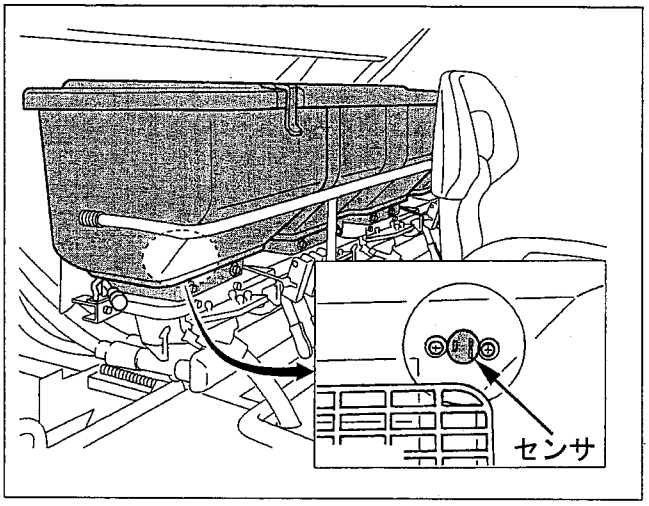
③肥料切れ警報は肥料がなくなってきたとき各ホッパー内にあるセンサが感知してはたらきます。

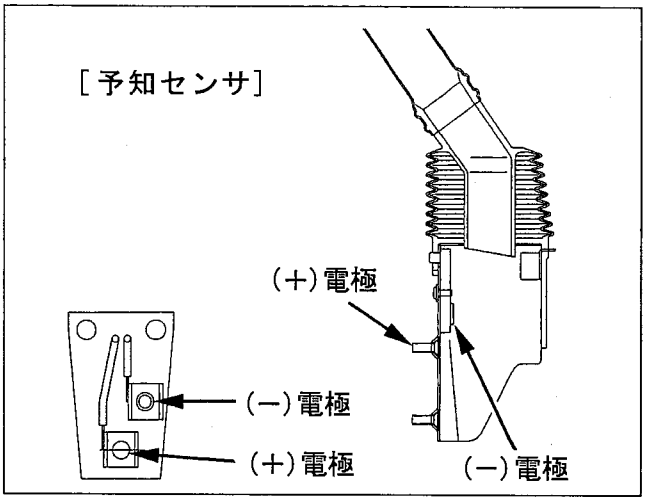
(6)施肥モニタ （肥料詰まり警報）

①施肥作業中に肥料が詰まったときに、 メインパネルおよびマスコットのランプが点滅し、 ブザーが鳴ります。

②肥料詰まり警報は、 各作溝器内にある肥料詰まり予知センサに小粒肥料や泥水などが付着したときに、(＋)と(－)の電極が導通するとはたらきます。

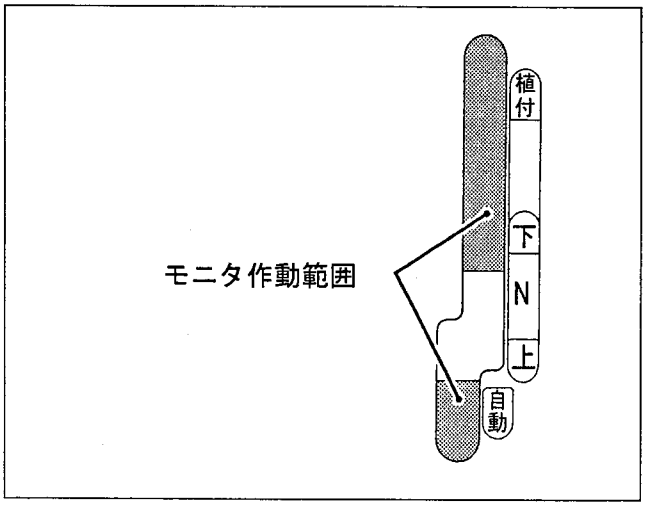
③全条停止レバーが[全条切り]の状態のときは作動しません。





重要

- **マーカと植付クラッチとあぜぎわクラッチの警報では、 ブザーは鳴りません。**
- **警報発生後の処置については84ページを参照してください。**
- **エンジンが停止状態のとき、 メインスイッチを[運転]位置にすると、 各モニタのランプがランプチェックのため約2秒間点灯したあと消灯します。**
- **各警報モニタは植付クラッチレバーの位置がモニタ作動範囲以外の位置 （ [N]や[上] ） では、 はたらきません。 ただし施肥モニタの肥料詰まりの警報ランプの点滅は消灯しません。**



自動制御関係

■コントローラ

(1)自動装置関係の制御を行なうところです。コントローラは運転席下前方にあるゴムキャップを外すと見えます。

(2)植付部自動水平制御装置は、機体が左・右に傾くと自動的に植付部を水平状態に修正・保持する装置です。モンロー調節ダイヤルは、自動水平制御がはたらいていても、左と右の植付深さが一定にならないとき(特にあぜぎわ)に使用します。
(63ページ参照)

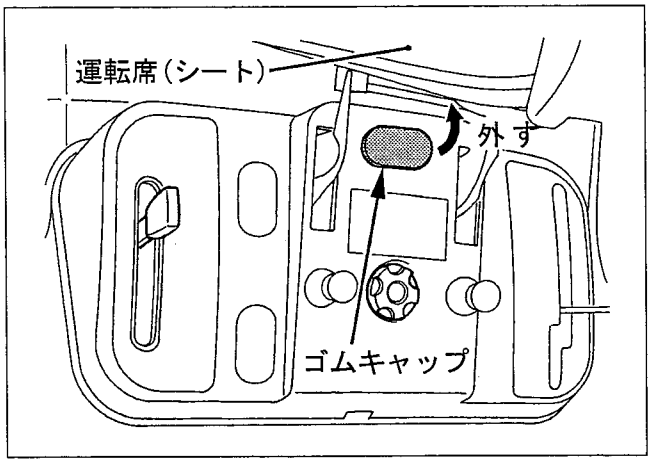
(3)自動制御装置に異常が発生したとき、コントローラが異常内容を表示します。
処置については86ページを参照してください。

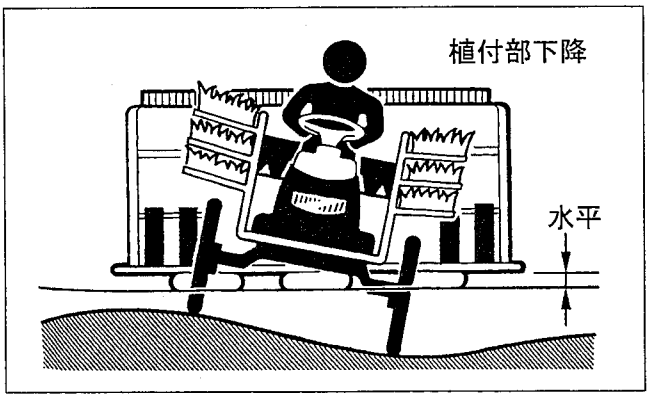
(4)異常が発生しても気付かない内容もありますので、定期的に確認を行なってください。

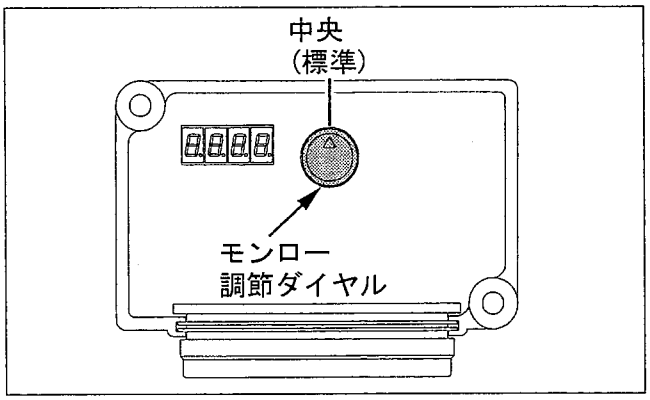
(5)異常が発生すると4ケタのアルファベットと数字がデジタルの表示部に表示されます。

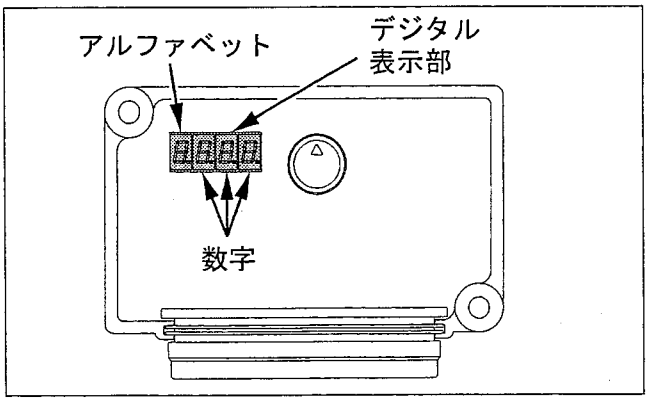
(6)正常なときは、アワメータとして現在までの積算使用時間を表示します。このとき、4ケタ目(右端)は数字を6倍して〔分〕単位の表示となります。
また999.9時間以上は分単位の表示がなくなり、1000時間から9999時間までの表示となります。

(7)異常個所が同時に2つ以上発生した場合は、順番に繰り返し表示します。

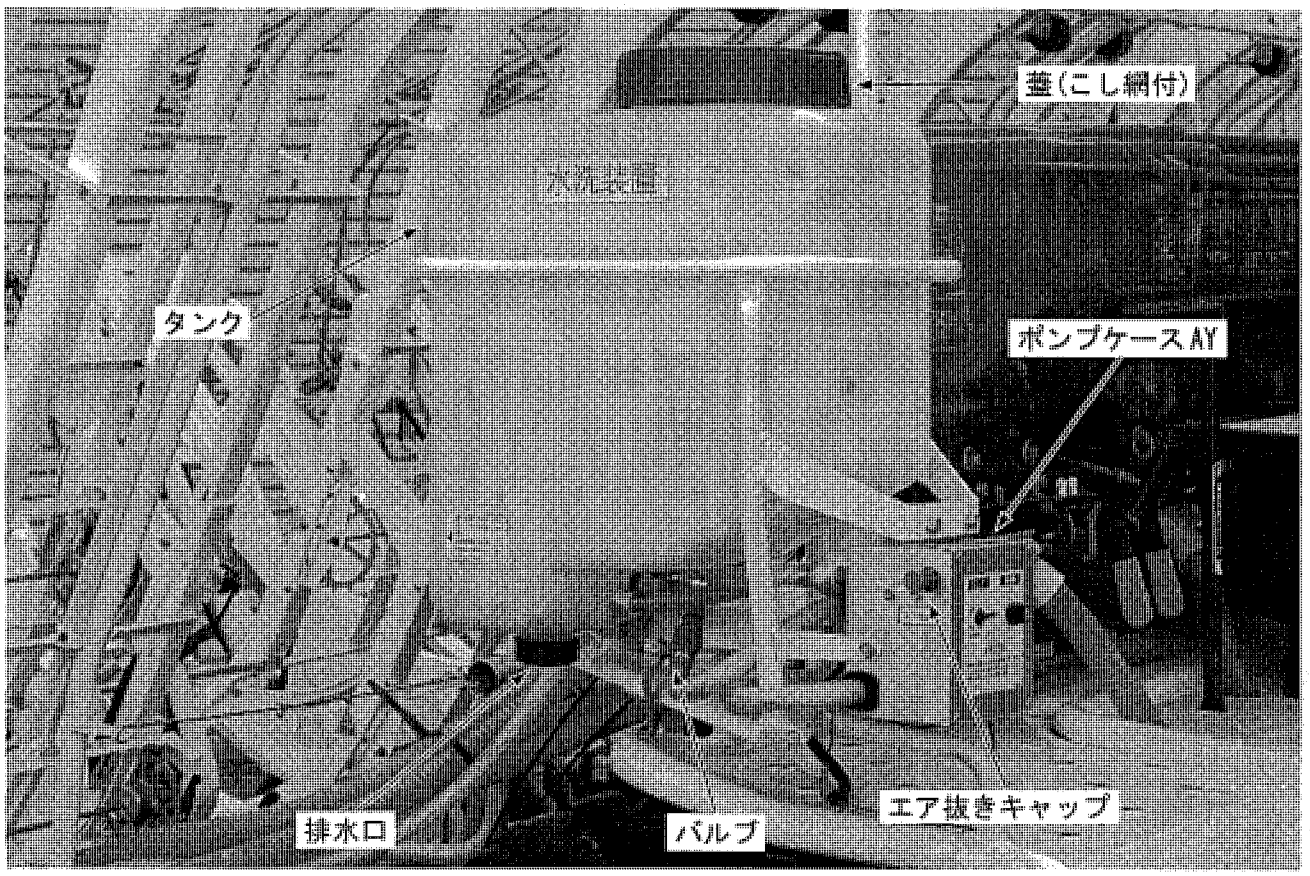


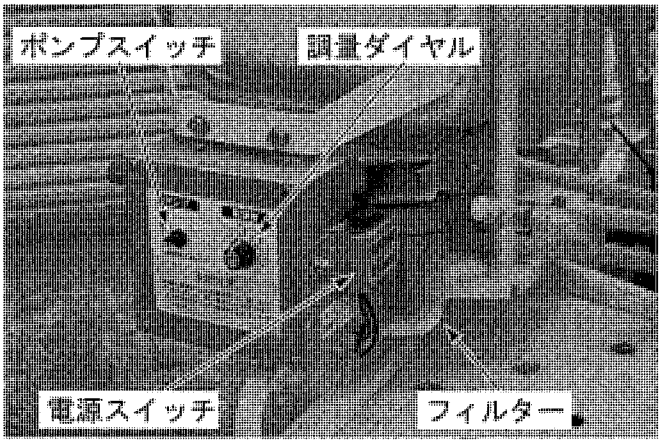


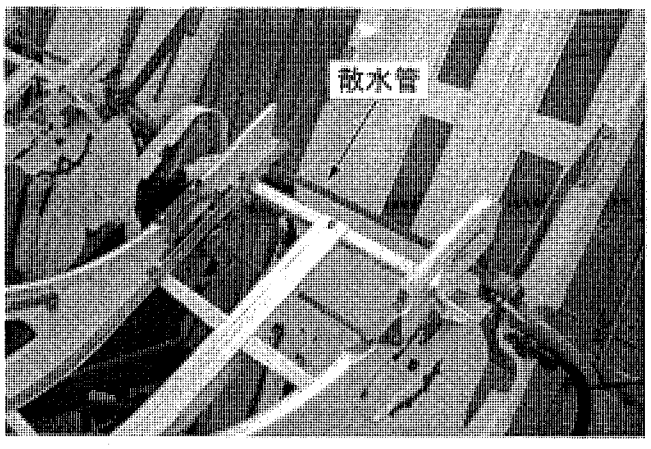


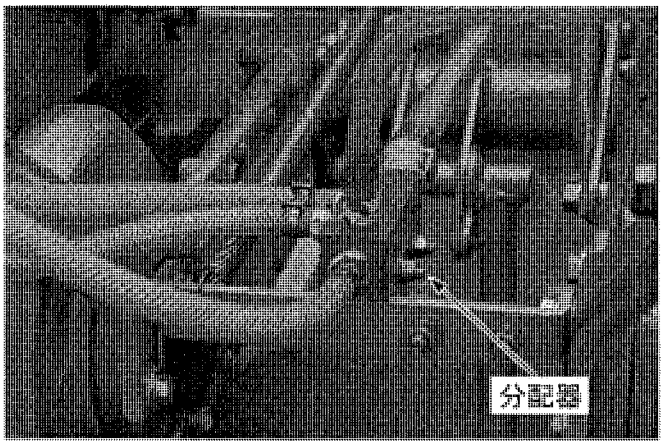


水洗装置関係


蓋(こし網付)
タンク
ポンプケースAY
排水口
バルブ
エア抜きキャップ


ポンプスイッチ
調量ダイヤル
電源スイッチ
フィルター


散水管


分配器

作業前点検

故障を未然に防ぐには、 田植機の状態をよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

⚠警 告

給油・注油および点検整備をする時は、次のことを守ってください。
(1) 田植機を平たんな広い場所におく。
(2) エンジンを停止する。
(3) 駐車ブレーキをかける。
(4) スタンドを利用して植付部を降ろして行なう。
(5) エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
(6) くわえタバコなど火気厳禁。
以上の安全を確認して行なってください。
安全を確認せずに点検整備すると障害事故を引き起こす恐れがあります。

日常点検項目

機体の周りを歩いて

場所	点検し異常があれば	処置を行なう	参照P
機体各部	・損傷や変形はないか。	・修理または交換する。	—
	・ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。	・補充や増し締めをする。	—
	・油もれや水もれはないか。	・ホースやパイプの取付部の締め付けまたは部品交換する。	104
	・ゴミや泥などがたまってないか。	・掃除する。	—
	・安全表示ラベルの損傷やはがれはないか。	・新しいラベルに張り替える。	9
バッテリ	・バッテリ液は規定量あるか。	・精製水を補水する。	108
タイヤ	・磨耗や損傷はないか。 ・空気圧の過不足はないか。	・交換する。 ・調整する。	106
各ワイヤ、レバー支点部、しゅう動部	・たるみや損傷はないか。 ・作動状態に異常はないか。	・交換する。 ・注油する。	—
繰出しホース	・破損や外れはないか。	・交換または取り付けをする。	92
植付爪、ガイド板、苗支持板、苗受	・磨耗や損傷はないか。破損または変形していないか。 ・小石などの異物がはさまっていないか。	・交換または修正する。 ・掃除する。	91
施肥機ブラシ	・磨耗していないか。	・交換する。	107

ボンネットを開けて

場所		点検し異常があれば	処置を行なう	参照P
エアクリーナ		・エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	・掃除する。	103
エンジンオイル		・油量は規定量あるか。	・規定量まで補給する。	38
ラジエータ	冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量あるか	・清水を規定量まで補給する。	39
	フィン	・詰りはないか。	・掃除する。	101
ホース、パイプ		・油もれや水もれはないか。	・取付部の締め付けまたは交換する。	104
配線コード		・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続をする。 ・交換する。	110

運転席に座って・メインスイッチを入れて

場所		点検し異常があれば	処置を行なう	参照P
メインパネル	充電ランプ	・レギュレータのコネクタは外れていないか。	・購入先に連絡する。	—
	燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。 ・針は動くか。	・自動車用無鉛ガソリンを補給する。	37
	水温計	・リザーブタンクの水量は規定量あるか	・清水を規定量まで補給する。 ・購入先に連絡する。	39
	各モニタランプ、ブザー	・メインスイッチを[運転]位置にしたとき、約2秒間ランプは点灯するか。 ・ブザーは鳴るか。	・バッテリの充電または交換する。 ・ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換または接続をする。	108
	オイルランプ	・ランプは消灯するか。	・購入先に連絡する。 ・エンジンオイルを規定量まで補給する。	— 38
ヘッドランプ		・ランプは点灯するか。	・ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換または接続をする。	110

エンジンを始動して・機体を動かしてみて

場所	点検し異常があれば	処置を行なう	参照P
エンジン・マフラ	・始動するか。 ・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・バッテリの充電または交換する。 ・ヒューズ切れがないか点検して交換する。 ・購入先に連絡する。	108 110 —
ブロワ	・回転しているか。 ・異音はしないか。	・スローブローヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換または接続をする。	111
各操作レバー	・各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか。	・ヒューズ切れがないか点検して交換または購入先に連絡する。	110
主変速レバー	・[後進]側に操作すると、ブザーが鳴るか。	・ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換または接続をする。	110
ブレーキペダル	・踏み込むと停止するか。	・購入先に連絡する。	—

重要

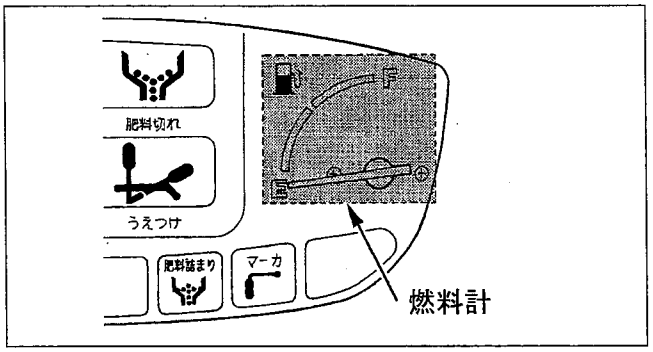
●処置したあとに異常が直らないときは、 購入先に連絡してください。

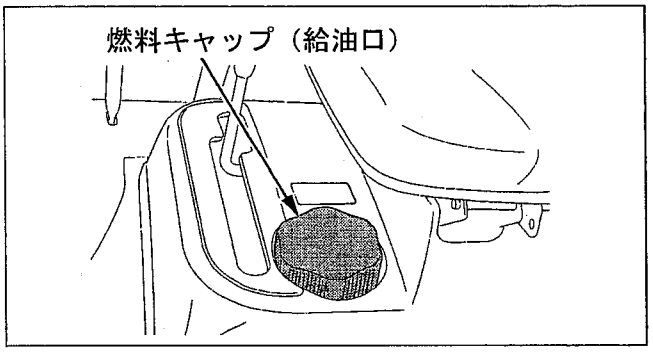
給油・注油箇所の点検と補給

■燃料 （無鉛ガソリン） の給油

(1)燃料計の指針が ［E］ に近づいたら早めに燃料を補給してください。
(2)燃料を給油するときは、 平たんな場所でエンジンを止め、 燃料キャップを外して無鉛ガソリンを給油します。

燃料の種類	燃料タンクの容量
自動車用無鉛ガソリン	約 20L





⚠警 告

火気厳禁で行なってください。
エンジンを停止し、過熱部分が充分冷えてから行なってください。守らないと火災の原因になり、大変危険です。

重要

- ●燃料は自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。 また、 下記のような燃料は使用しないでください。 エンジンがかからなかったり、 エンジンの不調や故障の原因になります。
  - ○燃料タンク内に１ケ月以上放置した燃料
  - ○樹脂製タンクに長期間保管した燃料
  - ○ゴミや水など異物の混ざった燃料
  - ○変色のひどい燃料
  - ○くさった古い燃料
- ●1ヶ月エンジンを始動しないと、 燃料は変質し、 エンジントラブルの原因になります。
- ●給油口の燃料こしあみは外さないでください。 燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

■エンジンオイルの点検と補給

毎日作業前には田植機を水平な所に置き、 エンジンオイル量を点検してください。

> **⚠注 意**
> エンジンオイルの点検・補給は必ずメインスイッチを[切]にしてエンジンを停止し、充分冷えてから行なってください。これを怠ると、ヤケドする恐れがあります。

●点検と補給

(1)ボンネットをオープンした後オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き取ります。 もう一度差し込んでから抜き、 ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。
(2)不足しているときは、 給油口から規定量になるまで給油してください。 さらに油もれのないことも調べてください。
(3)オイルはAPI分類SH級の10W30のオイルを使用してください。

重要

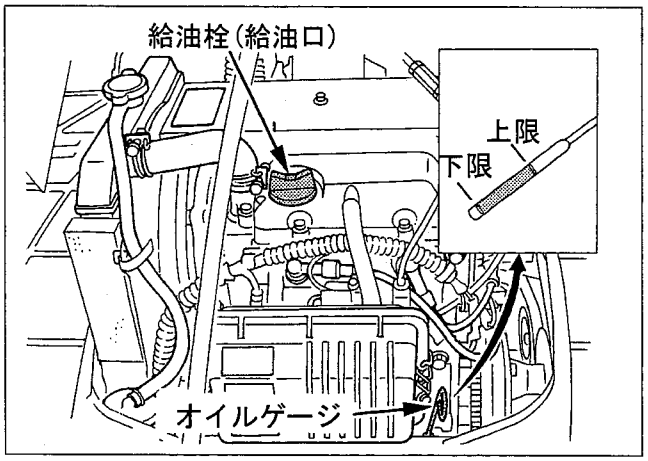
●[上限]以上、 オイルを補給しないでください。

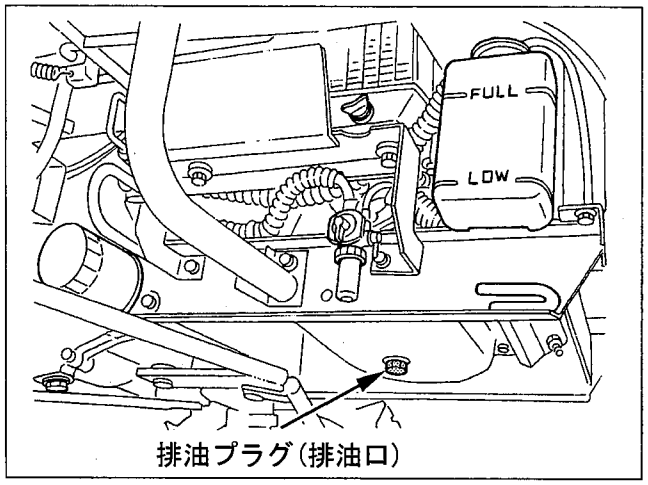
●交換のしかた

(1)エンジンを暖気運転後、 給油栓を外してから排油プラグを外し、 オイルを排出してください。
(2)排油プラグを締め付けて、 給油口から規定量のオイルを給油し、 給油栓を締め付けてください。

重要

●指定以外のオイルを使用すると、 出力が低下したり、 エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、 エンジントラブルの原因になります。





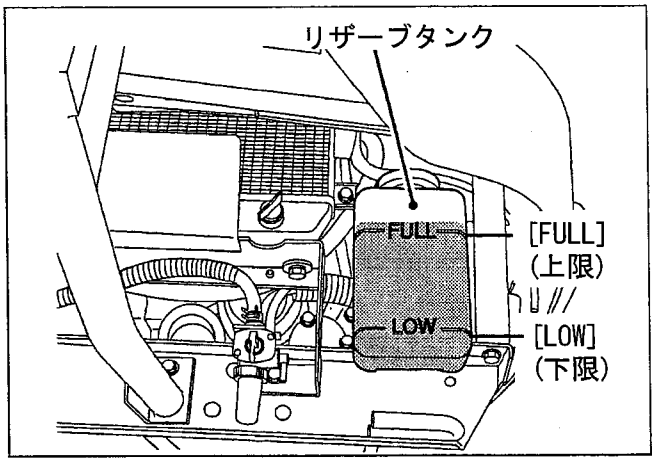
オイルの種類	オイル容量
SH級　10W-30	約　1.4L

■ラジエータ冷却水の点検と交換

毎日作業前には田植機を水平な所に置き、 ラジエータの冷却水を点検してください。

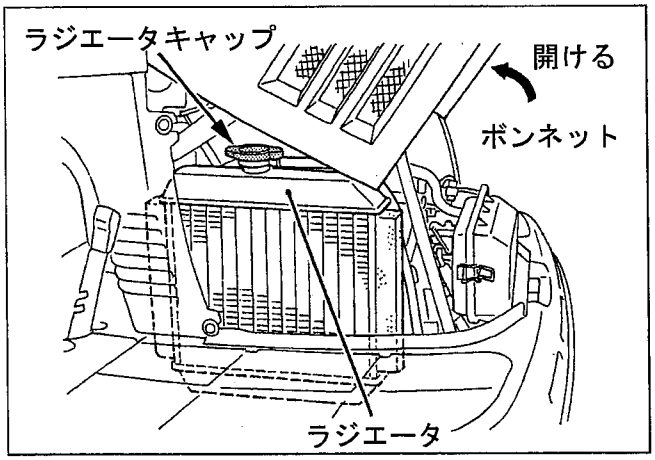
⚠警告

ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中及び停止直後に開けると熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後充分冷えてから点検してください。



●点検と補給

(1)ボンネットをオープンした後リザーブタンクの水量が[LOW](下限)と[FULL](上限)の間にあるか確かめます。
(2)不足しているときは、 リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

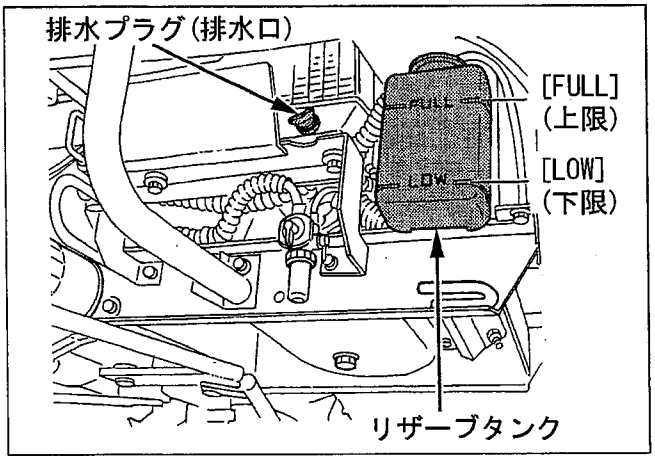


重要

- **冷却水が自然に不足したときは、 必ず清水を補給してください。 不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。**
- **[FULL](上限)の線以上は補給しないでください。**

●交換のしかた

(1)ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと、 ラジエータキャップを外して排水します。
(2)リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップを取り外したあと、 ステーからリザーブタンクを外して排水します。
(3)水道水でゴミやサビが出なくなるまで洗います。
(4)排水口に排水プラグを締め付けたあと、 目標温度(外気温)の比率分(混合比)の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。
(5)ラジエータキャップ及びリザーブタンク、キャップを取り付けます。



重要

- ●不凍液の混合比を誤ると、 冬期には冷却水の凍結、 夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- ●不凍液を使用する場合は、 ラジエータ保浄剤を投入しないでください。 不凍液には防錆剤が入っていますので、 保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- ●不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は２年間です。 必ず２年で交換してください。
- ●異なるメーカーの不凍液を混用しないでください。
- ●排水プラグを閉め忘れると水もれが発生したり、 ホースが破損する恐れがあります。
- ●新しい冷却水と交換を行なったあとは、 必ず不凍液を入れて、 ５分間エンジンを空運転し、 不凍液の混合を早めてください。 そのあとリザーブタンクの水量を確認してください。

●不凍液

不凍液混合比は、 寒冷地ほど高くなります。 購入先に相談して、 下表を参照して混合比を決めてください。 不凍液はエチレングリコール(EG)タイプのロングライフクーラントをご使用ください。

●不凍液混合比率表

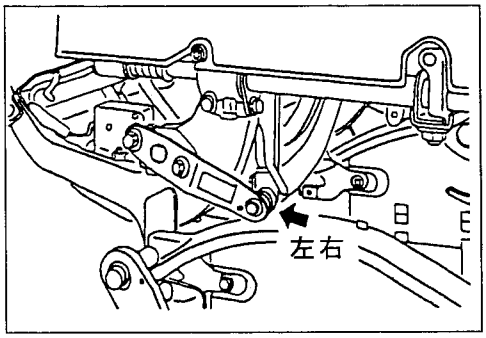
外気温		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水(%)	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液(%)	25	30	35	40	45	50	55

○出荷標準不凍液　　50%
○ラジエータ容量　　約1.5L

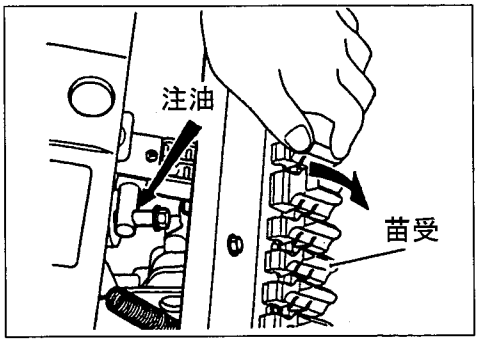
■注油箇所

(1)次の箇所は毎日注油してください。

①縦送り爪下(8ヶ所)



②上下送りバネ軸(4ヶ所)



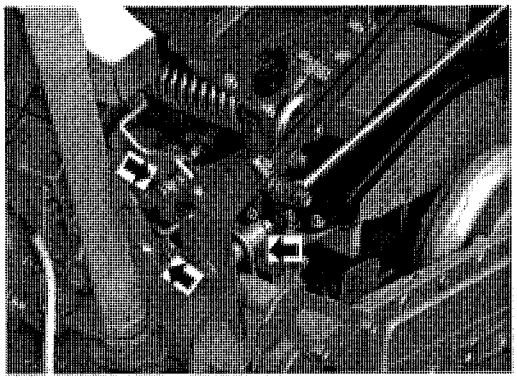
苗受を上げた状態にして、 手で苗受を下方向に押えて注油してください。

(2)次の箇所はシーズン毎にグリス ・ 油を注油してください。

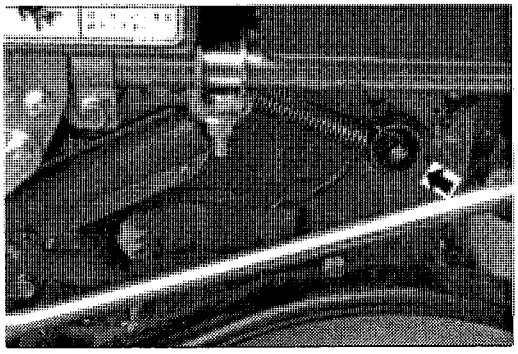
①油圧シリンダ支点部(グリス)
②リンク支点部(グリス)



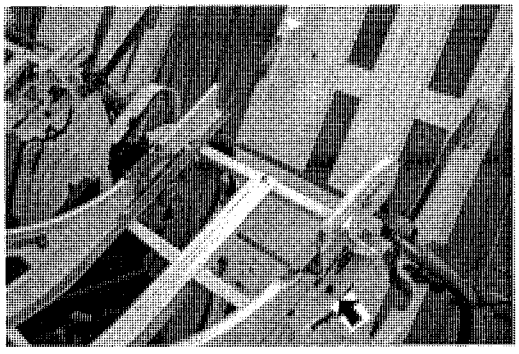
③筋付マーカ支点 （２箇所）



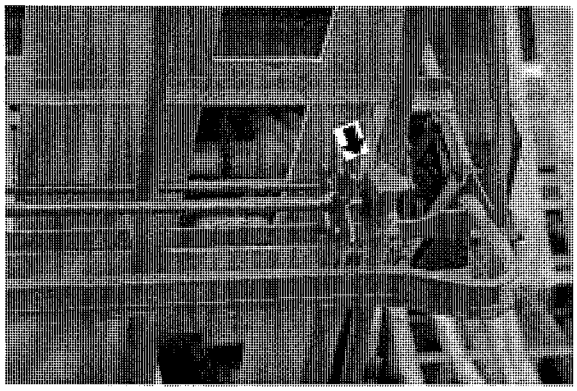
④苗受ローラーの外周 （グリス４箇所）



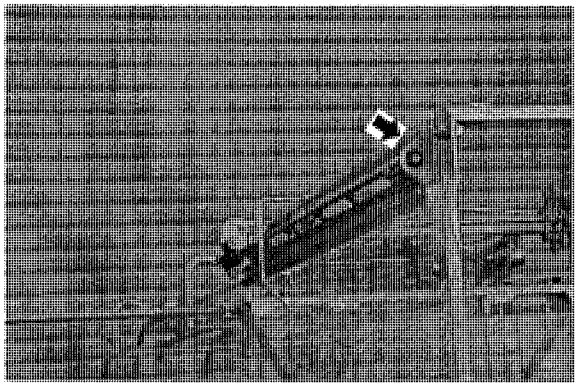
⑤自動供給プーリー軸受 （グリス16箇所）



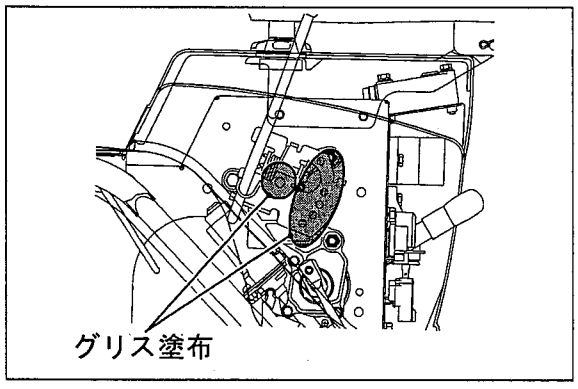
⑥空箱送り軸受部　（グリス 20 箇所）



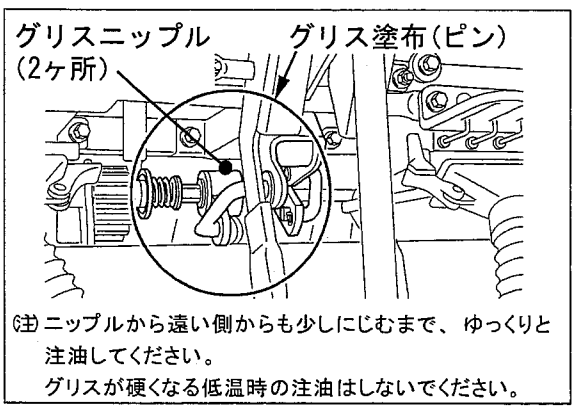
⑦空箱収納装置軸受部　（グリス 16 箇所）



⑧植付クラッチレバー支点部　（グリス）

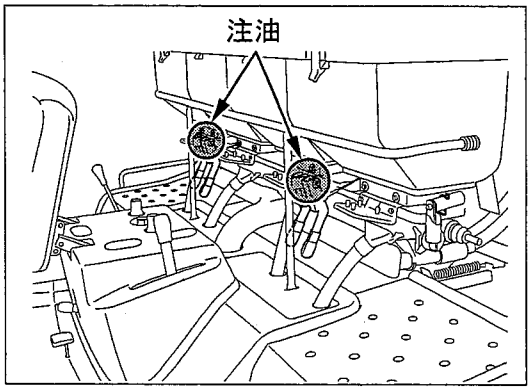


⑨施肥機動力伝達部　（グリス）

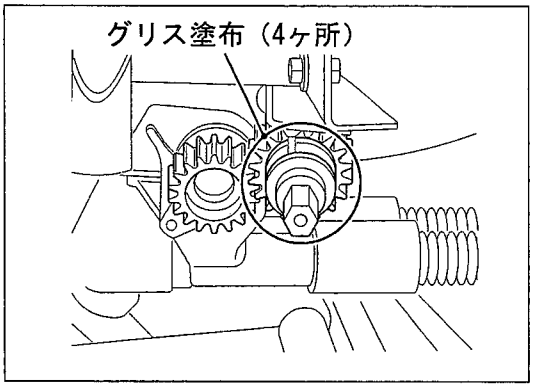


㊟ニップルから遠い側からも少しにじむまで、ゆっくりと注油してください。
グリスが硬くなる低温時の注油はしないでください。

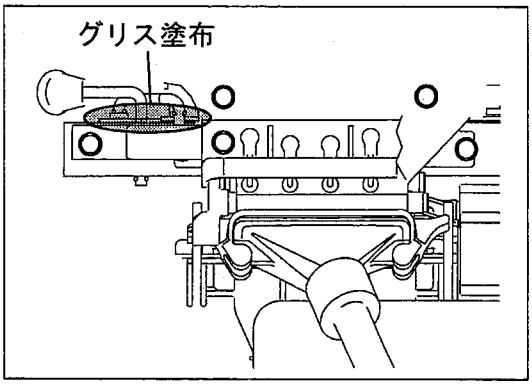
⑩あぜぎわクラッチレバー支点部　（注油）



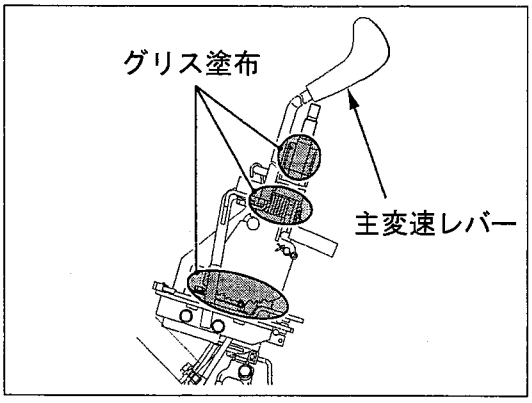
⑪各条クラッチ部　（グリス）



⑫全条停止レバー部　（グリス）



⑬主変速レバー支点部　（グリス）



運転のしかた

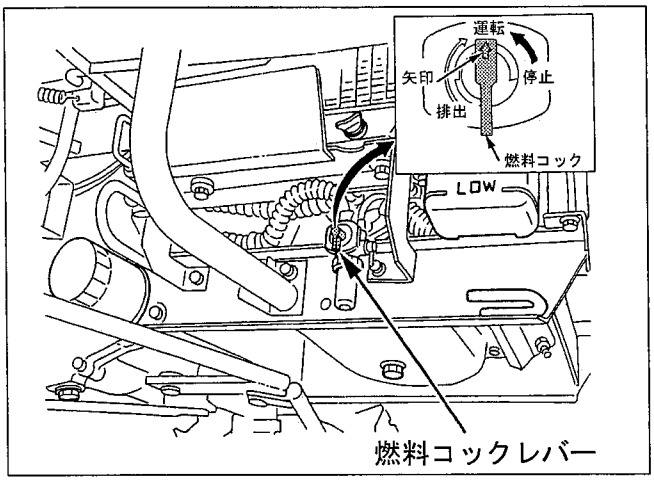
⚠警 告

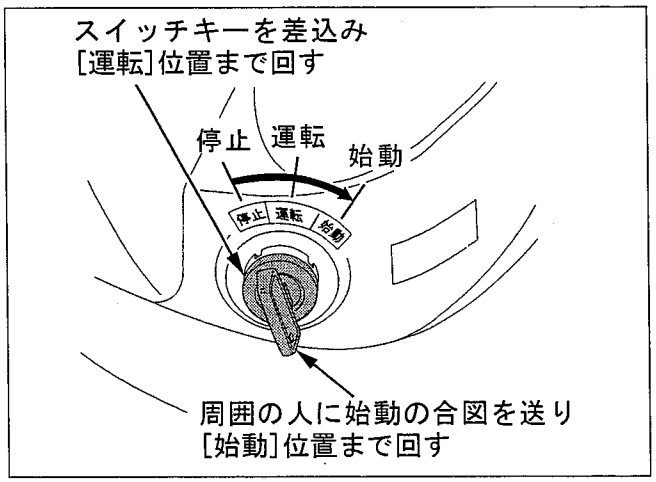
(1) 始動する前に安全カバー類が取り付けてあるか確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を充分行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って各レバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ、合図してください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

(1)駐車ブレーキをかけます。
駐車ブレーキをかけていないときは、 ブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンが始動しません。 (21 ページ参照)
(2)機体の前方右下にある燃料コックレバーの矢印を[運転]位置にあわせます。
(3)主変速レバーを[N]位置にあわせます。
(20 ページ参照)
(4)植付クラッチレバーを[N]位置にあわせます。 (25 ページ参照)
(5)チョークレバーを引きます。
(19 ページ参照)
(6)スイッチキーを差し込み、[運転]位置まで回し、 周囲の人に合図を送り[始動]位置まで回します。
エンジンが始動しにくい場合は、 アクセルレバーを中速程度にして始動してください。
(19 ページ参照)
(7)エンジン始動後エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークレバーを押し込んだあと約５分間は負荷をかけずに暖気運転を行なってください。





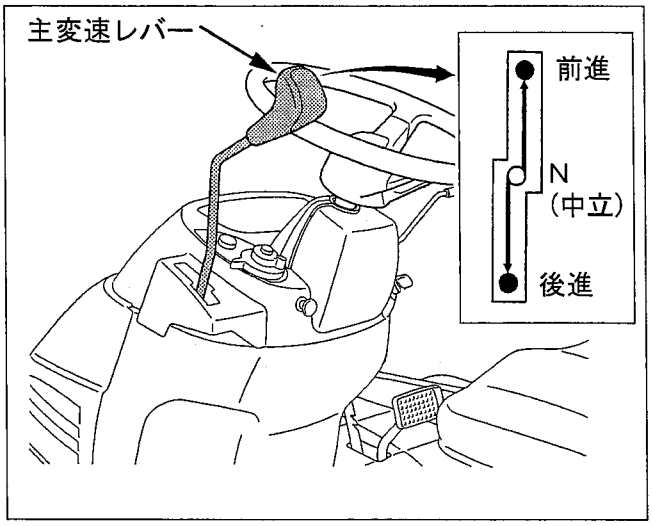
重要

- ●メインスイッチを[始動]位置に回して５秒たっても始動しないときは、 いったんメインスイッチを[停止]位置にして、 30 秒ほど休止してから、 エンジンを再始動してください。 ５秒以上の使用は故障の原因になります。
- ●エンジン回転中にメインスイッチを[始動]位置に回すと故障の原因になります。
- ●エンジン始動後、 オイルランプ、 充電ランプが消灯しないときは、 購入先へ連絡してください。
- ●オイルを各部に充分ゆきわたらせるため、 必ず暖気運転は行なってください。 始動してからすぐ負荷をかけると、 運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。

■ならし運転について

(1)新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。 新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが、 田植機の各部の部品はならし運転されていません。田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、 田植え作業は過負荷にならないよう注意して行なってください。

(2)毎年使用前には、 必ず５～10分程度エンジンを最低回転でならし運転をしてから使用してください。



■エンジンの停止

(1)主変速レバーを[N]位置にします。
(2)メインスイッチを[停止]位置にしてエンジンを停止します。

重要

●エンジン停止中でメインスイッチが[運転]位置の状態のまま長時間放置するとバッテリあがりの原因となります。

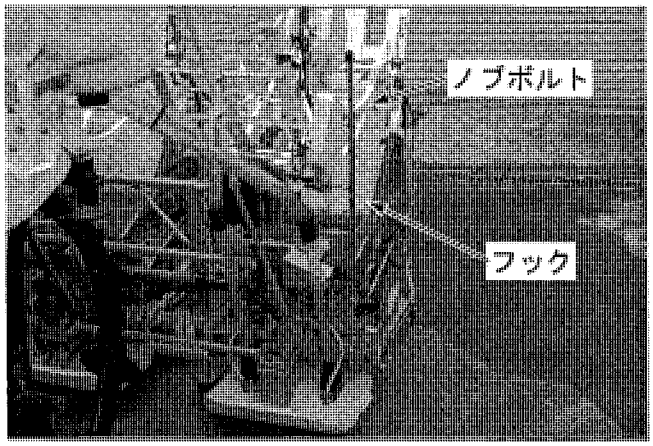
発進･停止･駐車のしかた

⚠警 告

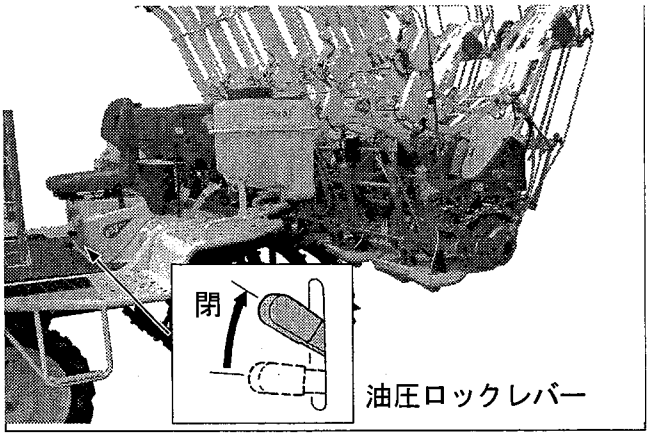
●安全のため、ヘルメットを着用してください。
●周りが暗いときはヘッドランプを点灯してください。
●10cm以上の段差(あぜやコンクリートの畦畔など)のある所ではアユミ板を使ってください。
●機械には運転者以外乗らないでください。苗のせ台、自動供給装置、予備苗台の苗や、ホッパ内の肥料、水洗装置の水は取り出し、ステップなどには障害物は置かないでください。
●植付部は上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。
●暴走や転倒をしてケガをする恐れがあるので、あぜ越えや傾斜地(アユミ板や坂道など)を走行するときは、あぜや斜面に対して直角に、上り方向は後進、下り方向は前進で前輪デフロックペダルを踏み、特に慎重にゆっくり運転してください。
●舗装路以外では副変速「圃場作業」位置にして主変速を中速以下でゆっくり走行してください。守らないと機械が破損する恐れがあります。

■移動前の準備

(1)ノブボルトをゆるめ、 筋付マーカの先を取り外します。
(2)左右の筋付マーカをフックで固定します。
(3)左右の隣接マーカを収納します。
(4)予備苗台を左右とも内向きにして固定します。



(5)エンジン始動後、 植付クラッチレバーを操作し、 植付部を上げて最上昇位置にしたあと、 油圧ロックレバーを[閉]位置にして植付部の下降防止をします。

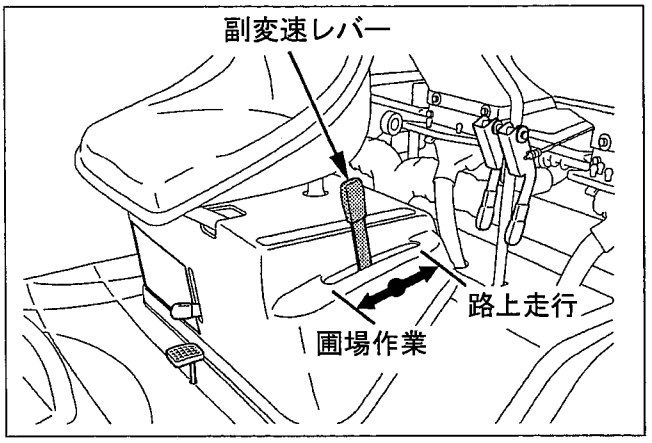


重要

- **植付部を上昇させないまま発進すると、植付部スタンドが破損します。 必ず上昇させて下降ロックしてください。**

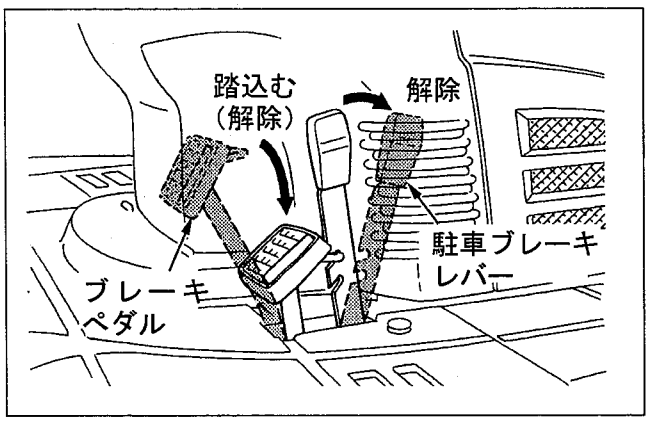
■発進のしかた

(1)エンジンを始動します。
特に低温始動時には、 充分に暖気運転を行なってください。 充分でないと、 発進時にエンストする場合があります。
(2)副変速レバーで速度を選びます。
(3)ブレーキペダルを離します。 駐車ブレーキが掛かっているときは、 ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。

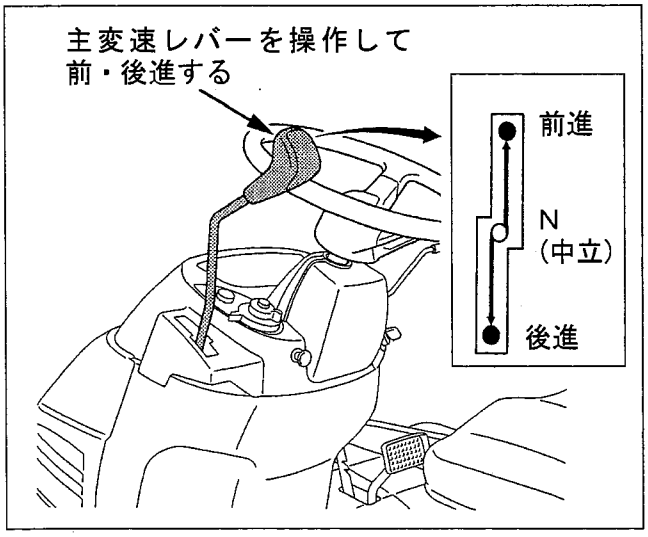


⚠注意

- **始動操作は、必ず運転席で行なってください。**
- **急発進は危険ですので周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進してください。**



(4)主変速レバーを[N]位置より前に押すと前進し、 後に引くと後進します。

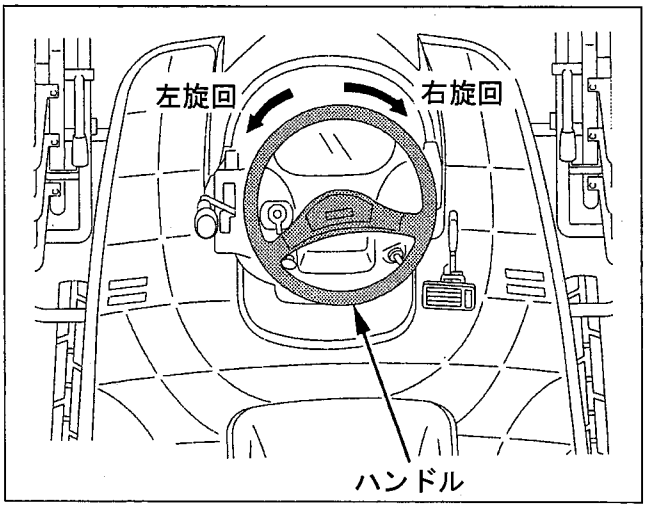


重要

- **副変速レバーの切り替えは平坦な場所で主変速レバーを[N]位置にし、 走行をいったん止めてから行なってください。 守らないと故障の原因となります。**
- **前・後進中にブレーキペダルを踏み込むと減速すると同時に主変速レバーが強制的に[N]位置に戻ります。 ブレーキペダルを 踏み込んだ状態では主変速レバーの操作はできません。**

■旋回のしかた

旋回する方向にハンドルを回します。 回す角度に応じて旋回力が変わり、 回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



⚠注 意

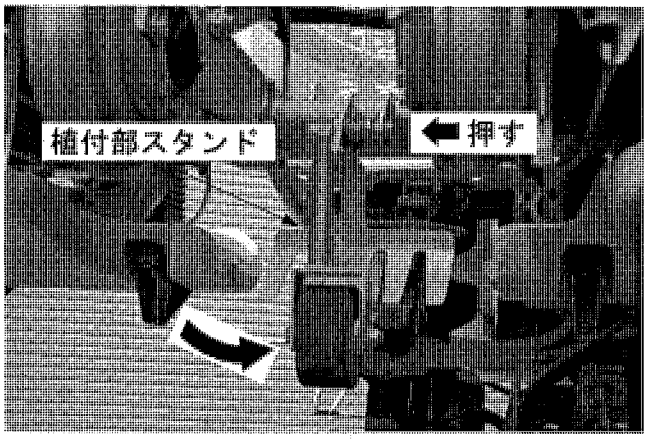
●高速走行時、ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。守らないと転倒事故を起こす恐れがあります。

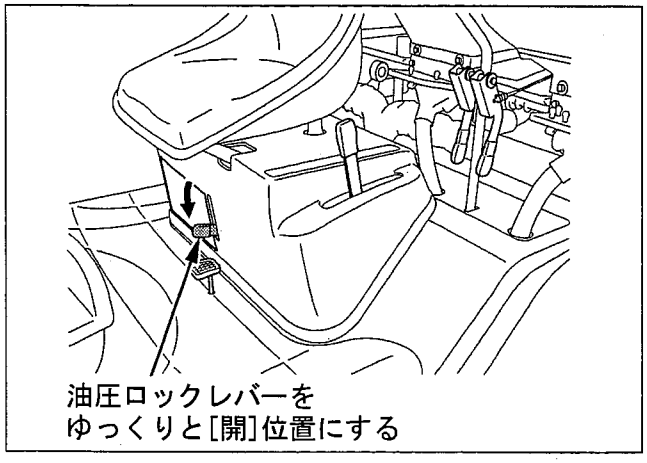
重要

●砂利道での急旋回は、 車輪が早く磨耗しますので避けてください。

■停車･駐車のしかた

(1)主変速レバーを[N]位置にします。
(2)停止するときはブレーキペダルを踏み込み駐車するときは駐車ブレーキをかけます。
(3)植付部スタンドをセットします。
(4)植付クラッチレバーを[下]位置にします。
(5)油圧ロックレバーをゆっくりと[開]位置にして、 植付部を下ろします。
(6)エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。





⚠注 意

●田植機を離れるときは、平たんで安全な場所におき、植付部を下ろして駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めてください。
●走行を停止するときはブレーキペダルを踏み込まず主変速レバーを操作して停止してください。
●坂道やあぜ越えなどの斜面では、ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏み込んでください。
●坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏み込み、２段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛け、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

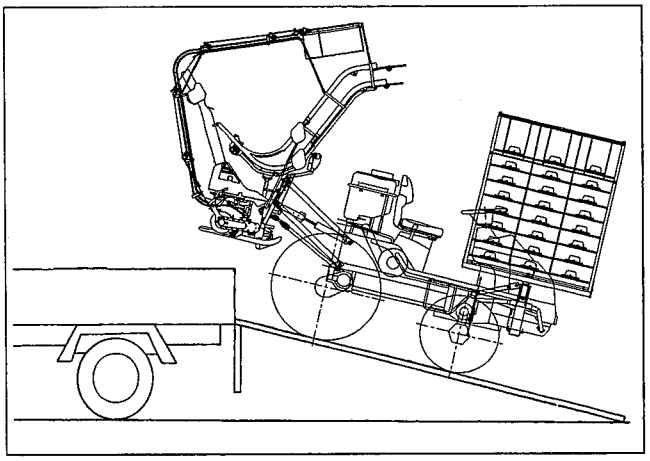
移動･運搬のしかた

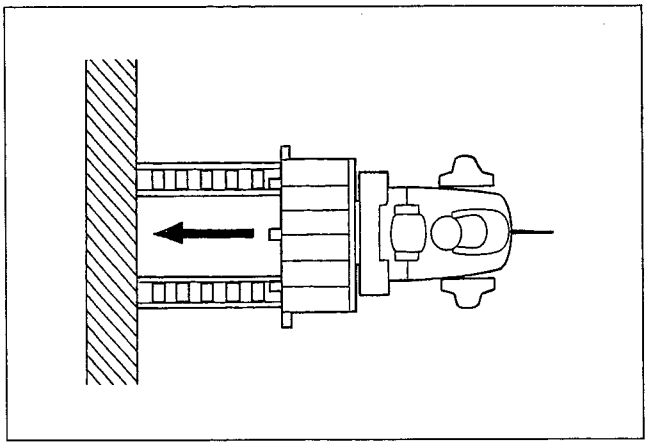
■トラックへの積み･降ろし

⚠警告

- ●積込み・積降ろしは平たん地を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかりかけてください。
- ●アユミ板はフックが付いているもので、充分な強度、幅、長さのある基準にあったすべり止め付きのものを使用し、田植機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- ●アユミ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。
- ●積込みは後進、積降ろしは前進で、低速で走行してください。
- ●共同作業者は、アユミ板を走行中の田植機からは離れてください。
- ●平たん地を選び、できるだけ助手の立会い誘導のもとに行なってください。また、田植機の周辺に人を近付けないでください。
- ●アユミ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏み込むと機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。
- ●荷台上では駐車ブレーキをかけ、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。

(1)ノブボルトをゆるめ、 筋付マーカの先を取り外します。
(2)左右の筋付マーカをフックで固定します。
(3)左右の隣接マーカを収納します。
(4)予備苗台を左右とも内向きにして固定します。
(5)エンジン始動後、 植付クラッチレバーを操作し、 植付部を上げて最上昇位置にしたあと、 油圧ロックレバーを[閉]位置にして植付部の下降防止をします。
(6)副変速レバーを[圃場作業]位置にし、 主変速レバーをゆっくり操作して、 低速で走行します。
(7)アユミ板の手前でいったん停止し、 アユミ板の中央に左、 右の前輪と後輪の中心を合わせ、 アユミ板と平行になっているか確認してから前輪デフロックペダルを踏み込み、斜面に対して直角に積込み･積降ろしをしてください。

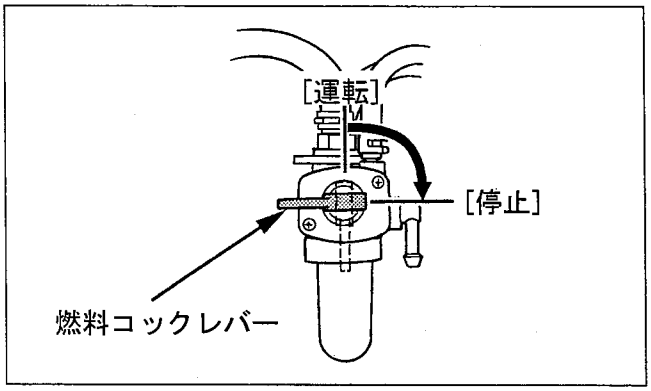




〈アユミ板の基準〉
○長さ ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅 ：30cm以上
○数量 ：2枚
○強度 ：1枚の強度が1,000kg以上
○すべり止めのあるもの

■運搬中の固定のしかた

(1)荷台に乗り終わると走行を停止し、 駐車ブレーキをかけます。
(2)植付部スタンドをセットします。
(3)植付クラッチレバーを[下]位置にします。
(4)油圧ロックレバーをゆっくりと[開]位置にして、 植付部を下ろします。
(5)エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。
(6)副変速レバーを[圃場作業]位置にします。
(7)燃料コックを閉じ([停止]位置)ます。
(8)車輪にしっかりとロープを掛けて固定します。
(9)植付部がバウンドしないように、 筋付マーカの取付部(アームサポート)を軽くロープ掛けします。

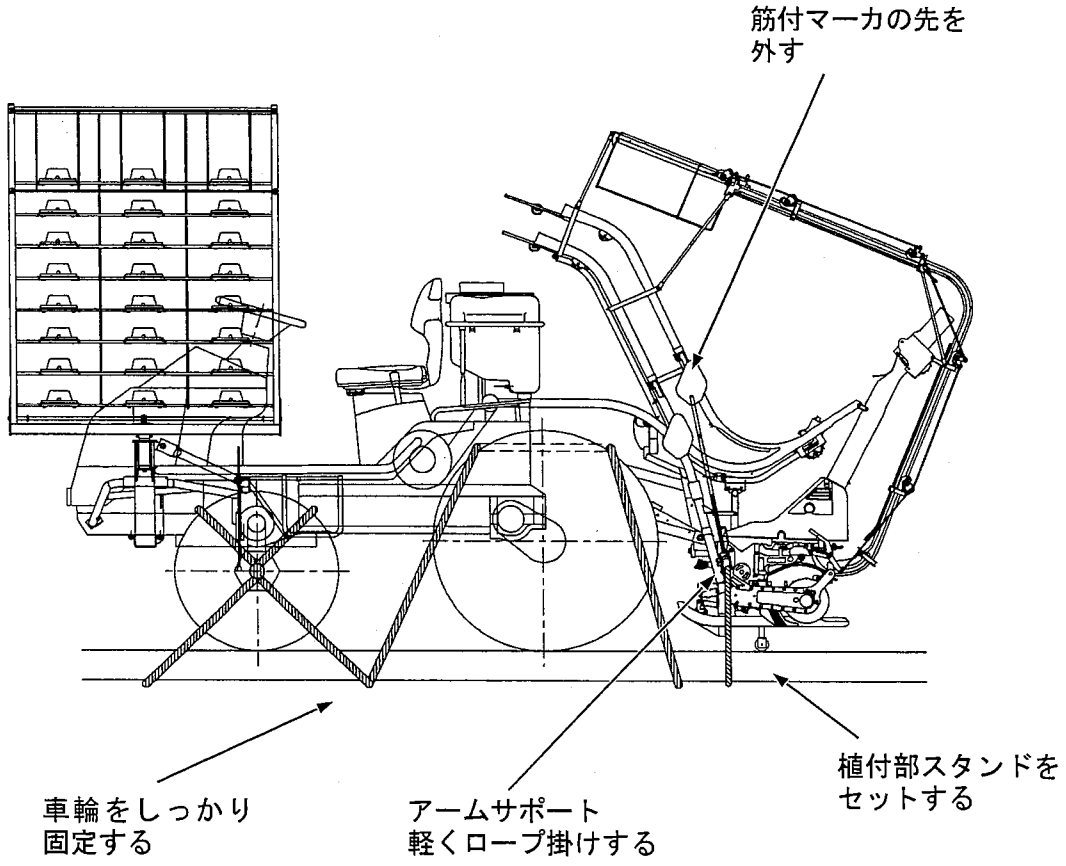


⚠注 意

●燃料コックを閉じないと、トラック輸送時に燃料もれの原因になり危険です。必ず閉じてください。

重要

●RXG8 の植付部は苗がなくても、 マット田植機に比べて大幅に重たいため、 絶対に持ち上げて輸送しないでください。
機械が破損する恐れがあります。



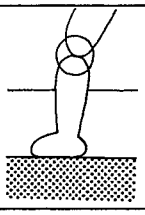
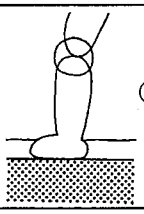
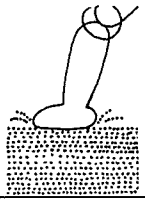
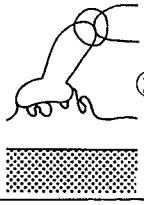
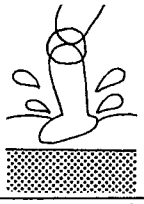
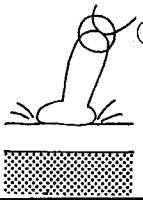
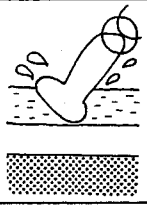
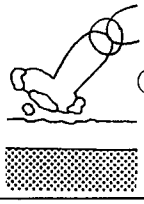
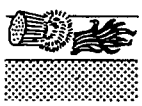
作業のしかた

ほ場と苗の準備

ほ場の条件、 苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

■ほ場の準備

ほ場づくりは、 作物の種類 ・ 植付時期 ・ 土地条件(気候や風土)などの条件によって異なりますので、 最寄の指導機関(JA[農協]や普及センターなど)や経験者に相談して、 作物に適したほ場づくりをしてください。

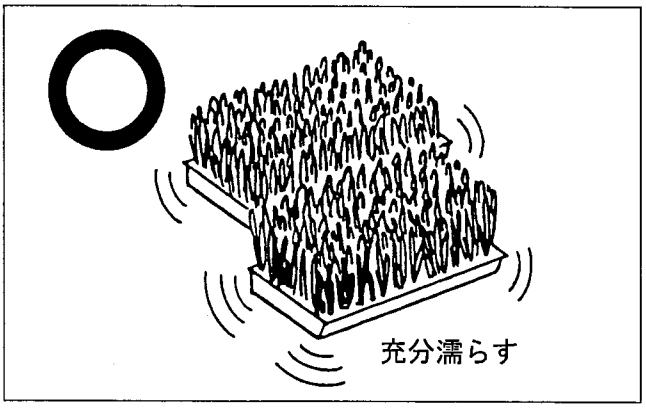
項目	条件(うまく使えないこともある状況)	
深さ	 ①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土質	 ①砂質の多いほ場(手植えでも植えにくいほど硬いほ場)。	 ②強粘土質のほ場(歩くのが困難な粘いほ場)。
硬さ	 ①代かき直後のほ場,または代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場(歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場)。	 ②代かき後,日数がたって硬くなったほ場,または代かき後すぐに固まるほ場(手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場)。
水深	 ①水深の平均が3cmを超える水の多いほ場。	 ②水気がなく,車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで,刈り株・排わら又は雑草が充分腐らず,代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

■苗の準備

重要

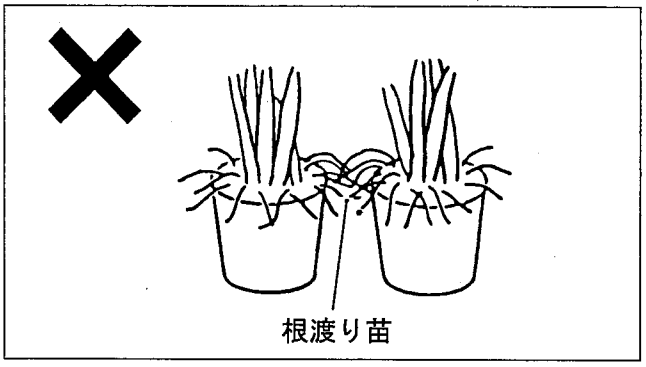
●苗は使用する前に必ずあぜぎわなどの水のあるところにつけて、 ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植え付けをします。特に根張りのよい苗は、 充分つけておきます。

濡らして使用する場合が絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、 ポットがくずれやすい土を使用している場合は、 濡らしかたに注意してください。

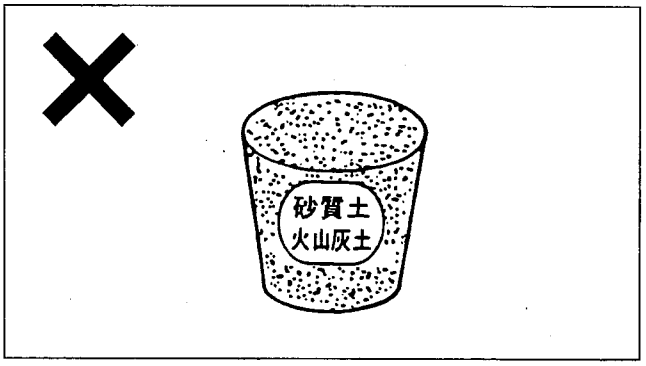


●特に次のような苗では、 田植機による植え付けができない場合があります。

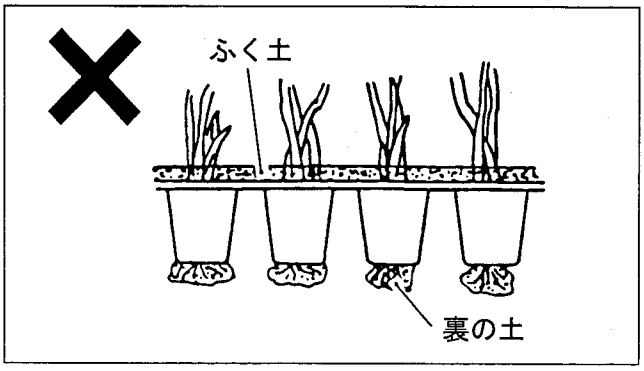
①根渡り苗は植え付けできないこともあります。



②砂質土･火山灰土、 このような土を使用しますとポットがくずれやすく、 植付不調となります。

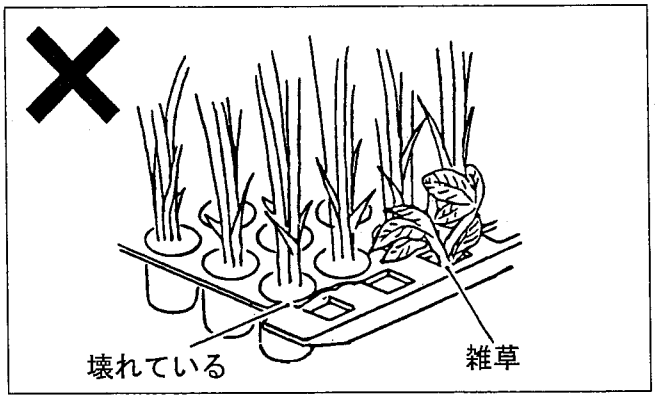


③苗箱の上面に余分のふく土をかけないようにまた、 必ず根切りネットを使用して育苗してください。 余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。 守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、 空箱ガイドで空箱がつまって、 苗箱が破損したり、 連続欠株となる場合があります。

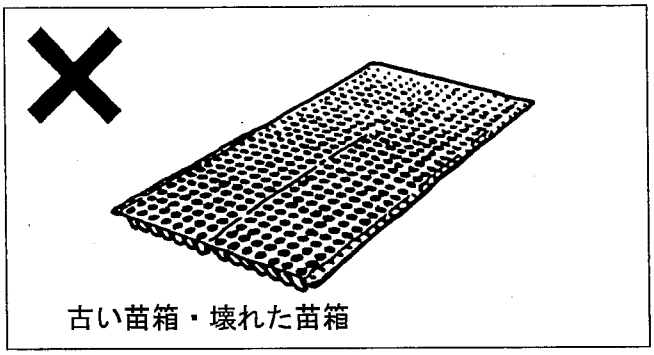


④箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。 また、 苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。 守らないと自動供給装置が誤作動したり、 苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、 苗箱が破損したり、 連続欠株となる場合があります。

⑤苗取り･運搬･苗の補給時などには特に苗箱の角や耳部を破損させないよう、 取り扱いには充分注意して行なってください。



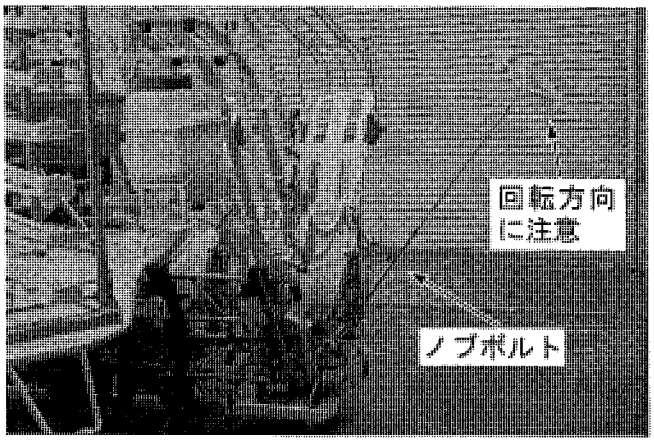
⑥10年以上経過した古い苗箱や、 新しくても保管状態の良くない苗箱は材質がもろくなっています、 苗供給時･苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。 古い苗箱は、 計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



植付作業前の準備

⚠警 告

- ●平たんな場所におき、エンジンは必ず止めてください。
- ●取り外したカバー類は必ず取り付けてください。

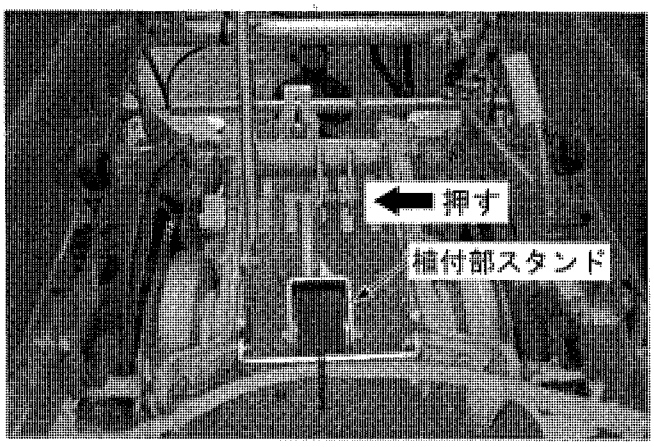


■筋付マーカのセット

(1)マーカーアームの先に水車マーカーを取り付けます。 水車マーカーには回転方向が書いてありますので左右をまちがえないよう右図の様に取り付けてください。

■植付部スタンドの収納

(1)植付部スタンドを横にずらして後方に倒し、収納しておきます。
(2)軸を矢印の方向に押して動かします。

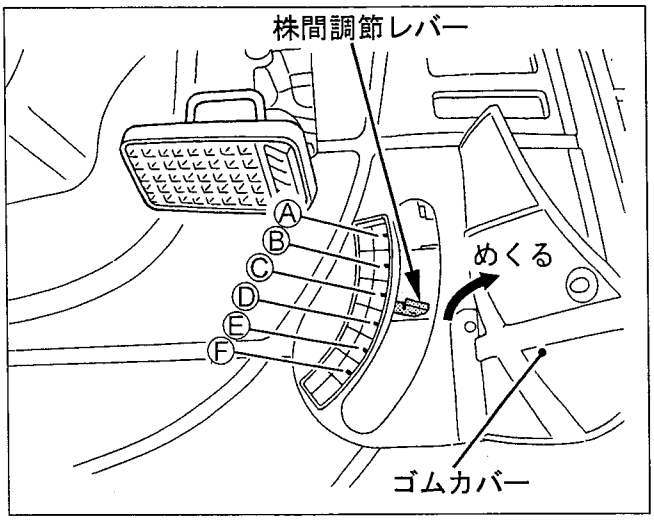


重要

- ●ほ場内では必ず収納してください。

■植付株間の決めかた･切り替えかた

(1)植付作業中のときは、 植え付けを停止したあと、 走行を停止します。 エンジンが止まっているときは、 エンジンを始動したあと、 植付クラッチレバーを[N]位置にします。
(2)副変速レバーを[N]位置にします。
(3)主変速レバーを[N]位置にします。
(4)ステップ右側にあるゴムカバーをめくり、株間調節レバーを切り替えて６段階の中から選択、 調節します。
(5)調節が終わるとゴムカバーを閉じます。
(6)植付作業と植え付け後の確認を行なって、異常がなければ作業を続けます。



● RXG8 型の場合 （内地仕様） 出荷時の株間は 16 cmです。

レバー位置	A	B	C	D	E	F
株間 （cm）	16	18	21	24	28	30
植付株数 （株/3.3㎡）	63	56	47	41	36	33
苗箱数 （10a当り）	42	38	32	28	24	23

● RXGH8 型の場合 （北海道仕様） 出荷時の株間は 15 cmです。

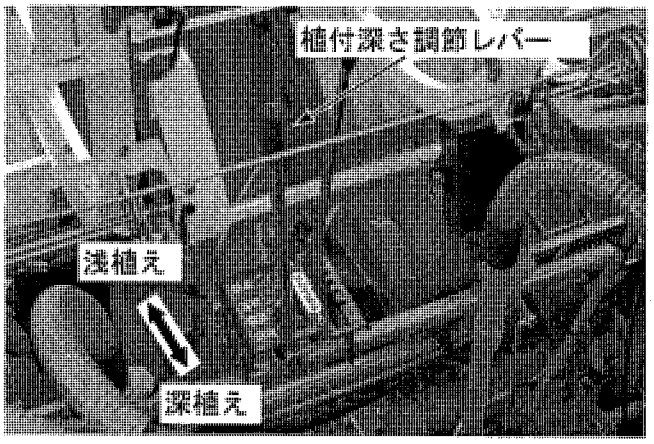
レバー位置	A	B	C	D	E	F
株間 （cm）	12	13	14	15	16	17
植付株数 （株/3.3㎡）	83	77	72	67	63	59
苗箱数 （10a当り）	56	52	48	45	42	40

重要

- 表中の株間は、 標準車輪での一般的なスリップを想定して算出しています。 ほ場条件 （土質、深さ、 水の有無） および植付速度によりスリップ率は変化しますので、 植付作業を開始して希望の株間になっているか確認してから連続作業してください。
- 表中の苗箱数は、 ほ場の条件によっていくぶん異なりますので、 10a 当り２～３枚程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 株間 12 cmで使用する時は主変速を中速以下で使用してください。 守らないと機械が破損する原因となります。 また苗箱の送り不良で連続欠株となる恐れがあります。
- 植付部が駆動している時に株間を調節すると機械が破損する恐れがあります。 必ず植付クラッチレバー、 副変速レバーを[N]にして調節してください。
- レバーが切り替わりにくいときは、 エンジンを始動させたあと、 いったん主変速レバーを[前進]側に操作し、 再度[N]位置に戻してからレバーを操作してください。
- レバーが確実に切り替わっておらず、 中間位置になった場合、 前進はしますが植付部は動きません。
- メンテナンスなどで植付部を手動で回すときは、 株間調節レバーを中間位置にすると軽く回すことができます。

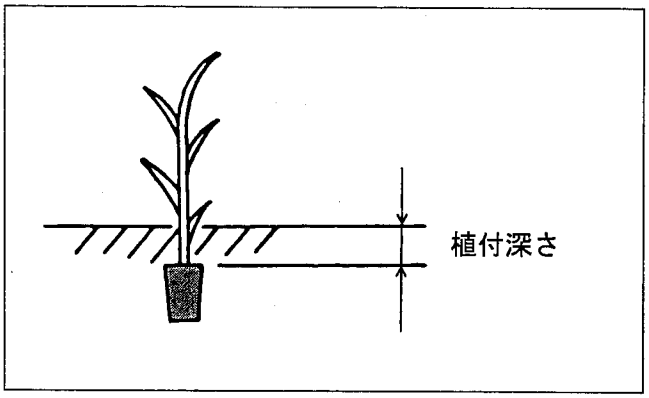
■植付深さの調節のしかた

(1)植付深さ調節レバーのセット位置を変えることによって植付深さは１～４cmまでの間で７段階の中から選べます。
(2)レバーを後の溝にセットすると浅植えとなり、 前の溝にセットすると深植えとなります。



重要

- ●調節する時は、 植付部を表土から浮かして行なってください。
- ●植付深さは必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- ●浅植えになるほど、 よいほ場条件が必要です。 特に極浅位置は表土がトロトロの所や水深３cm以上の所では、 浮き苗、 ころび苗になり使用できません。

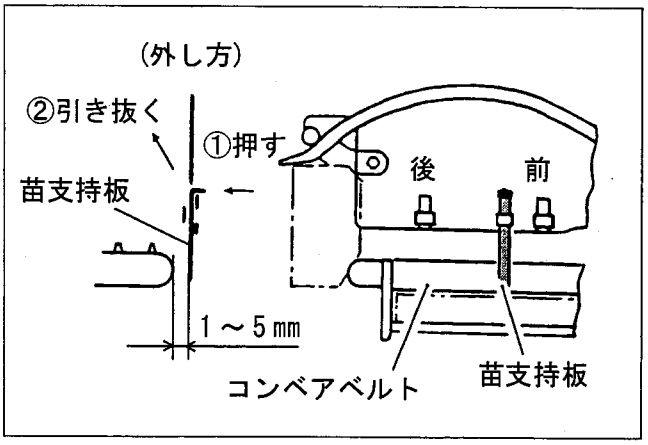


■苗支持板の調節のしかた

苗支持板は植付爪で苗を取るわずかの間、 苗を支持する役目をしています。
(1)苗丈が８cm以下の場合は前の位置にします。
(2)苗丈が 25 cm以上の場合は後の位置にします。

⚠注 意

苗支持板の調節はエンジンを停止し手袋をして行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。



重要

- ●苗支持板を何かに引っ掛けたりして大きく変形させた場合は、 外して直してください。 変形していると植付姿勢が悪くなります。

ほ場への出入りのしかた

⚠警 告

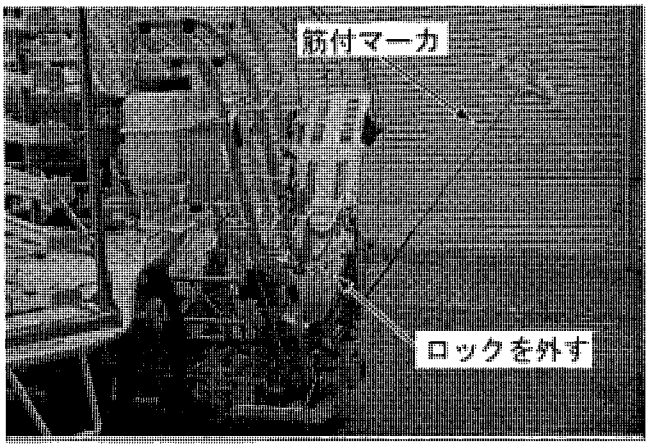
●10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところでは、アユミ板を使ってください。
●暴走や転倒してケガをする恐れがあるので、あぜごえや傾斜地(アユミ板や坂道など)を走行するときは、下記事項に特に注意してください。
- ●走行速度を落す。(ゆっくりと走行する。)
- ●主変速レバーで走行と停止を行なう。
- ●あぜや斜面に対しては直角に走行する。
- ●あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行し、前輪デフロックペダルを踏み込む。
- ●あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏み込まない。

植付作業の手順

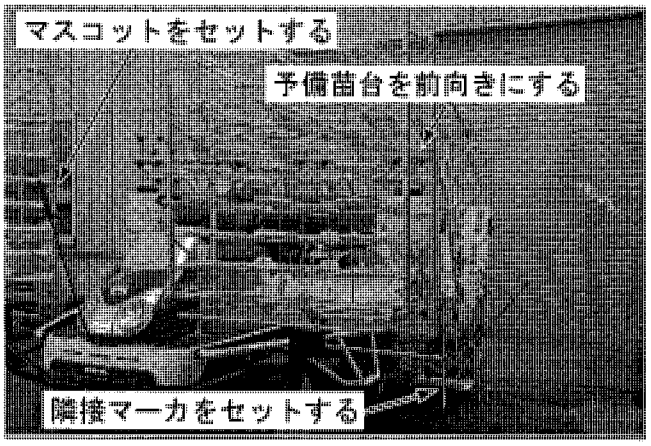
⚠警 告

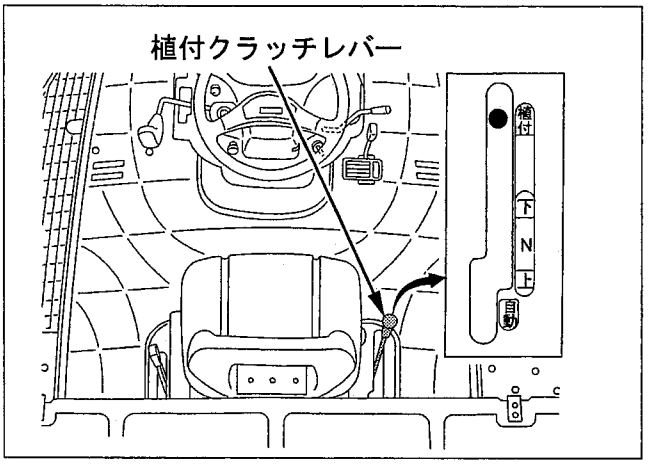
●夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。
●後進する場合、後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないように充分注意してください。
●機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき(苗や肥料の補給時など)、主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進する恐れがありますので、必ず駐車ブレーキをかけてください。
●異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
●小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
●副変速レバーを[路上作業]位置にして植付作業しないでください。トラブルの原因になるばかりでなく大変危険です。

(1)ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。
(2)筋付マーカのロックを外し、作業状態にします。

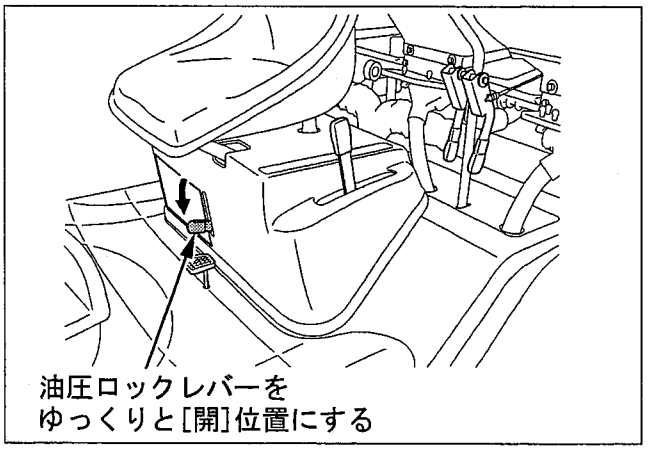


(3)隣接マーカは左右とも出しておき、 隣接条に合わせて使用します。 マーカー先端が隣接苗と接触しないようにほ場の深さによって見やすい適当な高さに調節して使用します。
(4)マスコットは作業状態にセットします。
(5)あぜぎわで予備苗の補給を行なうときは、ロックレバーを操作し、 予備苗台を回転させて補給します。
(6)苗は上の段から入れ、 下の段から使います。 これを怠ると苗の葉先が傷んだり、ポットから苗が抜け落ちることがあります。
(7)予備苗の補給が終わったら、 予備苗台を使いやすい向きに変えておきます。
(8)植付部が上昇し、 油圧ロックレバーが[閉]になっていることを確認します。
(9)植付クラッチレバーを[植付]位置にします。





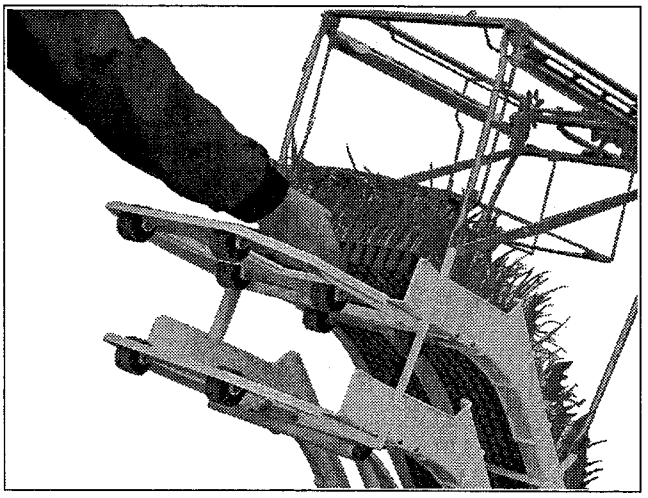
(10)油圧ロックレバーをゆっくりと[開]位置にして、 植付部を下ろします。



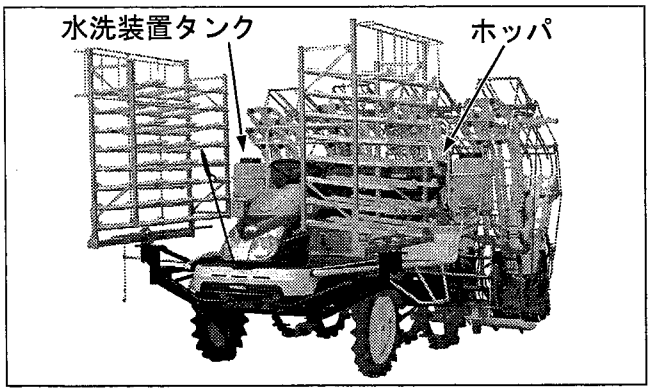
(11)自動供給装置に上の段から各６枚の苗を補給します。

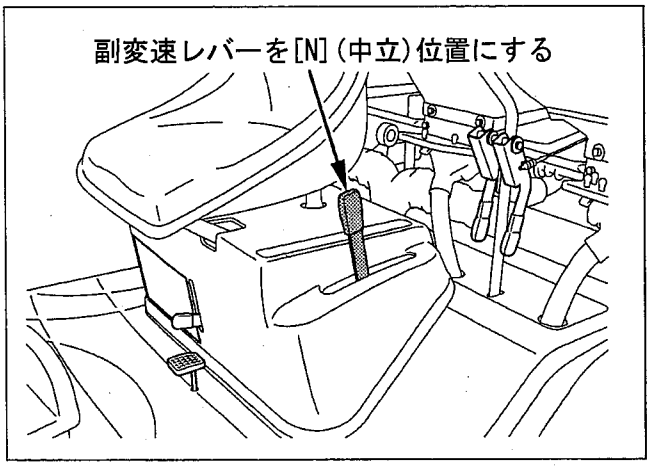
重要

- ●苗の葉先を傷めないよう、 上段から先に行なってください。
- ●苗補給時はできるだけ奥まで手を伸ばしてやさしく補給し衝撃のないようにしてください。
- ●特に古い苗箱は衝撃で破損しやすいので注意して補給してください。
- ●破損した苗箱は使用しないでください。



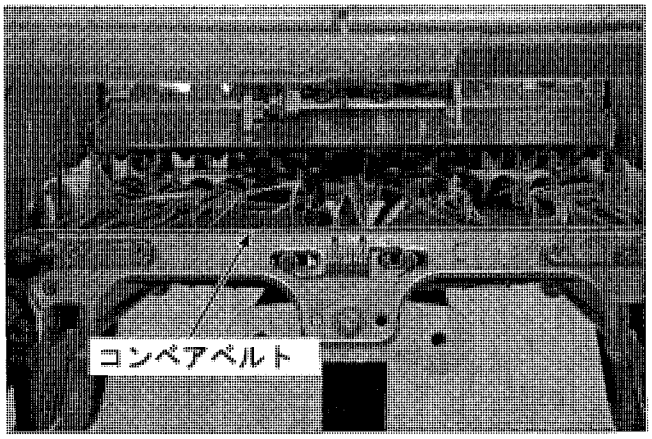
(12)植付クラッチレバーを[上]にして植付部を上昇させます。
(13)ホッパに肥料を入れます。
(71ページ参照)
(14)水洗装置のタンクに清水を入れます。
(82ページ参照)
(15)副変速レバーを[圃場作業]にし、主変速レバーを操作して植え付けを始める位置まで移動します。
(16)植付クラッチレバーを[自動]位置にします。
(17)十字ポンパレバーを操作して植付部の駆動準備と筋付マーカのセットを行ないます。
(18)副変速レバーを[N]位置にして、主変速レバーを[前進]側にすると植付部が回って苗箱が自動的に送り込まれます。コンベアベルトの上に苗がのった時に、主変速レバーを[N]にして、副変速レバーを[圃場作業]にします。





重要

●植付部の4ユニットのうち中央の2ユニットと両外の2ユニットとはタイミングが違っていますが異常ではありません。
全てのユニットのコンベアベルトに苗がのった事を確認してください。

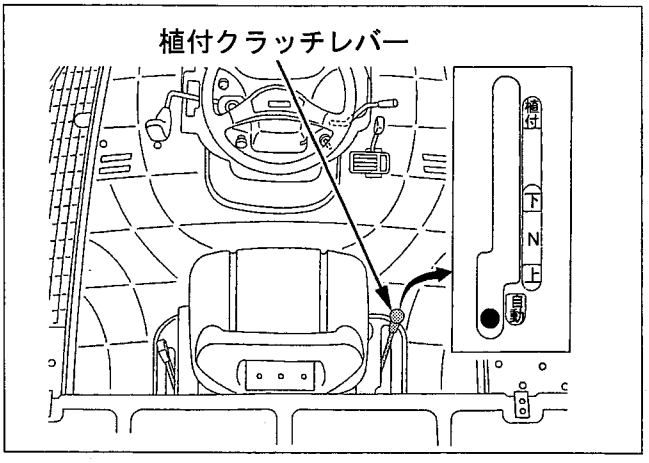


(19)主変速レバーを[前進]側へ操作して試し植えを行ないます。
(20)5m程度植え付けたあと、主変速レバーを[N]位置にして走行を停止し、植え付け後の確認を行ない、「油圧感度調節レバー」「フィットセンサダイヤル」を適正位置にします。

重要

●植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから連続作業を行なってください。
●ほ場の状態・苗の条件によって植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最もよい速度を選んでください。
●株間12cmで使用するときは、主変速を中速以下で使用してください。守らないと機械が破損する原因となります。また苗箱の送り不良で連続欠株となる恐れがあります。
●次のような条件の時、植え傷み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業してください。
①貧弱な苗　②根張りが悪い苗　③ガイド板が変形している(広くなった時)　④苗支持板が変形・欠落している。
●ほ場の出入り口等、不整地では絶対に植付部を下げないでください。ほ場内でエンジンを停止する時は必ず植付部を上昇させ、下降ロックをしてください。機体が前後に傾いた状態で植付部を下げると、機械が破損する恐れがあります。

■十字ポンパレバーの使いかた

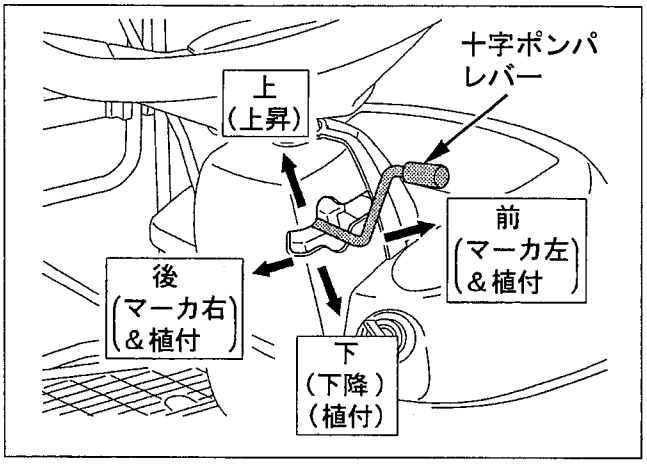


●植付クラッチレバーが[自動]位置の場合

(1)十字ポンパレバーを上側に１回押すと植付部の駆動が停止し、 上昇します。

(2)十字ポンパレバーを下側に１回押すと植付部が下降し、 レバーを前方(マーカ左)または後方(マーカ右)に押すと筋付マーカが倒れて植付準備となります。

(3)あぜぎわの植え付けなどで筋付マーカを出さないときは、 ポンパレバーを再度下側に操作してください。 植付部が駆動します。



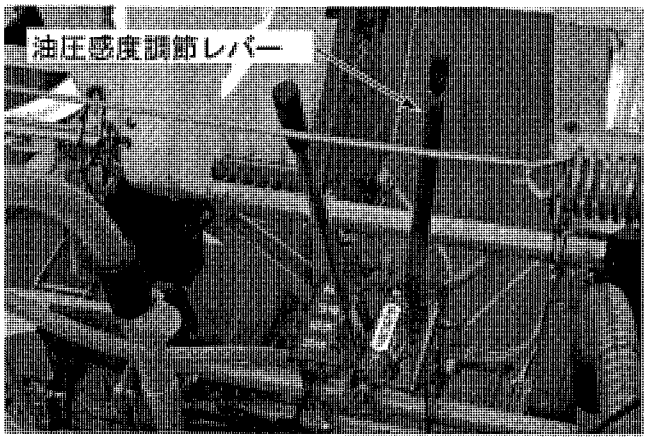
重要

●ポンパレバーを押したあとは、 すぐに離してください。 また、 強く押さないでください。 故障の原因になります。

●植付クラッチレバーが[植付]位置の場合

(1)植付クラッチレバーを[植付]位置にしたあと、 十字ポンパレバーを前方(マーカ左)または後方(マーカ右)に押すと筋付マーカが倒れて植え付け準備となります。

■油圧感度調節のしかた



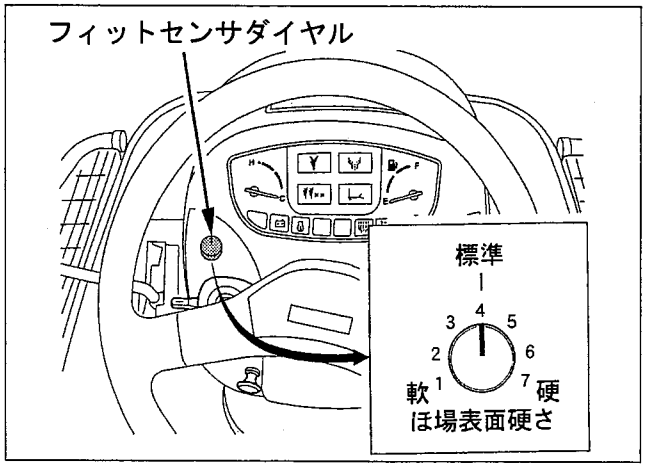
(1)感度は油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより７段階に選べます。

(2)フロートが泥を押す場合はレバーを後方に移動させます。

(3)フロートでほ場の凹凸をならし切れなかったり、 フロートが浮く場合はレバーを前方に移動させます。

重要

●フロートの泥押しをさけるため油圧感度調節レバーをいちばん[軟い]にすると、 ころび苗が出る場合があります。 この場合は植付深さ調節レバーをもう１段[深い]側に動かしてください。



(4)フロート前部で泥を押したり、 左右どちらかのフロート後部が浮いて浅植え、 ころび苗になる時はフィットセンサダイヤルを[硬]側へ調節します。

(5)フロート後部が大きく沈み溝を掘ってしまう時はフィットセンサダイヤルを[軟]側へ調節します。

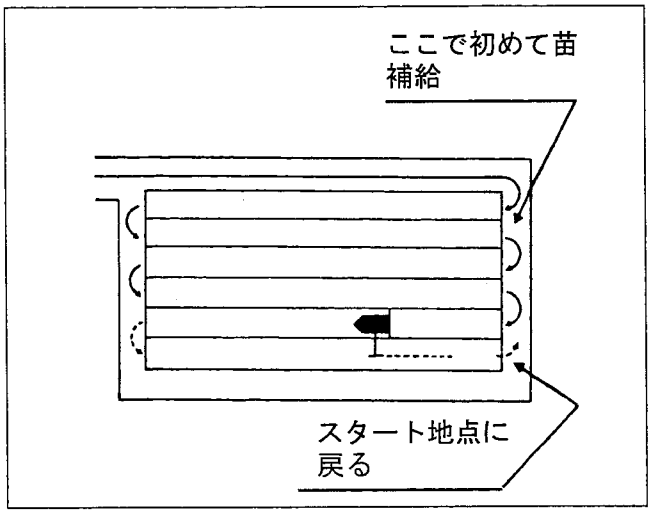
■ほ場での植えかた

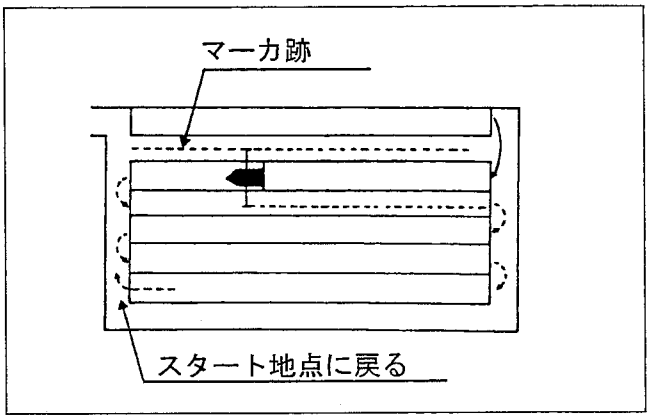
ほ場の大きさや形状、 出入り口の位置などによって植付方法は異なりますので作業を始める前に、 植付手順を決めてから作業を始めてください。

(1)周囲を８条分残して植え、 最後にスタート地点(出入り口)から一周植えて終了します。

(2)(1)と同じ方法ですが、 あぜぎわから植えて８条あけて帰ります。 この時、 十字ポンパレバーを前方と後方に押して左右の筋付マーカを同時に出して、 片側をマーカ跡に合わせて植え進みます。

(3)あぜが高く、 前輪があぜに当たるまで接近できない場合は、 枕地を10条以上確保し、 枕地の植え付けを１往復で行なうようにしてください。





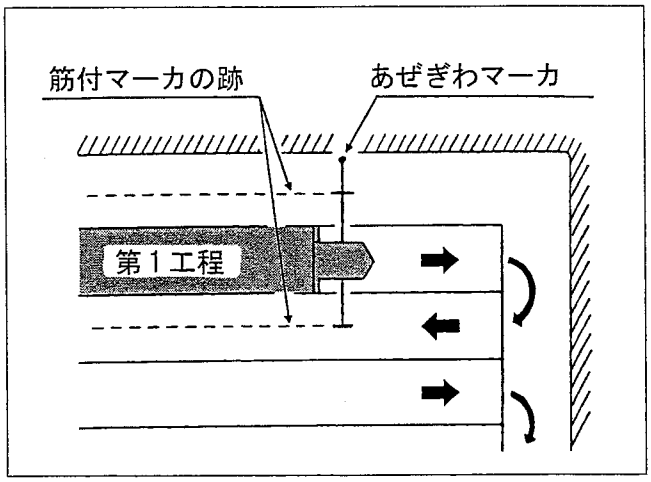
■あぜぎわマーカの使いかた

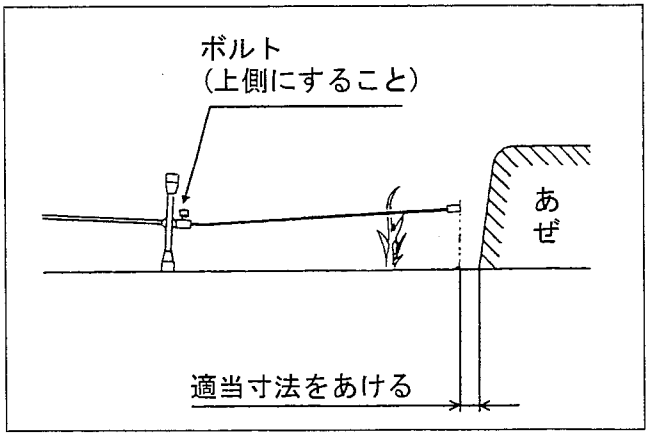
最初の８条分を残す方法として、 最初の１工程を植える時左右の筋付マーカを同時に出しますが、 あぜぎわとなる方の筋付マーカの先にあぜぎわマーカを取り付けて目安とする方法もあります。

(1)あぜぎわマーカは、 筋付マーカの先に奥まで押込みボルトが上側にくるように、 しっかり固定します。

(2)あぜぎわマーカの先端位置が最終工程で通る時の外端を示していますので、 あぜから適当寸法をあけるようにして第１工程を植えます。

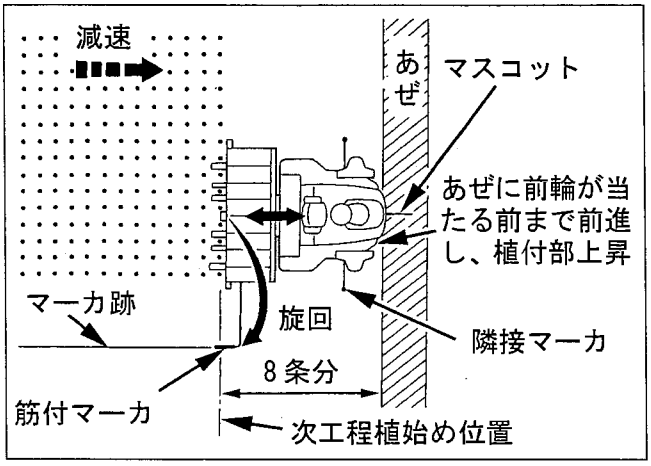
(3)最初の１工程目が終ったら、 あぜぎわマーカを取り外してください。

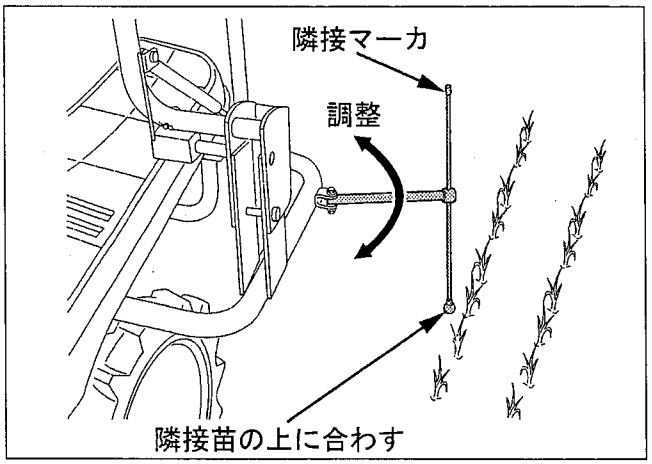




■旋回のしかた

(1)あぜが前輪に当たる少し手前で減速し、 主変速レバーを操作して停止します。
(2)植付クラッチレバーまたは十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。
(3)旋回しやすい位置まで後退します。
(4)次に植える条側にハンドルを回して旋回します。
(5)旋回するときにマスコットを目印にして、筋付マーカの跡の線とマスコットの位置をあわせながら機体をまっすぐにし、 植え付け始めの位置まで移動します。
(6)植付クラッチレバーを[植付]位置または十字ポンパレバーを下側に１回押して植付部を下降させます。
(7)植付部が接地したことを確認したあと、 筋付マーカを次工程植付側にセットします。
(8)主変速レバーを操作して植付作業を行ないます。

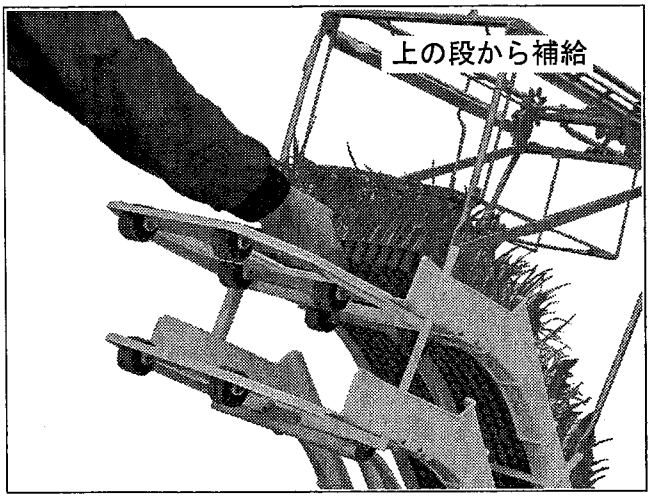




重要

- ●主変速 「前進」 側はレバー位置に応じてエンジン回転が上がりますが 「後進」 側ではエンジン回転は変わりません。 後進するときはほ場条件によってアクセルレバーでエンジン回転を上げてください。
- ●あぜが高く前輪があぜに当たるまで接近できない場合は、 枕地を10条以上とるようにしてください。
- ●マーカ跡の線が見えにくいときは、 植え終った隣の苗(隣接苗)に隣接マーカが上になる位置に合わせてください。
- ●隣接マーカは必要に応じて角度や長さを調節してください。
- ●植付部が接地していない時に植付部を駆動すると植付爪から苗が落下します。

■苗の補給のしかた

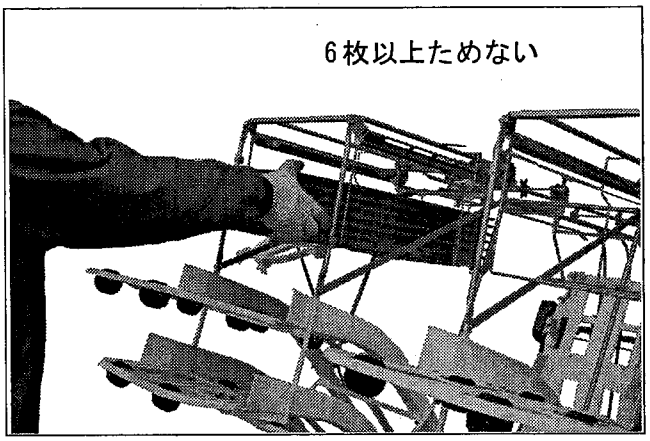


苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサーがはたらいて、 苗モニタのランプおよびマスコットランプが点滅すると同時に警報ブザーがなります。
(1)主変速レバーを操作して走行を停止します。
(2)駐車ブレーキをかけます。
(3)予備苗台の苗を補給します。 2条当り6枚の苗を同時に補給することができます。

重要

- **警報ブザーは苗を補給しないと8回なったあと停止します。 また苗を補給するとランプは消灯し、 ブザーは停止します。**
- **予備苗の補給はエンジンをかけて、 植付[入]の状態で行なってください。 植付[切]の状態では自動供給装置がはたらかず、 苗が供給されません。**
- **マフラで苗をこがす場合がありますので、 あぜぎわで苗のない場所に停止してください。**
- **苗の葉先を痛めないよう、 上段から先に行なってください。**
- **苗補給時はできるだけ奥まで手を伸ばしてやさしく補給し衝撃のないようにしてください。**
- **特に古い苗箱は衝撃で破損しやすいので注意して補給してください。**
- **破損した苗箱は使用しないでください。**

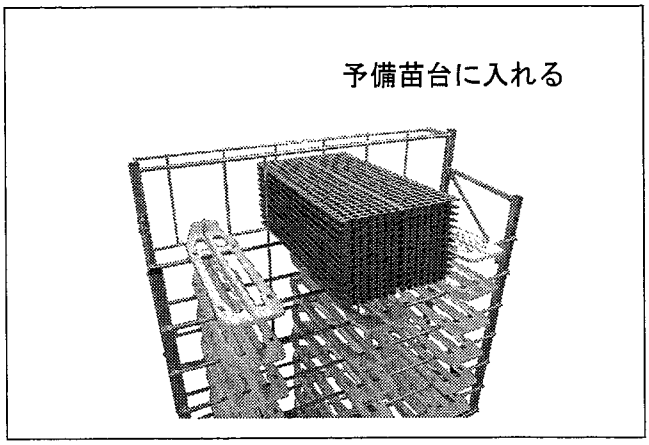
■空箱の取り出しかた



(1)空箱は自動的に空箱入れに収納されますが、1ユニットに6枚以上ためないようにしてください。 箱がつまって植付不調 ・ 苗箱の破損の原因になります。
(2)苗の補給を行なった時は必ず空箱も取り出すようにしてください。
(3)空箱入れの空箱は予備苗台の一番上の棚に入れてください。 一番上の棚(6箇所)には空箱を12枚重ねて収納できます。

重要

- **空箱入れには絶対に6枚以上ためないで、必ず苗の補給時には取り出してください。**



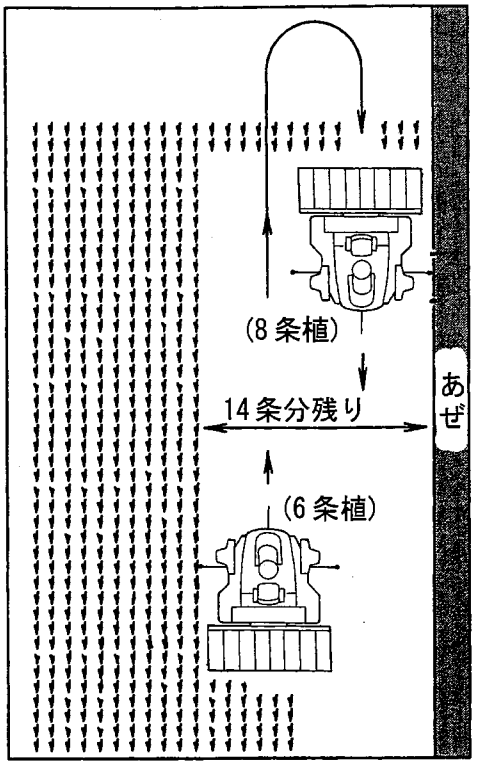
■植えじまいのしかた

(1)植え付けの最終工程(あぜぎわでの植え付け)を田植機の条数に合わせるためには、 前工程で植え付け条数の調整をする必要があります。

(2)最終工程での植え付け条数のきめかた。

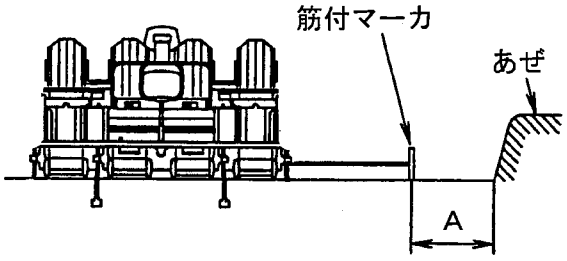
①旋回後、 条合わせした後、 筋付マーカを出して植え付け条数をきめます。

②あぜぎわクラッチレバーで２条ごとの植え付けを停止することができます。

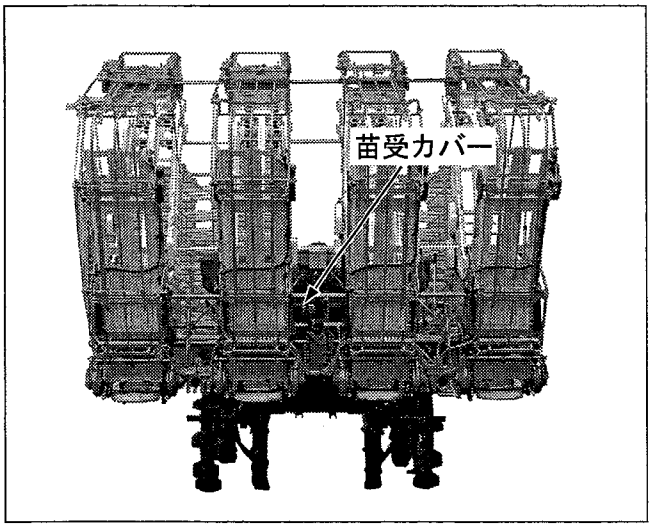


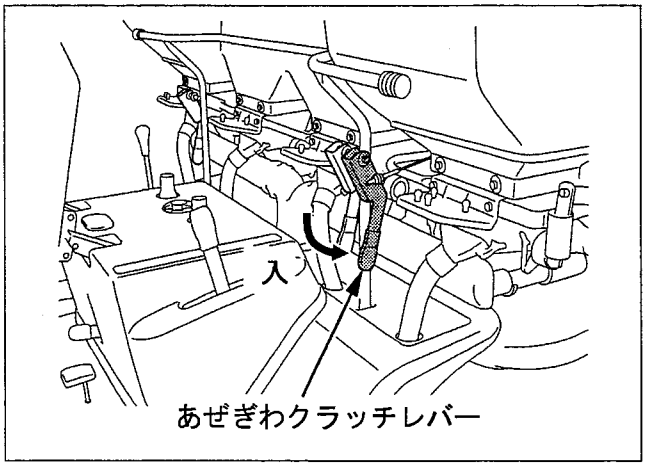
重要

- あぜぎわクラッチを[切]の操作後、 送り途中の苗を１４株程度植え付ける場合があります。 また[入]の操作後、 植付爪に苗が出てくるまで待ってから植え付けを行なってください。
- あぜぎわクラッチを操作した後は必ず[入]の位置に戻してください。
- あぜぎわクラッチを[切]にした植付部の側条施肥装置は同時に肥料繰出しが停止します。
- あぜぎわでの植え付け、 枕地植え付けの時、 バックであぜぎわいっぱいまで植付部をよせるときは、 植付部をあぜにぶつけないよう特に注意して慎重に行なってください。 このとき、 植付部の中央のすきまから赤色の苗受カバーを目安にするとわかりやすいです。



Aの距離　140 cm程度の時……8 条植
75 cm程度の時……6 条植
10 cm程度の時……4 条植
あぜに 60 cm程度……2 条植
のりあげる時





■モンロー調節ダイヤルについて

植付作業中に植付部が少し浮き気味になり、植え付け状態が左右均等にならない場合は、モンロー調節ダイヤルで調節を行なってください。

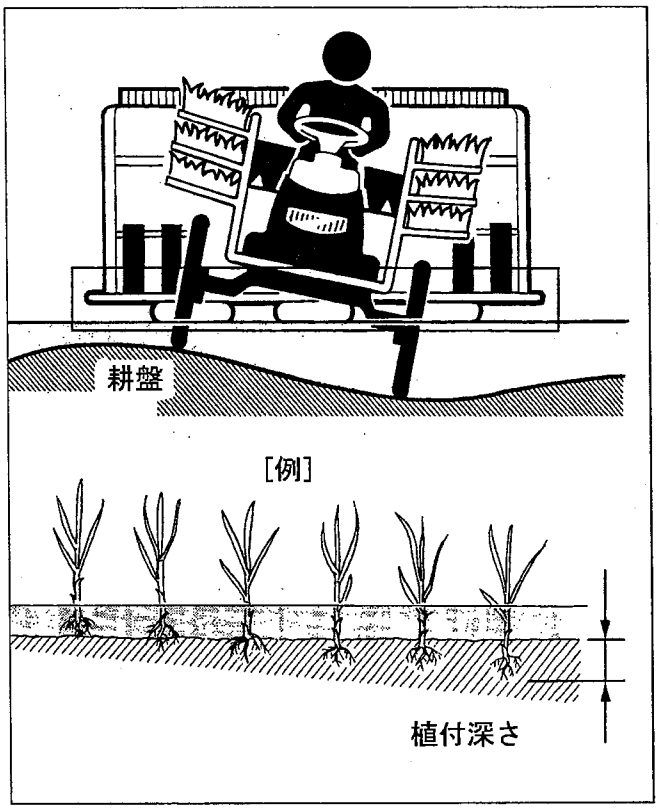
●出荷時は[中央](標準)の位置です。

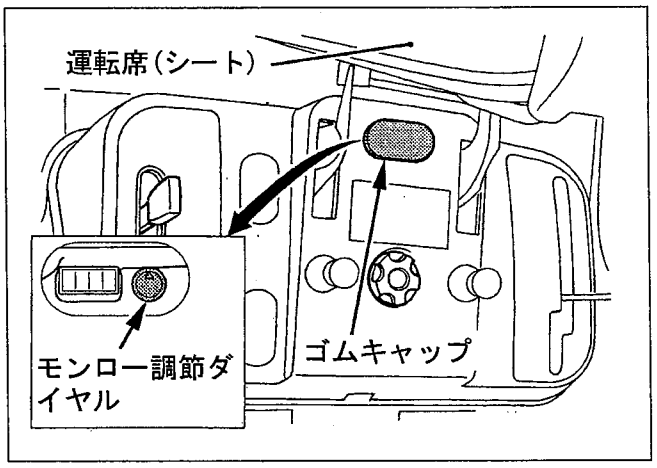
●あぜぎわなどの耕盤が傾斜した所で、自動水平装置(モンロー)がはたらいても、植付状態が左右均等にならない場合にも、調節ダイヤルで調節を行なってください。

(1)運転席下の前方にある黒いゴムキャップを取り外します。

(2)モンロー調節ダイヤルを回して植付部の傾きを調節します。(右図の場合は、左にダイヤルを回す)

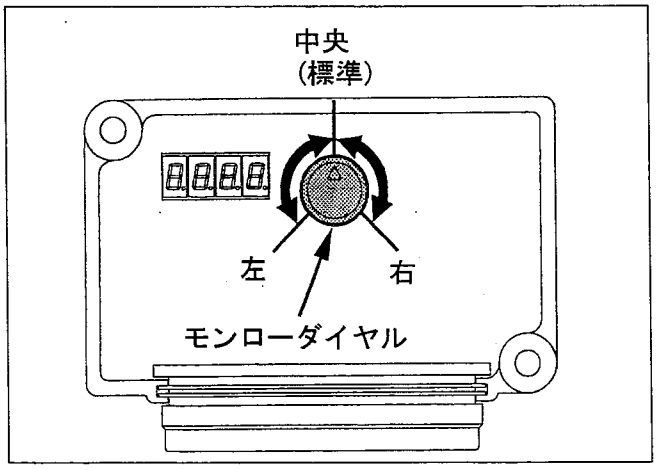
(3)あぜぎわの植付作業が終ると、モンロー調節ダイヤルを中央(標準)に戻し、ゴムキャップを取り付けます。





●機体後方から見たとき
右に回す⇒植付部が右下がりになります。
左に回す⇒植付部が左下がりになります。

●ダイヤルは左右にそれぞれ最大約150度回ります。

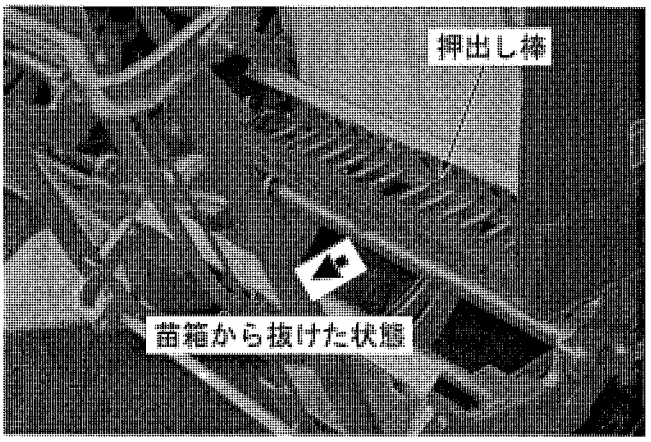


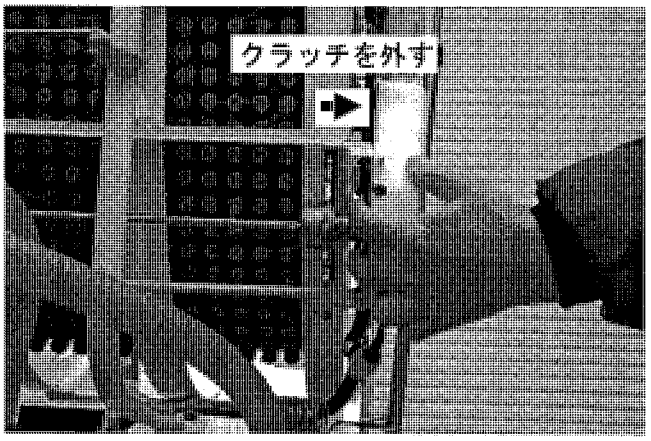
■残り苗の取り出しかた

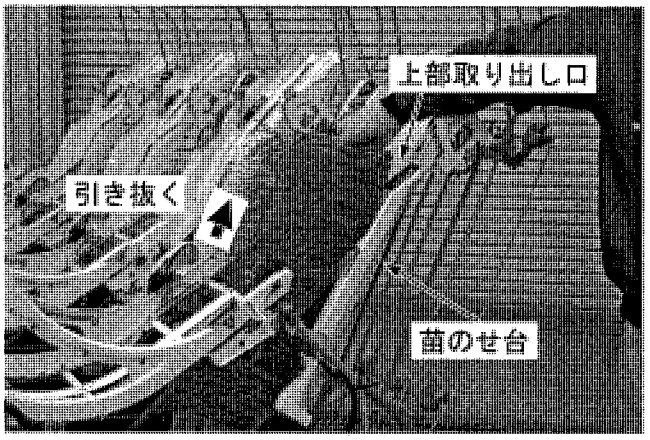
(1)植付作業が終わり、 苗のせ台に残った苗を取り出す場合は、 植付部4ユニットのうち2つのユニットの押出し棒が苗箱から抜けた状態にして、 必ずエンジンを停止し、 メインスイッチを[切]にしてください。
(2)残り苗の取り出しは押出し棒が苗箱から抜けたユニットから行なってください。

> **⚠注 意**
> **苗箱を取り出す時は、必ずメインスイッチを[切]にして行なってください。これを怠ると自動供給のモーターが作動して大変危険です。**

(3)自動供給装置の苗はそのままで取り出します。 スプロケットにかみ込んでいる苗はスプロケット横のクラッチを操作して取り出します。
(4)植付部の苗のせ台で、 縦送り爪まで送られていない苗箱は、 苗のせ台にそわせて引き上げ、 上部取り出し口から引き抜きます。



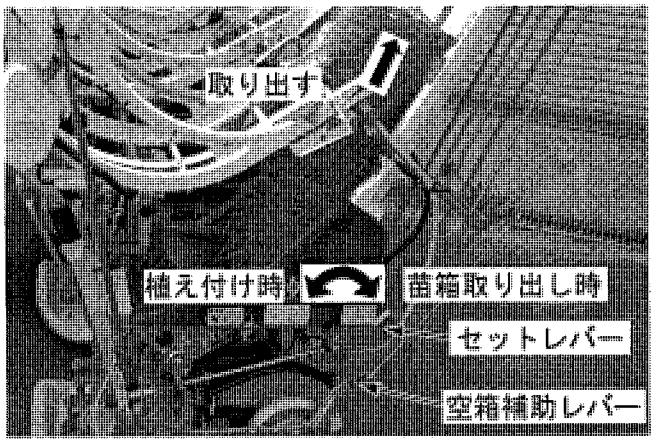


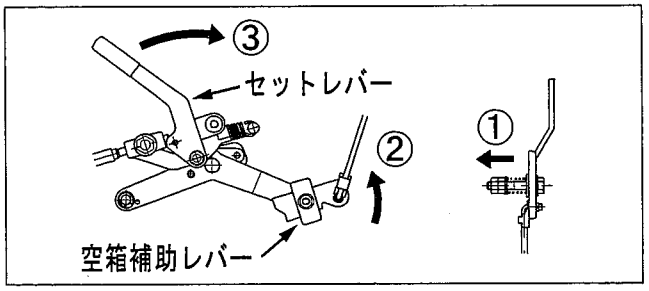


(5)縦送り爪で固定され植付中の苗箱は、 空箱補助レバーをずらし、 セットレバーを後方いっぱいに倒し、 苗箱を苗のせ台にそわせて引き上げ、 上部取り出し口から引き抜きます。

(6)苗が残り少なく、 上に引っ張れない場合は、 空箱レール補助の上側を片側ずつ外してから、 セットレバーを前後に動かして苗箱を送り、 空箱ガイドから、 引き抜きます。

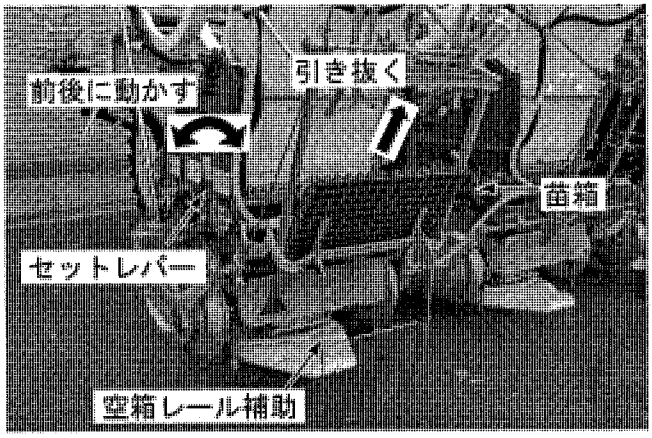
(7)2つのユニットの苗の取り出しが終ったら一度エンジンをかけて植付部を回し、 残り2つのユニットの押出し棒が苗箱から抜けた状態にして、 メインスイッチを[切]にしてから同じ要領で残り苗を取り出します。





重要

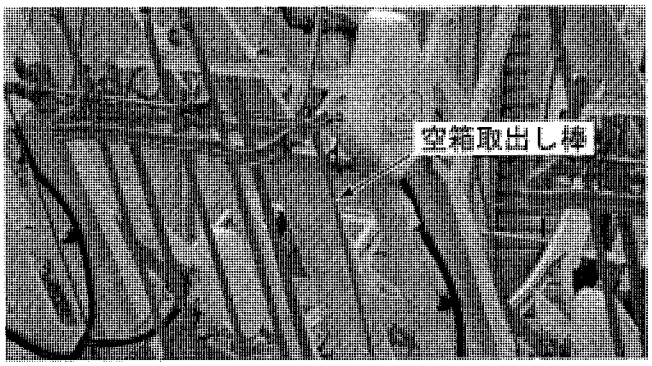
- **植付部4ユニットのうち中央の2ユニットと両外の2ユニットでは植付部のタイミングが違っていますが異常ではありません。押出し棒が抜けているユニットから苗を取り出してください。**
- **セットレバーの操作は、 押出し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。 守らないと、 苗箱が破損する恐れがあります。**
- **残り苗の取り出しが終わったら、 空箱補助レバーとセットレバーは必ず植え付け時の位置に戻してください。 また、 空箱レール補助は確実の元の位置に戻してください。**

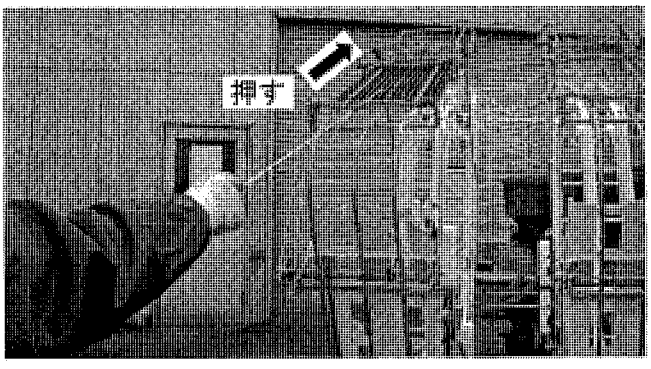


■ガイドに残った空箱の取り出しかた

(1)植付作業が終わり、 空箱自動収納装置のガイド内に残った空箱は、 1枚ずつカゴの中に落ちるまで押し出してください。

(2)手が届かない時は、 取出し棒を使用してください。





作業に合わせた各部の調節･調整

■フィットセンサダイヤルの調節

植付部の下側にあるフロートが、 植付速度に応じて植付深さを一定に保つため、 高速作業時にフロートの浮上がりによる浅植えのないように制御していますが、 ほ場の状態により、泥を押したり、 凹凸が充分整地されないときは、 ダイヤルでフロートの感度調節を行なってください。 調節は７段階行なえます。

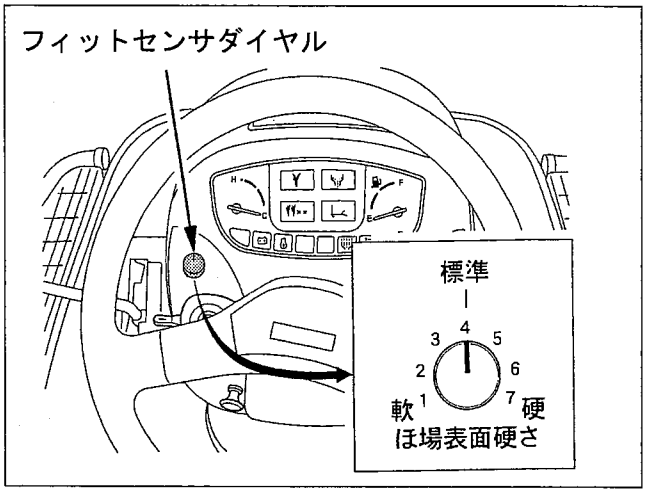
●設定位置

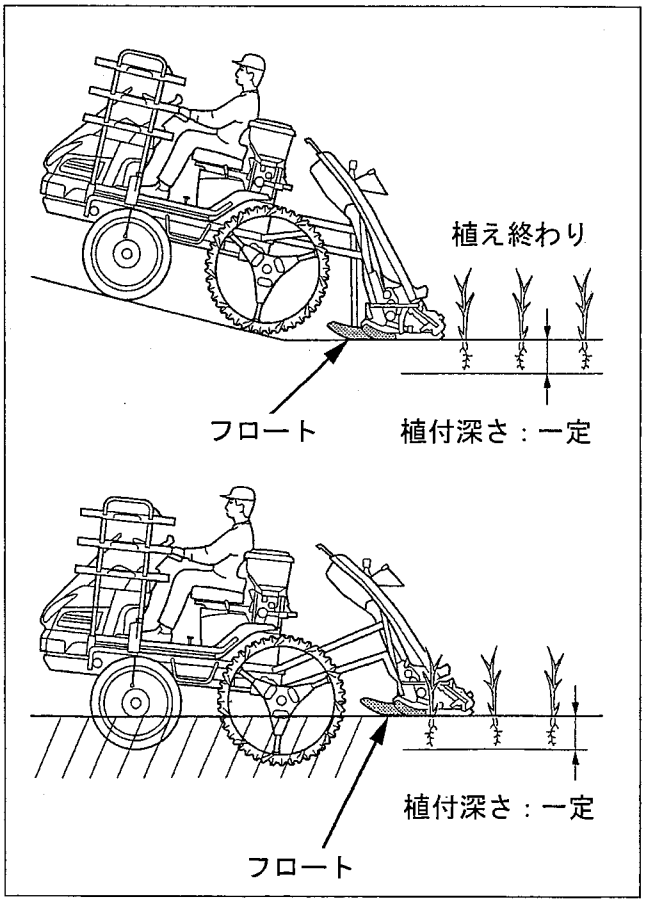
ほ場状態を確認しながら、 ダイヤルで下表を目安に感度調節を行なってください。

ほ場状態		設定位置
軟い ↑ 標準 ↓ 硬い	●トロトロした状態で、泥押しをする。	1～3
	●整地もよく、泥押しが少ない。	4
	●硬くて整地が悪い。	
	●凹凸が激しく、荒れている。 （車輪跡や足跡が残る。）	5・6 7

●調整を行なったときは、 植付深さの調節も同時に行なってください。

●植え終わりや深田での植え付けのとき、 機体が大きく前上がりに傾くとフィットセンサでは感度が合わなくなるため、 コントローラのマイコンがはたらき、 植付深さを一定に(深植えにならないように)保ちます。
（オートフロート）





■整地板の調節

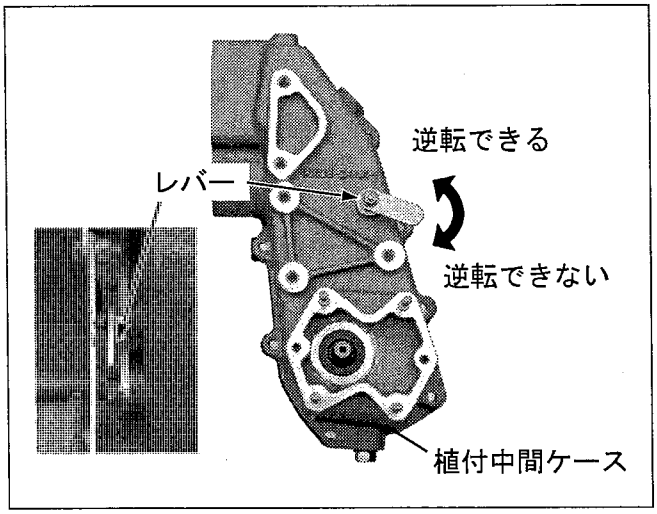
調節は上下方向に無段階で調節できます。
植付深さを調節したとき、 ほ場状態に合わせて、 整地板の高さを調節してください。



■安全クラッチが作動したとき

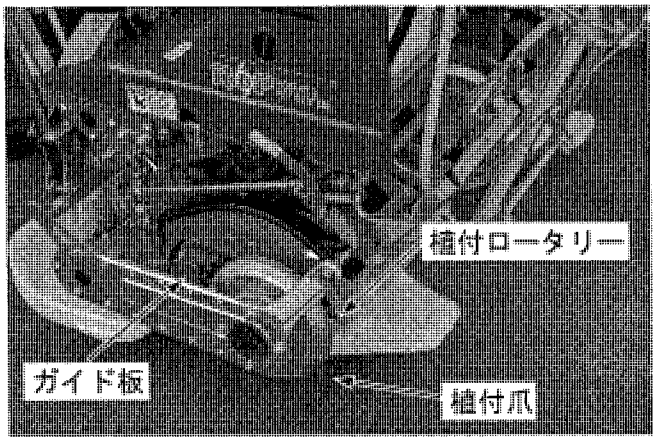
植付作業中、 植付部が止まり、 植付中間ケースよりカチカチ音がする場合は安全クラッチがはたらいていますので次の処置をしてください。

(1)ただちに主変速レバーを[N](中立)にして機械を停止します。
(2)副変速レバーを[N]、 植付クラッチレバーを[植付]位置にしてエンジンを停止します。
(3)植付爪・ガイド板等に石などがかんでいないか確認します。
(4)植付中間ケース左側のレバーを上げ、 株間調節レバーを中間位置にして、 植付ロータリーを逆転方向に回して石などを取り除きます。
(5)そのあとレバーを戻し、 植付爪、 ガイド板が変形していないか確認してから、 エンジンを始動し主変速レバーをゆっくり前進方向に操作して、 植付部が正常に作動することを確認して、 植え付けを再開します。



⚠注 意

安全クラッチの確認時は、必ずエンジンを停止して行なってください。これを怠ると大変危険です。



重要

●植付爪やガイド板が曲がったり破損した時は、購入先に連絡して部品交換してください。

施肥作業のしかた

■ほ場について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ、 苗の発育が正常に行なわないことがありますので、 施肥機にあったほ場条件や肥料を使用してください。
施肥作業を行なうとき、 田植作業のほ場条件とあわせて下記事項を守ってください。

(1)夾雑物(わら,刈株,堆肥,雑草など)は施肥田植え時の障害になるので、 耕うん･代かき時に下層部に埋め込むようにしてください。
(2)耕うん･代かき時の化学肥料の基肥散布は絶対にしないでください。
(3)ほ場の深さは10～25㎝が適しています。
(4)代かき時の均平度をよくして、 地表面からの水深が、 なるべく一定になるようにしてください。 代かき後、 田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので、 充分湛水して、 地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし、 田植えの直前に充分落水するようにしてください。
(5)作業時の水の深さは、 浅水とし、 0.5～2㎝程度が適当です。
①田面の水がない場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてくだい。 水が皆無の場合は下記のような現象が起こります。
●車輪のスリップが増し、 株間が狭くなります。
●作溝器に泥詰まりを生じ、 肥料が詰まって無施肥区ができ、 生育ムラの原因になります。
●車輪による泥の持上げやフロートの泥押しを生じます。
②田面の水が多すぎる(水深2㎝以上)場合には、 作溝器内の上部やホース内に水が浸入し、 肥料の落下状態が悪くなり、 所定の深さに埋没できなくなります。 また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。
(6)ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて後が少しふさがれる程度が適当です。
①ほ場の土壌硬度(125gのサゲフリを地表面上1mの高さから落下させて、 地表面から土中に入った深さ)は7～18㎝の範囲内とします。
②ほ場が軟らかすぎるとフロートによる泥押しのため、 隣接条間の確保が困難になるばかりでなく、 植付姿勢も乱れます。
③ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し、 株間が狭くなるばかりでなく、 作溝施肥跡のふく土が不完全となり、 肥料溶出の恐れがあります。

重要

●耕うん･代かき装置は購入先とご相談のうえ、 夾雑物を下層に埋め込む働きができる機種を選んで使用してください。
●夾雑物が表層部(地表面～深さ8㎝程度の範囲)にあると、 作溝器に引っかかって、 施肥ムラ(生育ムラ)をおこすおそれがあります。
●収穫時コンバインのカッタで、 わらを切断散布したときは、 その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで、 腐らせておくようにしてください。
●基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には、 その指定要領に従ってください。
●土壌の部分的な硬軟差が大きいと施肥精度に影響します。
●特殊な条件のほ場(基盤整備直後の田や湿田など)では作業に支障をきたすことがありますので、あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。

■肥料について

(1)肥料は市販の粒状肥料の中から下記の条件にあったものを選んでください。
(2)肥料は開封していない、 新しいものを使用してください。
(3)湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は使用を避けてください。
(4)光を通しやすい透明な肥料(硫安単肥など)は残量センサが誤作動しますので、 使用を避けてください。
(5)ホッパに肥料を補給するときは、 ふるい網を通してください。

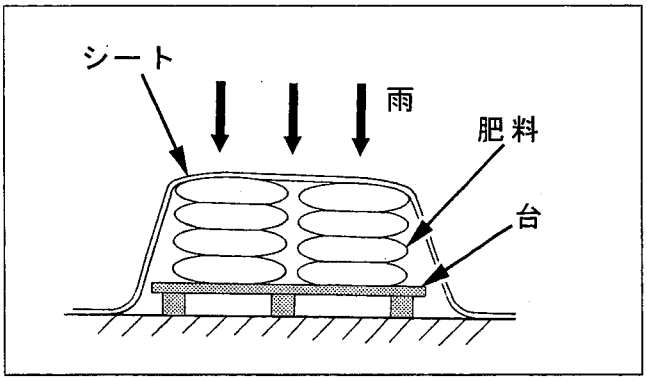
重要

●条件に合わない肥料を使用した場合には下記のような不具合が発生することがあります。
○肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。
○繰出し精度が不良となり、 施肥量に誤差が生じる。
○肥料詰まりや施肥ムラが生じる。
●最近、 側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので、 使用をお薦めしますが、 中には適さない物も含まれていますので、 注意してください。
●吸湿性の少ない肥料を選んでください。

〔参考〕

吸湿性の少ない肥料	吸湿性の多い肥料
●硫安系化成肥料	●尿素系高度普通化成肥料
●硫化燐安系高度化成肥料	●硝安系高度普通化成肥料
●塩化燐安系高度化成肥料	●ＣＤＵ化成肥料
●ＩＢ化成肥料	

●雨天時、 肥料や肥料袋が濡れないように台の上に肥料を置き、 上からシートをかけてください。



■一発肥料使用時の注意

一発肥料をご使用の際は、 以下の項目をご確認のうえあらかじめ農業改良普及所などの農業指導機関と良くご相談し、 適切な施肥計画に基づいた肥培管理を行なってください。

●繰出し量が調量ツマミの位置の標準値と異なる場合があります。

繰出しテストを行なって目標とする施肥量に調整してください。

●粒径が不揃いなものや、 砕けやすいものがあります。

このような肥料は側条施肥機では使用しないでください。

●被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。 また、 品種、 土壌の影響も受けることがあります。

例えば、 平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため、 過繁茂になったり、 肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。

使用条件の目安	粒の硬さ	粒の大きさ・形状・ばらつき			
		大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○（適当）	※硬い（吸湿性が少なくべとべとしない）	2～4㎜	円形	少ない	○（適当）
↕	↕	↕	↕	↕	△（やや不適当）
×（不適当）	軟い（吸湿性が多くべとべとする）	2㎜以下（粉状含む）	角ばっている	多い	×（不適当）

■作業前の準備

⚠注意

●平たんな場所で行なってください。

(1)各部の点検を行ない、 汚れや詰まりがあるときは、 掃除を行ないます。(92ページ参照)また、 破損や磨耗があるときは、 部品交換を行なってください。(107ページ参照)

重要

●雨天時に作業を行なったあと長時間放置すると肥料が固着し、 翌日以降の施肥作業に異常が発生(施肥されないなど)する恐れがあります。

(2)下記項目に異常がないか点検・確認し、 異常があれば正しく取り付けて各部を作業状態にします。

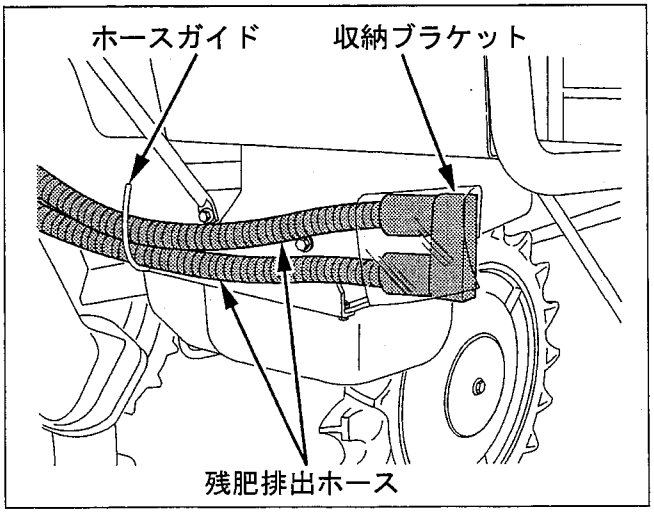
①全条停止レバーが[全条繰出]側になっているか確認します。

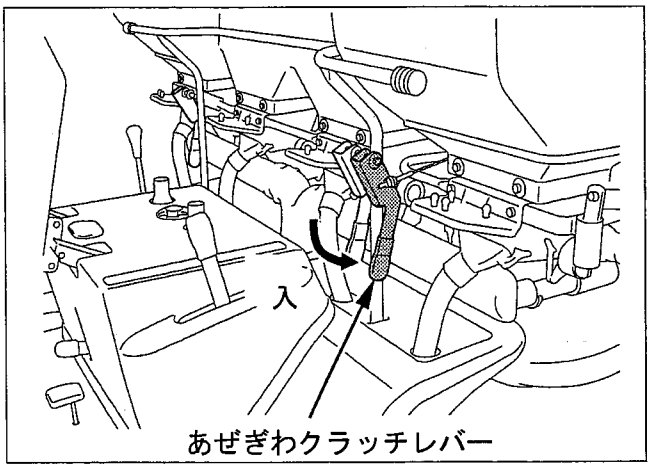
②各あぜぎわクラッチレバーが[入]状態になっているか全条確認します。

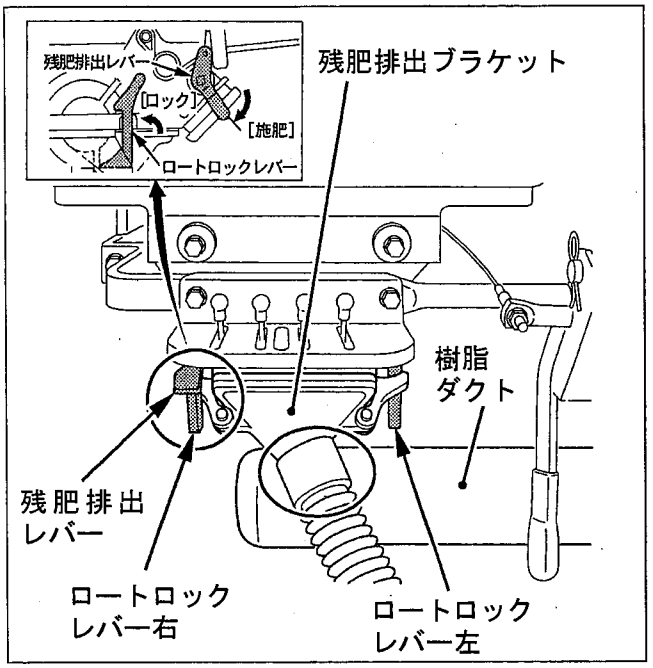
③残肥排出レバーが[施肥]位置、左右のロートロックレバーが[ロック]位置にあることを確認します。

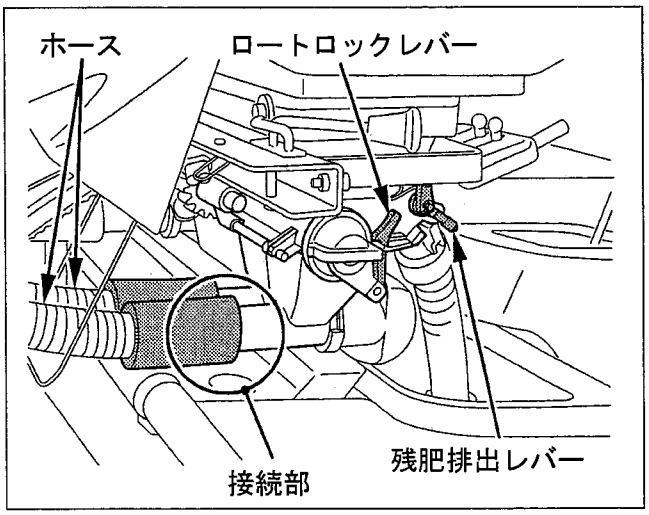
④各ホースや各ダクト、 残肥排出ブラケットが正しく接続されているか確認します。

⑤各残肥排出ホースが収納金具に収納されているか確認します。

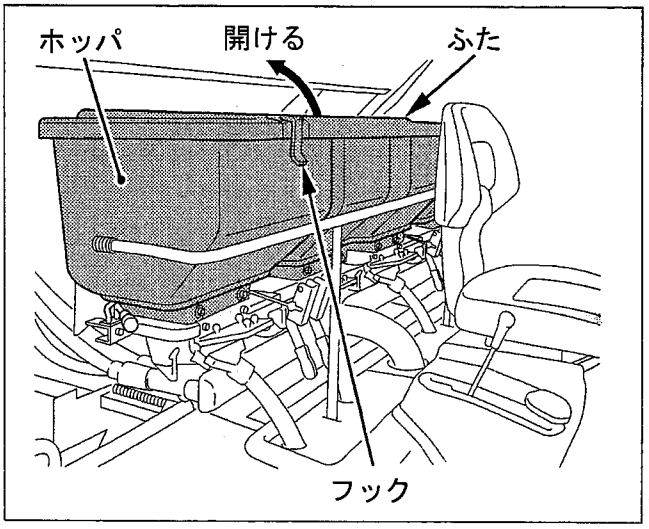


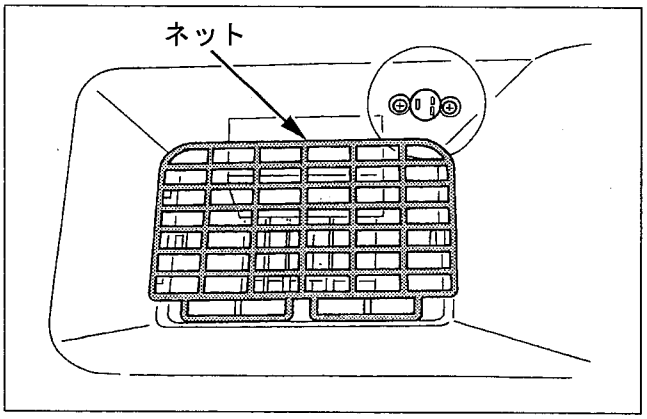






(3)施肥量を決めて繰出し量を調節します。
(76ページ参照)
(4)左右2箇所のフックを外し、 ホッパのふたを開いて肥料を入れます。
(5)エンジンを始動し、 ブロア、 各ダクト、 各ホースの接続部からエアもれしていないか確認します。
(6)ロール溝、 ロート内部に肥料が付着していないか確認してください。





重要

- ●フックを片方だけ外して無理に開けると、もう片方のフック部やふたが破損することがあります。
- ●ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。 また、 ホッパ、 ふたの上に強い力をかけないでください。 破損の原因になります。
- ●ネットを取り外した状態では肥料を入れないでください。 肥料のかたまりがロール溝に入り、 詰まりの原因になります。
- ●肥料が原因で目詰まりをおこし、 生育ムラが生じないようにするため、 下記の事項に注意してください。
  - ○ネットに残った大きな肥料は取り除く。
  - ○ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。
  - ○連日の作業を行なうときでも毎日作業後には必ず肥料を排出する。
  - ○一晩置いて露が発生したときは、 ホッパ内、 ネット、 ロール部の露をふき取る。
  - ○開封後しばらくして湿気を吸った肥料で、 固まったものは使用しない。
  - ○運搬時にホッパ内の肥料は空にする。(振動により目詰まりが発生することがあるため)
  - ○ロール溝に肥料粉が付着しているときは、 必ず掃除する。
- ●重さ(kg)は肥料の種類によって異なる場合がありますが、 ホッパ容量(L)は66 L(約60 kg)です。
- ●万一、 エアもれしていると、 詰まりの原因にもなります。

■施肥作業のしかた

エンジンを始動すると同時にブロワが回転し、 主変速レバーを[前進]側に動かすと苗の植え付けと同時に施肥を行ないます。 また、 ブロワはエンジン回転中は常時回転します。(植付部最上昇位置の時と、 施肥全条停止レバーが[全条停止]のときブロワは停止します。)

(1)施肥ムラ(生育ムラ)の防止

施肥ムラがあると、 苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。

①植付始めは低速で行なってください。 最初の２～３株に施肥がされない場合があります。
②必ず減速してから停止してください。 急停止すると多肥になる場合があります。
③植付速度は一定の速さで、 まっすぐ行なってください。 施肥ムラやふく土異常の原因になります。
④枕地の植え付けや変形田での植え付け時、 交差植えや無植箇所を少なくしてください。 多肥になったり、 肥料がムダになる場合があります。
⑤肥料切れのセンサが点灯したら早めに肥料を補給してください。
⑥肥料は側条施肥専用のものを使用してください。 吸湿性の多い肥料、 軟らかい肥料、 不揃いの肥料は使用しないでください。 詰まりの原因になります。
⑦田面に水気が無く硬くなっている場合は、 ふく土がされにくいので、 田植え作業に適したほ場条件で作業を行なってください。

(2)施肥作業中の確認

作業中のふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し、 処置をします。

重要

- 植付部を下ろした状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり、 詰まりの原因となります。
- 蛇行運転をすると、 ふく土が正しくされないことがあります。

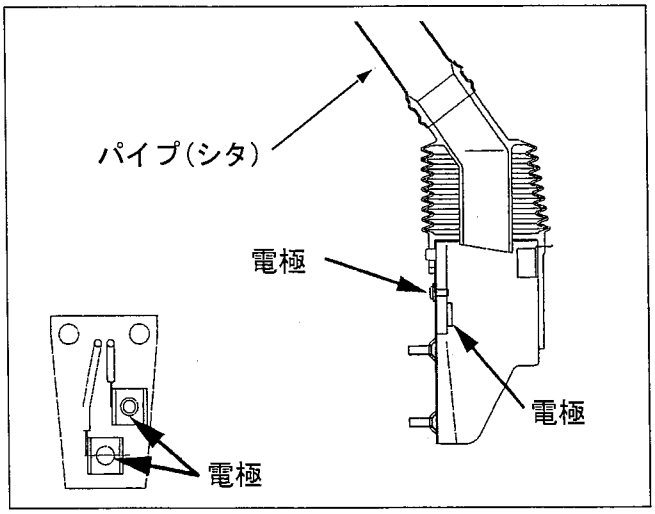
(3)肥料の補給のしかた

肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて、 施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーがなります。 警報ブザーが鳴ったときは、 早めに肥料を補給してください。

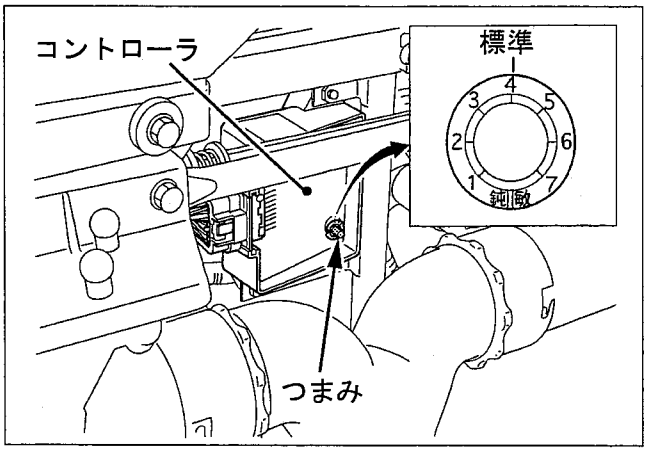
(4)肥料詰まりの予知センサについて

①肥料詰まり予知センサは、 作溝器内に泥水や小粒肥料、 肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。 センサがはたらくと、 施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーがなります。 警報ブザーが鳴ったときは、 作溝器内の異物を取り除き、 全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。

- 肥料詰まりの位置は各条の透明な[パイプ(シタ)]を見て、 確認してください。



②深水ほ場で、 苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、 詰まっていないのに警報が鳴るときは、 点検して、 詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを[鈍]側(鈍感)の方向に調節して作業を続けてください。
③乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。 ときどき、 作溝器内を点検してください。
④作溝器内の後側(センサと反対側)に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。
⑤ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。



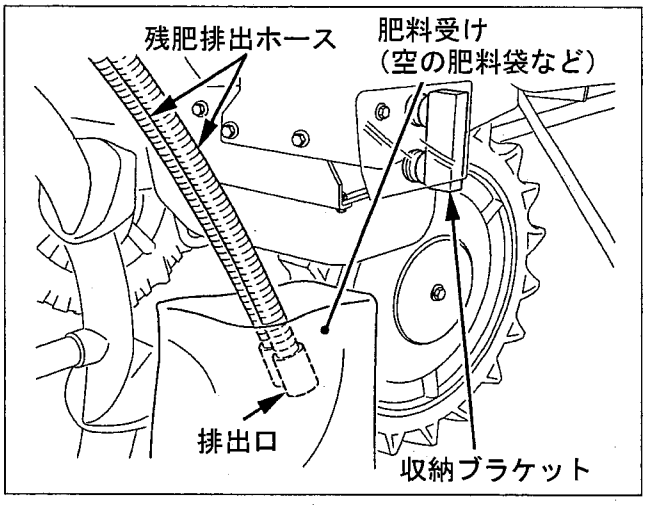
■ホッパ内の肥料の排出のしかた

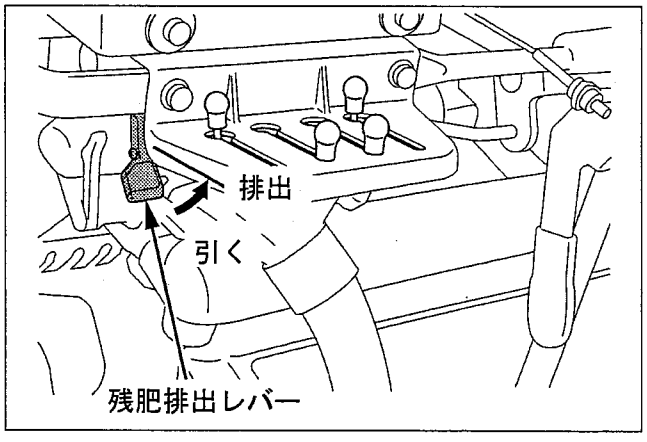
⚠注 意

●平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

(1)エンジンを停止します。
(2)残肥排出ホースを収納ブラケットから取り外します。
(3)肥料受(空の肥料袋など)を準備して残肥排出ホース排出口を入れて排出します。
(4)残肥排出レバーを前方に引く([排出]位置)と同時に肥料が排出されます。

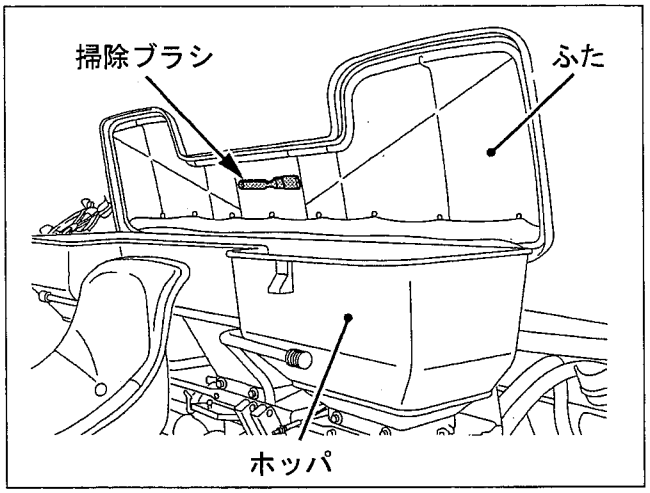
○肥料受け(空の肥料袋など)は残量が入る大きさのものを選んでください。 残肥排出ホース1本から排出される最大量は、 満杯時で22 L(約20 kg)です。 また、 残肥排出ホースは、 左右に各2本あります。
○洗車後などで排出ホース内に水がたまっていることがありますので、 注意してください。
○排出ホースを少し引っ張ってたるみをなくすると、 肥料の流れがよくなります。 このとき、 ホースを強く引っ張りすぎるとホースが継ぎ手から外れる恐れがあります。
○一度排出ホース内で肥料が滞留すると、 肥料の流れが悪くなります。

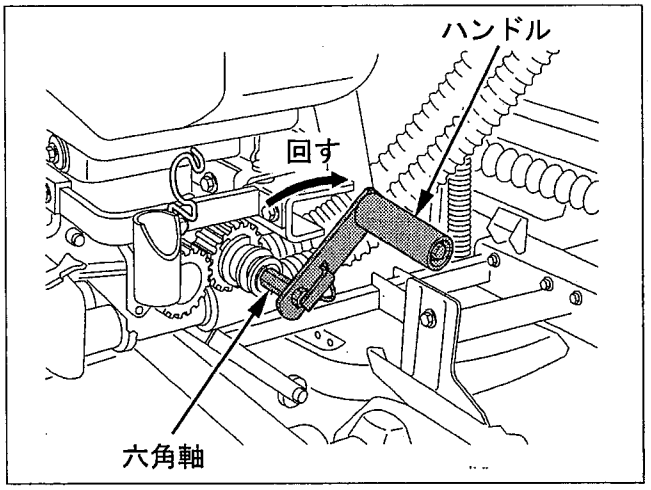


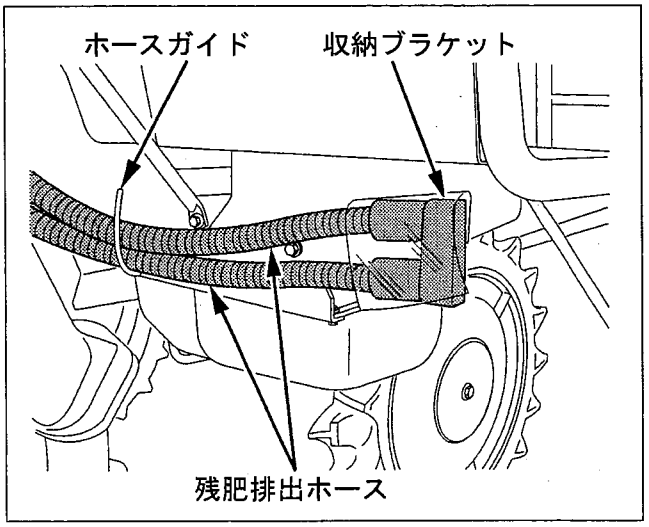


(5)排出が終わるとホッパを開き、 ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取り除き、ネットを取り外して、 付属の掃除ブラシでホッパ、 ロールケース内の掃除をします。
(6)ネットを取り付けた後、 ホッパを閉じて残肥排出レバーを[施肥]位置にします。
(7)エンジンを始動します。
(8)肥料繰出し用の六角軸に繰出し用ハンドルの六角穴を合わせて右回転方向に回し、 ロールケースを回して(76ページ参照)ロール溝に残った肥料を排出します。
(9)排出した肥料の袋の口を閉じたあと、 残肥排出ホースを収納ブラケットに取り付けます。

○掃除ブラシは出荷時、 ホッパのふたの内側に取り付けています。 なくさないように保管してください。
○ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり、 目詰まりの原因となります。
○ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると、 施肥量が変化するなどの異常が発生する恐れがあります。
○ブロワを作動させるため、 植付部を最上昇位置から少し下げて作業してください。
○ホースガイドにホースをのせてください。







重要

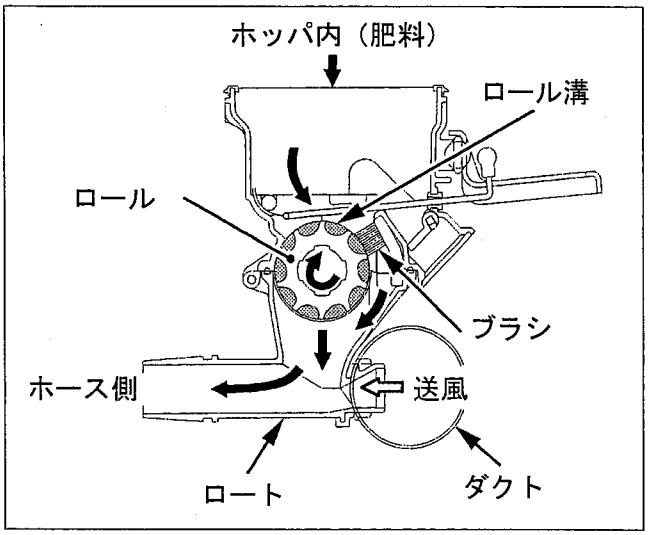
●肥料にはサビを発生させる成分が含まれているため、 1日の作業が終った後は肥料を排出して水洗いを充分行なってください。特に植付部、 エア抜き周辺は必ず行なってください。

施肥量の調節

使用する肥料により施肥(繰出し)量が異なることがありますので、 肥料を入れる前によく確認してから調節を行ってください。

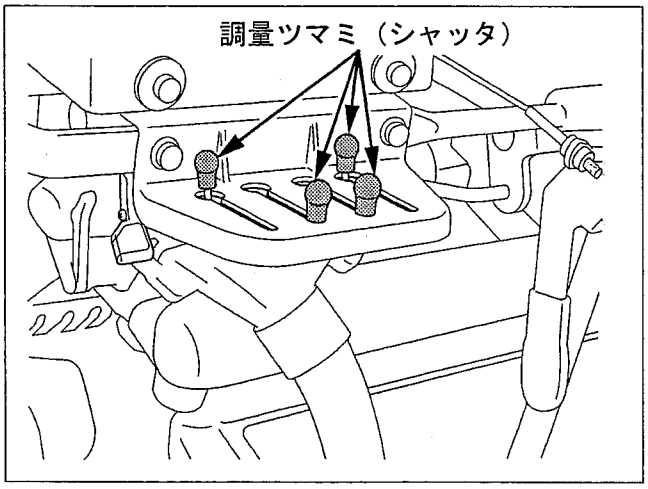
■肥料の流れ

(1)ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
(2)ロールケース内のロール溝に肥料が入ります。
(3)ロールが回転し、 肥料が落ちます。
(4)ブロワからの送風により、 ロートからホースを通り、 作溝器から排出されます。



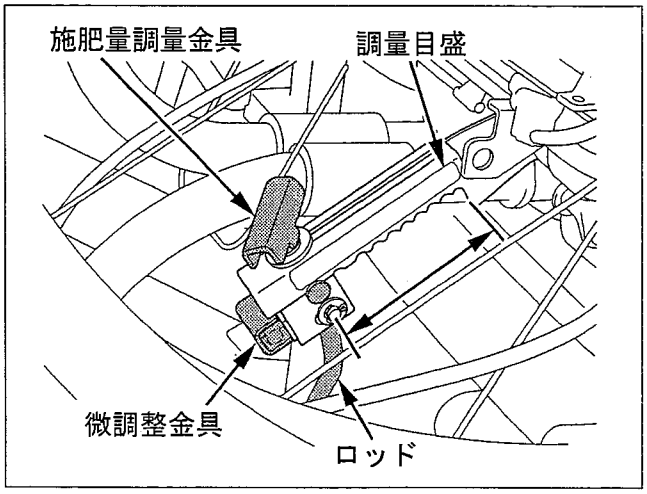
■施肥量調節のしかた

本機で調節できる施肥量(肥料の繰出し量)は、10～80 kg /10a です。 目標とする施肥量に調節するには、 調量ツマミの調節で2段階(範囲 ： 20～50 kg /10a[**標準**]・ 50～80 kg /10a[**多い**]) と調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組み替え(範囲 ： 10～20 kg /10a[**少ない**])でいずれかの範囲内に調節し、 繰出しテストを行なったあと、 施肥量調量金具の調節を行なってください。



(1)平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。
(2)施肥量(10a 当りに播く量)を決めます。
※[例]チッソ成分 12%(成分 12-17-13)のとき、 チッソ成分で 3.0 kg /10a 施肥すると計算では、 3.0(kg /10a)÷ 12(%)× 100 ＝ 25(kg /10a)となり、 施肥量(製品重さ)は 10a 当り 25 kg となります。
(3)調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッドの組み替えで目標とする施肥量の範囲に調節します。

○出荷時の調量ツマミと肥料繰出し六角駆動ロッドの位置は、 一般的に多く使用される範囲の20～50 kg /10a です。 また、 調量ツマミの調節は、 施肥量が50～80 kg /10a のとき又は、 1条分の繰出しを停止するときに行なってください。



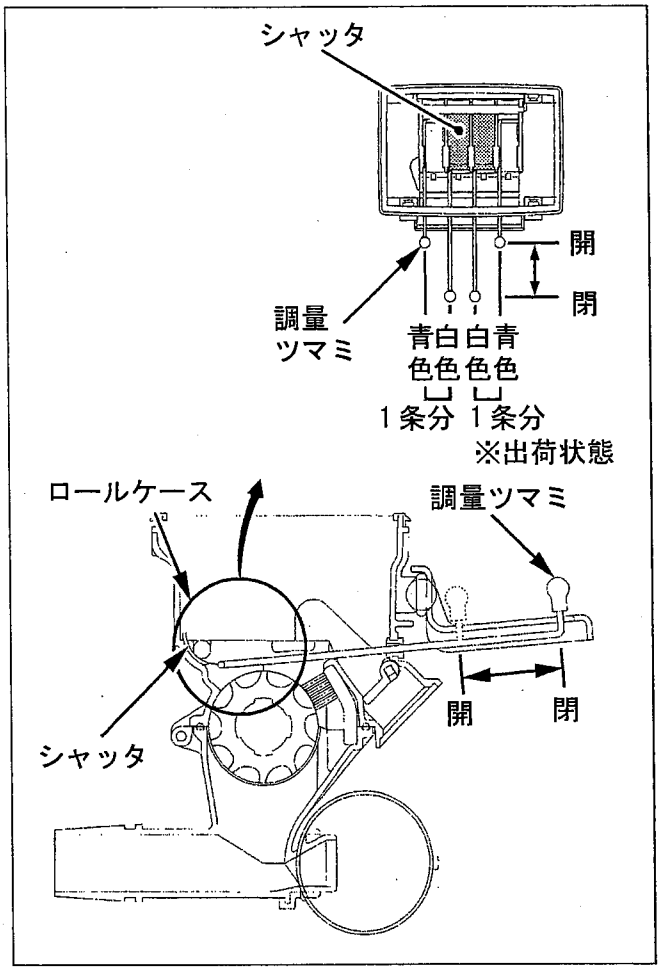
●調量ツマミ

調量ツマミの調節は、 ツマミを押し引きすることによりロールケースのシャッタが開閉し、 繰出し範囲が決まります。 シャッタは調量ツマミを押している状態が[開]、 引いている状態が[閉]です。

○調量ツマミは必ずいっぱいまで押し引きしてください。 設定した施肥量が出なくなる場合があります。

○ホッパ内に肥料があるときにツマミを押し引きするとホッパ内が空のときよりも重くなります。

○調量ツマミはまっすぐ押し引きしてください。



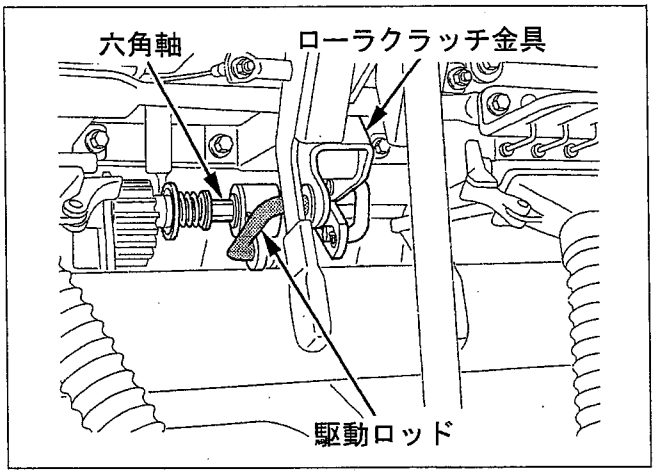
●肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更

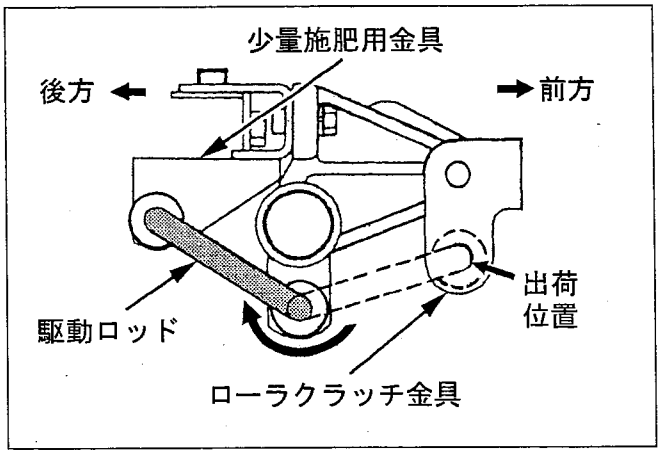
(10～20 kg /10a 範囲のみ)

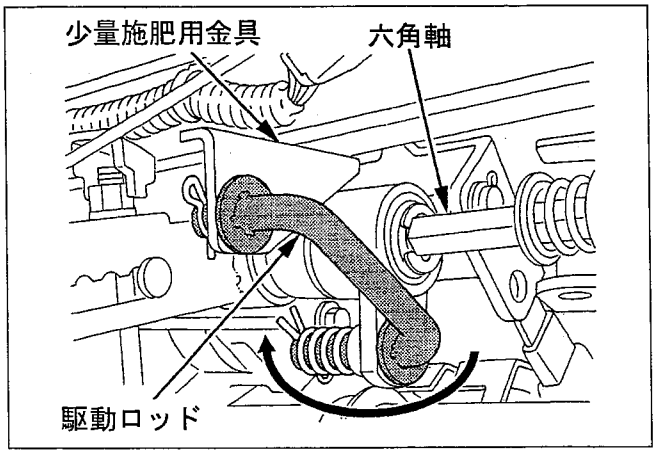
少量施肥(10～20 kg /10a の範囲内)のときは、 肥料を繰出すときに六角軸を回転させる駆動ロッドの取付位置の変更を行なってください。

①ローラクラッチ金具に取り付けている駆動ロッドのスナップピンを取り外し、 駆動ロッドをローラクラッチ金具から外します。

②取り外した駆動ロッドを後方に動かして、少量施肥用の金具に取り付けたあと、 駆動ロッドにスナップピンを取り付けます。

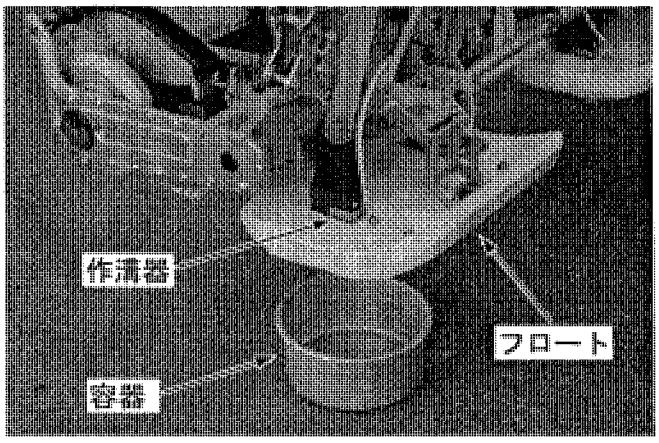


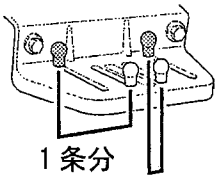
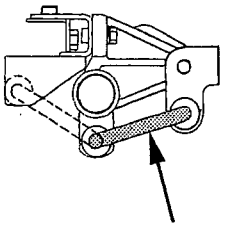
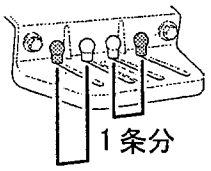
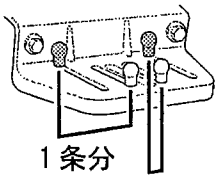
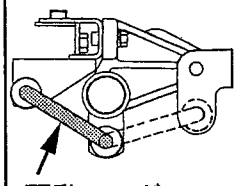
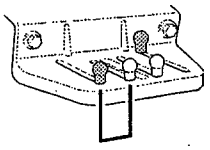


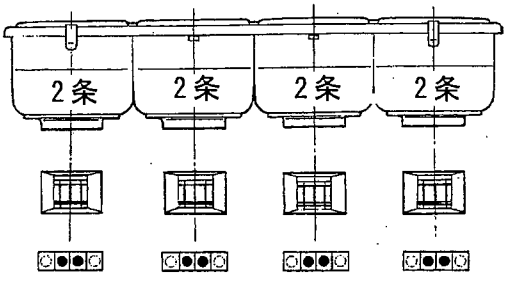


●調量ツマミと駆動ロッドの位置は、 右表を参照してください。 例えば施肥量が 25 kg / 10a のときは、 20 ～ 50 kg /10a、 60 kg / 10a のときは、 50 ～ 80 kg /10a、 15 kg / 10a のときは、 10 ～ 20 kg /10a に調節してください。
○必ず全条とも同じ調節に設定してください。

(4)繰出しテストを行ないます。
①肥料を全条のホッパにいれます。
②エンジンを始動し、 植付部を上昇させます。
③油圧ロックレバーを[閉]位置にします。
④植付クラッチレバーを[下]位置にします。
⑤油圧ロックレバーをゆっくり[開]位置にして植付部を地面から約 30 ～ 40 cmの位置まで降ろしたあと、[閉]位置にして油圧をロックします。
⑥エンジンを停止します。
⑦肥料を受ける容器の重量を測ったあと、作溝器の下側に全条分置きます。
○容器が全条分ないときは、 1植付部分の2個だけ置き、 測定箇所以外のあぜぎわクラッチを全て切ってください。
⑧エンジンを始動します。
○ブロワが回転していることを確認してください。 また、 ホースやダクトが正しく組み付けられているか確認してください。

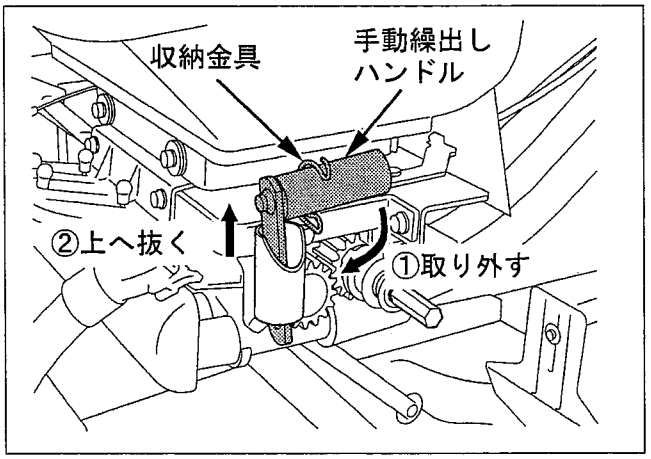


範囲 (kg/10a)	調量ツマミ位置	駆動ロッド位置
20～50	 1条分 1条分 ※出荷位置	 駆動ロッド ※出荷位置
50～80	 1条分 1条分	
10～20	 1条分 1条分 ※出荷位置	 駆動ロッド
0 (停止)	 1条分停止	—



[例] 20 ～ 50 kg /10a のとき（出荷状態）
（全条とも同じ調節にする）

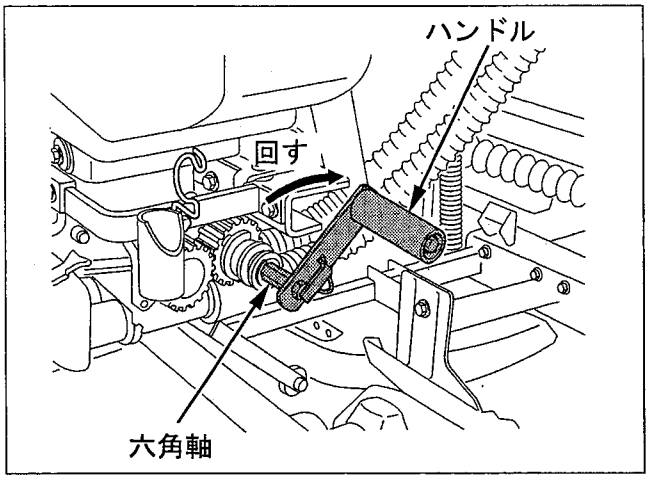
⑨手動繰出し用のハンドルを収納金具から取り外します。
⑩繰出し用の六角軸にハンドルの六角穴を合わせます。
⑪ハンドルを右回転方向(矢印方向)に**10回転**させて、容器に肥料を繰出します。このとき、目安として8～10秒間でハンドルを10回転させます。
⑫各条ごと重量を測定し、測定した重量から容器の重量を差し引くと、繰出した肥料の重量となります。
⑬実際に測った繰出し量と調量ツマミの位置の標準値と比較します。



●10回転繰出し量の標準値

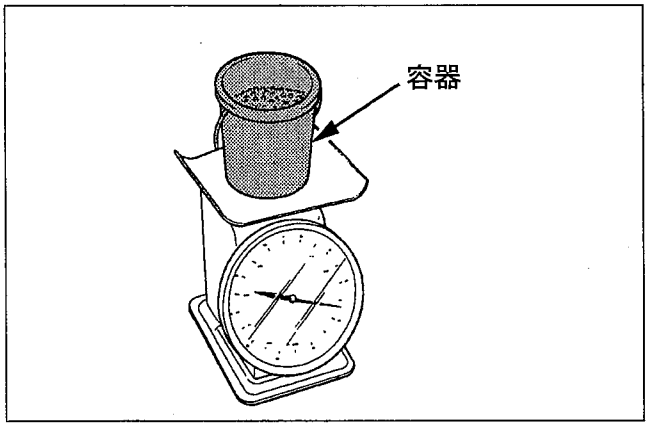
調量ツマミの設定位置	標準値
20～50kg/10a［標準］	100ｇ/10回転
10～20kg/10a［少ない］	100ｇ/10回転
50～80kg/10a［多い］	200ｇ/10回転

○使用する肥料により標準値と実際の繰出し量に極端に差があるときは、調量金具で調節してください。
○調量ツマミの設定位置により10回転後の繰出し量は異なります。

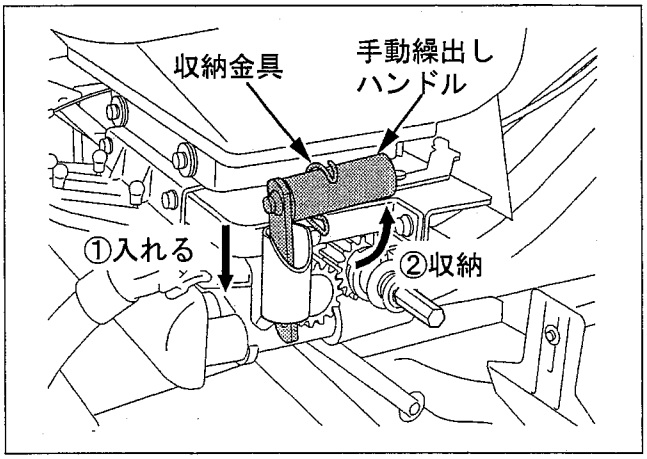


●調量ツマミの設定位置が20～50kg/10aの場合

標準値	実測値	施肥量調量金具で調節
100g	90g (1割少ない)	調量目盛を1目盛分多くする。
	110g (1割多い)	調量目盛を1目盛分少なくする。



○実際の施肥量は、ほ場条件などにより車輪のスリップで変化することがありますので、施肥作業を実際行ない再調整してください。
⑭収納パイプにハンドル先端を入れ、ハンドルのグリップ部をロック金具に押し込んで収納します。



重要

●ハンドルが六角軸に取り付けられた状態で機械を動かすと、ハンドルが回転して破損の原因になります。
●ハンドルはなくさないようにしてください。

(5)施肥量調量金具を調節して施肥量を設定します。

［例］ 施肥量25kg/10aの場合

①施肥量調量金具をゆるめます。

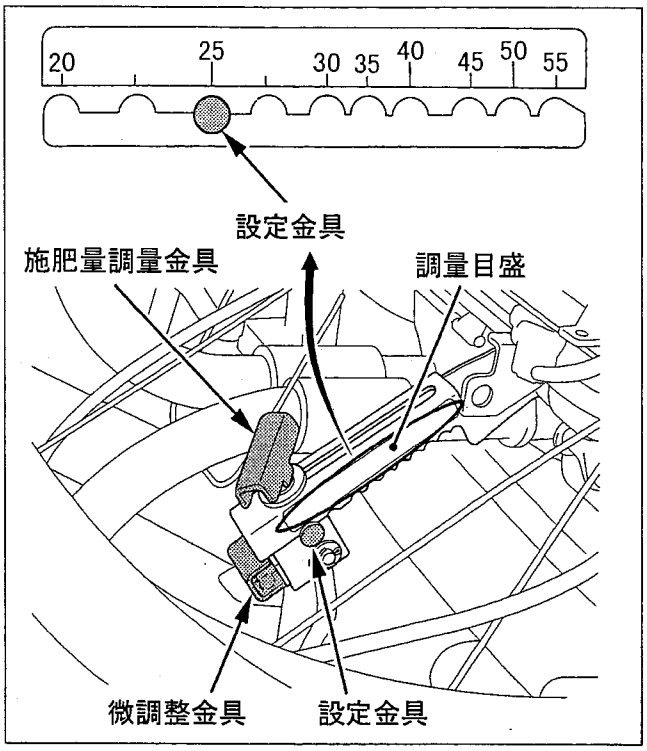
②調量目盛の[25]のところに設定金具を合わせます。

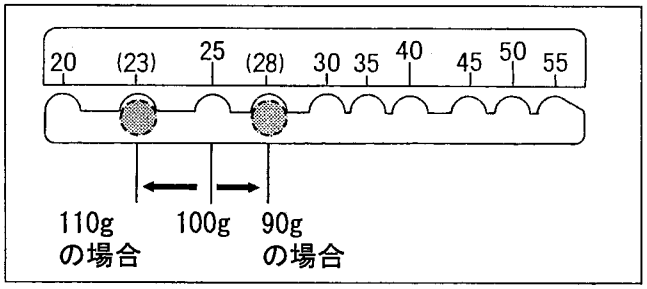
③調量金具を締め付けます。

○出荷時は[20]の位置です。

○(4)の⑫の工程で、 肥料条件により実測値が標準値の100gに対し1割少ない(90g)ときは[25]の位置から1目盛分多く([28])し、 逆に1割多い(110g)ときは、 1目盛り分少なく([23])してください。

○施肥量が変化する恐れがあるので施肥量調量金具をしっかりと締め付けてください。





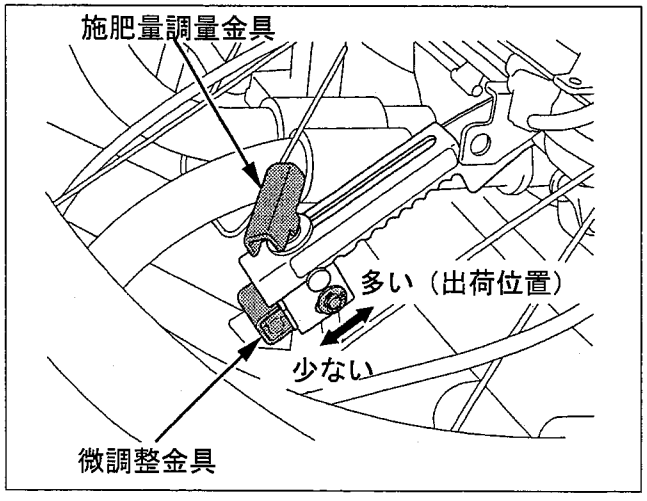
●微調整の方法

施肥量を1目盛りより少なく調節したいときは、 微調整金具で調整してください。

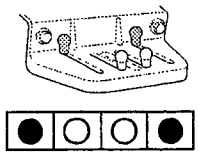
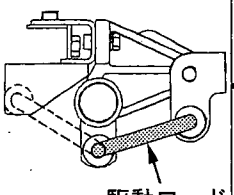
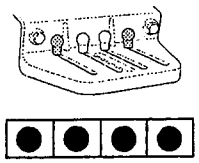
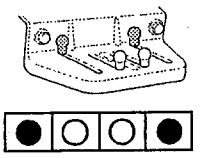
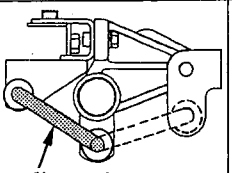
①施肥量調量金具をゆるめます。

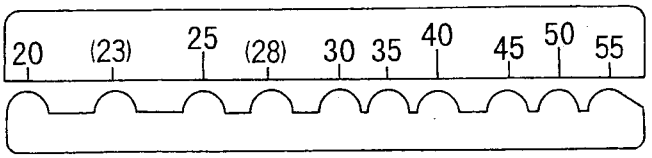
②微調整金具を回し、 少ない方へピンの位置をずらしてください。

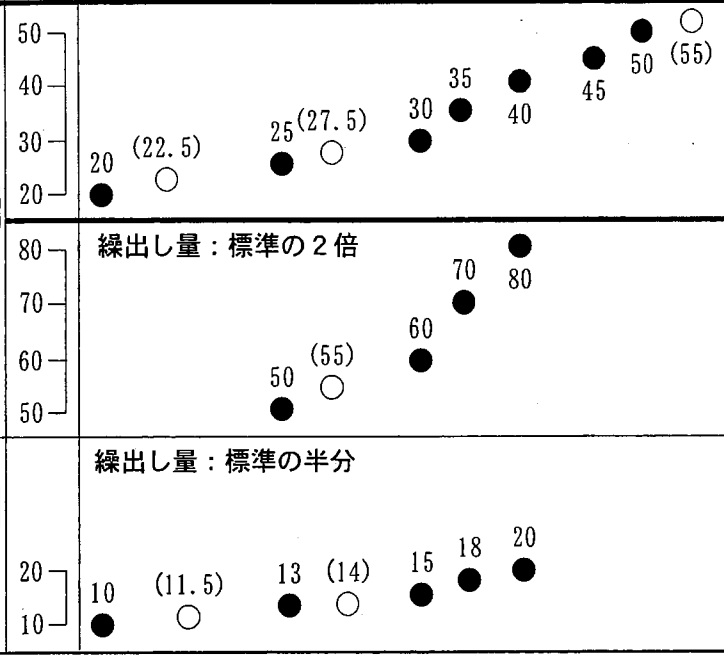
○設定金具の位置、 施肥量範囲によって減り量が異なります。



(6)繰出し量目安一覧表

<table>
<tr><td colspan="2">施肥量 (kg/10a)
調量ツマミ設定位置 ●：開・○：閉
駆動ロッド位置</td><td>調量目盛 (kg)
※数値は施肥量（kg/10a）</td></tr>
<tr><td>20～50
(標準)</td><td>標準位置（出荷時）
</td><td>
駆動ロッド
※出荷位置</td></tr>
<tr><td>50～80
(多い)</td><td></td><td>繰出し量：標準の２倍</td></tr>
<tr><td>10～20
(少ない)</td><td>標準位置（出荷時）
</td><td>
駆動ロッド</td><td>繰出し量：標準の半分</td></tr>
</table>





重要

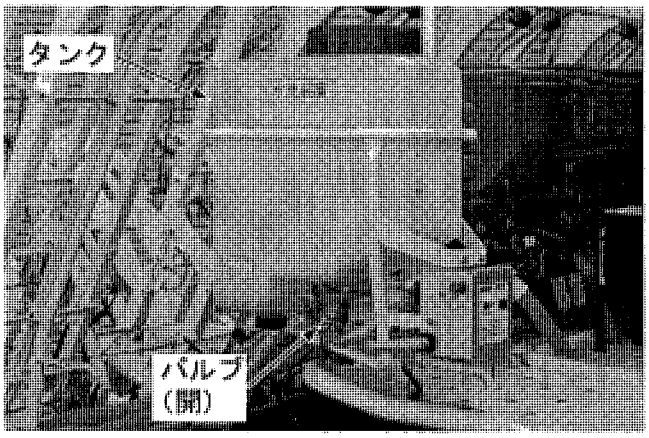
●肥料の種類により、 繰出し量が異なる場合がありますので、 実際に繰出しテストまたは、 施肥作業を行なって、 目標とする施肥量に調節してください。

水洗装置の使用方法

重要

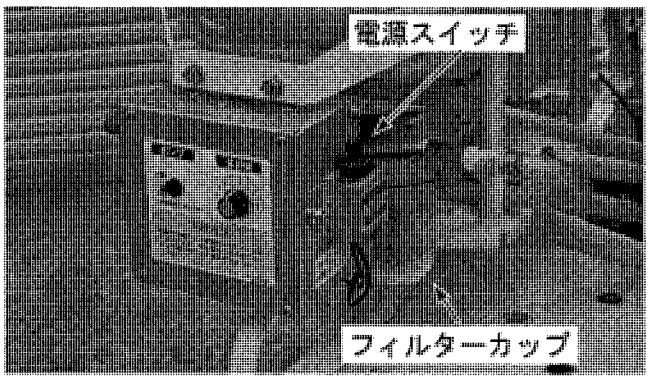
●水洗装置は田植機の苗のせ台･苗受･ロック板･コンベアベルトなどに泥が堆積して植付不調となることを防止するための装置ですが、 散水量は少量であることから、 苗の水分が不足している場合には充分な効果が得られない場合があります。 苗･ポットに充分水が浸透している状態で使用したとき、 少量の水を補給することによって泥の堆積を最小限にすることができます。 苗は必ずしっかり濡らしてから使用してください。
●タンク入口にこし網とポンプ入口に高性能なろ過フィルターを設けて水中のゴミを除くようにしておりますが、 タンクに入れて使用する水は水道水、 またはできるだけ清浄な水路の水を使用してください。 ひどくにごった水、 ゴミの多い水、 化学物質を含んだ水を使用すると、 フィルター、 散水管の目詰まり、 内部の腐食などをおこす恐れがあります。
●電源スイッチを[入]にしておけば、 田植作業に伴い自動的にポンプが作動します(植付クラッチが[切]の時は作動しません)ので枕地旋回、苗補給の時もスイッチを切る必要はありません。

(1)左右両側のタンクに水道水、または清浄な水路水を入れます。
○タンク容量は左右合わせて48リットル入り、 調量ダイヤルの位置、植付速度によって約50～200 a程度使用できます。

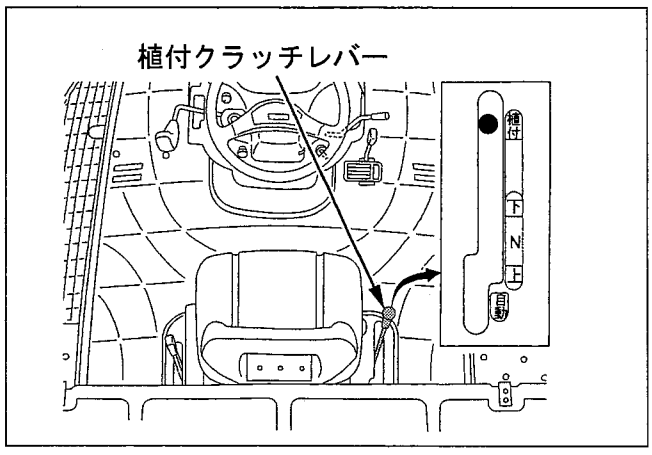


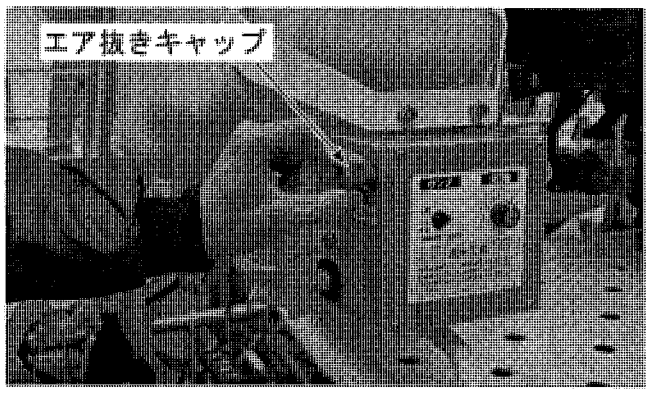
(2)右側タンク下部のバルブを[開]にし、フィルターカップをゆるめて、水が溢れてきたら、しっかりと締め付けます。

(3)ポンプケースのエア抜きキャップをゆるめて穴から水が出るようにします。

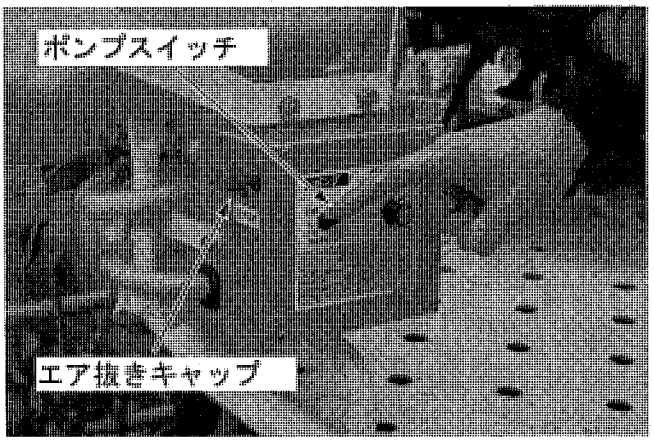


(4)田植機のメインスイッチを[入]、植付クラッチレバーを[植付]、電源スイッチを[入]にします。





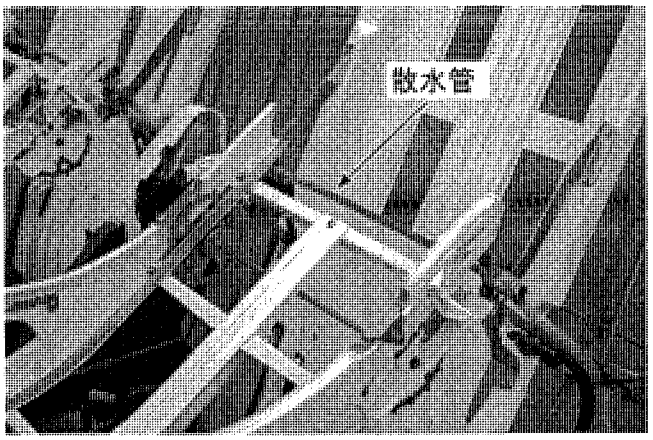
(5)ポンプケースＡＹのポンプスイッチを[手動]にし、エア抜きの穴から勢いよく連続して水が出て、完全にエア抜きができた事を確認してポンプスイッチを[自動]に戻します。



(6)エア抜きキャップをしっかりと締め付けた後、再度ポンプスイッチを[手動]にして散水管まで水を送ります。

【注】ポンプの連続運転は５分以内にしてください。さらに続ける場合は、５分以上休んでから再開してください。

(7)各植付部の散水管から安定して水が出る様になれば準備完了です。



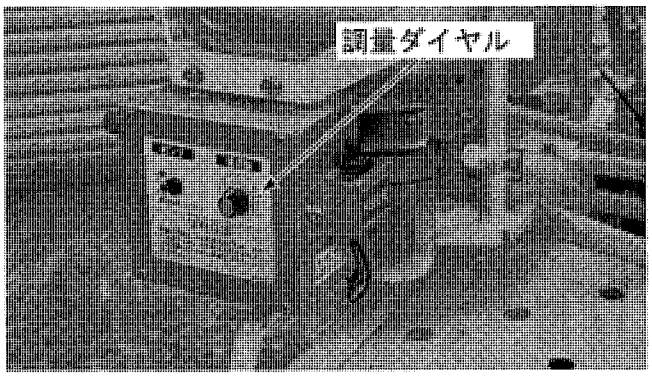
(8)調量ダイヤルを調節して適当な位置で使用します。

ダイヤル左端［1］のとき……

ポンプが0.5秒作動し6秒停止します

ダイヤル右端［5］のとき……

ポンプが2秒作動し6秒停止します



○タンク容量は左右合わせて48リットル入り、調量ダイヤルの位置、植付速度によって約50～200ａ程度使用できます。

○タンクに水のない状態での空運転は絶対に避け、水が少なくなったら早めに補給するようにしてください。

空運転を続けるとポンプが破損する恐れがあります。

メインパネルによる異常と処置

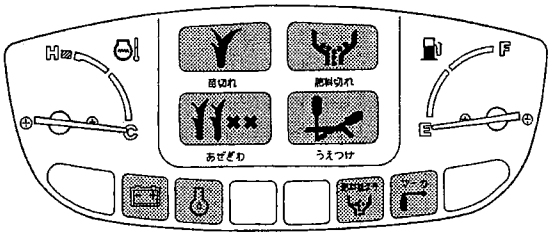
⚠警告

●エンジン周りの点検や処置を行なうときは、エンジンを必ず止めてください。

⚠注意

●エンジン停止直後はエンジンにさわったりラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
●取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。
●苗や肥料を補給するときは、走行を停止して行なってください。

ブザーがなり、メインパネル内のランプが点灯又は点滅したときや計器が異常を示したときは、下表の処置を行なってください。



メインパネル

ランプ・計器	警報			現象	処置	参照ページ
	ランプ表示		ブザー			
	メインパネル	マスコット				
充電ランプ(バッテリ)	点灯	—	—	●バッテリに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… **バッテリあがりとなり、エンジンの始動ができなくなります。**	●発電装置が異常を起こしていますので、購入先へ連絡してください。	—
油圧ランプ(オイル)	点灯	—	—	●エンジンのオイル圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… **エンジンが動かなくなります。**	●エンジンを停止後、オイル量の点検と処置をします。 ●エンジンが焼付きを起こしていますので、購入先へ連絡してください。	38 —
水温計	—	—	—	指針が上昇し[H]のときは ●水温が上昇しています。 ●そのまま作業を続けると… **オーバーヒートします。**	●エンジンを停止後、30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……リザーブタンクに清水を補給 水もれ……ラジエータ排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め ②ラジエータフィン 汚れ・詰まり…掃除して取り除く	39 104 101

ランプ・計器	警報			現　象	処　置	参照ページ
	ランプ表示		ブザー			
	メインパネル	マスコット				
植付クラッチモニタ	点滅	点滅	—	● 植付クラッチが入っていません。	● 植付クラッチレバーを操作して、[**自動**]で十字ポンパレバーを下側に2回操作または、十字ポンパレバーを下側に1回操作とマーカ操作または、[**植付**]**位置に入れ**ます。	25 26
マーカモニタ	点滅	—	—	● マーカが出ていません。	● 植付クラッチレバーまたは十字ポンパレバーを操作して、マーカを出します。	26
あぜぎわモニタ	点滅			● あぜぎわクラッチが切れています。	● あぜぎわクラッチレバーを[**入**]位置にします。	27
苗切れモニタ	点滅	点滅	断続(8回)	● 苗が残り少なくなっています。	● 苗を補給します。	61
肥料切れモニタ	点滅	点滅	断続(8回)	● 肥料が残り少なくなっています。	● 肥料を補給します。	68
肥料詰まりモニタ	点滅	点滅	断続(8回)	● 肥料が詰まっています。	● 作溝器内を確認してセンサに付着している異物を取り除きます。また、異物がないときは、コントローラ(感度調整用)を調整します。	73 74

重要

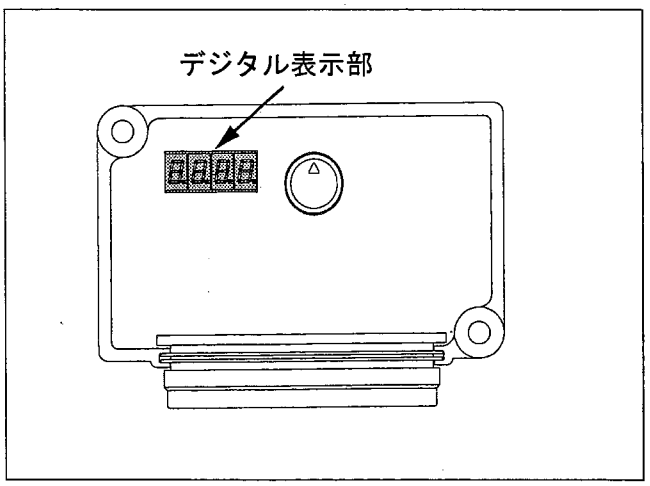
●処置したあとに異常が直らないときは、 購入先へ連絡してください。

○警報ランプは、 異常を処置すると消灯します。
○警報ブザーは断続で**8回**鳴りますが、 警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは、 そのときから断続で8回ブザーが鳴ります。
○警報ブザーが鳴り終わったあと、 警報モニタのランプが**点滅中**に主変速レバーを[**後進**]位置にすると、 バックブザーが鳴ります。 そのあと、 主変速レバーを[N]位置にすると警報(異常)確認のため、 警報ブザーが再度8回鳴ります。

コントローラ(自己診断)による異常と処置

⚠警告
●点検や処置を行なうときは、エンジンを必ず止めてください。

⚠注意
●取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。



コントローラは、 機体に異常が発生したときに、 故障を未然に防ぐためマイコンが判断して自動装置のはたらきを制御しています。
自動装置が停止しても作業は行なえますが、 作業終了後は、 購入先に下記表示内容を連絡して処置してください。
コントローラによる異常に気づかないことがありますので、 作業前、 後に運転席下部のゴムキャップを外してコントローラのデジタル表示部を確認してください。

表示内容 デジタル表示	異 常 内 容	異常個所	処 置
E001	植付部の自動水平制御がはたらかない(モンローがはたらかない。)	ローリングセンサまたは、配線	購入先に連絡してください。
E002	泥押しまたは、植付姿勢の悪い状態が続く。(フィットセンサがはたらかない。)	フロートセンサまたは、配線	購入先に連絡してください。
E003	ピッチングセンサ(オートフロート)がはたらかない。	ピッチングセンサまたは、配線	フィットセンサで調節してください。また,作業終了後に購入先に連絡してください。
E004	植付クラッチレバーを操作しても植付部が上昇または、下降しない。	植付クラッチレバーセンサまたは、配線	ポンパレバーで操作してください。また,作業終了後に購入先に連絡してください。
E010	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇または、下降しない。	ポンパスイッチ(上昇)または、配線	植付クラッチレバーで操作してください。また,作業終了後に購入先に連絡してください。
E011	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇または、下降しない。	ポンパスイッチ(下降)または、配線	植付クラッチレバーで操作してください。また,作業終了後に購入先に連絡してください。
E012	十字ポンパレバーを操作しても右マーカが下りない。	ポンパスイッチ(マーカ右)または、配線	隣接マーカで作業してください。また,作業終了後に購入先に連絡してください。
E013	十字ポンパレバーを操作しても左マーカが下りない。	ポンパスイッチ(マーカ左)または、配線	隣接マーカで作業してください。また,作業終了後に購入先に連絡してください。
E020	モンロー調節ダイヤルを回しても植付部が傾かない。	モンロー角度調節ボリューム	購入先に連絡してください。
E040	昇降ソレノイドがショートしている。	配線	購入先に連絡してください。
E041	PTOモータがショートしている。	配線	購入先に連絡してください。

点検整備

各部の開閉と脱着のしかた

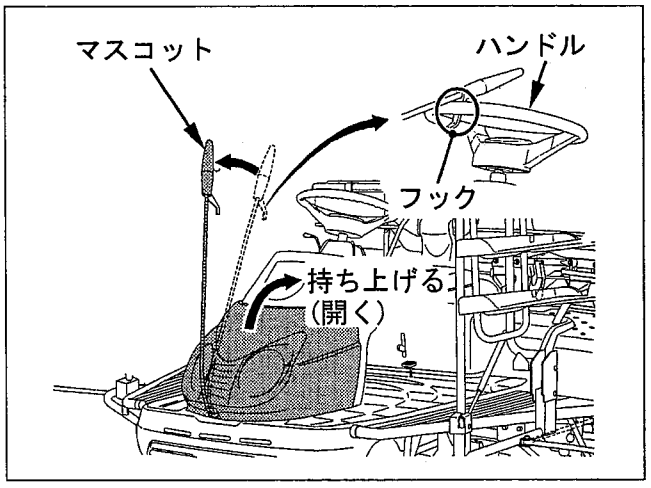
⚠警 告

●平たんで安全な場所で、 エンジンを必ず止めてから行なってください。
●取り外したカバー類は必ず取り付けてください。
●オーバーヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは、 次の手順に従ってください。
①作業を中止する。
②エンジンを約5分間アイドリング回転で運転した後、 エンジンを停止する。
③エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
④点検・整備で内部に触れるときは、 ヤケドの危険性がないことを確認する。
●エンジンが冷えていないとき、 エンジンルームを開けるとラジエータ部、 リザーブタンク部などより熱湯が噴出し、 あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

■ボンネットの開閉

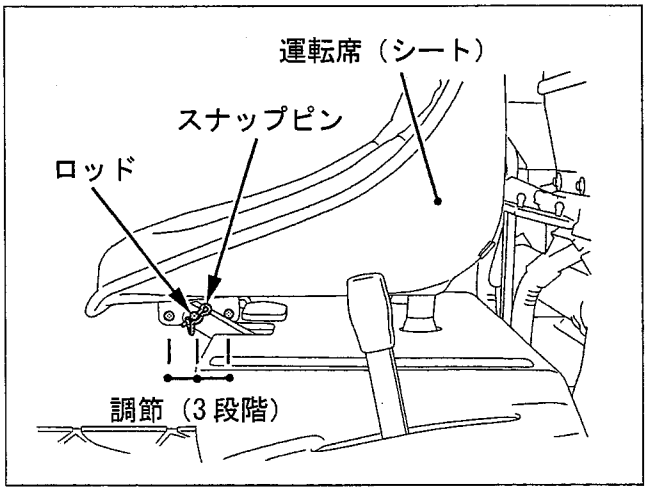
●開け方
マスコットを前方に倒したあと、 持ち上げると開きます。 また、 ボンネットを開いた状態で固定するときは、 ハンドルにマスコットのフックを引っ掛けてください。

●閉じ方
ハンドルからマスコットのフックを外したあと、 閉じます。 閉じたときは、 カチッと音がします。 このとき、 ボンネット後のフックをボンネットウシロに差し込んでください。



■運転席下カバーの脱着

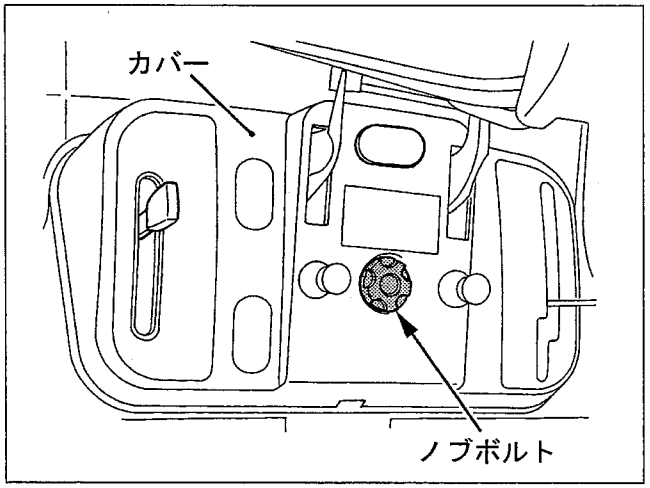
●取り外しかた
①スナップピンを取り外し、 ロッドを抜いたあと運転席(シート)を取り外します。



②ノブボルトを回して、 副変速 ・ 油圧ロックレバーとカバーガイド部の引っ掛かりに注意しながら、 カバーを外します。

●取り付けかた

①取り外しかたの逆の手順で取り付けてください。



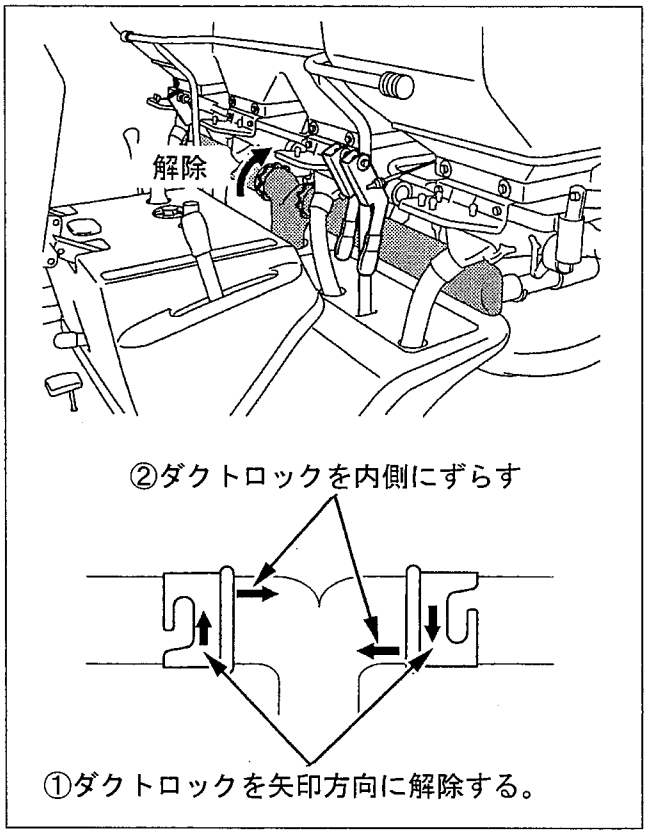
■ロール・ブラシの取り付け・取り外し

●外しかた

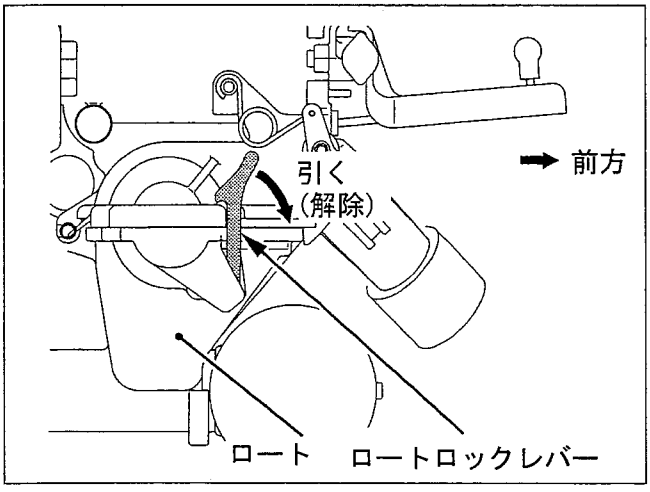
①ホッパ内の肥料を空の状態にします。 またはシャッタを全条閉めます。

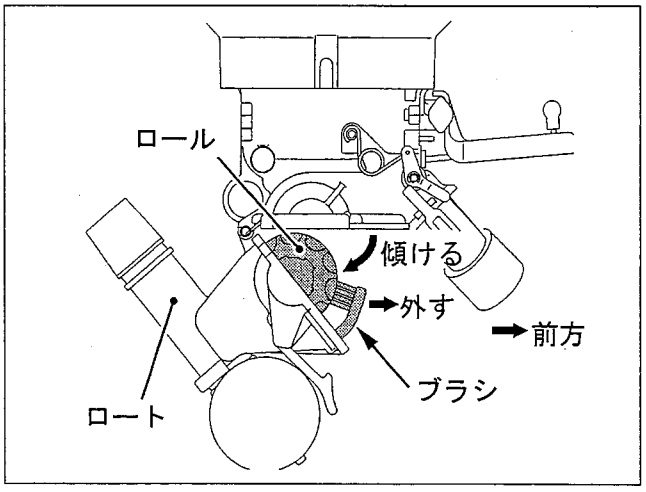
②ダクトロックを解除して、 ダクトロックを内側にずらします。

③左右４箇所のロートロックレバーを引き、ロックを解除します。



④ロートを右図のように傾けてブラシ、ロールを取り出します。





●取り付けかた

①ロートにロールとブラシを取り付けます。

②ロートをロールケースに取り付けます。

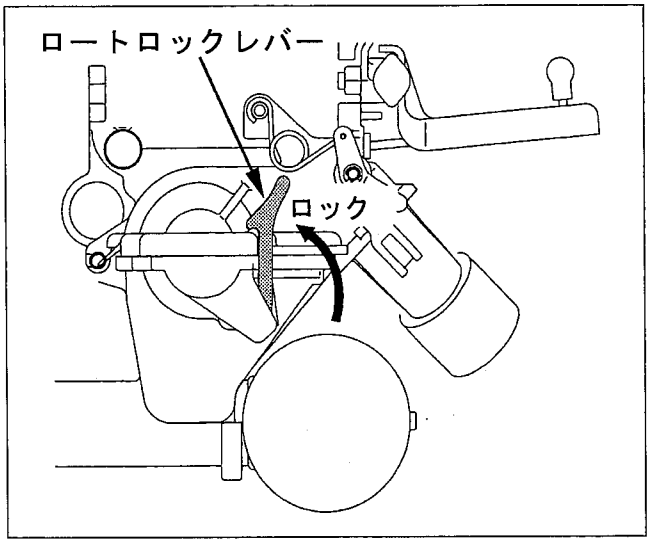
③左右４箇所のロックレバーを上げてロックします。

○ギヤがかみ合わずロールケースがロックできないときは、 ロールを少し動かしてギヤをかみ合わせてください。

○各ロールを取り付けるときは、 それぞれ取り外したところへ必ず取り付けてください。

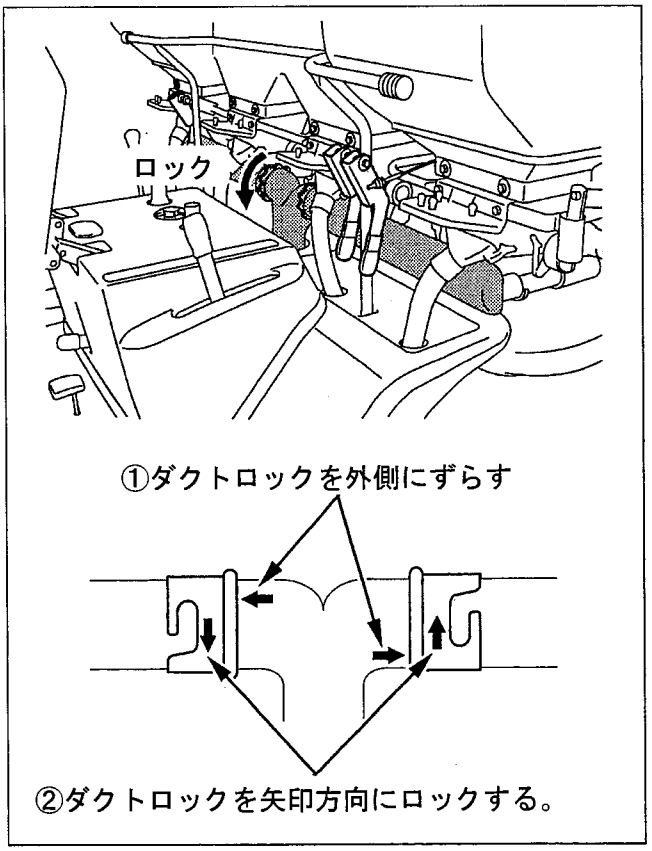
④ダクトロックを外側にずらして、 ロックします。

○組み付け時には各部のロックを必ず行なってください。 エアもれや故障の原因になります。



重要

●中央のダクトがブロワから外れていないか確認してください。



各部の掃除のしかた

⚠警告

- ●エンジンを必ず止めてください。
- ●取り外したり、オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻き込み危険ですので必ず取り付けてください。
- ●植付部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- ●植付部の空運転するときには必ず植付部を上昇させるか、植付部スタンドを使用してください。
- ●オイルがこぼれた場合には、きれいにふき取ってください。
- ●バッテリ、マフラやエンジン、燃料タンク周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取り除いてください。

■掃除のしかた

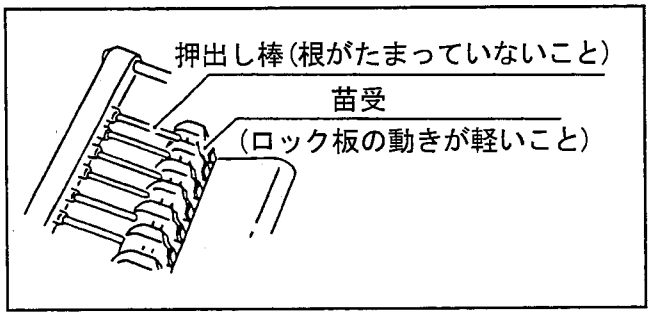
一日の作業が終ったあとは、各部の泥やゴミ、植付部、施肥部の掃除を必ず行なってください。

重要

- ●ボンネット内部や運転席下部の電装品には水をかけないでください。故障の原因となります。
- ●取り外したボルト、ナットは必ず締め付けてください。
- ●植付部、特に苗受、押出し棒、コンベアベルト、ガイド板、苗のせ台、縦送り爪、ストッパー爪等をよく水洗いしてください。
- ●肥料にはサビを発生させる成分が含まれているため、１日の作業が終ったあとは、肥料を排出して水洗いを充分行なってください。特にエア抜き、植付部周辺は必ず行なってください。
- ●施肥機のホッパ内、ロールケース内のロールやブラシ、ロートの肥料を取り除き、湿っているときは、乾いた布などでふき取ってください。
- ●施肥機のシャッタに肥料が付着した状態で長時間放置するとサビが発生したりして破損するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し、掃除を行なってください。
- ●施肥機は水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。
- ●施肥部を高圧水で洗浄しないでください。ゴムのすき間から水が入り、詰まりの原因になります。
- ●施肥部のホッパ、ロールケース、ロート内部を水洗いするときは必ずロートを開き、ロール、ブラシを取り外してブロワ内に水が入らないようにしてください。ブロワ内に水が入ると、モータにサビが発生し、故障するおそれがあります。

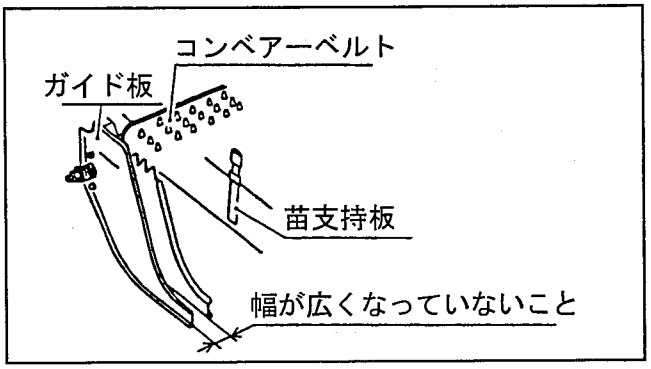
■植付部の水洗いのしかた

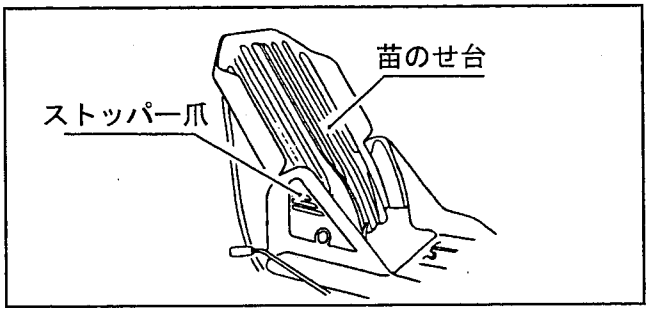
(1)苗受・押出し棒・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪・空箱ガイド等をよく水洗いしてください。
(2)休憩・食事のとき・ほ場をかえるときなどには必ず洗ってください。

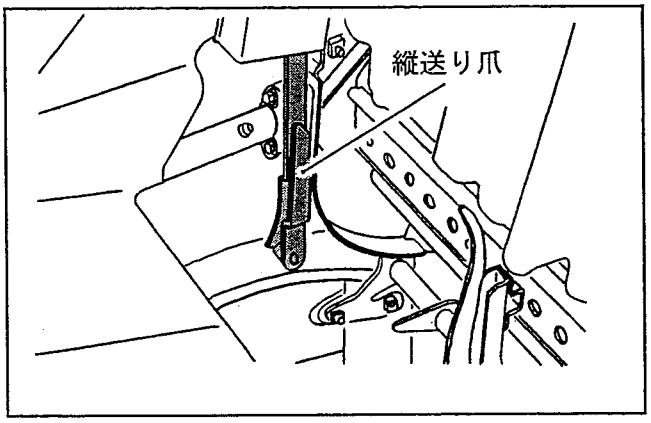


重要

- ●ガイド板に泥 ・ 異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので、 きれいに洗ってください。(変形している場合は修正または交換してください)
- ●苗支持板を変形させないように注意してください。 植付不調になります。







■施肥部の掃除

●水洗いの手順

①ダクトロックを内側にずらします。
(88ページ参照)

②ロートを開き(下側に傾ける)ます。
(88ページ参照)

③水が入り込まないようにビニールなどでT字ダクトの入口をおおいます。

○水洗い後は施肥部(ホッパ、 ロールケース内のロート、 ブラシ、 ダクト)をよく乾燥させてください。 肥料がのこり固着して、 施肥ムラや詰まりの原因になります。

○中央部のロートは、 肥料の粉が特にたまりやすいので必ず掃除してください。 また、 水洗いを行なったときは、 ロート、 ブラシを必ず乾燥させてください。

④ブラシは毛の間にはさまった肥料を取り除き、 お湯で洗ったあと、 水分をふき取り乾燥させてください。 そのとき、 直接太陽光があたらないようにしてください。 ブラシが変形するおそれがあります。

⑤作溝器や詰まりセンサ部の泥や水はよく取り除いてください。

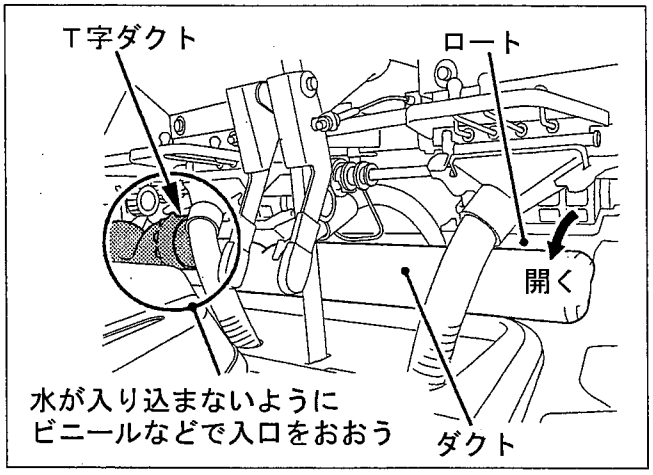
○洗剤の空容器などを利用して水を入れ、電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。(ホース内はぬらさないこと)

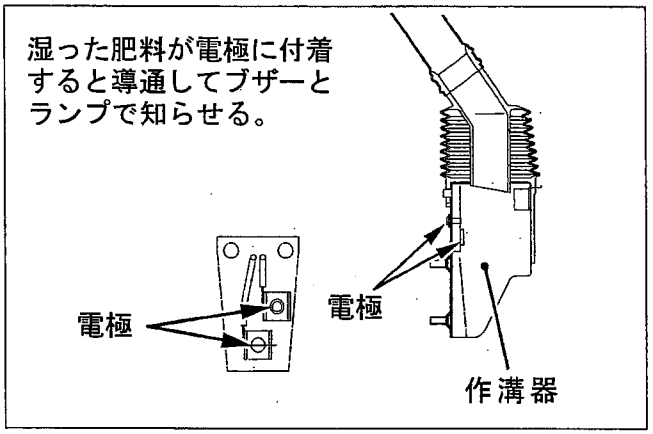
○ホースの中も同時に掃除してください。

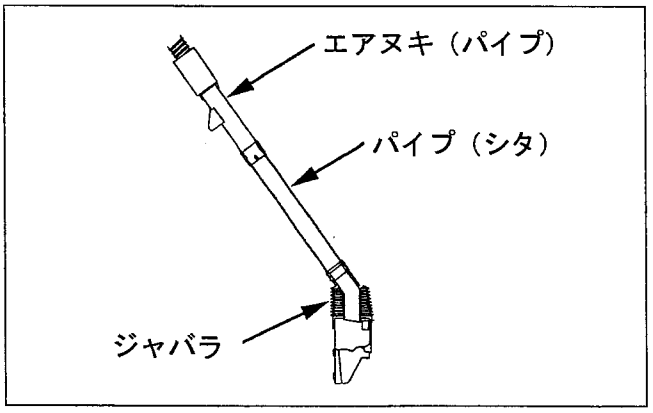
⑥各パイプ(シタ)の掃除をするときは、 エアヌキ(パイプ)、 パイプ(シタ)、 ジャバラをセットした状態で外してください。 掃除が終ったあとは、 必ず取り付けてください。

○エアヌキ(パイプ)、 パイプ(シタ)、 ジャバラを分解しないでください。 破損するおそれがあります。

⑦エア抜きキャップ下側の出口に付着している肥料を取り除いてください。(全条分)







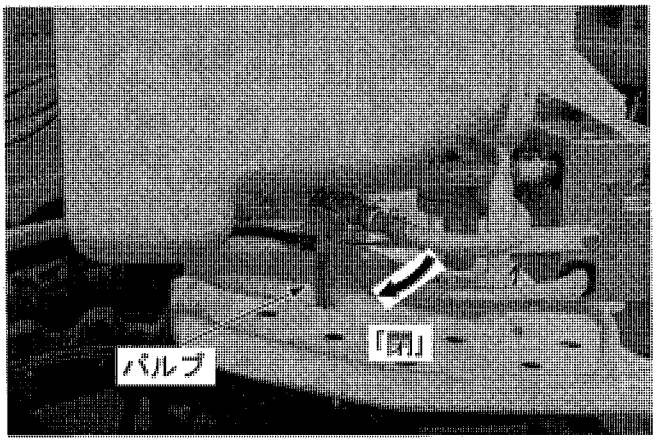
■水洗装置の点検

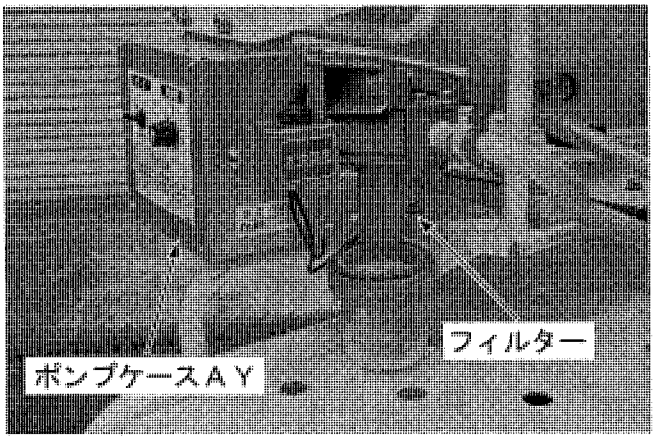
(1)タンクに水があるにもかかわらず水の出が悪くなってきた時は右側タンク下部のバルブを[閉]にしてフィルターのカップを外し、中のフィルターを引き抜いて水でていねいに洗います。
洗浄後は中のフィルターをしっかり奥まで入れ、フィルターカップをしっかり締めてください。

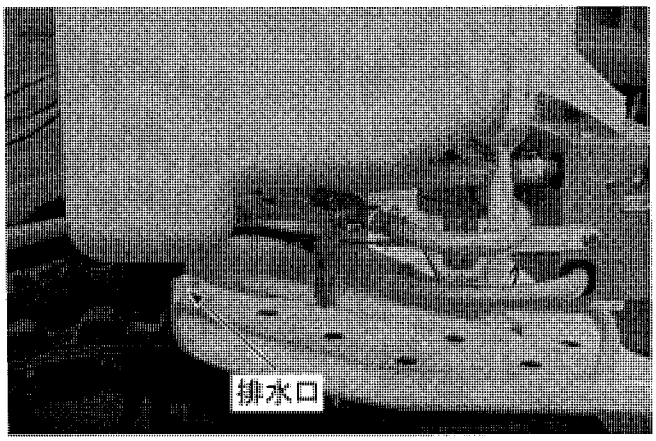
左右両側のタンク内部も点検し、 ゴミが多い時は排水口キャップを外し、タンク内部を洗浄してください。
洗浄後は排水口キャップをしっかり締めてください。

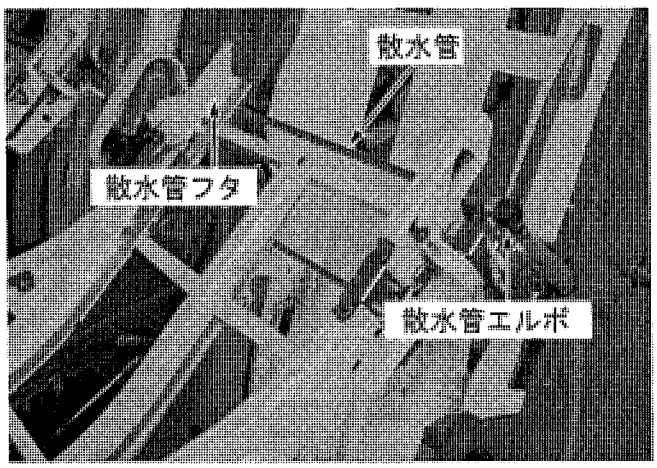
(2)散水管が詰まったときは散水管エルボと散水管フタを外し内部とノズルを洗ってください。洗浄後は元通り取付けてください。

(3)ポンプケースＡＹは電気製品ですので、ケース内部の水は厳禁です。 田植機を洗浄する時は高圧水がかからないように注意し、軽く洗う程度にしてください。









定期点検

定期点検は、 田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植機は、 使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、 その構造や装置の性能が低下します。 これを放置しておくと故障や事故の原因となり、 ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでも充分発揮できるよう、 定期的に点検を行ないましょう。

⚠警 告

- ●各部の点検･調整･交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキをかけエンジンを必ず止めて、 各レバー類を[N]位置にして、 回転部を止めてから作業をしてください。
- ●取り外した回転部のカバー類は、 衣服などが巻き込まれる恐れがありますので、 点検後はカバー類を必ず取り付けてから作業をしてください。
- ●燃料の補給中やバッテリの点検･充電･交換中は火気厳禁。
- ●植付部を上げた状態で作業を行なうときは、 油圧ロックレバーで油圧をロックし、 植付部の下降防止を行なってください。
- ●ボンネットを開けるときは、 内部が充分冷え、 ヤケドの恐れがないことを確認してください。
- ●オイルの補給中は火気厳禁。
- ●燃料やオイルがこぼれたときは、 きれいにふき取ってください。
- ●廃棄物をみだりに捨てたり、 焼却すると、 環境汚染につながり、 法令により処罰されることがあります。
- ●機械から廃油、 廃液を抜く場合は、 容器に受けてください。
- ●地面へのたれ流しや河川、 湖沼、 海洋への投棄はしないでください。
- ●廃油･溶剤･フィルタ･ゴム類･その他の有害物を廃棄、 または焼却するときは、 購入先、 または産業廃棄物処理業者などに相談して、 所定の規則に従って処理してください。

- ●専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、 購入先にご相談ください。
- ●点検･交換の時期は、 使用条件や環境に大きく左右されます。 従ってひとつの目安として早めの点検をお願いします。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、 機械を破損･損傷･故障させることがありますので、 高圧洗車機の取扱説明書･ラベルに従って、 正しく使用してください。

⚠注 意

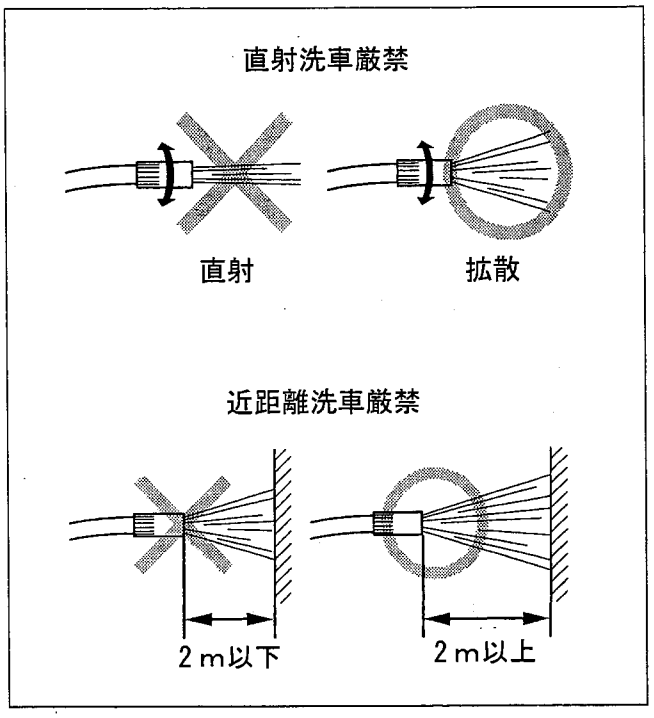
●機械を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1、電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。

2、油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して障害を負う恐れがあります。

3、機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例 ①シール･ラベルの剥がれ
②電装部品、エンジン･ラジエータ室内等への浸水による故障
③タイヤ･オイルシール等のゴム類、樹脂部品、ガラス等の破損
④塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

●コントローラ(マイコン)や電気系統(自動制御関係)の機器や部品
●エンジン本体
●トランスミッションケース
●ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
●油圧系統
●植付部の動力系統

■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期 作業前後	シーズン前後	50時間	150時間	200時間	2年ごと	参照ページ
エンジン部	燃料フィルタポット（燃料フィルタ）	掃除・洗浄		○					102 ☆
	エアクリーナエレメント	掃除	○：50時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除）△：汚れがひどいとき						103 ☆
	点火プラグ	掃除					○		103 ☆
		すき間調整	○：500時間ごと						
	気化器（キャブレタ）	掃除	○：エンジン不調時など						☆
	燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○					37 ☆
	燃料パイプ	バンド締付け	○					△	104 ☆
			（作業前点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの締付けまたは、交換）						
	オイルフィルタカートリッジ	—					△		101 ☆
	ラジエータホース	バンド締付け	○					△	104 ☆
			（作業前点検し、水もれしているときは締付けバンドの締付けまたは、交換）						
	タイミングベルト	張り調整	○：500時間ごと						☆
走行・操作部	ミッションオイルフィルタカートリッジ	—			▲	△			105 ☆
	ミッション駆動ベルト	—	△：磨耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき						104 ☆
	タイヤ	点検	○						106 ☆
			△：8㎜以上磨耗したとき						
	エアタイヤの空気圧	調整	○						106 ☆
植付部	押出し棒、苗受ガイド板、苗支持板縦送り爪植付爪	掃除	○						91 ☆
			△：汚れがひどいとき						
		点検	○						
			△：破損時、磨耗がひどいとき						
施肥部	施肥ブラシ	点検	○						107
			△：磨耗がひどいとき						
	ホース	点検	○						92 ☆
			△：破損時						
	ロート・ロール	掃除	○						107
	駆動部（ワンウエイ）	点検	○						☆
			△：施肥量が極端に少なくなったとき						
電装部	バッテリ	充電	○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど△：バッテリあがり（セルモータが回らないとき）						108 ☆
	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	○						110 ☆
			△：破損時						
	ヒューズ・スローブローヒューズ	—	△：破損時（ヒューズ切れ）						110 ☆
	ランプ（電球）	—	△：破損時（球切れ）						111 ☆

重要

- ●参照ページに☆印のある整備項目の交換については、 購入先に連絡または、 整備工場で行なってください。
- ●前表の時間は目安です。 機械の使用条件や使用環境などによって、 消耗部品の調整や交換時期は異なります。
- ●使用時間については、 コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

■給油・注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前または、作業後	—	●容量 約20	自動車用無鉛ガソリン	37
オイル	エンジン	補給・交換		●初回 …20時間目 ●2回目以降 …200時間ごと	＊規定量 オイルゲージの下限と上限の間	ＡＰＩ分類 ＳＨ級	38
	ミッションケース	補給・交換	作業前または、作業後	●初回 …50時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの下限と上限の間 ●容量…約8.3	新日本石油ファーム ギヤＢ相当品	99
	後車軸	補給・交換	作業前または、作業後	●初回 …50時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの下限と上限の間 ●容量…約4.9		99
	植付ミッション	補給・交換	作業前または、作業後	●1年ごと	＊規定量 各約1.4	ギヤオイル #90	100
	植付中間ケース	補給・交換	作業前または、作業後	●1年ごと	＊規定量 1.2		100
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水	作業前または、作業後	冬期停止期は排出または、不凍液を入れる。	＊規定量 タンク側面の下限と上限の間	清水または、不凍液	39
	バッテリ液		作業シーズン前、後	—	＊規定量 バッテリ側面の下限と上限の間	精製水	108
注油・グリス	各部	補給	適宜		適量	油・グリス	41 ☆

重要

●参照ページに☆印のある整備(分解作業)については、 購入先に連絡してください。
●点検するときは、 機械を平たんな場所において行なってください。 傾いていると正確な量を示しません。
●エンジンオイル量の点検は、 エンジン停止後、 5分以上経過してから行なってください。
●補給や交換の際は、 ゴミや水など異物が混入しないよう注意してください。
●使用時間については、 コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

■燃料･オイルの点検･補給･交換

重要

- ●補給･交換を行なうときは、 機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
  - ○廃油は使用しないでください。
  - ○給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
  - ○使用するオイルは指定のものを使用してください。
- ●点検するときは機体を水平な場所において行なってください。 傾いていると正確な量を示しません。

⚠警 告

- ●燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- ●エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災やヤケドをする恐れがあります。

■燃料の排出

長期格納時や燃料の交換を行なうときは、
燃料タンクのガソリンを排出します。

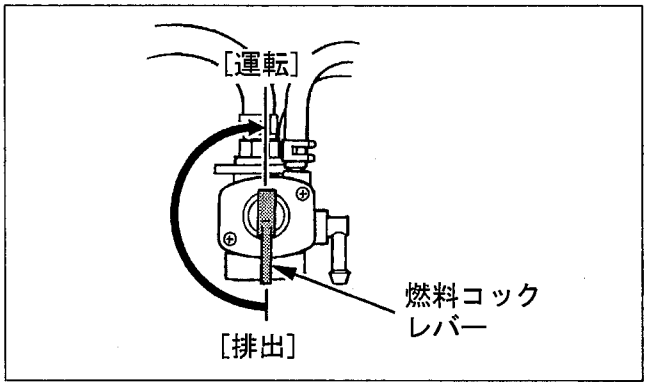
①ガソリンを受けるための鋼製の容器を準備したあと、 燃料フィルタポット内およびキャブレタ内のガソリンを抜きます。
（102ページ参照）

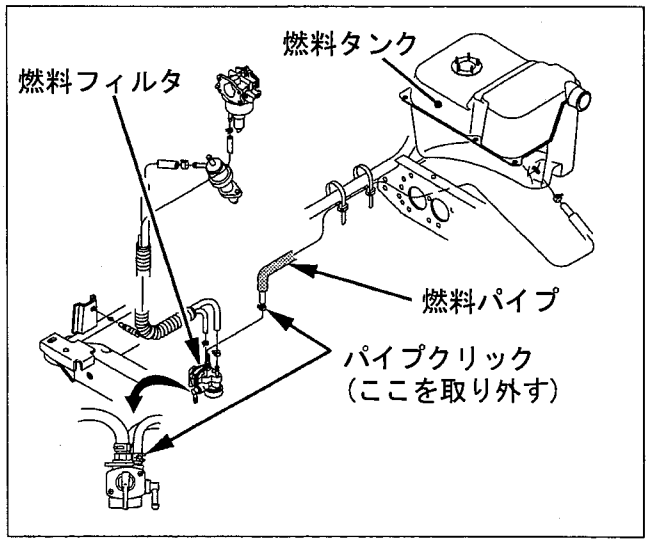
②フィルタポットは取り外したたままの状態で燃料コックレバーを[運転]位置にして燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。

③タンク内のガソリンを完全に抜くために、燃料タンクから燃料フィルタにつながっている燃料フィルタ側のパイプクリップを取り外し、 ガソリンを抜き取ります。

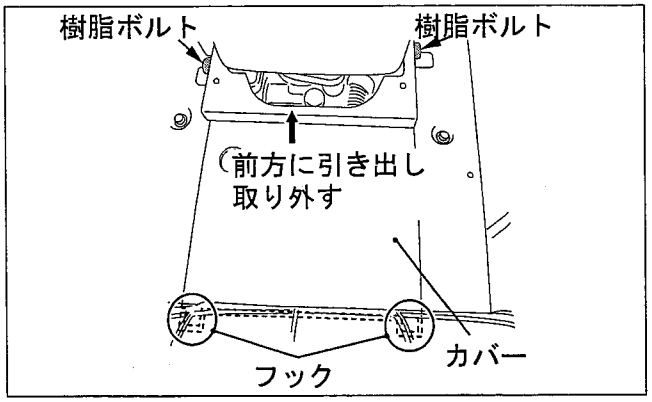
④燃料パイプを取り付けます。

⑤フィルタポットを取り付けます。



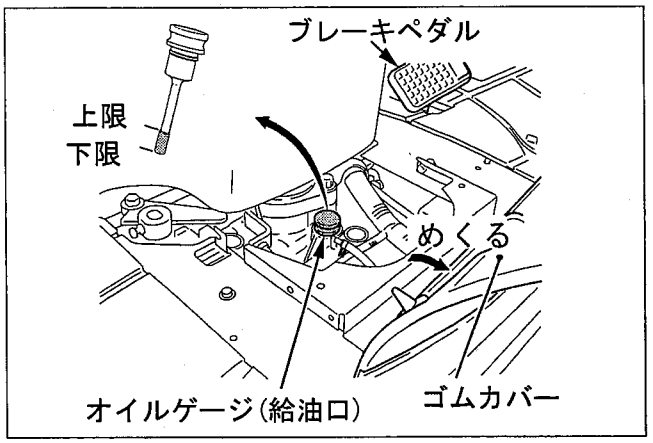


■ミッションオイル



●点検･補給

植付部を下降させたあと、 副変速レバーを[圃場作業]位置にします。 そのあと、 ステップ前方にあるゴムカバーをめくり、 樹脂ボルトを取り外してカバーをいったん前方に引き出し、 フックを外して後方に引きカバーを外します。 オイルゲージを抜いて、 先端をきれいにふき取ります。 もう一度差し込み、 いっぱいまで押し込んでから抜き、 ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。 不足しているときは、 給油口から規定量になるまで給油してください。 さらに、 油もれのないことも調べてください。



●排油のしかた

給油栓を外してから、 排油プラグを外し、 オイルを排出してください。

●給油のしかた

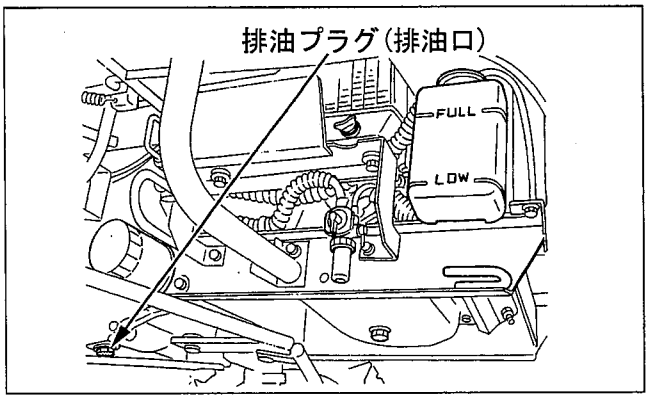
排油プラグを締め付けて、 給油口から規定量のオイルを給油し、 オイルゲージを差し込んでください。

オイルの種類	オイル容量
新日本石油 ファームB　相当品	約　8.3L

重要

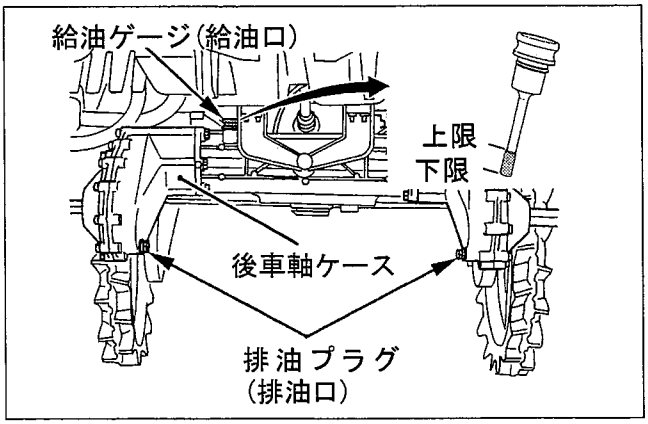
●給油したあとエンジンを約１分回転させて、 再度点検を行ない不足しているときは、 オイルを追加補給してください。

■後車軸ケースオイル



●点検･補給

オイルゲージを抜いて、 先端をきれいにふき取ります。 もう一度差し込んでから抜き、 ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。 不足しているときは、 給油口から規定量になるまで給油してください。 さらに油もれのないことも調べてください。



●排油のしかた

給油栓を外してから、 排油プラグを外し、 オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締め付けて、 給油口から規定量のオイルを給油し、 オイルゲージを差し込んでください。

オイルの種類	オイル容量
新日本石油 ファームB　相当品	約　4.9L

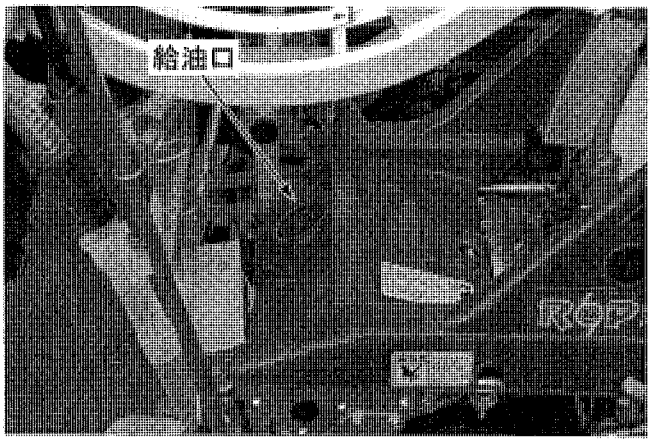
■植付ミッションオイル

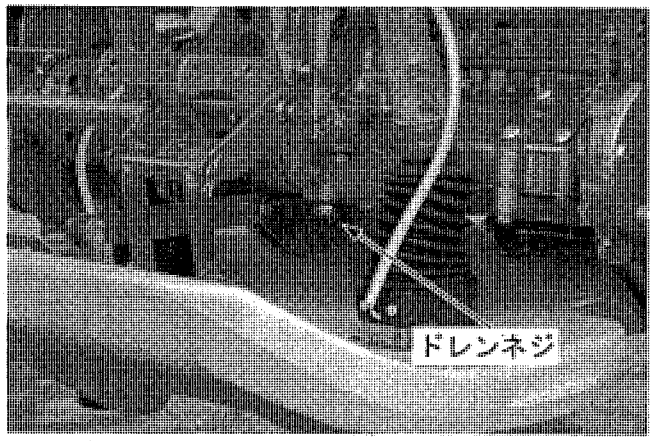
●交換

①ドレンネジを外してオイルを抜いてください。

②ドレンネジを締め付け後、 給油口から規定量給油してください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤオイル　#90	各約　1.4L





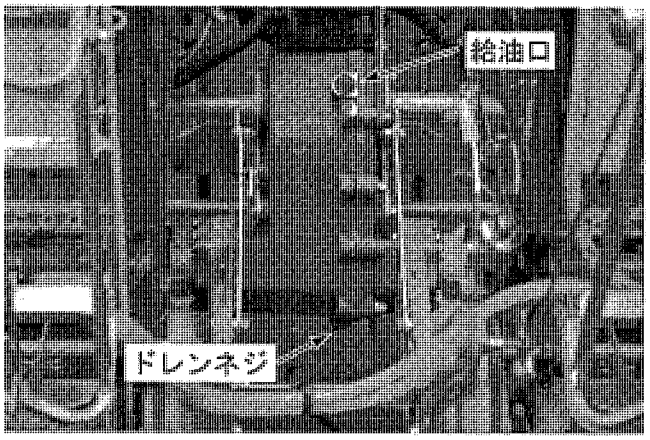
■植付中間ケースオイル

●交換

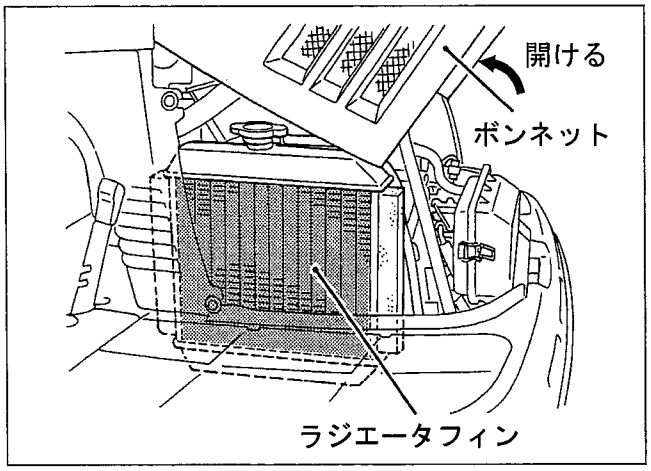
①ドレンネジを外してオイルを抜いてください。

②ドレンネジを締め付け後、 給油口から規定量給油してください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤオイル　#90	約　1.2L



■ラジエータフィンの掃除

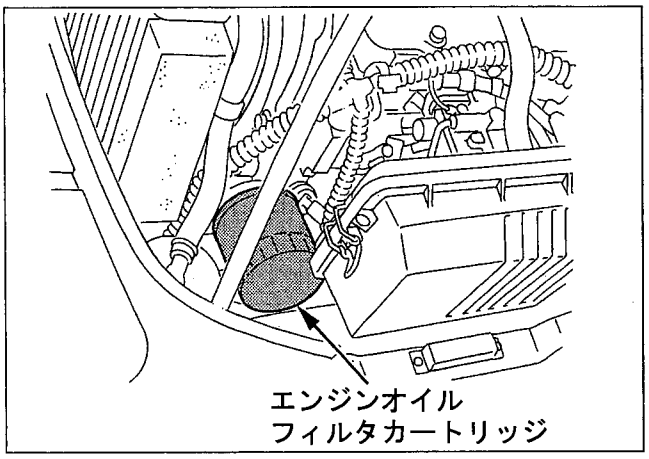


●掃除
ボンネットを開けて、 圧縮空気を使用するなどしてラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

重要

●ヘラやドライバなど固いものを使用して、ラジエータフィンは掃除しないでください。 ラジエータフィンを傷め、 ラジエータの機能を低下させる原因になります。
●エンジンの不調または、 故障の原因となりますので、 水を掛けないでください。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

●交換

(1)ボンネットを開けて、 専用工具を使ってカートリッジを取り外します。
（取り外し方や専用工具については、 購入先にご相談ください。）
(2)新しいフィルタカートリッジを取り付けます。
(3)オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと、 5分程度エンジンを運転して各部および油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから、 エンジンを止め、 再度油面がイルゲージの規定内にあることを確認してださい。

重要

●新しいフィルタカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、 フィルタレンチを使用せず、 手で締め付けてください。
●エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、 ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。

■燃料フィルタポットの点検･掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

⚠警 告

●点検・掃除中は火気厳禁です。

重要

●燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、 フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり、 フィルタ内に水が溜まりやすくなります。

●フィルタポット下部に水が溜まっているときは、 早めに掃除または交換してください。

●点検･掃除

①燃料コックレバーを[運転]位置から[停止]位置にします。

②リングネジをゆるめてポットを外します。

③エレメントを取り出してガソリンで洗浄(すすぎ洗い)をします。 このとき、 汚れのひどい場合は交換してください。

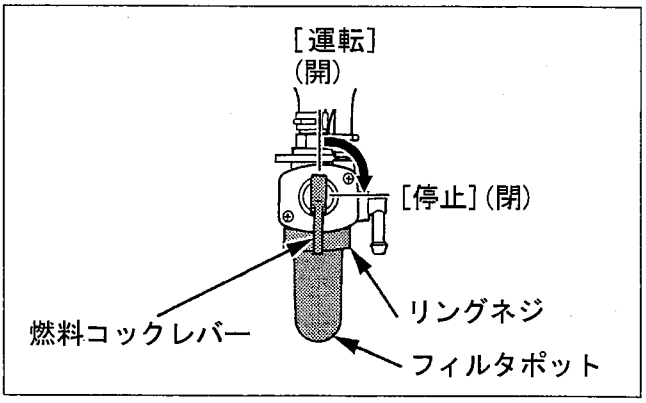
④パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組み付けます。

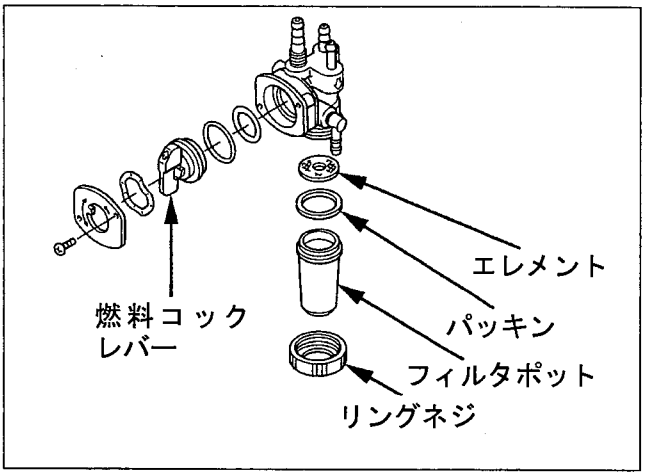
重要

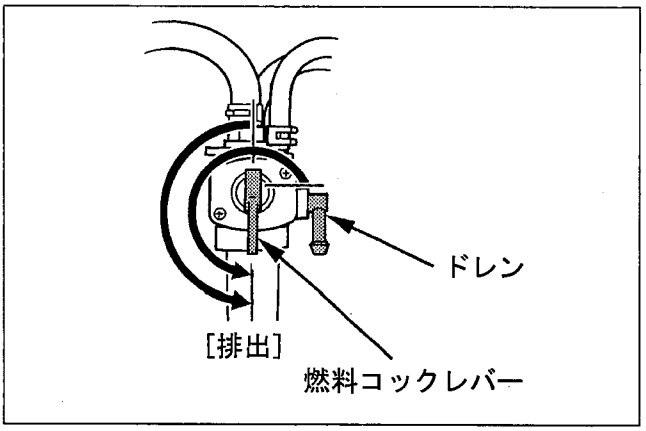
●エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。 また、 なくさないでください。

●ゴミが燃料内に混入すると、 故障の原因になります。

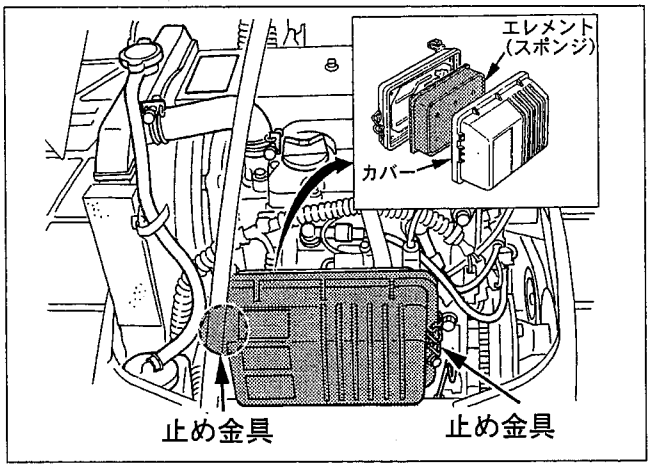
●長期格納時、 燃料コックレバーを[排出]位置にして、 ドレンからキャブレタ内の燃料を排出します。







■エアクリーナエレメントの点検･掃除



重要

●エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、 エンジンの出力が低下したり、 エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、 エンジントラブルの原因となります。 点検は運転前にかかさず行なってください。

●点検･掃除

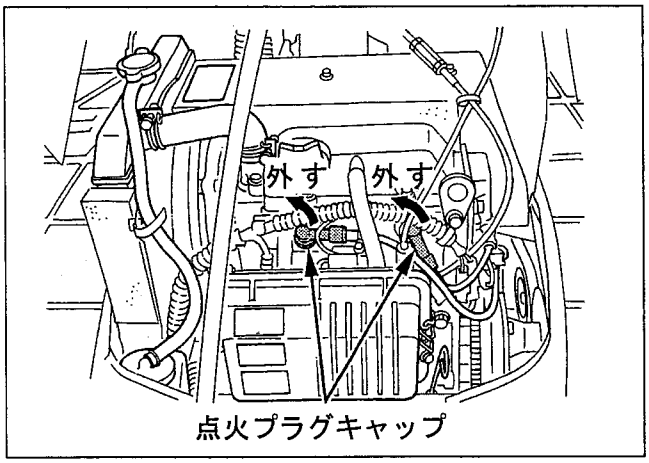
①ボンネットを開き、 2箇所の止め金具を外して、 エアクリーナのカバーを取り外します。

②エレメント(スポンジ)を取り外し、 灯油または家庭用洗剤で洗浄(もみ洗い)をします。 このとき、 汚れや破損のひどい場合は交換してください。

③エレメント(スポンジ)を乾燥させます。

④エンジンオイルに侵して固く絞ってから取り付けたあと、 エアクリーナのカバーを取り付けます。

■点火プラグの点検･掃除･調整

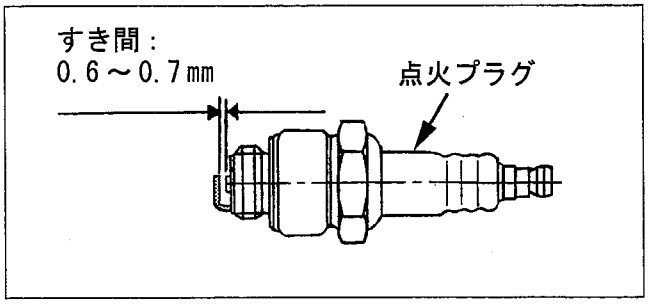


重要

●点火プラグの電極が溶けて、 すき間が広がったり、 カーボンが付着したり、 碍子(ガイシ) 部が破損するとエンジンの不調の原因となります。

●点火プラグを交換するときは、 必ず同じ型式のものを使用してください。 異なったプラグを使用すると、 失火や始動不良をおこす恐れがあります。

点火プラグ型式	数 量
BKR4E (NGK)	2



●点検･掃除･調整

①ボンネットを開き、 点火プラグのキャップを外します。

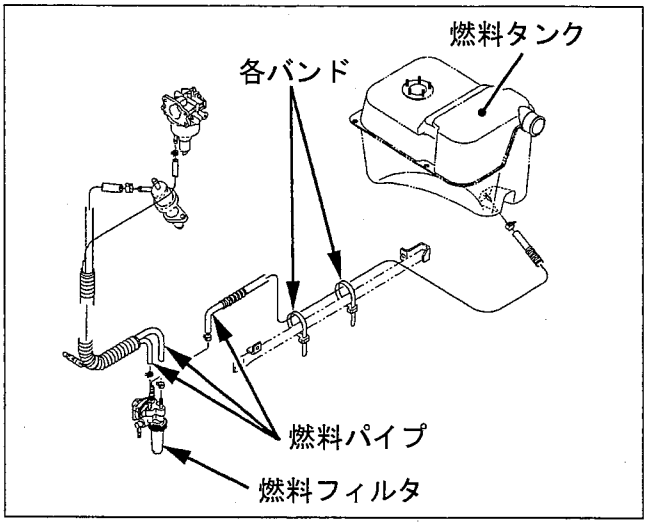
②ボックススパナでプラグを取り外します。

③ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、 電極のすき間を確認し、 異常があれば、 すき間調整又は、 点火プラグの交換を行ないます。 すき間は0.6～0.7㎜に調整します。

■パイプ･ホース類の点検･交換

⚠注 意

- ●運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。
- ●燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。

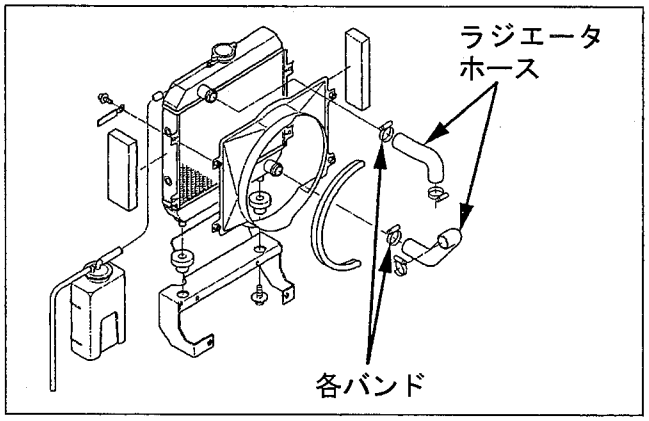


●**点検**

エンジン･ラジエータ･燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、 油もれや水もれが発生しているときは、 パイプやホースの交換やバンドを締め付けてください。

●**交換**

交換時の取り付け不良やバンドの締め付け忘れ、 締め付け不足がないよう取り付けてください。



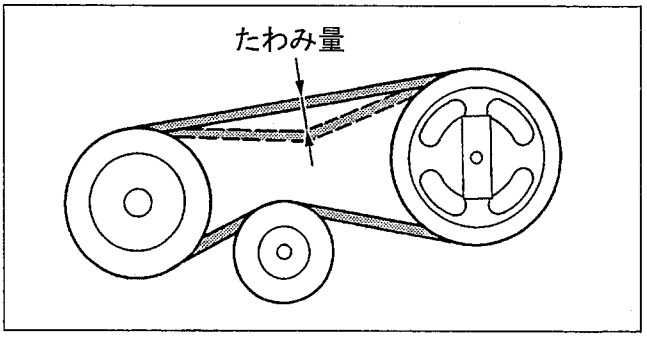
重要

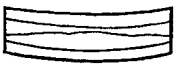
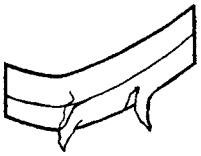
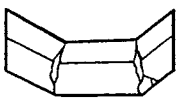
- ●油もれや水もれをしていなくても、 2年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。
- ●交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

■ミッション駆動ベルトの点検

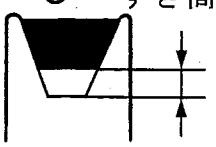
●**点検**

ベルトを点検するときは、 ベルトの焼付きや磨耗、 被覆のはがれ、 き裂やひび割れ、 ベルトの底部とプーリー溝部のすき間、 ベルトの伸び （たわみ量） を確認して、 異常があれば購入先に連絡してベルト交換を行なってください。

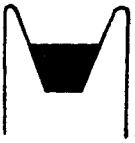


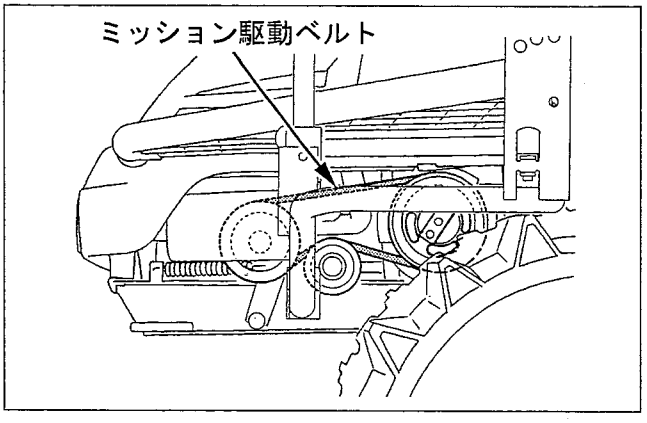
焼付きや磨耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

○ すき間



×





■ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

●交換

①植付部を下降します。

②ミッションオイルを排出します。
（99 ページ参照）

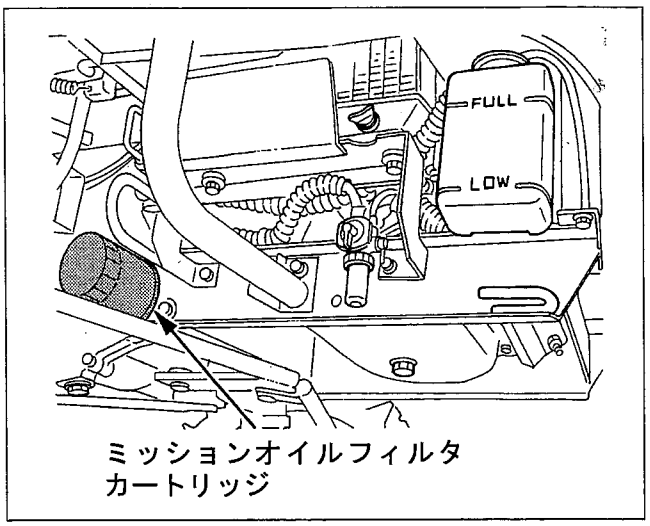
③専用工具を使ってカートリッジを取り外します。

④新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、 フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。

⑤オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと、 5分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、 エンジンを止め、 再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。

○取り外しかたや専用工具については、 購入先にご相談ください。

○オイルフィルタカートリッジを交換すると、 オイルフィルタカートリッジに入る量だけミッションオイルの油面が下がります。



ミッションオイルフィルタ
カートリッジ

重要

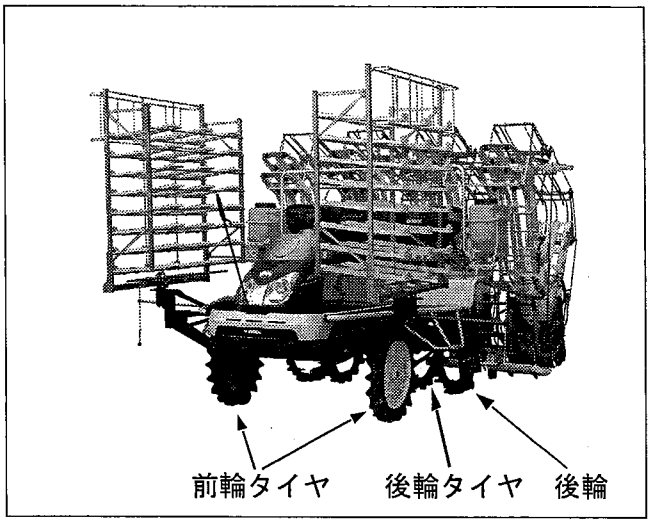
●ミッションオイルを交換するときに、 ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、 ミッションの故障の原因となります。

●給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて、 オイルゲージで点検を行ない、 下限より少ないときは、 オイルを追加補給してください。

■車輪の点検

⚠警 告

●車輪が磨耗するとスリップを起しやすくなるため、アユミ板の上などで脱輪して転倒する恐れがあります。



●点検

前輪 ・ 後輪共に車輪の磨耗や破損(ひび割れなど)を点検し、 8㎜以上磨耗している場合や、 破損がひどい場合は、 購入先に連絡して交換してください。

■タイヤ空気圧の点検･調整

⚠警 告

●タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂の恐れがあり､死傷事故を引き起こす原因になります。

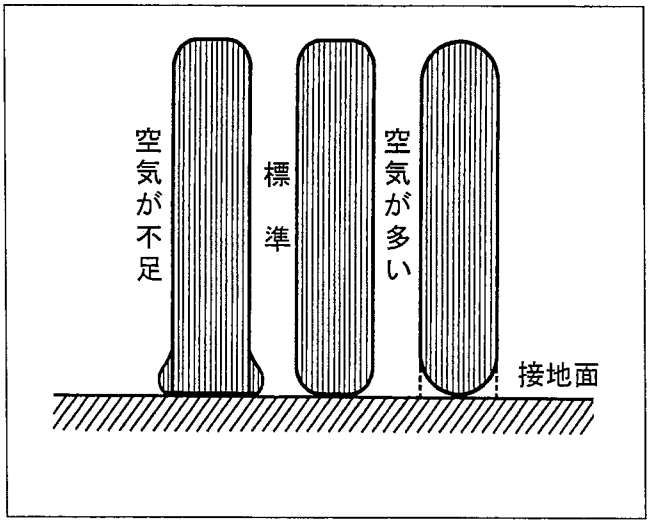
●タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。
タイヤ破裂の恐れがあります。

●タイヤ、チューブ、リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように､法で決められています。)

●点検

タイヤの空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は右図の通りです。

空気圧	前輪	240kPa(2.4kgf/cm²)
	後輪	314kPa(3.2kgf/cm²)



重要

●自動車と違い、 タイヤチューブの容量が小さいので、 空気圧は絶えず点検してください。

●空気が不足するとパンクの原因になります。

■施肥ブラシの点検･掃除･交換

施肥ブラシが磨耗や変形をすると、 肥料の繰出し量にバラツキが発生しますので、 掃除を行なうと同時に、 ブラシの点検を行なってください。

●点検･掃除

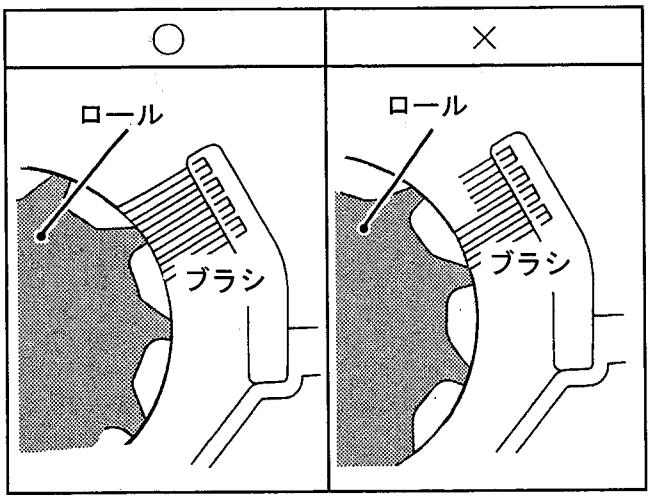
施肥ブラシとロールを取り外して掃除してください。 また、 施肥ブラシの磨耗や変形がひどい場合は、 付属品箱に入っている新しい施肥ブラシと交換してください。

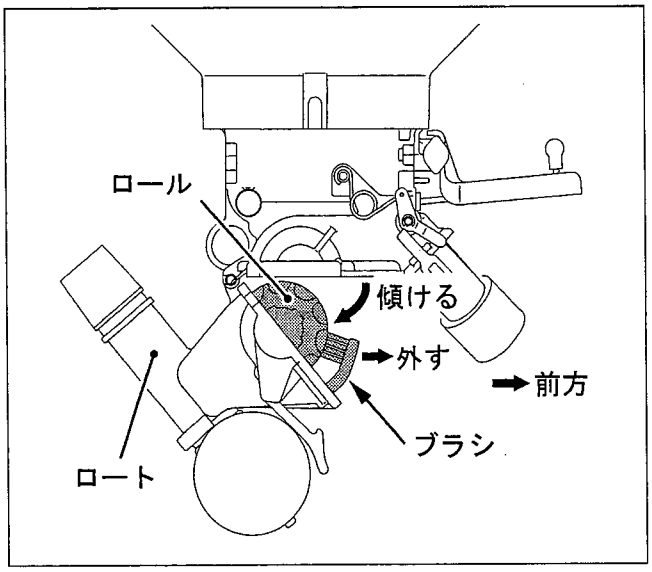
重要

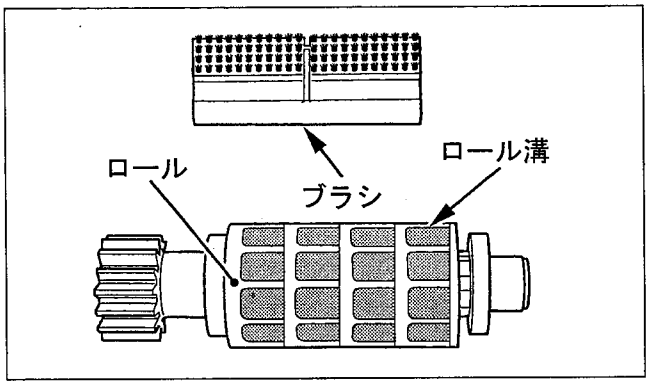
●付属のブラシは風通しが良く、 湿気が少なく、 日があたらない場所で保管してください。（ブラシが変形する恐れがあります。）

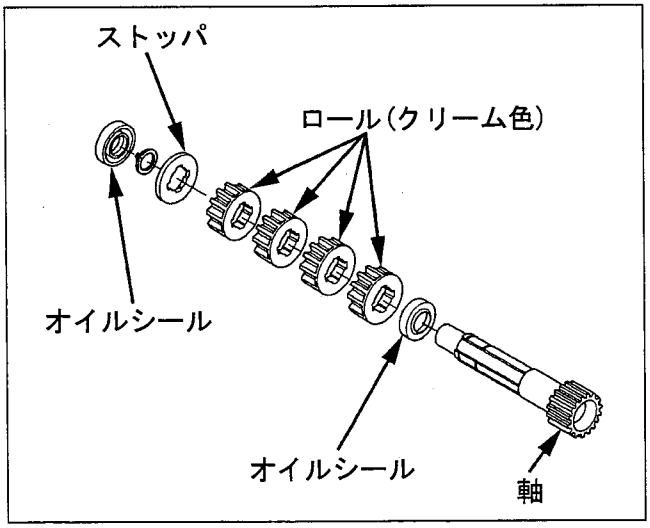
○施肥ブラシやロールの取り付け方向に注意してください。

○ロートを分解掃除するときは、 オイルシールを抜き取ったあと、 ストッパリングを取り外してください。 また、 組み付けるときは、 逆の手順でロールの取り付け方向に注意して組み付けてください。



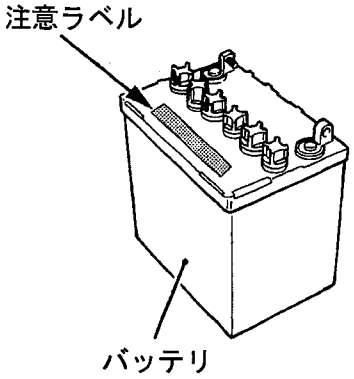






■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取り扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危険

- ●バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、(＋)端子と(－)端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発する恐れがあります。
- ●バッテリを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により、失明やヤケドの原因になります。
- ●充電器やブースターケーブルを使用するときの取り扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取り扱いを誤ると引火爆発する恐れがあります。
- ●この12Vバッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- ●急速充電は厳禁です。
- ●密封タイプのバッテリは開封厳禁です。

警告

- ●バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発する恐れがあります。

●点検 ・ 補水

危険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては、以下の事を守ってください。

- ●バッテリは液面が LOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
- ●バッテリ液が体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドをすることがあります。

バッテリの状態を点検し、 異常があれば処置します。

①運転席下部のカバーを外します。

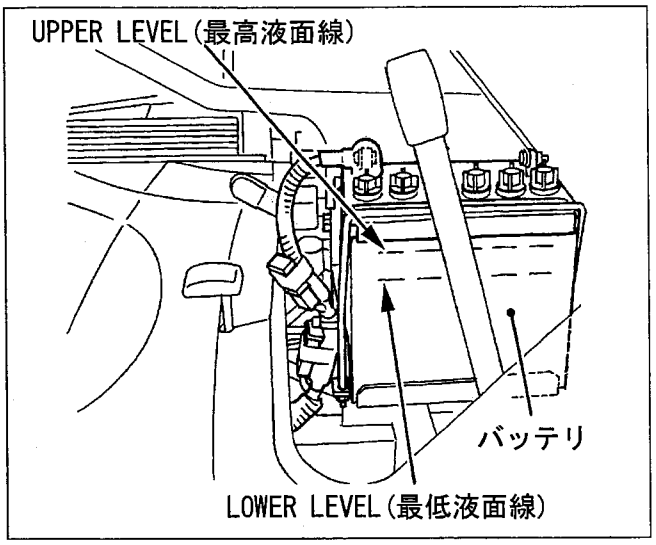
②バッテリ液の量を点検し、[UPPER LEVEL]と[LOWER LEVEL]との間に 液量があるか確認し、 不足しているときは補水キャップを外して補水します。

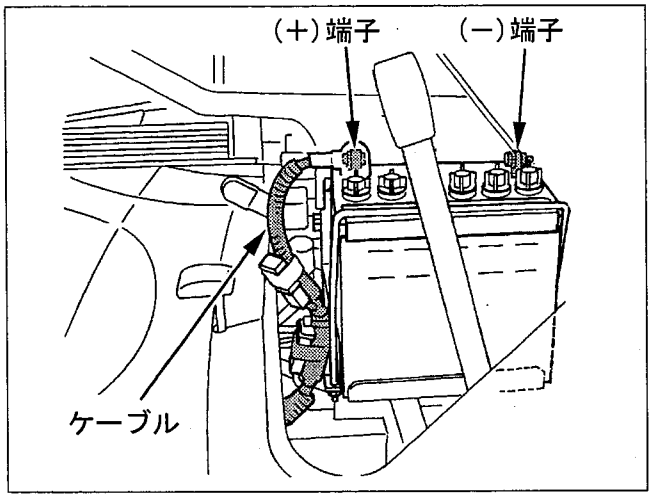
③バッテリが破損して液もれが発生しているときは、 交換してください。

④補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは、 掃除してください。

⑤バッテリケーブルの破損や(＋)端子、(－)端子にゆるみがないか確認し、 ケーブルの交換や端子の増し締めを行ないます。

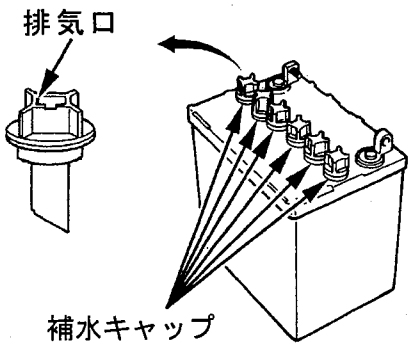
○出荷時は、 補水不要のバッテリです。





重要

- ●バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと、 バッテリの寿命は著しく短くなります。
- ●バッテリ液を補充する場合は、 必ず精製水を補充してください。 希硫酸･井戸水･泥水などは絶対に入れないでください。
- ●バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷める恐れがあります。
- ●バッテリの電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。
- ●液もれが発生すると、 車体が腐食する原因となります。
- ●排気口をふさぎますと、 バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、 破損する原因となります。



●補充電 ・ 交換

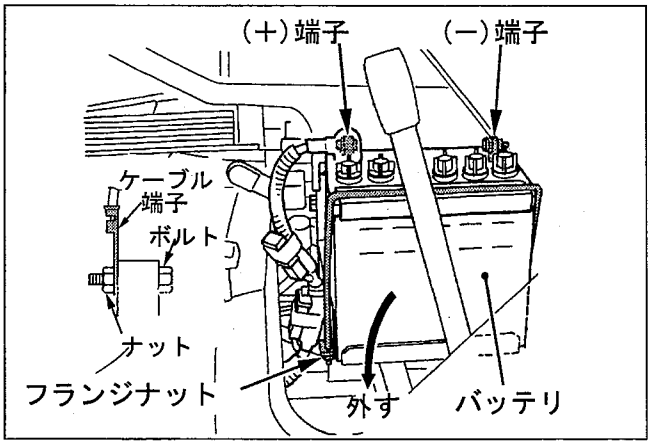
警告

- ●バッテリは、以下の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発する恐れがあります。
  - ◎取り外し…(−)端子側（アース側）から外す。
  - ◎取り付け…(−)端子側（アース側）を最後に接続する。
- ●バッテリを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより、失明やヤケドをする恐れがあります。
- ●バッテリを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となる恐れがあります。
- ●バッテリの取り付け方向をまちがえないでください。(+)と(−)が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となる恐れがあります。
- ●バッテリを投げたり、落したり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。
- ●補充電中は補水キャップ全てを取り外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発する恐れがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。 また、 補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、 バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

●スタータモータの回転がいつもより弱い。
●エンジン回転により、 ヘッドランプの明るさが変わる。
●バッテリ電解液の減りが早い。

(1)運転席下のカバーを取り外します。
(2)ケーブル端子のボルトとナットを取り外し、端子からケーブル端子を取り外します。 取り外すときは、 必ず(−)端子側から取り外します。
(3)フランジナット２個を取り外し、 バッテリ固定用のロッド２本を外します。
(4)バッテリを取り外します。
(5)補充電を行なうときは、 平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。 また、 充電は、 バッテリの(+)を充電器の(+)側に、バッテリの(−)を充電器の(−)側にそれぞれ接続して、 普通の充電方法で行なってください。
(6)補充電が終わると取り外したときと逆の手順で取り付けます。



重要

●バッテリを斜めにしたり、 横倒しにして運ばないでください。 電解液(希硫酸)がこぼれ、衣服の損傷の原因になります。
●バッテリを交換するとき、 バッテリは指定のバッテリを使用してください。 電圧や容量が違うと故障の原因になります。
バッテリ型式 ： 26A19L
●バッテリはエンジン始動用ですから、 他の用途には使用しないでください。
●バッテリはきちんと取り付けてください。 傾いたりすると転倒や液もれの原因になります。
●機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

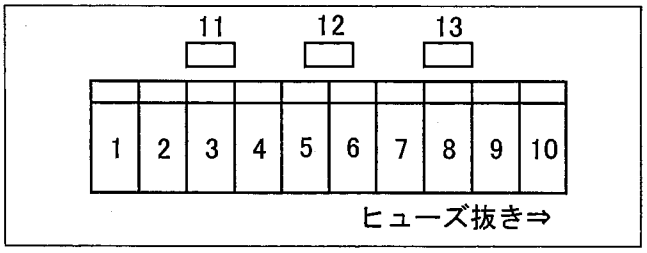
■電装部の各配線コードの点検･交換

⚠注 意

●配線コード被覆の損傷やコネクタ(端子)の接触不良による、漏電やショート(短絡)は火災の原因になります。

●各配線コードの点検 ・ 交換
各配線コードのコネクタ(端子)の接続状態を点検し、 ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。
また、 被覆の損傷状態を点検し、 被覆が破れているときは、 販売店へ連絡して交換してください。

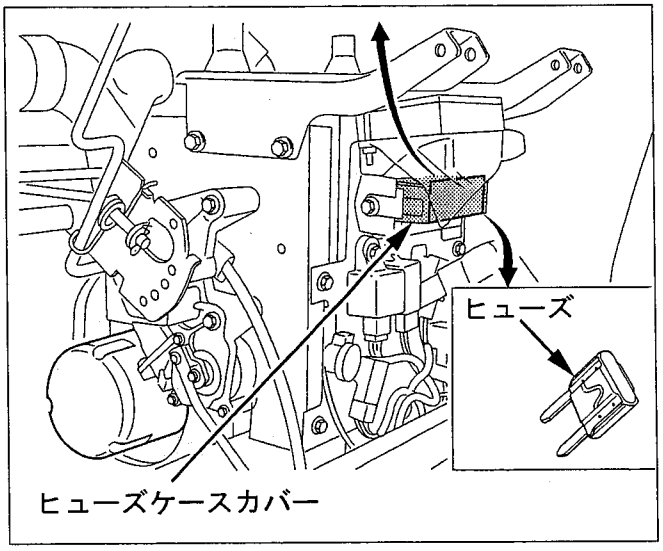
●各ヒューズの交換
ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。
①エンジンを止めた状態で植付部を下ろします。
②運転席下部のカバーを外します。
③ヒューズケースのカバーを外します。
④ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



重要

●ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は、 針金や銀紙などで代用せず、 購入先に連絡してください。

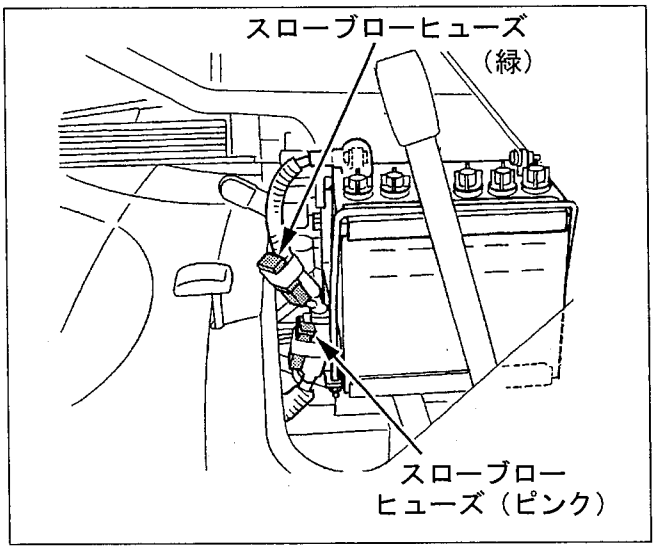
図番	回路	容量(A)
1	マイコンユニット（直引）	3
2	イグナイタ（水冷エンジン）	10
3	ヘッドライト	10
4	パネル・マスコットランプ	20
5	ポンパレバー	3
6	植付クラッチモータ	20
7	モンロモータ	20
8	マイコンユニット・傾斜センサ	3
9	マーカソレノイド	20
10	施肥ユニット	20
11	予備ヒューズ	3
12		10
13		20



○ヒューズケースカバー表面のラベルで容量(A)を確認してください。
○ヒューズを交換するときは、 ヒューズケース右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。

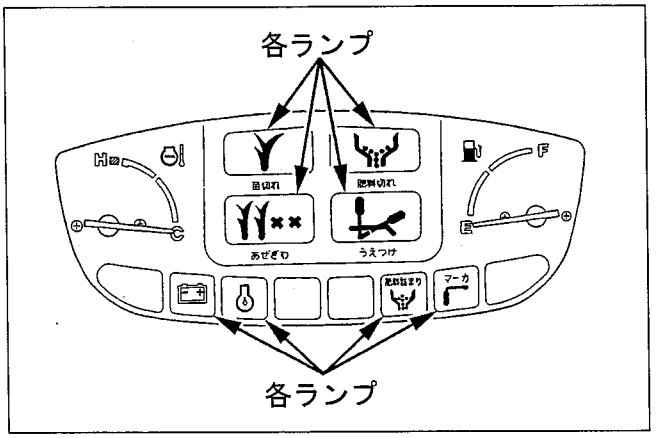
●スローブローヒューズの点検 ・ 交換

緑色のスローブローヒューズ(40A)は、 過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。 エンジンがかからないときは点検し、 切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズと交換してください。 また、 ピンクのスローブローヒューズ(30A)-2 個は、 施肥機のブロワが動かなくなったとき、 自動供給装置が動かなくなったときに点検し、 切れているときは、 購入先に連絡して交換してください。



■ランプ(電球)の点検･交換

ヘッドランプ及びマスコット、 メインパネルの各ランプ(電球)切れがないか点検し、 切れているときは、 交換してください。



植付作業後の手入れ

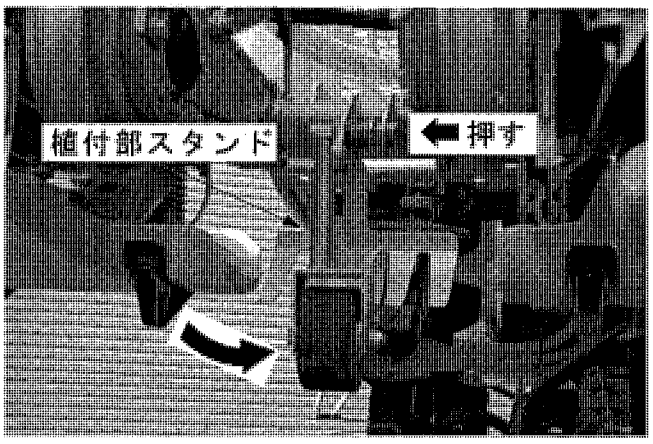
植付作業が終ったあとは、 機械の点検･整備を怠らず翌日または、 翌年の田植え作業に備えてください。

■毎日の作業後

⚠注 意

●掃除するときは、 必ずエンジンを停止させてから行なってください。
●燃料抜き取り時は火気厳禁。

(1)平たんな場所に田植機を止めます。
(2)機体各部の泥などを取り除いたあと、 必要に応じて各部に注油を行ないます。
(41 ページ参照)
(3)格納場所に格納します。
(4)植付部スタンドをセットします。
(5)植付部を下ろします。
(6)メインスイッチのスイッチキーを抜き取ります。
(7)駐車ブレーキをかけます。



■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、 格納する前に各部の点検･整備を念入りに行なってください。

●各部の掃除 ・ 注油と補修

機体を平たんな場所にとめて下記事項を行なってください。
○水洗い後、 ゴミ、 水滴を充分ふき取り、 油をしみこませた布で清掃してください。
○各グリスの塗布箇所にはグリス、 注油箇所には注油を行なってください。
○塗布したグリスや油が横送りベルトに付着したら、 必ずふき取ってください。
○植付爪の先端など、 錆びやすい所にはグリスを塗ってください。
○各部のゆるみを調べ、 増し締めを行なってください。

重要

●機体を洗う場合は、 電装品に水がかからないようにしてください。

●ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、 排水または、 不凍液(ロングライフクーラント)を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。 冷却水の補給･交換を行なって、 ラジエータおよびリザーブタンクには、 不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
(39 ページ参照)

重要

●冷却水には、 不凍液(ロングライフクーラント)を適正量入れ、 よく水と混ぜ合わせてからお使いください。(ラジエータ容量－約1.5 L [エンジン含む ： 2.5 L])
●不凍液の混合比を誤ると、 冬期には冷却水の凍結、 夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
●不凍液を使用する場合は、 ラジエータ保浄剤を投入しないでください。 不凍液には防錆剤が入っていますので、 保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
●不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は２年間です。 必ず２年で交換してください。

●燃料

⚠注意

●燃料を排出するときは、エンジンやマフラが充分冷えてから行なってください。火災が発生する恐れがあります。

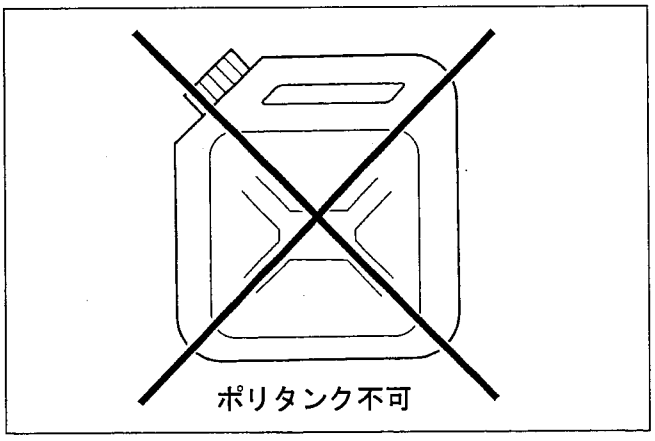
来シーズンに備えて燃料タンク内(98ページ参照)および燃料フィルタポット内(102ページ参照)のガソリンを抜き取ってください。

重要

●燃料のガソリンは1ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内およびフィルタポット内のガソリンは抜き取ってください。

●燃料のガソリンを保管するときは、必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると、ガソリンが樹脂成分を溶解したり、紫外線透過によりガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となります。

●燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず[停止]位置にし、エンジンを動かす前に[運転]位置にしてください。



ポリタンク不可

●バッテリ

⚠危険

●保管や持ち運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

⚠注意

●バッテリを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチを［切］にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリを機体から取り外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

○保管前に点検し、必要に応じて補充電を行なってください。(バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行なってください。)

○バッテリは保管中でも自己放電するので夏は1ヶ月、冬は2ヶ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行なってください。

○次のような場所に保管してください。

①直射日光が当たらない(温度が低く変化の少ない)乾燥している場所

②雨露が少なく、水没のおそれがない場所

③バッテリの有害なガスや液、粉塵の発生が起こらない場所

機体に取り付けたまま保管する場合は(－)側のケーブルを必ず取り外してください。

●各レバー･その他

点検･整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは植付部スタンドをセットし、植付部を下ろして下記事項を行なってください。

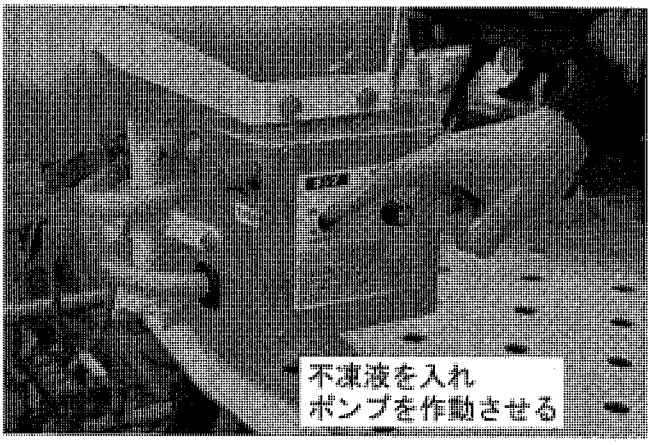
○メインスイッチのスイッチキーは、必ず抜き取って保管してください。

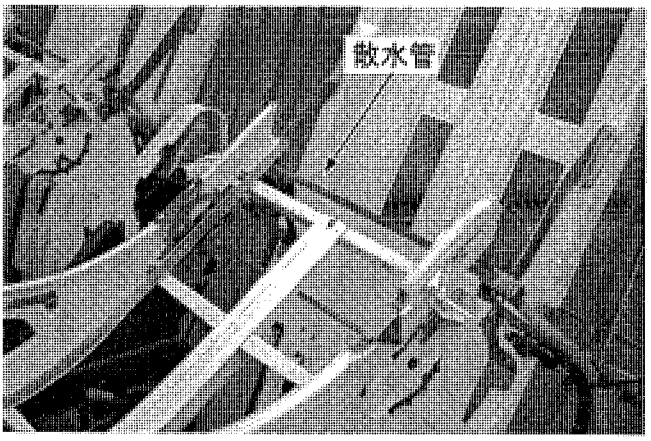
○駐車ブレーキをかけてください。

○ほこりよけのため、付属のシートカバーをかけて保管してください。

●水洗装置

(1)使用後は内部の防錆、ゴミの固着を防ぐため、タンクに清水(水道水)を入れてポンプを作動させ、内部を充分洗浄してください。
(2)冬期の凍結を防止するため、 タンクに不凍液を入れ、 散水管から出るまでポンプを作動させてから保管してください



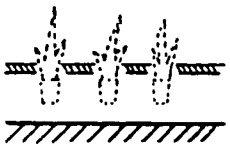
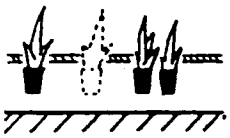


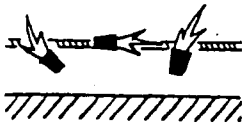
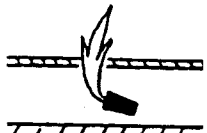
重要

●冬期の凍結による破損を防ぐため、必ず不凍液をいれ、散水管から出るまでポンプを作動させてから保管するようにしてください。
●不凍液の混合比率は40ページを参考にしてください。

不調時の処置

●田植え作業は、 田植機･苗･ほ場の３拍子そろって初めて良い植え付けと高能率が得られます。 田植機の点検、 苗･ほ場の良い条件作りに心がけてください。
●下記の原因以外については部品の消耗等がありますので、 購入先にご相談ください。

不調内容	原因		処置
 連続欠株ができる	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。
		○根が張りすぎている。 (硬くて抜けない)	○充分濡らす。 ○太苗用の苗受に交換する。 (注文部品)
		○苗箱の表や裏に土が多く付いている。	○苗箱を洗う。
		○重粘土の箱土を使用。	○充分濡らす。
		○砂質土・火山灰土の箱土を使用。	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。
	田植機	○縦送り爪(下)の油切れ。	○毎日注油。 (P41参照)
		○押出し棒の元に根がたまっている。	○根を取り除く。 (P91参照)
		○苗受に土や小石がつまっている。	○苗受をよく洗う。(P91参照)
		○空箱受で空箱がつまっている。	○つまった空箱を取り除く。 (P61参照)
		○苗箱の角穴が雑草でふさがっている。	○雑草を取り除く。 (P51参照)
		○苗箱が破損している。	○破損した苗箱は使用しない。
			○古くて壊れやすい苗箱は使用しない。 (P51参照)
		○ガイド板に小石がつまって安全クラッチがはたらいている。 (植付中間ケースからカチカチと音がする。)	○ガイド板につまった小石を取り除く。 (P67参照) (エンジンを停止して行なう)
		○株間12cmでの植え付け。	○植付速度を遅くする。
		○押出し棒の磨耗または調整不良。	○部品交換または調整。
		○縦送り爪の磨耗または調整不良。	○部品交換または調整。
 欠株ができる (二株植えになる)	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。
		○根渡りしている。	○根を切断する。
	田植機	○苗支持板の変形。	○苗支持板の修正・交換。 (P91参照)
		○コンベアーベルトの上に土がたまっている。	○コンベアーベルトを洗う。 (P91参照)
		○コンベアーベルトの調整不良。	○タイミング調整。
		○植付爪の調整不良。	○タイミング調整。

不調内容	原因		処置
 植付姿勢が悪い (浮き苗・ころび苗)	苗	○根張りが悪い。(ポットがくずれる)	○濡らし方に注意。 ○植付速度を遅くする。
		○徒長苗	○葉先を切断する。 ○植付速度を遅くする。
	ほ場	○ほ場が軟らかすぎる。	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○植付深さを深くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 (P58参照)
		○ほ場が硬すぎる。	○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 (P58参照)
		○ほ場に水が多すぎる。	○水を少なくする。 ○植付速度を遅くする。
		○ほ場が粘土質である。	○ほ場に水を入れる。
	田植機	○苗支持板の変形。	○苗支持板の修正・交換。 (P91参照)
		○苗受に土や小石がつまっている。 ○ガイド板に泥がつまっている。	○苗受をよく洗う。(P91参照) ○ガイド板をよく洗う。
		○ガイド板の変形。 ○フロート後部が浮いている。	○ガイド板の修正・交換。 ○フィットセンサダイヤルの調節。(P58参照)
 フロート通過後に植付けた苗が倒れる	ほ場	○ほ場が極端に軟らかすぎる。(表土がトロトロで足跡もつかない状態)	○ほ場を硬くする。 ○植付速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行なう。 (P58参照)
	田植機	○フロート後部が浮いている。	○フィットセンサダイヤルの調節。(P58参照)
 植え傷み苗ができる	苗	○根張りが悪い。 ○貧弱苗。	○植付速度を遅くする。
	田植機	○ガイド板に泥・異物がつまってガイド板幅が開いている。	○泥・異物を取り除く。
		○ガイド板の変形。 ○苗支持板の変形・欠落。	○ガイド板の修正・交換。 ○苗支持板の修正・交換。 (P91参照)

不調内容	原因	処置
フロートで泥を押す。	○油圧感度調節が適正でない。 ○ほ場が軟らかすぎる。	○油圧感度の調節を行なう。(P58参照) ○ほ場を硬くする。
施肥量にバラツキがある。 ホッパ内の肥料の減り方にバラツキがある。 施肥をしない。	○施肥に適さない肥料を使用。 ○あぜぎわクラッチを[切]にしている。 ○調量ツマミ位置が適正でない。 ○施肥ブラシが磨耗している。 ○施肥ホッパ、ロールケース、ホース、作溝器などに肥料が詰まっている。 ○植付速度にムラがある。	○条件に合った肥料を選ぶ。(P69参照) ○固まった(湿った)肥料は使用しない。 ○［入］にする。(P27参照) ○ツマミ位置を確認する。(P76参照) ○部品交換を行なう。(P107参照) ○掃除を行ない付着した肥料は取り除く。(P92参照) ○発進、停止はできるだけゆっくり増減し、一定の速度で植付けるようにする。
散水管から水がでない。 (ポンプは回る)	○タンクに水がない。 ○タンク出口にゴミが詰まっている。 ○フィルターが目詰りして ○散水管が目詰りしている。 ○エアー抜きが不十分。 ○モーター・ポンプの故障。	○水を補給する。(P82参照) ○タンク内部、フィルター、散水管を掃除する。(P93参照) ○再度エアー抜きを行なう。(P82参照) ○部品交換を行なう。
散水管から水がでない。 (ポンプが回らない)	○電源スイッチが「切」となっている。 ○配線の外れ、断線。 ○電源スイッチ、ケース内の基盤、ポンプの故障。	○［入］にする。(P82参照) ○配線を確認し、断線の場合は部品交換する。 ○部品交換する。
植付部が上がらない。	○リンク支点部（前右側）のスイッチレバーに異物が噛み込んでいる。	○異物を取り除く。

農作業を安全に行なうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。
取扱説明書の内容とあわせて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

第1　一般共通事項

1．適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行なう作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

2．就業条件

(1)安全作業の心得

農業機械を使用して行なう作業（以下「機械作業」という。）に従事する者は、機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図るとともに、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

(2)就業者の条件

ア．次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

（ア）精神病者

（イ）酒気をおびた者

（ウ）若年者

（エ）未熟練者

（オ）過労・病気・薬物の影響その他の理由により、正常な運転操作ができない者

イ．はげしい作業が続く場合には特に健康に留意し、適当な休けいと睡眠をとること。また妊娠中の者は振動を伴う機械作業に従事しないこと。

(3)特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を充分検討すること。

3．子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には、子供を近寄らせないよう注意すること。

4．安全のための機械管理

(1)日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行ない、常に機械を安全な状態に保つこと。

(2)防護装置の点検

ア．機械作業に従事する時は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

イ．機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

(3)上げ装置の落下防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

(4)整備工具の管理

点検整備に必要な工具を適正に管理し、正しく利用すること。

5．火災・爆発の防止

(1)引火・爆発物の取り扱い

引火または爆発のおそれのある物質の貯蔵、補給等にあたっては、その取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

(2)火災予防の措置

火災のおそれのある作業場所には、消化器を備え、喫煙場所を決める等、火災防止の措置を講じること。

6．服装及び保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないように作業に従事すること。

(1)頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び落下物のおそれの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

(注)田植機に乗ったままで道路を走行する事はできません。

(2)巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭等が巻き込まれないように適正な帽子及び作業衣等を使用すること。

(3)足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等のおそれのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

(4)粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあたっては、粉じん及び有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

(5)農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による傷害防止のために適正な保護具（保護衣を含む。）を使用すること。

(6)はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音の伴う作業にあたっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

(7)保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

第2　移動機械共通事項

1．適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業する機械を使用して行なう作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

2．作業前の注意事項

(1)機械の点検整備

ア．機械の点検整備を充分に行ない、その使用にあたっては、常に安全を確認すること。

イ．機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく、平担である等、安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。

特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行なう場合は、換気に注意すること。

(2)防護装置の保全

ア．機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。

イ．機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を充分に発揮できるようにしておくこと。

(3)悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注

意すること。

3．作業中の注意事項

(1)乗車等の禁止

ア．機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。

イ．非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。

ウ．機械作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(2)前方及び後方の安全確認

運行中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

(3)転倒落下の防止

ア．傾斜地における機械作業においては機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行なうこと。

イ．ほ場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。

ウ．機械の積み・降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、充分注意して行なうこと。

(4)傷害の防止

ア．動力伝導装置、回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

イ．刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は、傷害防止のために特に注意すること。

ウ．作業中に土塊・石等が飛散する作業においては、飛散物によって傷害が起こらないように注意すること。

(5)作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行なうこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下ろし、かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、更に車止めを施して、自然発車等の危険が生じないよう注意すること。

4．終業後の注意事項

(1)終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行なうこと。

(2)作業機の取り外し

作業機の取り外しは、平担な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。

(3)機械の安全管理

作業終了後は、作業機は外し、または下ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。

また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態に置くこと。

■主要諸元

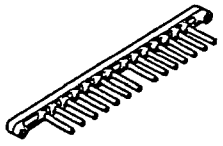
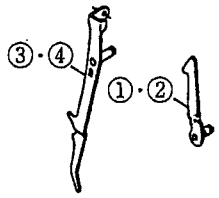
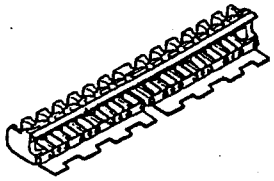
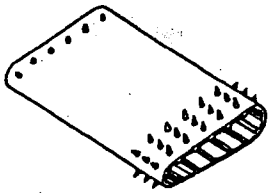
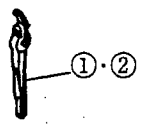
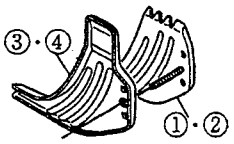
型式名		みのるRXG-8	
区分		RXG8	RXGH8
駆動方法		6輪駆動（前輪2、後輪4）	
機体寸法	全長（mm）	3635	
	全幅（mm）	2490（作業時の寸法3110）	
	全高（mm）	2285	
	最低地上高（mm）	430	
機体質量（重量）（kg）		892	
エンジン	型式名	GZ460-E-P	
	種類	水冷4サイクル2気筒OHCガソリンエンジン	
	総排気量（cc{L}）	456 {0.456}	
	出力/回転速度（PS{KW}/rpm）	11.5{8.5}/3600（最大17.0{12.5}/3600）	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量（リットル）	20.0	
	始動方式	セルスタータ	
走行部	かじ取方式	インテグラルパワーステアリング	
	車輪 前輪（mm）	空気入りタイヤ（650）	
	車輪 後輪（mm）	太リムゴムラグ（900）、空気入りタイヤ(850)	
	輪距（mm）	前輪 1180　後輪 685、1320	
	変速方式	油圧式トランスミッション[HST]	
	変速段数（段）	HST　主変速：前進無段・後進無段　[副変速：2段]	
植付部	植付方式	回転式強制植付	
	植付条数（条）	8	
	植付条間（cm）	33	
	植付株間（cm）	16、18、21、24、28、30	12、13、14、15、16、17
	株数（株/3.3㎡）	63、56、47、41、36、33	83、77、72、67、63、59
	植付深さ（cm）	1～4（7段）	
	1株本数調節	播種量の調節による	
苗自動供給装置		連続　6枚	
苗の種類		ポット苗	
葉令・草丈		4～5.5葉、8～25cm	
施肥部	肥料の種類	一般市販の粒状化成肥料の中から適するものを選ぶ	
	施肥方式	側条作溝施肥・強制埋没	
	施肥位置（cm）	苗の側方：4.5、深さ：5	
	肥料ホッパー容量（L {kg}）	66 {60}	
	繰出方式	溝付ロール式	
	繰出量調節方式	ロール切替え式＋ロール回転数調節式	
	繰出量調節範囲(kg/10a)	10～80	
水洗装置タンク容量（リットル）		48（24×2）	
水洗装置使用水		水路の清水	
苗搭載数（箱）		60	72
作業速度（m/s）		0～1.1	
作業能率（分/10a）		7～12	
型式検査合格番号		————	
安全鑑定番号		32003	

■標準付属品

次の部品が付属していますのでお調べください。

○取扱説明書 ―――――――――――――― 1
○保証書 ―――――――――――――― 1
○安全運転説明確認票 ―――――――――――― 1
○工具袋 ―――――――――――――― 1
10-12 スパナ ―――――――――――― 1
14-17 スパナ ―――――――――――― 1
ドライバー （＋、 － 差換え式） ―――――― 1
プライヤ ―――――――――――― 1
○スローブローヒューズ （40 A） ―――――― 1
○施肥機ブラシ ―――――――――――― 4
○シートカバー ―――――――――――― 1

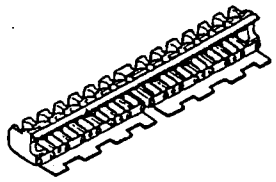
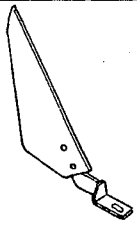
■主な消耗部品一覧表

形　状	品　名	部品番号	備　考
	押出し棒座ＣＰ	RXG8-22104	破損、または磨耗した場合交換
	①縦送り爪下(左)CP ②縦送り爪下(右)CP ③縦送り爪上(左)CP ④縦送り爪上(左)CP	X4-3206(1)L X4-3206(1)R X4-3209(1)L X4-3209(1)R	破損、変形、磨耗した場合交換
	苗受ＣＰ	LPRH6-23401(1)	破損、変形、磨耗した場合交換
	タイミングベルト	LTP-3506(2)	破損、または伸びた場合交換
	苗支持板	LTP-3513(1)	欠落、または変形した場合交換
	①植付爪(左)AY ②植付爪(右)AY	LPRH6-24213(1)LAY LPRH6-24213(1)RAY	欠落、または変形した場合交換
	①ガイド板内(左)CP ②ガイド板内(右)CP ③ガイド板外(左) ④ガイド板外(左)	X4-4302(1)L X4-4302(1)R X4-4301(3)L X4-4301(3)R	変形、または磨耗した場合交換

場所	品名	部品番号	備考
横送り	土落しブラシＣＰ	MRX8-22608(1)	変形、または磨耗した場合交換
ヒューズボックス	ヒューズ（3A）	KU-48200-5587-0	ヒューズ切れ時交換
	ヒューズ（5A）	KU-37410-5552-0	
	ヒューズ（10A）	KU-36730-7555-0	
	ヒューズ（20A）	KU-36919-5665-0	
バッテリー周辺	スローブローヒューズ（40A）	KU-34670-3453-0	
	スローブローヒューズ（30A）	KU-51950-2932-0	
ヘッドライト	ランプアッシ	KU-PM808-6841-0	ランプ切れ時交換
マスコット	バルブ（12V10W）	KU-PP501-8526-0	
メインパネル下	ランプアッシ	KU-PL501-6848-0	
メインパネル上	ランプアッシ	KU-38240-3146-0	
エンジン	スパークプラグ	BKR4E (NGK)	
	バッテリー	12V-24AH-3	
エンジンオイルフィルタカートリッジ	フィルタ（オイル、カートリッジ）	KU-15853-3243-0	
ミッションオイルフィルタカートリッジ	フィルタ（オイル）	KU-PL501-7547-0	
エアクリーナエレメント	エレメント（エアクリーナ）	KU-E9151-1121-0	
ミッション駆動ベルト	Ｖベルト（401N）	KU-PL501-8116-0	亀裂、または磨耗した場合交換
燃料パイプ	フューエルチューブ	KU-09662-60400	破損時または2年ごとに交換
	フューエルチューブ	KU-09661-40500	
	フューエルチューブ	KU-09662-61220	
ラジエータホース	ホース（ウエ、ラジエータ）	KU-PL651-8217-0	
	ホース（シタ、ラジエータ）	KU-PL651-8218-0	
施肥機ブラシ	ブラシ（ロールケース用）	KU-PP501-9164-0	
	苗箱		10年以上経過した古い苗箱は交換 角穴が破損した場合交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のものを準備していますので、 用途に応じてご購入の上ご利用ください。 ご購入にあたっては機械の購入先にご相談のうえ、 ご使用ください。 なお、 取り付けは必ず購入先で行なってください。

形　　状	品　　名	部 品 番 号	備　考
	苗受ＣＰ	LTP-9403	太苗用(突起なし)
	苗箱ガイド前ＡＹ	RXA8-91100	苗抜け防止用 (1台分)
	シャリン、アッシ (ホジヨ、５Ｇ、ソト) (幅90×φ850)	KU-PL503-98352	後輪の外に取り付け、トリプル車輪として使用 (左右セット)
	幅広補助車輪ＡＹ (幅160×φ850)	RXG8-91402	
	シャリン、キット (F,650-120) (幅120×φ650)	KU-PL503-2350-0	広幅前輪ゴムラグ

索　引

	項目	ページ
あ	アクセルレバー	19
	あぜぎわモニタ	31
	あぜぎわクラッチレバー	27
	あぜぎわマーカの使いかた	59
	アユミ板の基準	47
	安全クラッチが作動したとき	67
	安全な作業をするために	1
	安全のポイント	1
	安全表示ラベル	9
い	一発肥料使用時の注意	70
	移動・運搬のしかた	47
	移動前の準備	44
う	植え傷みの注意	14
	植えじまいのしかた	62
	植付株間の決めかた・切り替えかた	53
	植付関係	25
	植付クラッチモニタ	31
	植付クラッチレバー	25
	植付作業後の手入れ	112
	植付作業の手順	55
	植付作業前の準備	52
	植付中間ケースオイル	100
	植付深さ調節レバー	27
	植付深さの調節のしかた	54
	植付部スタンドの収納	52
	植付部の水洗いのしかた	91
	植付ミッションオイル	100
	運転席（シート）	21
	運転席下カバーの脱着	87
	運転のしかた	43
	運搬中の固定のしかた	48

	項目	ページ
え	エアクリーナエレメントの点検・掃除	103
	エア抜きキャップ	83
	エンジンオイルの点検と補給	38
	エンジンオイルフィルタカートリッジの点検と補給	101
	エンジン操作関係	19
	エンジンの始動	43
	エンジンの停止	44
	エンジン番号	16
お	押出し棒	64、91
	オイルランプ	22
	主な消耗部品一覧表	123
か	ガイド板	91
	各部の開閉と脱着のしかた	87
	各部の掃除のしかた	90
	型式マーク	16
	株間調節レバー	27
	空箱の取り出しかた	61
	空箱レール補助	65
き	給油・注油箇所の点検と補給	37
	給油・注油(水)点検一覧表	97
く	繰出し量目安一覧表	81
け		
こ	後車軸ケースオイル	99
	コントローラ	33
	コントローラによる異常と処置	86
	コンベアーベルト	91

	項目	ページ
さ	サービス資料	121
	サービスネット	16
	作業装置の名称	23
	作業のしかた	49
	作業前点検	35
	作業前の準備	71
	散水管	83
	残肥排出ホース	74
	残肥排出レバー	74
し	車輪の点検	106
	十字ポンパレバー	26
	十字ポンパレバーの使いかた	58
	充電ランプ	22
	主変速レバー	20
	主要緒元	121
	使用者が行なってはいけない修理	95
	使用上のポイント	12
	商品の保証	16
	上下送りバネ軸	41
	少量施肥用金具	77
す	水洗装置	114
	水洗装置関係	34
	水洗装置の使用方法	82
	水洗装置の点検	93
	スイッチキー	19、43
	水温計	22
	筋付けマーカ	28
	筋付けマーカ支点	41
	筋付けマーカのセット	52
	ストッパー爪	91
	スローブローヒューズ	111

	項目	ページ
せ	製造番号	16
	整地板の調節	67
	セットレバー	29
	施肥作業中の確認	73
	施肥作業のしかた	68、73
	施肥全条停止レバー	30
	施肥装置関係	29
	施肥部の掃除	92
	施肥ブラシの点検・掃除・交換	107
	施肥ホッパ	29
	施肥ムラ(生育ムラ)の防止	73
	施肥モニタ(肥料切れ警報)	32
	施肥モニタ(肥料詰まり警報)	32
	施肥量調節のしかた	76
	施肥量調量金具	80
	施肥量調量金具・調量ツマミ	31
	施肥量の調節	76
	旋回のしかた	46、60
	洗車時の注意	95
	前輪デフロックペダル	25
そ	走行装置の名称	17
	走行操作関係	20、25
	掃除のしかた	90
	掃除ブラシ	75
た	タイヤ空気圧の点検・調整	106
	ダクトロック	88
	縦送り爪	91
	縦送り爪下	41
ち	駐車ブレーキレバー	21
	注文部品の紹介	125
	注油箇所	41
	長期格納時	112
	チョークレバー	19
	調量ツマミ	77
	調量ダイヤル	83

	項目	ページ		項目	ページ
つ			の	農作業を安全に行なうために	118
				残り苗の取り出しかた	64
て	定期点検	94			
	定期点検一覧表	96	は	パイプ・ホース類の点検・交換	104
	停車・駐車のしかた	46		発進のしかた	45
	点火プラグの点検・掃除・調整	103		バッテリ	113
	点検整備	87		バッテリの点検・交換	108
	電装関係を取り扱う時は	8		パワーステアリングハンドル	20
	電装部の各配線コードの点検・交換	110			
			ひ	微調整の方法	80
				非特殊自動車としての取り扱い	1
と	トラックへの積み・降ろし	47		ヒューズ	110
				標準付属品	122
				肥料詰りの予知センサについて	73
な	苗受	91		肥料について	69
	苗受ローラーの外周	41		肥料の流れ	76
	苗切れモニタ	31		肥料の補給のしかた	73
	苗支持板	91			
	苗支持板の調節のしかた	54			
	苗の準備	50	ふ	フィットセンサダイヤル	26
	苗のせ台	91		フィットセンサダイヤルの調節	66
	苗の補給のしかた	61		副変速レバー	20
	ならし運転について	44		不調時の処置	115
				不凍液	40
				ブレーキペダル	21
に	日常点検項目	35		ブロワ	30
ぬ			へ	ヘッドランプ	17
ね	燃料	113	ほ	補修用部品供給年限について	16
	燃料・オイルの点検・補給・交換	98		保証とサービスについて	16
	燃料計	22		ほ場での植えかた	59
	燃料コックレバー	43,102		ほ場について	68
	燃料(ガソリン)の給油	37		ほ場の準備	49
	燃料の排出	98		ほ場への出入りのしかた	55
	燃料フィルタポットの点検・掃除	102		ホッパ内の肥料の排出のしかた	74
				ボンネットの開閉	87
				ポンプスイッチ	83

	項目	ページ
ま	毎日の作業後	112
	マーカモニタ	31
	マスコット	28
み	ミッションオイル	99
	ミッションオイルフィルタ カートリッジの交換	105
	ミッション駆動ベルトの点検	104
む		
め	メインスイッチ	19
	メインパネル(走行関係)	22
	メインパネル(電装関係)	31
	メインパネルによる異常と処置	84
も	モンロー調節ダイヤルについて	63
や		
ゆ	油圧感度調節のしかた	58
	油圧感度調節レバー	27
	油圧シリンダ支点部	41
	油圧ロックレバー	28
よ	予備苗台	29
ら	ラジエータフィンの掃除	101
	ラジエータ冷却水の点検と交換	39
	ランプスイッチ	22
	ランプ(電球)の点検・交換	111

	項目	ページ
り	リザーブタンク	39
	隣接マーカ	28
	リンク支点部	41
る		
れ		
ろ	ロートロックレバー	88
	ローラクラッチ金具	77
	ロールケース(繰出し部)	30
	ロール・ブラシの取り付け・取り外し	88
わ		

純正部品を使いましょう

補修用部品は、 安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、 機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産 ・ 出荷していますので、 安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、 作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

みのる産業株式会社

本社工場　〒709-0892　岡山県赤磐市下市447
TEL.(086)955-1123(代)　FAX.(086)955-5520

東京支店　〒337-0042　埼玉県さいたま市見沼区南中野210
TEL.(048)683-9451(代)　FAX.(048)683-9452

長野営業所　〒389-1104　長野県長野市豊野町浅野582-4
TEL.(026)257-6530(代)　FAX.(026)257-6531

九州支店　〒818-0066　福岡県筑紫野市大字永岡1020-1
TEL.(092)921-6006(代)　FAX.(092)921-6008

宮崎営業所　〒880-0036　宮崎県宮崎市花ヶ島町小無田649-10
TEL.(0985)36-3870(代)　FAX.(0985)36-3871

ホームページ　http://www.agri-style.com

RXG8-42102(3)

500810